4年で習う字

四年

四年で習う字

この表には、四年で習う漢字が、部首別にならんでいます。漢字の部首というのは、字典で漢字をさがすとき、その目じるしとなる、「へん」「つくり」「かんむり」「たれ」「にょう」「あし」「かまえ」などのことです。調べたい漢字が、どの部首にはいっているかを考えてさがしましょう。（部首についてのくわしい説明は、付録の四〇〇ページ「漢字の部首」にでています。）

・印のついた字は、ほかの部首にも入れることのできる字です。

〔一 いち〕 不188
〔亅 はねぼう〕 争194
〔亠 なべぶた〕 卒・205 変・213
〔人 ひと〕
（𠆢 ひとやね）
（亻 にんべん） 付190 以190 令190 伝195 位197 低197 例204 便211 信212 借218 倍218 倉218 候219 停225 健226 側226 働239 億247
〔八 はち〕 共195 兵198 典204
〔冂 どうがまえ〕 周・206
〔冖 わかんむり〕 軍・217
〔冫 にすい〕 冷198
〔刀 かたな〕
（刂 りっとう） 別198 利・199 初・199 刷205 副226
〔力 ちから〕 加・191 功191 努・199 労200 勇212 勢239
〔勹 つつみがまえ〕 包191
〔匚 かくしがまえ〕 区188
〔十 じゅう〕 協205 卒・205 単212 博232
〔卩 ふしづくり〕 印195
〔厂 がんだれ〕 歴・244
〔厶 む〕 参206
〔口 くち・くちへん〕 加・191 司192 史192 各・196 告200 周・206 唱227 喜232 器247
〔囗 くにがまえ〕 囲201 固206
〔土 つち・つちへん〕 型213 堂227 塩239
〔士 さむらい〕 士188
〔夂 すいにょう〕 各・196 変・213
〔大 だい〕 夫189 失192 央193
〔女 おんな・おんなへん〕 努・199 姉207 委207
〔子 こ・こへん〕 季207 孫219
〔宀 うかんむり〕 完201 官208 害219 案222 宿228 察244
〔小 しょう〕 省・215 堂・227 賞・249
〔工 え〕 差・220
〔己 おのれ〕 改・202
〔巾 はば・きんべん〕 希201 帯220 席・220
〔广 まだれ〕 府208 底208 席・220 康228
〔廴 えんにょう〕 建213
〔彳 ぎょうにんべん〕 徒221
〔艹 くさかんむり〕 芸204 英211 芽211 菜231
〔辶 しんにょう〕 辺194 連224 速225 達237 選250
〔阝 おおざと（右）〕 郡225
〔阝 こざとへん（左）〕 陸231 隊238
〔心 こころ〕

四年

士

おん シ
くん —

一 十 士 （みじかく）

いみ ㊀さむらい。「武士・四十七士」㊁(男の)ひと。「力士・名士・文士・博士・機関士・航海士」

《使い方》
▽刀は、武士のたましいです。▽泉岳*寺には、赤穂*四十七士の墓がある。▽よろいかぶとの勇士たち。
▽江*戸時代には士農工商(=武士・農民・職人・商人)の身分の区別がはっきりしていた。▽すもうとりを、力士ともいいます。
▽選手の士気(=あることをしようとする勢い)をもりあげる。

参考「土」とまちがえやすい。

◎士(さむらい)の部・3(0)画

不

おん フ・ブ
くん —

一 丆 不 不 （とめる）

いみ 下につづくことばのいみを、うちけすことば。…でない。「不便・不足・不安・不幸・不満・不運・不用・不和・不快・不作・不通・不服・不明・不自由・不注意・不用心」

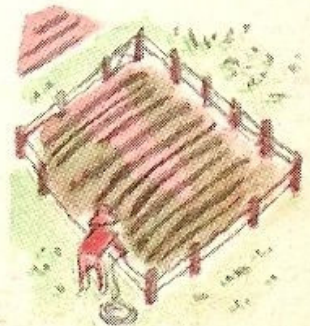
《使い方》
▽ここは交通が不便です。▽カルシウムの不足。▽このつくえは不安定だ。▽不意に(=とつぜん)声をかけられておどろいた。▽ことしはお米が不作かもしれない。▽がけくずれで中央線が不通になった。

参考 いみをうちけすことばには、「非・無・未」などもある。

◎一(いち)の部・4(3)画

区 †

おん ク
くん —

一 フ ヌ 区 （一画でかく）

いみ ㊀くいき。しきり。さかい。「区域・区画・区分・地区・区間・区分け」㊁まちまち。べつべつ。「区区」㊂自治体の、政治をとるうえでのくぶん。「千代田区・区役所」

《使い方》
▽プールでは、ロープをはって、となりのコースと区切っている。▽歩道と車道を区別する。▽意見が区区(=まちまち)にわかれる。▽区議会議員を選挙する。

参考 もとの字は「區」。「品(=品物)」が「匸(=かこい)」の中におさめられていることを表す。

◎匸(かくしがまえ)の部・4(2)画

四年

夫

おん フ・フウ
くん おっと

↔妻 272

いみ ㊀おっと。「夫妻・夫婦」㊁おとこ。「農夫・水夫・人夫・工夫」

《使い方》

▽キューリー夫人は、夫と力を合わせて化学の研究をした。▽会合には夫婦（＝夫と妻）そろって出席した。▽大川夫妻があいさつにみえた。▽水夫（＝船にのって、したばたらきをする人）になった。▽農夫の子に生まれる。▽兄は線路工夫です。▽あれこれ工夫した結果いい作品ができた。

◇大（だい）の部・4（1）画

欠

おん ケツ
くん かける・かく

いみ かける。不足する。「欠席・欠点・欠航・欠員・補欠・欠勤・出欠・病欠・欠食」

《使い方》

▽注意が欠けている。▽かぜで欠席する人が、急にふえた。▽車の運転中は、たった一秒でも注意を欠いてはいけない。▽欠員ができた（＝人数が欠けた）ので、補欠をぼしゅうする。▽わたしの欠点は、落ち着きがないことです。

参考 「精神力が欠けてあくびをする」形からできた。

◇欠（つけ）の部・4（0）画

氏

おん シ
くん うじ

いみ ㊀同じ血すじの人人。みょうじ。家がら。「氏名・氏族・平氏」㊁なまえの下につけて、人をうやまうことば。「大野氏」

《使い方》

▽氏名をはっきり書いてください。▽氏より育ち（＝りっぱな人物は、家がらでなく、家庭のしつけや教育でつくられる）。▽藤*原鎌*足は、藤*原氏の祖先である。▽大野氏は社長です。▽あすは氏神さまのお祭りです。▽時の氏神（＝けんかをしたときなどにちゅうさいしてくれる人）。

参考 「民」とまちがえやすい。

◇氏（うじ）の部・4（0）画

四年

付

おん フ
くん つける・つく

いみ ㊀つける。つく。「付着・付加・付記・付図」㊁あたえる。「寄付・付与・交付・付下」

ノ 亻 仁 付 付

《使い方》
▽ズボンにどろが付着した(=くっついた)。▽この付近(=近所)は交通事故が多い。▽ざっしの付録。▽病人に付きそう。▽けんりを付与*する(=あたえる)。▽受付の係になった。

参考 「附」も当用漢字にあるが、すべて「付」と書いてよい。「符*号・切符*」の「符*」は、別の字。

○切符 ×切付 きっぷ
○付録 ×符録 ふろく

◎人(ひと)の部・5(3)画

以

おん イ
くん —

いみ あることばの上について、「…より」のいみを表すことば。「以下・以上・以外・以後・以内」

丨 レ レ 以 以

《使い方》
▽出席者十人以下の場合は、中止します。▽このかさをなおすには、三百円以上(=三百円より高く)かかります。▽小学生以外の入場は、おことわりします。▽五まい以内で書いてください。▽かれは卒業以来、すっかりおとなしくなった。▽以前(=むかし)そんなことがあった。

ただしくかこう
× 以 ○ 以 × 以

◎人(ひと)の部・5(3)画

令

おん レイ
くん —

いみ ㊀いいつけ。めいれい。「命令・指令・号令」㊁きまり。「法令」㊂あることばの上につけて、そんけいのいみを表すことば。「令嬢*・令息・令兄・令姉・令妹・令弟・令夫人・令室」㊃よい。りっぱ。「令名」

ノ 人 亼 今 令

《使い方》
▽命令に従う。▽本部から指令を受ける。▽号令をかける。▽法令(=法律と政治上の命令)によって禁じられている行い。▽令嬢*(=他人のむすめをうやまっていうことば)を駅までお送りした。▽令名(=よいうわさ)が高い。

◎人(ひと)の部・5(3)画

四年

加

おん カ
くん くわえる・くわわる

フ カ カ 加 加

いみ ㊀くわえる。つけたす。「増加・追加・参加・加工・加入・加勢」㊁たし算。「加減乗除・加算・加法」

《使い方》

▽オリンピックに参加する。▽母もゲームに加わる。▽原料を加工して製品にする。▽手がたりないので、加勢（＝手だすけ）に行く。▽国際連合に加盟する。▽団地ができて、町の人口が急に増加した。▽今月のおこづかいに、先月の残りを加算すると五百円になる。▽加減乗除（＝たし算・ひき算・かけ算・わり算のこと）の問題をとく。

◇力（ちから）の部・5（3）画

功

おん コウ・ク
くん ―

一 T エ 功 功

いみ てがら。いさお。「功罪・功績・功名・年功・功労」

《使い方》

▽功をあせって失敗した。▽テレビの功罪（＝よいところと悪いところ）をしらべる。▽野口英世は、医学の進歩に大きな功績（＝てがら）をのこした。▽失敗は成功のもと。▽功徳（＝人のためになるよいおこない）をほどこした。▽長い間の功労（＝ほねおり）に対して、賞があたえられた。

参考 「功」の右がわの「力」は、「努力する」いみを表す。「効」とまちがえやすい。

◇力（ちから）の部・5（3）画

四年

包

おん ホウ
くん つつむ

ノ 勹 匀 匂 包（あける）

いみ くるむ。まわりをかこむ。「包囲・包装*・包帯・内包」

《使い方》

▽いなかから小包がとどいた。▽小さなふろしき包みひとつをもって旅に出た。▽けがをした人に包帯をしてあげた。▽敵に包囲された（＝まわりをかこまれた）。▽悲しみを包みかくす（＝人に知られないように心の中にしまいこむ）。▽おくり物をていねいに包装*する（＝紙などでくるむ）。

参考 左上が古い字の形。おなかの中に、あかんぼうがはいっている形からできた。

◇勹（つつみがまえ）の部・5（3）画

四年

司

おん シ
くん ―

司司司司司

いみ つかさどる。中心となってとりはからう。「司会・司書・司令・上司・宮司・行司」

《使い方》

▽ぼくは、児童会の司会(=会がうまくいくように、せわをし、進める係)をつとめることになった。▽図書館で本の整理や貸し出しをするやくめを司書という。▽行司の軍配は東にあがった。▽神社で一ばん上の位を宮司という。

参考 「寿*司」はあて字なのでかなで書く。「同」とにているので注意する。

◇口(くち)の部・5(2)画

史

おん シ
くん ―

史史史史史
つきだす

いみ れきし。「歴史・史上・史実・史跡*・世界史・日本史・文学史」

《使い方》

▽日本の歴史を学ぶ。▽こんどの事件は史上(=歴史のうえで)まれにみるできごとであった。▽この物語は、史実(=むかし実際にあったこと)にもとづいて書かれている。▽鎌*倉には、史跡*(=歴史にのこるできごとがあった所)が多い。▽日本史を学ぶ。

参考 「央(=まんなか)」や「吏*(=やく人)」とまちがえやすい。

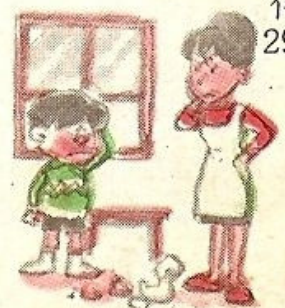
吏 史 央

◇口(くち)の部・5(2)画

失

おん シツ
くん うしなう

↔得 290

失失失失失
つきだす

いみ ㊀なくす。「失望・失明・失業・失意・失格・失礼・流失・焼失」㊁あやまち。しくじり。「失火・失言・失敗」

《使い方》

▽どんなことがあっても望みを失ってはいけない。▽大雨で橋が流失した。▽えものを見失った。▽スタートで失敗したため、一等にはなれなかった。▽その本の名を失念(=どわすれ)しましたので、あとで調べておきます。▽失言をとりけします。

参考 上につきださないと、「矢」になってしまう。

◇大(だい)の部・5(2)画

央

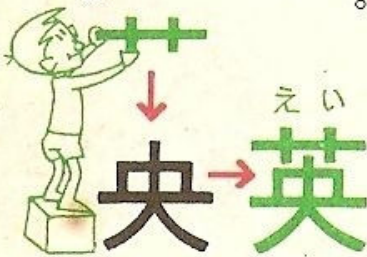
おん オウ
くん ―

いみ なかば。まんなか。「中央」

《使い方》

▽市の中央には市場やにぎやかな通りがある。▽湖の中央部に、こんもりとした森のある島がある。▽パナマ運河は中央アメリカにあります。▽木曽*山脈のことを一名、中央アルプスともいいます。▽父は中央線で会社へ通っています。

参考 左が古い字の形。人が立っている形に、まんなかを表す一を加えたもの。

央→英(えい)

◇大(だい)の部・5(2)画

必

おん ヒツ
くん かならず

心→必 でもよい

いみ かならず。きっと。「必要・必勝・必読・必然・必需品」

《使い方》

▽かりた本は、あした必ず返します。▽必勝と書いたはちまきをしてがんばった。▽これは小学生必読(=必ず読まなければいけないこと)の本である。▽お米は生活の必需品(=なくてはならない品)である。▽必要は発明の母(=必要から発明がうまれるということ)。▽必死(=死にものぐるい)の努力を続ける。

参考 「心」を書いてから「ノ」を書いてもまちがいではない。

◇心(こころ)の部・5(1)画

末

おん マツ・バツ
くん すえ

みじかく

いみ ㊀先の方。いちばんはし。「末端*」㊁おわり。「末席・末筆・末座・結末・週末・末期・末路・学期末・末子」㊂こな。「粉末」

《使い方》

▽命令が、末端*までいきわたる。▽今月の末に東京へ行きます。▽学年末のテストが始まった。▽週末に旅行する。▽末筆ながら(=手紙のおわりに書くことば)みなさまによろしく。▽枝*葉末節(=あまりだいじでないことがら)。▽粉末ジュース。

参考 木の上のほうに一をそえて「はし」を示した字。

◇木(き)の部・5(1)画

四年

民

おん ミン
くん たみ

民 民 民 民 民（はねる）

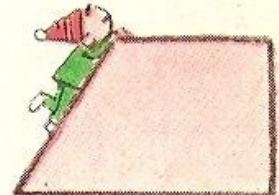
いみ こくみん。いっぱんの人。「国民・市民・人民・民族・民衆・民家・民芸品・民話・平民・民主主義・民間放送」

《使い方》
▽市民のいこいの場をつくる。▽国民体育大会をりゃくして国体という。▽王様は民の声（＝国民のねがい）に耳をかたむけられた。▽遠くに民家（＝ふつうの人のすむ家）が見える。▽戦争が終わって、民主主義の世の中になった。▽こけし人形は、東北地方の民芸品です。

◇氏の部・5(1)画

辺

おん ヘン
くん あたり・べ

フ 刀 刃 辺 辺

いみ ㊀ある図形を形づくっている直線。「一辺・底辺」㊁ほとり。あたり。そば。「周辺・身辺・近辺・海辺」㊂かたいなか。「辺境・辺土」

《使い方》
▽正方形の一辺の長さはどれもひとしい。▽山はふもとの辺までかすんでいる。▽この辺は、なだれのきけんがある。▽池の周辺（＝まわり）に石をならべる。▽辺りはしんと静まりかえっている。▽貝がらをひろいながら浜*辺を散歩する。▽身辺（＝身のまわり）を整理する。▽駅の近辺を調査した。▽辺境の地（＝いなか）にすむ。

◇辶の部・5(2)画

争

おん ソウ
くん あらそう

ノ ク 争 争 争 争（つきだす）

いみ あらそう。「競争・戦争・論争・争論・争議・闘*争・争奪*」

《使い方》
▽村には、昔から争いがたえなかった。▽雨あがりの日、兄と競争してわらびとりをした。▽親子は争われない（＝かくそうとしてもかくせない）ものだ。▽先を争って電車に乗るようすは見苦しい。▽戦争は、絶対にしてはいけない。▽やっとのことで争議が解決した。

参考 力のはいったうで（ヵ）を両方からひっぱっている形からできた。 → → 争

◇亅の部・6(5)画

四年

伝

おん　デン
くん　つたわる・つたえる・つたう

伝伝伝伝伝伝

いみ　㊀つたえる。つたわる。「伝言・宣伝・伝令・伝導・伝来」㊁いいつたえる。さずける。「伝説・伝授・伝道」㊂伝記。「エジソン伝」

《使い方》
▽用件は電話で伝えました。▽母から姉に伝言（＝ことづけ）をたのまれた。▽ロープを伝って谷へおりた。▽親の性質は子に遺伝する。▽おじいさんからこの地方の伝説をきいた。

参考　「伝道」は、キリスト教を教えひろめること。「伝導」は熱や電気を伝えること。

亻+云=伝
車+云=転

◇人（ひと）の部・6（4）画

共

おん　キョウ
くん　とも

共共共共共共

いみ　ともに。いっしょに。「共同・共通・共有・共学・共感・共鳴・共犯・共存・共演・公共・共和国」

《使い方》
▽水道を、となりの家と共同で使う。▽同業者どうしがあらそって、共だおれになった。▽全国に通じることばを共通語といいます。▽共存共栄（＝ともに生き、ともにさかえること）の世の中。▽ぼくたちの学校は男女共学です。

参考　「共同」はふたり以上の人がいっしょに、一つのことを行うこと。「協同」はいく人かで、心をあわせて行うこと。

◇八（はち）の部・6（4）画

印

おん　イン
くん　しるし

印印印印印印

レではない

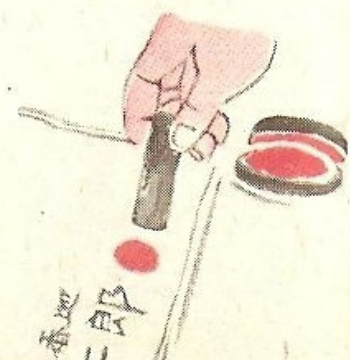
いみ　しるし。はんこ。「印刷・印画紙・印象・なつ印・調印・印鑑*・消印・矢印」

《使い方》
▽学級だよりを印刷する。▽切手は料金先ばらいの印として考えだされたものです。▽印鑑*をわすれないでください。▽地平線にしずんでいく夕日が印象的（＝心に残ってわすれられないようす）だった。▽矢印の方向に進んでください。▽講和条約に調印する。

○印　×印

◇卩（ふしづくり）の部・6（4）画

四年

各

おん カク
くん おのおの

ノ ク 夂 冬 各 各

いみ めいめい。それぞれ。いろいろな。「各地・各所・各人各様・各国・各月・各自・各種・各位・各個」

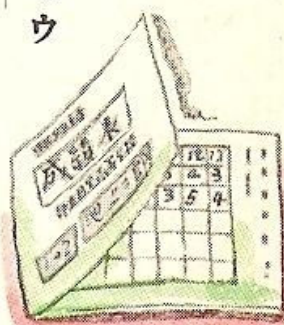
《使い方》

▽各人各様(=めいめいの人がそれぞれちがうようす)の、このみがある。▽各自分の考えをのべなさい。▽オリンピックには世界各国の選手が参加する。▽会費は各月二百円です。▽すべらないように各自注意してください。▽ここで解散するから、各個(=めいめい)に帰ってよい。

参考 「各月」は「まい月まい月」、「隔*月」は「一か月おきの月」のいみ。

◇口の部・6(3)画

成

おん セイ・ジョウ
くん なる・なす

ノ 厂 万 成 成 成

いみ なる。なす。できあがる。「成功・成長・成育・成人・完成・合成・作成・落成・成否・成立」

《使い方》

▽失敗は成功のもと。▽ねがいが成就する(=かなう)。▽草をたべて成長する。▽水は水素と酸素とから成る。▽この仕事の成否(=成功するか失敗するか)は、みんなの協力のしかたによってきまる。▽おちぶれてこじきにまで成りはてた。▽一月十五日は成人の日です。▽この調査は来年までにぜひ成しとげたい。

参考 「成就」のよみ方に注意する。

◇戈の部・6(2)画

老

おん ロウ
くん おいる・ふける

↕若 348

一 十 土 耂 耂 老

いみ ㊀としをとる。「老人・老体・老父・老母・老年・老後・老眼」㊁古くなる。「老朽*」㊂経験をつむ。「老練・老熟・老巧*」

《使い方》

▽乗り物の中では老人に席をゆずろう。▽この一年の間にすっかり老いぼれた。▽老眼のため、新聞が読みにくい。▽老若男女(=年寄りもわかい者も男も女もみんな)が、おまいりした。▽実際の年よりも、少し老けてみえる。▽老朽*(=古くなって役にたたない)校舎をとりこわす。▽父は老練な(=長く経験をつんだ)ふなのりです。

◇耂の部・6(2)画

四年

衣

おん イ
くん ころも

衣 亠 ナ 文 衣 衣（はねる）

いみ 身にまとうもの。きもの。「衣服・衣食住・衣料・衣類・衣装*・白衣・法衣・衣がえ」

《使い方》

▽衣装*をとりかえる。▽衣類に虫がつく。▽衣服を整理する。▽衣がえ（＝季節によって衣類をかえること）の時期になった。▽衣食住（＝きるものと、たべるものと、すまい）は人間のくらしになくてはならないものです。▽おぼうさんのきる衣を、法衣という。

参考 「外がわをつつむもの」のいみにも使う。「てんぷらの衣」

◇衣（ころも）の部・6（0）画

位

おん イ
くん くらい

位 亻 亻 仁 位 位 位 位

いみ ㊀みぶん。くらい。「学位・地位・即位・品位・気位」㊁数の、くらい。「位どり」㊂そこにある。「位置」

《使い方》

▽理学博士の学位をえる。▽高い地位をのぞむ。▽十八さいで即位した（＝王の位についた）。▽気位（＝自分の身分や地位をほこる、心のもちかた）の高い人。▽ぼくたちは校内野球大会で三位になった。▽そろばんで、位どりをまちがえる。▽九州は、日本の西南に位する。▽その位置をうごかないでください。▽会員各位（＝会員のみなさま）のご協力を感謝します。

◇人（ひと）の部・7（5）画

低

おん テイ
くん ひくい・ひくめる・ひくまる

↕高101

低 亻 亻 亻 仁 低 低 低

いみ ㊀ひくい。「最低・低音・低下・低空・低気圧・低学年・高低」㊁おとる。いやしい。「低級・低調・低能・低俗」

《使い方》

▽低い山が連なっている。▽きょうの最低気温は、五度だった。▽低音がはっきりしない。▽低気圧が近づくにつれて天気がわるくなってきた。▽低俗な（＝下品な）映画。▽きょうの会合は低調だった。

参考 「低能」を「低脳」とは書かない。「底」「抵*」などとまちがえやすい。

○低 ×低

◇人（ひと）の部・7（5）画

兵

おん ヘイ・ヒョウ
くん ―

いみ ㊀へいたい。ぐんたい。つわもの。「兵隊・兵士・兵力・兵器・兵役・兵営・水兵・歩兵・工兵」㊁たたかい。いくさ。「兵火・兵法」

《使い方》
▽広場には何百人もの兵隊が集まっている。▽兵糧*ぜめ(=食糧*を運ぶ道をたって、相手をせめる方法)で敵を負かした。▽兵器をつくる。▽大兵(=たくさんの兵隊)をひきいる。▽兵火で町はすっかり焼けた。

参考 左が古い字の形。おのを両手でささえている形。武器、または武器をもった人を表す。

◇八(はち)の部・7(5)画

冷

おん レイ
くん つめたい・ひえる・ひや・ひやす・ひやかす・さめる・さます

↔暖 377

いみ ㊀ひえる。つめたい。「冷害・冷気・冷水・冷蔵庫・冷凍*・冷房*」㊁心がひややかなこと。思いやりのないこと。「冷笑・冷淡*」㊂からかう。

《使い方》
▽冷たい水であたまを冷やす。▽東北地方はことしも冷害にみまわれた。▽まどをあけると、山の冷気(=冷たい空気)がはいってきた。▽湯冷まして薬をのむ。▽犯人の子を冷ややかな目で見る。▽血もなみだもない冷こくな人だ。▽この問題は冷静に(=心をおちつけて)考えたい。▽友だちに冷やかされて、顔がまっかになった。

◇冫(にすい)の部・7(5)画

別

おん ベツ
くん わかれる

ださない

いみ ㊀ほかの。ちがう。「別人・別名・別便・別室・別世界・別冊」㊁わかれる。「別居・送別」㊂くべつする。「特別」

《使い方》
▽日にやけて、別人のようだ。▽品物は、別便でお送りいたしました。▽父母と別れてくらす。▽転校する友だちのために送別会を開いた。▽特別かわったことはありません。

参考 「二つにわける」「道がわかれる」などは「分」を使う。

別れる
分かれる

◇刀(かたな)の部・7(5)画

利

おん り
くん きく

利利千利利利利

いみ ㊀役にたつ。「利器・利用・便利」㊁りえき。もうけ。「利息・利子・有利・利己主義」㊂するどい。「鋭*利・利発」㊃よく動く。「左利き」

《使い方》
▽原子力を平和のために利用する。▽文明の利器(=便利な機械や器具)。▽テレビの利点(=役にたつところやすぐれているところ)をあげてみよう。▽利息の元金に対するわりあいを利回りという。▽鋭*利なはもの。▽よく気の利く人。

禾＋刂＝利
禾＋少＝秒

◎刀(なかたな)の部・7(5)画

初

おん ショ
くん はじめ・はじめて・はつ・うい・そめる

初初初初初初初

いみ ものごとのはじめ。さいしょ。「最初・当初・初夏・初心・初歩・初代・初期・初雪・初荷・初陣*」

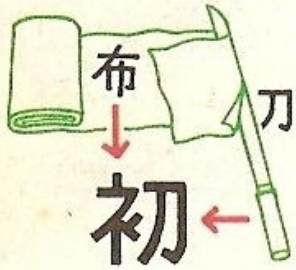
《使い方》
▽何事も最初がかんじんだ。▽秋の初めのころを初秋という。▽ことしになって初めて泳いだ。▽正月には初荷の車が大通りをゆきかう。▽書き初め展で金賞をいただいた。▽この店は明治の初期(=初め)にできた。

参考 布を切ることが衣服をつくるはじめであることからできた。

布→初←刀

◎刀(なかたな)の部・7(5)画

努

おん ド
くん つとめる

努努努努努努努

いみ 力いっぱいがんばる。つとめる。はげむ。「努力・努力家」

《使い方》
▽先生に言われたとおり努力したかいがあって、成績はだいぶ上がった。▽努力なくして成功はない。▽何とかご期待にそうよう、努めます。▽寸時(=少しの時間)をおしんで仕事に努める。

参考 「努」は「奴」と「力」からなる。「奴」は身分の低いどれいのこと。どれいが力を出して仕事をすることからできた。「会社につとめる」などのときは「勤める」を使う。

◎力(ちから)の部・7(5)画

四年

労

おん　ロウ
くん　―

労労労労労労労

いみ　㊀ほねをおってはたらく。「労働・労力・労役・苦労・労賃」㊁つかれる。「過労・疲*労」㊂いたわる。ねぎらう。「慰*労」

《使い方》

▽むだな労力はできるだけはぶく。▽長年の苦労(=ほねおり)がみのった。▽台風のために今までの苦労が徒労(=むだなほねおり)におわった。▽過労(=働きすぎてつかれること)がもとで病気になった。▽トンネルの開通した日、労働者をまねいて慰*労会(=ほねおりを感謝し、なぐさめる会)を開いた。

◎力(ちから)の部・7(5)画

告

おん　コク
くん　つげる

告告告告告告告
つきでない

いみ　つげる。知らせる。「告白・布告・密告・告示・予告・報告・広告・告別式・忠告・告げ口」

《使い方》

▽どらの音が出船を告げる。▽調査した結果を報告する。▽神に自分のつみを告白する。▽あすは告別式(=死んだ人にわかれを告げる式)です。▽映画の予告へんをみた。▽告げ口は聞きたくない。▽選挙の投票日の告示があった。▽兄の忠告をすなおにきく。

参考　牛と口からできた字。牛を神にそなえ、ねがいごとをいうことからできた。

◎口(くち)の部・7(4)画

四年

〈さんこう〉

◇アクセント◇

「そんなもの、気にかけるな。」
「そんなもの、木にかけるな。」

この二つの文を、声を出して読んでごらんなさい。「木」は高く、「気に」は平らに発音することがわかりますね。四年で習うことばのアクセントを学びましょう。・は高く、――は平らに発音します。

1 子いぬにな(名)をつける。
正月用のな(菜)をつける。
2 とつぜんせき(席)をたつ。
かぜをひいて、せきがでる。
3 対さくをねる(練る)。
夜は十時にねる。
4 鳥がとんで(飛んで)いる。
家がとんで(富んで)いる。
5 へやのすみにつくえをおく(置く)。
おく(億)の位まで数える。
6 十日いこう(以降)にうかがいます。
みんなのいこう(意向)をきく。
7 しんぼう(信望)を一身に集める。
つらいのをしんぼうしてはたらく。

囲

おん イ
くん かこむ・かこう

いみ まわりをとりまく。かこむ。「包囲・周囲・範*囲」

《使い方》

▽いなかの家では、よくいろりを囲んで食事をした。▽いつのまにか、すっかり敵に包囲されてしまった。▽わたしの知っている範*囲（＝かぎられた部分）で答えます。▽囲いのあみがやぶれて、にわとりがにげた。

参考 「囲」の、中の「井」は「イ」という音を表し、「囗」が「かこむ」といういみを表している。

口 → 回（かい）
井 → 囲（い）
古 → 固（こ）

◇囗（くにがまえ）の部・7（4）画

完

おん カン
くん ―

いみ ㊀おわる。できあがる。「完結・完了*・完成」㊁やりとげる。「完遂*」㊂かけたところがない。「完全・完備・完ぺき・完納」

《使い方》

▽むずかしい工事も、すっかり完成した。▽この物語は三月号で完結する（＝すっかりおわる）。▽だいじな任務を完遂*した（＝りっぱにおわりまでやりとげた）。▽実けんの道具が完備している（＝全部そろっている）。▽暗室は、黒いまくで完全に光をさえぎっている。▽これは完ぺきな（＝おちどが少しもなくすぐれている）答案です。

◇宀（うかんむり）の部・7（4）画

希

おん キ
くん ―

いみ ㊀めずらしい。すくない。まれだ。「希代・希少価値・希薄*」㊁ねがう。もとめる。「希望・希求」

《使い方》

▽ナポレオンは、まことに希代の（＝世にもまれな）英雄*である。▽このつぼは、希少価値（＝まれにしかないためにおこる、ねうち）がある。▽高い山は空気が希薄*だ（＝うすい）。▽長い間の希望がとうとうかなえられた。▽人人は平和を希求している（＝心からのぞんでいる）。

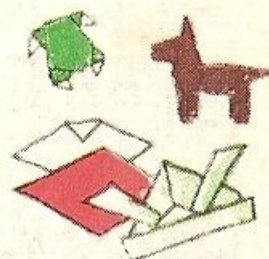
参考 書き順に気をつけよう。「メ」のつぎは「ノ」を書く。「一」はそのつぎに書く。

◇巾（はば）の部・7（4）画

四年

折

おん セツ
くん おる・おり・おれる

扌 扌 扌 扩 折 折 折

いみ ㊀おる。おれる。㊁わける。「折半」㊂そのとき。㊃おりばこ。

《使い方》

▽折りたたみ式のかさは便利だ。▽色紙でつるを折った。▽事件の曲折(=こみいったことがら)をかたる。▽もうけはなかよく折半(=半分にわけること)にしよう。▽折をみて(=つごうのよいときに)うかがいます。▽折づめのおすし。

参考 「骨が折れる」は、実さいにからだの骨が折れるいみ以外に、仕事に苦労することにもいう。「手がやける」「腹が立つ」なども同じ。

◎手(て)の部・7(4)画

改

おん カイ
くん あらためる・あらたまる

㇆ コ 己 己 改 改 改

いみ ㊀新しくする。かえる。「改良・改選・改善・改正・改造・改築・改名・改革」㊁しらべる。「改さつ口」

《使い方》

▽改良に改良をくわえて、よい品にする。▽新学期になって、時間わりが改まった。▽学級委員を改選する。▽悪いところはこれから改めます。▽農業のしかたも、ずいぶん改善されてきた。▽列車の時間表が改正された。▽改さつ口できっぷをきる。▽さいふの中を改める。

参考 「あらためる」を「新ためる」とは書かない。

◎攵(ぼくにょう)の部・7(3)画

材

おん ザイ
くん ―

一 十 才 木 村 材 材 (はねる)

いみ ㊀げんりょう。「材料・教材・資材・題材・材木」㊁その人にそなわっている、ちえや才能。「適材適所・人材」

《使い方》

▽ナイロンは石炭と水と空気を材料にしてつくる。▽この本を教材にする。▽ゆうしゅうな人材(=役にたつ人)を集める。▽社員を適材適所(=才能にあった仕事につけること)におく。

参考 「才」が「やくだつ」いみを表す。「やくにたつ木」のいみ。

材→村
↑これを丶にすると

◎木(き)の部・7(3)画

求 †

おん キュウ

くん もとめる

求 求 求 求 求 求 求（フではない）

いみ ㊀(他人に)のぞむ。「要求・請*求・求刑*」㊁さがす。たずねる。もとめる。「求人・求職・追求・探究」

《使い方》

▽女の人が助けを求めてきた。▽自由を要求する。▽請*求書を発行する。▽新しい知識を求めて外国へ旅立った。▽旅行用のかばんを求めた。▽新聞に求人広告(=はたらく人を求める広告)をだす。▽求職(=つとめぐちをさがすこと)のため、職業安定所に行く。▽商人は利益を追求する(=どこまでもおいかけて、さがし求める)。

◇水(すい)の部・7(2)画

臣

おん シン・ジン

くん ―

臣 臣 臣 臣 臣 臣 臣

いみ 主君につかえるもの。けらい。「臣下・臣民・大臣・家臣・重臣・忠臣」

《使い方》

▽臣下(=けらい)をしたがえて旅にでる。▽君主国の国民を臣民という。▽作文コンクールで文部大臣賞をもらう。▽浅野家は、よい家臣をもった。▽重臣(=おもい役めのけらい)としてとりたてられる。▽楠*正成は今でも忠臣としてたたえられている。

参考 「巨*」とまちがえやすい。

臣(しん)　これをとると　↓　巨(きょ)　巨人(きょじん)

◇臣(しん)の部・7(0)画

良

おん リョウ

くん よい

良 良 良 良 良 良 良

いみ よい。すぐれている。「良薬・良好・良港・良質・良心・良否・良書・善良・改良・不良・良導体」

《使い方》

▽良い友をえらぶ。▽良心にはじない行いをする。▽良薬は口に苦し(=ためになる教えは、ききづらいものだ)。▽電気や熱をよくつたえるものを良導体といい、そうでないものを不良導体という。▽からだの調子は良好です。▽最良の方法を考えよう。▽品種の改良につとめる。

× 〇 ×
良 良 良

◇良(こんづくり)の部・7(1)画

芸

おん ゲイ
くん ―

一 艹 芏 芸 芸 芸

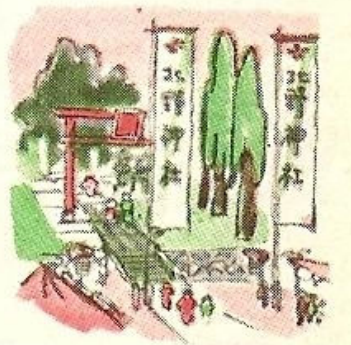
いみ わざ。ぎじゅつ。しばいなどのえんぎ。「芸術・手芸・武芸・文芸・学芸会・曲芸・芸能・芸当・園芸・演芸・工芸」

《使い方》
▽芸術の道は遠くけわしい。▽姉は手芸をならっています。▽学芸会の練習をする。▽母とすばらしい曲芸を見た。▽これでは芸がない(=くふうがたりない)。▽音楽・演劇・映画などをまとめて芸能といいます。

参考 「園芸」は、庭や畑で草花などをつくること。「演芸」は、大ぜいの前でする、しばい・落語などのこと。

◎艹(くさかんむり)の部・7(4)画

例

おん レイ
くん たとえる

亻 仁 仃 伢 例 例

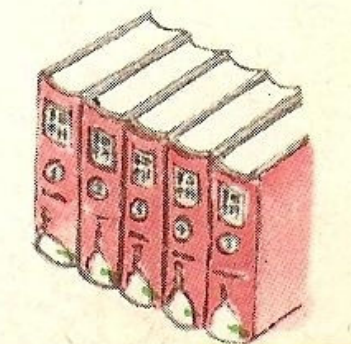
いみ ㊀あるいみにたことがら。たとえ。ためし。「例文・例話・例題・前例・用例」㊁ふだん。いつも。「例年・例会・例祭・例外」

《使い方》
▽例をあげて説明しよう。▽この花の美しさは例えようもない。▽例文を読む。▽氏神さまの例祭(=毎年きまった日に行われる祭り)は十月十日です。▽ことしは例年(=いつもの年)よりも寒さがきびしい。▽今月の例会は都合により中止します。

例→列
↑
これをとると

◎人(ひと)の部・8(6)画

典

おん テン
くん ―

丨 冂 冊 曲 曲 典

いみ ㊀ぎしき。「式典・祭典」㊁きそく。手本。「典型」㊂本。書物。「国語辞典・百科事典・宝典・仏典・古典・教典・聖典」

《使い方》
▽開校五十周年記念の式典(=ぎしき)が行われます。▽よし子さんは、文学少女の典型(=特ちょうをよく表したもの)です。▽古事記や万葉集は、日本の代表的な古典である。▽国語辞典を買ってもらう。

参考 下が古い字の形。下の部分は台で、その上に竹であんだ書物がのっている形からできた。

◎八(はち)の部・8(6)画

刷

おん サツ
くん する

つきだす

いみ ㊀いんさつする。「印刷・手刷り・木版刷り・刷り物・色刷り・縮刷版・増刷」㊁わるいところをあらためる。「刷新」

《使い方》
▽色刷りの印刷物がふえた。▽とう写版で文集を刷る。▽ことしの年賀状は、木版刷りにした。▽この本は評判がいいので増刷する（＝追加して印刷する）。▽国の政治を刷新する（＝すっかりあらためる）。

参考 「刂」は刀を表し、「刀でわるいところをとりのぞく、清める」ということからできた。

◎刀（かたな）の部・8（6）画

協

おん キョウ
くん ―

いみ 力をあわせる。「協力・協定・協同・妥*協・協調・協議・協会・協奏曲」

《使い方》
▽人人は協力して、村のたてなおしにとりかかった。▽休戦協定をむすぶ。▽ふたりの学者が協同で研究をはじめた。▽バイオリン協奏曲を聞く。▽重要な問題は、全員で協議してきめる。

参考 「劦」が「力を合わせる」いみで、「十」が「多くの人」を表す。多くの人が力を合わせること。

× ○ ×
協 協 協

◎十（じゅう）の部・8（6）画

四年

卒

おん ソツ
くん ―

いみ ㊀おわること。「卒業・中卒」㊁とつぜん。「卒倒*・卒然」

《使い方》
▽いよいよ卒業だ。▽卒業式にはなみだがでた。▽校長先生から、卒業証書をいただいた。▽中卒（＝中学校卒業）と高卒（＝高等学校卒業）の人を採用する。▽ぼくは昭和四十三年度卒です。▽日射病になって卒倒*した（＝きゅうに、めまいをおこしてたおれた）。▽かれは卒然として（＝だしぬけに）席をたった。

参考 「率（＝ひきいる）」とまちがえやすい。

◎十（じゅう）の部・8（6）画

参

おん　サン
くん　まいる

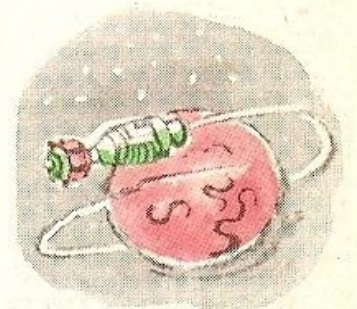
いみ　㊀おまいりする。「参拝・参けい・参道」㊁くわわる。「参加・参会・参列・参謀*」㊂くらべる。「参考・参照」㊃まいる。まける。「降参」

《使い方》
▽お宮にお参りしてきた。▽きょうは、父母が授業を参観する(=その場に行って見る)日です。▽林間学校に参加する。▽この本を参考にして調べなさい。▽図を参照する(=てらし合わせて見る)。▽ばか力には参る。

参考　受取などに金額を書くとき、「三」はまちがえやすいので、「金参千円」などと、「三」のかわりに使う。

◇ム(む)の部・8(6)画

周

おん　シュウ
くん　まわり

いみ　㊀まわり。「周囲・周辺・十周年・円周・周遊」㊁ひろくゆきわたる。ゆきとどく。「周知・周到*」

《使い方》
▽周囲を山にかこまれた、静かな村に住んでいる。▽池の周辺(=周り)をさんぽした。▽あすは開校十周年の記念日です。▽九州を周遊する(=あちこち旅行してまわる)。▽円周をはかる。▽そのことは周知(=広くしれわたっていること)の事実です。

参考　「週」とまちがえやすい。「いっしゅうねん」は「一周年」、「いっしゅうかん」は「一週間」と書く。

◇口(くち)の部・8(5)画

四年

固

おん　コ
くん　かためる・かたまる・かたい

いみ　㊀かたくする。かたい。「固形燃料・固体」㊁しっかりしている。「固守・固定・強固・堅*固・確固」㊂もとから。「固有」

《使い方》
▽固形(=あるきまった形で固まっているもの)燃料を使う。▽しろのまもりを固める。▽強固な意志をもっている。▽自信を固める。▽コンパスの一方を固定する。▽固い決意をもって試合にのぞむ。▽能楽は日本固有の芸術である。

◇囗(くにがまえ)の部・8(5)画

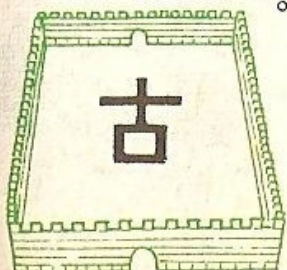
姉

おん シ
くん あね

↕妹88

姉 く 女 女 女' 女市 姉 姉

いみ あね。「姉妹（しまい）・姉妹都市（しまいとし）・姉（あね）むこ・長姉（ちょうし）」

《使い方》

▽雨がふりだしたので、姉（あね）がかさをもってむかえにきてくれた。▽姉（あね）の夫（おっと）を姉（あね）むこといいます。▽京都市と、フランスのパリは、姉妹都市（しまいとし）になりました。▽ふたごの姉妹（しまい）がなかよく歌をうたっています。▽一ばん上の姉（あね）のことを長姉（ちょうし）といいます。

参考 もと、「きょうだい」を「姉妹」「兄妹」「兄弟」などと書いたが、「兄弟」のほかは、かなで書く。「従姉（いとこ）」「十姉妹（じゅうしまつ）（鳥の名）」もかなで書く。

◎女（おんな）の部・8（5）画

委

おん イ
くん ―

委 二 千 禾 秂 委 委

いみ ㊀まかせる。「委員（いいん）・委任（いにん）・委託（いたく）*」㊁くわしい。「委細（いさい）」

《使い方》

▽学級委員（がっきゅういいん）にえらばれた。▽これから委員会（いいんかい）を開（ひら）きます。▽けんりを委（い）任（にん）する（＝まかせる）。▽欠席（けっせき）する人は、委任状（いにんじょう）を出してください。▽品物（しなもの）の販（はん）*売（ばい）を委託（いたく）*する（＝人にたのんでまかせる）。▽委細（いさい）（＝こまかいこと）は面談（めんだん）のうえきめます。

参考 「委（い）」には「イ」の読みしかない。「まかせる」は「任せる」、「くわしい」は「詳*しい」と書く。

季→（き）季
委→（い）委

◎女（おんな）の部・8（5）画

季

おん キ
くん ―

季 二 千 禾 秂 季 季

いみ 春・夏・秋・冬のそれぞれの時期（じき）。きせつ。「季節（きせつ）・雨季（うき）・季節風（きせつふう）・季刊（きかん）・春季（しゅんき）・夏季（かき）・秋季（しゅうき）・冬季（とうき）・季語（きご）・季題（きだい）・四季（しき）」

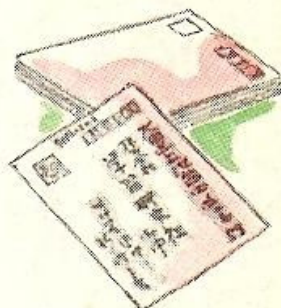
《使い方》

▽秋は読書（どくしょ）の季節（きせつ）です。▽六月から雨季（うき）（＝雨がふりつづく季節（きせつ））にはいる。▽一年のうちで、雨の少ない季（き）節（せつ）を乾（かん）*季といいます。▽毎年、季節（きせつ）のうつりかわりにしたがって、きまった方角（ほうがく）からふく風を季節風（きせつふう）といいます。▽日本の国は、四季（しき）それぞれの花がさきます。

参考 「委（い）」とまちがえやすい。

◎子（こ）の部・8（5）画

官

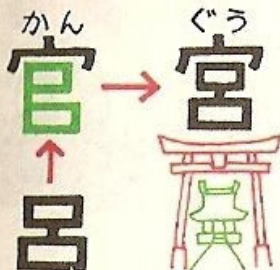
おん カン
くん —

いみ ㊀役め。「教官・試験官」㊁政府。役所。「官費・官舎・官製はがき・官庁」㊂役人。「代官・外交官」

《使い方》

▽試験官が後ろで目を光らせている。▽官費（＝政府の費用）で、留学する。▽官製はがきをまとめて百まいかう。▽この辺は、官庁（＝役所）が多い。▽ここは代官（＝江*戸時代に地方をおさめた役人）のすんでいた家のあとです。▽大きくなったら、外交官になりたい。

かん 官 → ぐう 宮
↑
呂

◎宀（うかんむり）の部・8（5）画

底

おん テイ
くん そこ

いみ ㊀ものの一ばん下。そこ。「海底・底辺・底面・船底」㊁おくにひそんでいるもの。「底冷え・底力」

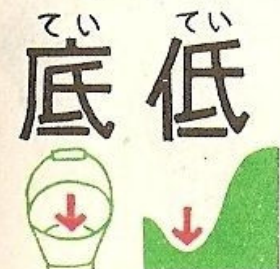
《使い方》

▽川の底に何か光るものがある。▽海底をたんけんする。▽茶づつの底面の形は円です。▽水がきれいなので、川底までよく見える。▽決勝戦で底力（＝おくにひそんでいる、強い力）をはっきする。▽こんやは底冷え（＝からだの中までしみとおるようなさむさ）がする。

てい 底　てい 低

◎广（まだれ）の部・8（5）画

府

おん フ
くん —

いみ ㊀政治をとるうえでくぎった地方の名の一つ。「京都府・大阪*府・府立」㊁役所。「首府・政府・幕府」

《使い方》

▽府は、京都府と大阪*府の二つです。▽この学校は、府立（＝府の費用でたてたもの）です。▽日本の首府は東京です。▽イギリスの首府は、ロンドンです。▽政府の責任を追及*する。▽頼*朝は、鎌*倉に幕府をひらいた。

参考 「广」は家、「付」はその中に物があつまることを表す。

せいふ ○政府 ×政付
きふ ○寄付 ×寄府

◎广（まだれ）の部・8（5）画

四年

おん ネン
くん ―

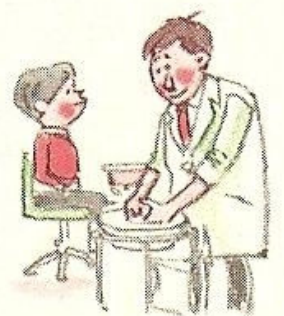
いみ ㊀思う。思い。「観念・念願・念頭・断念・信念・残念」 ㊁心にとなえる。「念仏」 ㊂心をくばる。たしかめる。「入念」

《使い方》
▽じっさいに会って、ますますそんけいの念を深くした。▽もうたすからないと観念した(=あきらめた)。▽母のようにやさしい心の人になることを念願としている。▽試合に負けて残念です。▽一心に念仏をとなえた。▽念には念を入れる(=注意したうえにもなおよく注意する)。▽入念に(=念を入れて)しらべる。

◎心(こころ)の部・8(4)画

毒

おん ドク
くん ―

まじわってからはねる

いみ がいになるもの。どく。「毒薬・消毒・毒虫・食中毒・有毒・無毒・毒矢・毒蛇*」

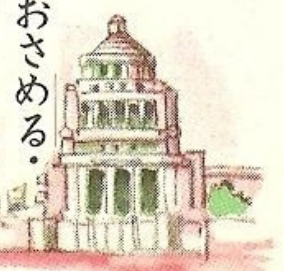
《使い方》
▽あつい湯をかけて布を消毒した。▽夏は、食中毒(=食あたり)をおこしやすい。▽あの人の化しょうは毒毒しい。▽毒虫にさされて、足がはれあがった。▽土人の毒矢をうけて死んだ。▽自動車のはい気ガスは有毒です。▽世の中にはあなたがたよりずっと気の毒な人がたくさんいます。

× 毒
○ 毒

◎毋(なかれ)の部・8(4)画

四年

治

おん ジ・チ
くん おさめる・おさまる・なおる・なおす

いみ ㊀せいじをとる。国をおさめる。「政治・治安・自治・統治」 ㊁しずめる。「治水・治山」 ㊂病気をなおす。「全治・根治・治療*」

《使い方》
▽政党をもとにして行う政治を、政党政治といいます。▽国家の治安(=平和に治まっていること)をたもつ。▽治水工事(=川の流れをととのえる工事)にとりかかる。▽きずが全治した(=すっかり治った)。▽病気を根治する(=すっかり治す)。

参考 「おさめる」には、このほかに「修める・納める・収める」がある。

◎水(みず)の部・8(5)画

法

おん ホウ・ハッ・ホッ
くん ―

いみ ㊀おきて。きまり。「法律・法令・憲法・法規・法案・法度・法則・作法」㊁やりかた。「方法・加法・減法・用法・製法」㊂ほとけの道。「仏法・法師・法事・法要・法主」

《使い方》

▽憲法は国の大もとの法律だ。▽ニュートンは引力の法則を発見した。▽お茶の作法をならう。▽減法とは、ひき算のことです。▽しんせきの家で法事があります。

参考 「やりかた」のいみには「方」も使うが、「加法・検査法」などのように下にくるときは「法」を使う。

◎水(み)の部・8(5)画

牧

おん ボク
くん まき

いみ ㊀牛や馬を放しがいにする。「放牧・牧畜*」㊁まきば。「牧場」

《使い方》

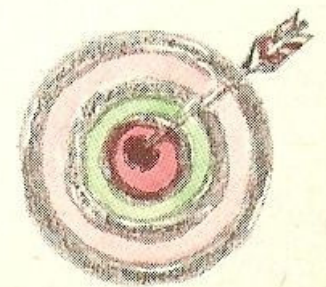
▽北海道は牧畜*(=牧場で牛や馬などをかうこと)がさかんです。▽草や水をもとめてうつりすみ、牛・馬などをかうことを遊牧といいます。▽高原の牧歌的な(=そぼくで、のどかな)けしきをえがく。▽牧場では牛や馬がのんびりと牧草をたべている。▽牧師さん(=教会の先生)の話を聞く。

参考 「牛」を「扌」に、「攵」を「又」にまちがえないように注意する。

◎牛(うし)の部・8(4)画

四年

的

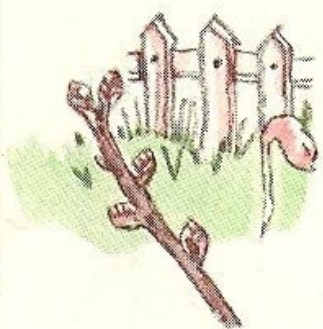
おん テキ
くん まと

いみ ㊀めあて。もくひょう。「的中・的確・目的」㊁ほかのことばの下につけて、「……のような」「……ふう」のいみを表す。「民主的・形式的・自動的・私的・公的・封*建的」

《使い方》

▽目的をはっきりさせる。▽予想がみごとに的中した。▽矢は的の中心にあたった。▽かれの判断は的確だった(=たしかだった)。▽ドアが自動的にひらく。▽きょうの会は、民主的に行われた。▽形式的な(=かたちや、うわべだけをととのえるようすの)あいさつはやめよう。

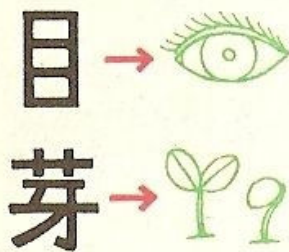
◎白(しろ)の部・8(3)画

芽

おん ガ
くん め

いみ ㊀草や木の、め。「発芽・新芽・麦芽」㊁ものごとのおこり。きざし。「芽ばえ」

《使い方》

▽あさがおの種が芽を出す。▽種をまいてから発芽(=芽が出ること)まで、一週間かかります。▽春の雨に木木が芽ぐむ(=芽を出しかける)。▽麦芽(=麦の、芽を出させてかわかしたもの)を使って、ビールやあめをつくります。▽新芽の色は美しい。▽両国間に平和が芽ばえる。

目→
芽→

◇艹(くさかんむり)の部・8(5)画

英

おん エイ
くん ―

いみ ㊀すぐれている。「英雄*・英気・英断・英才」㊁イギリス。「英国・英語・英会話・英文・英訳」

《使い方》

▽月へ行った三人の飛行士は、英雄*としてむかえられた。▽かれの英断(=思いきってものごとをきめること)で、大工事をはじめることになった。▽英会話のれんしゅうをする。▽日本のむかし話を英訳する(=英語になおす)。

参考 もと「英吉*利」と書いたことから、「英」がイギリスを表す字として使われるようになった。

◇艹(くさかんむり)の部・8(5)画

四年

便

おん ベン・ビン
くん たより

(つきでない)

いみ ㊀つごうがよい。べんり。「便利・不便・便法・便乗」㊁たより。「郵便・別便・航空便・便船」㊂大便や小便。「便所・便通」

《使い方》

▽おりたためる、便利なつくえができた。▽ここは交通の不便なところです。▽駅へ行くトラックに便乗して(=ついでに乗って)買いものに行った。▽品物は別便でおくります。▽めずらしい郵便切手をもらった。▽パリからの便りが航空便できた。▽便所をかわやともいう。

参考「使」とまちがえやすい。

◇人(ひと)の部・9(7)画

型 †

おん ケイ
くん かた

いみ ㊀物のもとになる形。いがた。「型紙・新型・類型・小型・大型・流線型・木型」㊁もけい。「模型」㊂てほん。「典型・典型的」

《使い方》

▽洋服の型紙をつくる。▽大型バスをかりきって、みんないっしょに出かけた。▽新型の車を買った。▽飛行機の模型をつくる。▽父は典型的な学者です。

参考 「型」は、もとになるかた。「形」は、物に表れた、かたちやすがた。どちらのいみにもあたるときは「形」を使う。

◎土(つち)の部・9(6)画

変

おん ヘン
くん かわる・かえる

いみ ㊀ふつうでない。「変死・変人・変則」㊁ちがったものになる。「変化・変形・変更*・変色・変転・変動」㊂できごと。「本能寺の変・事変」

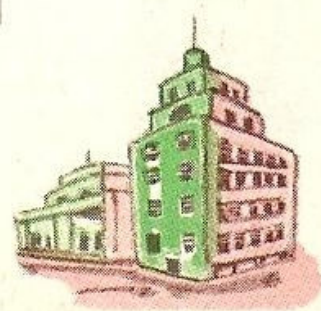
《使い方》

▽これはちょっと変だ。▽あの人は変人(=かわりもの)です。▽カメレオンはまわりの色によってからだの色を変えます。▽気温の変化がはげしい。▽らいちょうの毛色は、夏はかっ色だが、冬になると白に変色する。▽一九三一年に日本と中国の間におきた事変を、満州事変という。

参考 「代わる」とまちがえやすい。

◎夂(すいにょう)の部・9(6)画

建

おん ケン・コン
くん たてる・たつ

いみ 家などをつくる。「建築・建設・建造・建物・再建・建国・建立」

《使い方》

▽新しく学校を建てる。▽火事でやけた校舎を再建する。▽まるい屋根の建物が教会です。▽ダムの建設がはじまる。▽この家は、明治時代の建築です。▽二月十一日は建国記念の日です。▽法隆*寺は六〇七年に建立されたお寺です。▽学校のとなりに十階建てのマンションが建ちました。

家を建てる

立てふだを立てる

◎廴(えんにょう)の部・9(6)画

四年

昨

おん　サク
くん　―

冂 日 日' 旷 昨 昨

いみ　一つ前の日・月・年など。「昨日・昨年・昨晩・昨夜・一昨日・一昨年・昨年度・昨今」

《使い方》
▽昨日はつりに行きました。▽昨年はたいへん不作でした。▽一昨年は兄が中学にはいりました。▽昨晩のあらしで木がたおれた。▽昨今（＝ちかごろ）は、交通事故がふえてきた。▽昨夜からふりつづいた雨があがった。

参考　「昨日」は「きのう」とも読むことができる。

さくじつ　○昨日　×作日
さくぶん　○作文　×昨文

◎日（ひ）の部・9（5）画

栄 †

おん　エイ
くん　さかえる・はえ

栄 栄 栄 栄 栄

いみ　㊀勢いがさかんになる。さかえる。「栄達・栄進・栄転・繁栄」㊁ほまれ。「栄誉・光栄・栄光・栄冠*」

《使い方》
▽国が栄える。▽栄達（＝出世）をのぞむ。▽お茶づけやおそばだけでは栄養が不足する。▽みなさんとお会いできて、光栄（＝めいよ）です。▽勇者に栄光（＝めいよ）あれ。▽優勝したかれの頭上に、栄冠*（＝めいよあるかんむり）がかがやいた。▽長い間の苦労がみのり、ついに栄冠*（＝めいよ）を勝ちとった。▽クラス全員が力を合わせて、栄えある勝利をかくとくした。

◎木（き）の部・9（5）画

四年

〈さんこう〉
◇同じ音読みのことば◇
音が同じで、意味のちがうことばを、同音異義語といいます。

じしん
①自身　自分。自分で。
②自信　自分のねうちや力を信じること。
③地震*　地球の内部でおこる急な変化のため、地面がゆれ動くこと。

こうてい
①高低　高いことと低いこと。
②高弟　でしの中でいちばんすぐれた人。

たいぐん
①大軍　おおぜいの軍隊。
②大群　（動物などの）大きな群れ。

りょうしん
①両親　父と母。
②良心　自分の行いのよい悪いをみわけ、よいことをしようとする心。

ひっし
①必至　必ずそうなること。
②必死　必ず死ぬこと。また、死にものぐるい。（至は六年で習う字）

浅

↕深 163

おん セン
くん あさい

浅浅浅浅浅浅

いみ ㊀すくない。あさい。「浅学・浅瀬*」 ㊁うすい。「浅緑・浅黒い」

《使い方》

▽この川の一ばん浅い所は五〇センチメートルである。▽アメリカは日本よりも、建国の歴史が浅い（＝みじかい）。▽なにぶんにも浅学（＝学問があまりないこと）の身ですから、よろしくお導きください。▽浅瀬*（＝川の水が浅いところ）をわたる。▽かれは浅黒い顔をしている。▽春の野山は浅緑（＝うすいみどりいろ）につつまれている。

参考 「残」とまちがえやすい。

◎水(氵)の部・9(6)画

相

おん ソウ・ショウ
くん あい

十木朩朩相相

いみ ㊀たがいに。ともに。「相談・相応・相手」 ㊁すがたや顔かたち。「人相・手相」 ㊂大臣。「首相・外相」

《使い方》

▽けんかの相手はだれか。▽なかなか相談がまとまらない。▽身分相応（＝ふさわしい）の生活をする。▽人相のよくない人がうろつく。▽手相をみる。▽総理大臣を首相ともいう。▽集合時間におくれて相すみません。

参考 「相すみません」の「相」には、いみがなく、ことばの調子をととのえるために使われる。

◎目(め)の部・9(4)画

省

おん セイ・ショウ
くん かえりみる・はぶく

小小少省省

いみ ㊀ふりかえって考える。かえりみる。「反省・自省・省察」 ㊁へらす。はぶく。「省略」 ㊂やくしょ。「文部省・外務省」

《使い方》

▽自分の行いを省みる。▽今までのやり方をよく反省して、こんどは失敗しないようにしよう。▽むだなてまを省く。▽くわしい話は省略します。▽各省から予算が提出された。▽外務省は、外国とのつきあいについての仕事をする役所です。▽夏休みに三年ぶりで帰省する（＝ふるさとへ帰る）。

◎目(め)の部・9(4)画

四年

紀

おん キ
くん —

紀紀紀紀紀紀紀

巳ではない

いみ ㊀しるす。かいたもの。「紀行文」㊁きまり。「校紀・風紀・軍紀」㊂年代。「紀元・西紀」

《使い方》

▽**紀行文**(=旅行したときに感じたことがらなどをかいた文章)をつづる。▽**校紀**(=学校のきりつ)は必ず守ること。▽**西紀**(=西れき)一九七〇年。

参考 「記」とまちがえやすいので注意する。西れきではキリストの生まれた年を紀元元年とし、キリストの生まれる前を「紀元前」という。一世紀は百年。二十世紀は一九〇一年から二〇〇〇年まで。

◎糸(いと)の部・9(3)画

約

おん ヤク
くん —

約約約約約約約

いみ ㊀やくそく。「約束*・規約・解約・公約・予約・条約」㊁ちぢめる。かんたんにする。「約数・約分・公約数・要約」㊂およそ。だいたい。「約半分」。

《使い方》

▽**約束***をまもる。▽この絵は**売約ず**み(=すでに売るやくそくがしてあること)です。▽会の**規約**を改める。▽おたがいの健とう(=りっぱにたたかうこと)を**約**して別れる。▽次の分数を**約分**せよ。▽長い物語なので**要約**して話します。▽学校は、**約**(=およそ)三〇〇メートル先です。

◎糸(いと)の部・9(3)画

胃

おん イ
くん —

胃胃胃胃胃胃胃

いみ 食道の下に続いているふくろで、食べたものをこなすところ。いぶくろ。「胃腸・胃弱・胃液・胃病」

《使い方》

▽てんぷらが**胃**にもたれる(=食べた物が胃にたまって気分がわるい)。▽かれは**胃腸**がじょうぶだ。▽**胃が**んで死ぬ人が多い。▽兄は、長い間**胃病**になやまされている。▽食べすぎたので**胃散**(=粉の**胃薬**)をのむ。

参考 左上は古い字の形。[古い字形]は食べ物のはいっている胃の形で、月はからだを表す。上につきだして「冑」と書くと別の字になる。

◎肉(にく)の部・9(5)画

要

おん ヨウ
くん いる

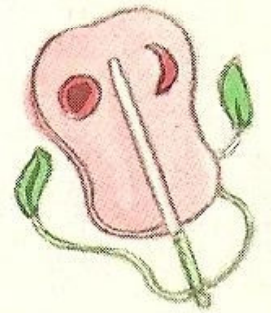
いみ ㊀もとめる。ほしがる。「必要・要求・要望・要員・要具」㊁だいじな点。「重要・要因・要素・主要・要件・要所・要点・要約」㊂必要だ。

《使い方》
▽自由を**要求**する(=つよく、もとめる)。▽この仕事には三人の人が**必要**だ。▽急を**要する**(=おお急ぎでする必要がある)仕事。▽話の**要点**(=最もたいせつなところ)を、正しくつかむ。▽**要領**がいい(=手ぎわがいい)。▽**要る**物は全部かばんに入れた。

参考 「要具」は、必要な道具。「用具」は、あることをするのに使う道具。

◇西(にし)の部・9(3)画

軍

おん グン
くん ―

いみ ㊀ぐんたい。へいたい。「軍隊・軍医・軍勢・軍事・軍備・軍港・軍人・軍服・軍縮」㊁たたかい。「軍記」

《使い方》
▽父はもと**軍人**だった。▽おじさんはお酒をのむと**軍歌**をうたうくせがある。▽白組に**軍配**(=すもうの行司が持つうちわ)が上がる(=白組が勝つ)。▽**軍記物語**(=戦争や、りっぱな武士のことを書いた物語)を読む。

参考 左上が古い字の形。〇は「かこむ」、車は「戦車」のいみ。戦車を中心にして陣*をつくることからできた。

◇車(くるま)の部・9(2)画

飛

おん ヒ
くん とぶ・とばす

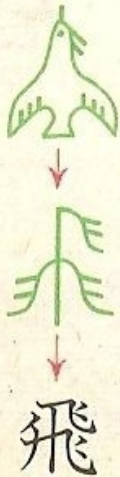
いみ 空をゆく。とぶ。「飛球・飛行機・飛行船・飛脚*・飛躍*・飛び火・飛び石」

《使い方》
▽**飛行場**には、日本や外国の**飛行機**が五、六機見えた。▽つばめが**飛び**かう季節になった。▽品物が**飛ぶ**ようにうれた。▽**大飛球**(=大きなフライ)が外野にあがった。▽**低空飛行**したので、**飛行士**の顔がみえた。▽むかいの家から**飛び火**して家がやけた。

参考 鳥が飛んでいる形からできた。

◇飛(とぶ)の部・9(0)画

四年

借

おん シャク
くん かりる

↕貸 304

いみ つかわせてもらう。かりる。「拝借・借金・借用証書・借家・借地・貸借」

《使い方》

▽図書室から本を借りる。▽かさを拝借いたします。▽借金をして家をたてる。▽お金を借りたしるしに借用証書をかく。▽借家（＝お金をはらって借りている家）にすんでいます。▽家の借り手がきまった。

参考 「借りた」を、「かった」というのは関西地方の方言。

◎人（ひと）の部・10（8）画

貸す　借りる

倍 †

おん バイ
くん ―

いみ ㊀ある数をなん度もくわえること。「三倍・四倍」㊁ある数を二つ合わせた数。二倍。「倍加」

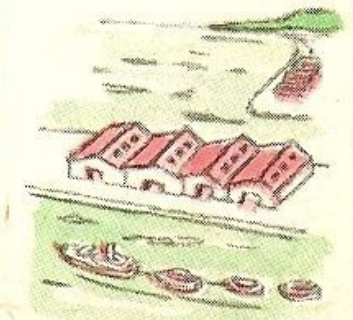
《使い方》

▽人口は五年間で二倍にふえた。▽このけんび鏡の倍率（＝レンズに写る像と実物の大きさとのわりあい）は、四百倍である。▽仕事の量が倍加する（＝二倍になる）。▽あの人は人一倍（＝人なみ以上に）はたらく。▽八は、二または四の倍数（＝ある数のなん倍かにあたる数）です。

参考 「陪*・培*」などと書きまちがえやすい。

◎人（ひと）の部・10（8）画

倉 †

おん ソウ
くん くら

いみ ものをしまっておく建物。くら。「倉庫・米倉・穀倉地帯・船倉・倉荷」

《使い方》

▽倉庫の前にトラックがとまっている。▽米倉にお米をはこびこむ。▽このあたりは日本の穀倉地帯（＝こくもつがたくさんとれる所）です。▽船倉（＝船の底にある、にもつをつみ入れる倉）に商品をつみこむ。▽倉荷（＝倉庫にしまってある貨物）をはこびだす。

参考 「倉」はこくもつを入れておく建物。「蔵」はだいじな物を入れておく建物。

◎人（ひと）の部・10（8）画

候

おん コウ
くん そうろう

いみ ㊀ようす。「天候」㊁きせつ。「気候・時候」㊂まちうける。「候補」㊃さぐる。「斥*候」㊄ございます。

《使い方》

▽旅行ちゅうは天候にめぐまれた。▽ここは、気候の変化がはげしい所です。▽よい時候になりましたね。▽父は町会議員に立候補した。▽ぼくたちのチームは、ゆうしょう候補の一つだ。▽斥*候(=敵のようすをさぐる人)を出して、あたりを調べる。▽「候」ということばを使った文章は、おもに手紙文に用いられる。

参考 ㊄のいみのときは、「そうろう」とよむ。

◇人(ひと)の部・10(8)画

孫

おん ソン
くん まご

いみ 子どもの子ども。むすめやむすこの子ども。まご。「子孫・子子孫孫・皇孫・ひ孫」

《使い方》

▽花子さんのおばあさんには、孫が十一人います。▽ぼくは武士の子孫です。▽このかぶとは、子子孫孫(=子孫のつづくかぎり)につたえる。▽三人めの皇孫(=天皇の孫)が、お生まれになりました。

参考「系」は「続く」いみで、「孑」は「子ども」。「子から子へ続く」いみを表す。

亻↓孫→係(けい)

◇子(こ)の部・10(7)画

害

おん ガイ
くん ―

↕益 284

つきでない

いみ ㊀きずつける。「殺害・害虫」㊁じゃまになる。「要害・ぼう害」㊂わざわい。「災害・冷害・干害・水害・公害」

《使い方》

▽いねの害虫をたいじする。▽ばいえんで健康を害する。▽工場の音が安眠*をぼう害する(=さまたげる)。▽木を植えて水害をふせぐ。▽台風で、いねは大損害をうけた。▽冬がはやくやってくると、冷害(=ひどいさむさのため、作物がうける害)が心配だ。▽空気がよごれたり、川の水がよごれたりする公害をなくしたい。

◇宀(うかんむり)の部・10(7)画

四年

差

おん サ
くん さす

いみ ㊀ちがい。くべつ。「差別・誤差・大差・小差・落差・時差・差異・差額」㊁ひき算のこたえ。㊂さす。

《使い方》

▽さばくでは暑さ寒さの差がはげしい。▽人種によって人間を差別してはならない。▽貸し借りを計算すると、差し引きゼロになる。▽わたしと妹の身長の差は七センチです。▽次の式の差を求めよ。

参考 「差しせまる」「差しおさえる」などの「差し」は勢いをつよめることば。

差 → 着
目

◎エ(え)の部・10(7)画

席

おん セキ
くん —

いみ すわる場所。ざせき。「座席・席順・席次・空席・指定席・出席・欠席・着席・末席・客席・席料」

《使い方》

▽子どもたちはきちんと席についている。▽新学期には席順がかわる。▽早く座席につきましょう。▽えいが館で空席(=あいている席)をさがす。▽この列車は全部指定席です。▽きょうの欠席者は三人です。▽客席はほとんど満員です。▽どうぞ、ご着席ください。▽末席をけがします(=多くのえらい人々の中に加わることをへりくだっていうことば)。

◎巾(はば)の部・10(7)画

帯 †

おん タイ
くん おびる・おび

いみ ㊀はばのひろい、ひも。おび。「包帯・へこ帯・帯止め」㊁身につける。もつ。「けい帯」㊂ふくむ。㊃あたり。ばしょ。「一帯・熱帯・温帯・寒帯・工業地帯」

《使い方》

▽帯に短し、たすきに長し(=ちゅうとはんぱで役にたたない)。▽重大な任務を帯びて出発する。▽山へ行くときはけい帯ラジオをもって行く。▽かきが赤みを帯びてきた。▽バナナの原産地は熱帯地方です。▽この地帯は雪が多いので有名です。

参考 「帝」とまちがえやすい。

◎巾(はば)の部・10(7)画

四年

徒

おん ト
くん ―

いみ ㊀あるく。「徒歩・徒競走」㊁むだ。「徒労・徒食」㊂何ももたない。「徒手体操」㊃でし。なかま。「信徒・徒党・生徒・学徒・徒弟制度」

《使い方》

▽生徒はみな徒歩で通学しています。▽徒競走で一等をとった。▽今までの苦心は徒労（＝むだなほねおり）におわった。▽徒手体操でからだをきたえる。▽徒党（＝わるいなかま）をくんで、あばれまわる。▽むかしは徒弟制度（＝親方の家にすみこんで、仕事をならうしくみ）によっていろいろな技術をまなんだ。

◇彳（ぎょうにんべん）の部・10（7）画

挙

おん キョ
くん あげる・あがる

いみ ㊀もちあげる。「挙手・選挙」㊁行う。「挙行・挙動・挙式」㊂ならべたてる。「列挙」㊃のこらず。みな。「挙国・大挙」

《使い方》

▽国会議員の選挙が行われる。▽軍隊では上官に対して挙手の礼をする。▽九時から入学式を挙行する。▽兄はきのう結婚*式を挙げました。▽挙動のあやしい人がいる。▽疑問点を列挙する。▽全力を挙げて敵と戦う。

参考 「誉*」とまちがえやすい。

○ 挙　× 挙

◇手（て）の部・10（6）画

四年

料

おん リョウ
くん ―

いみ ㊀代金。「料金・無料・給料・送料・入場料・有料」㊁ざいりょう。「材料・原料・料理・資料・食料」

《使い方》

▽目方で料金を決める。▽えいがを無料でみせる。▽紙の原料はパルプです。▽さかなを材料にして料理をつくる。▽月に関する資料をあつめる。▽島では雨水をためて飲料水にしている。

参考 「斗」は「はかる」いみで、もとは米をはかること。「科」とまちがえやすい。

禾＋斗＝科（か）
米＋斗＝料（りょう）

◇斗（とます）の部・10（6）画

案

おん　アン
くん　―

いみ　㊀考える。考え。「考案・案出・思案・議案・答案・名案」㊁下書き。「文案」

《使い方》
▽新しい機械を考案する。▽試験は案外(=おもいのほか)やさしかった。▽あぶないと思ったら、案の定(=思ったとおり)失敗した。▽よく見直してから答案をだした。▽島の中を案内してもらう。▽思案にくれた(=どうしようかと思いまよった)。▽ふと名案(=とてもすばらしい思いつき)がうかんだ。▽広告の文案(=文章の下書き)を考える。

◇木(き)の部・10(6)画

残

おん　ザン
くん　のこる・のこす

いみ　あまる。のこる。「残雪・残念・残額・残業・残金・残月・残暑・残像・残高・心残り」

《使い方》
▽夏休みも残り少なくなった。▽五月をすぎても谷間には残雪(=きえ残っている雪)がある。▽ゆう勝できなかったのは残念です。▽貯金の残額はわずかしかない。▽いそがしいので残業をした。▽おなかがいっぱいだったので、せっかくのごちそうを残してしまった。

戋のつく字
銭残浅

◇歹(かばねへん)の部・10(6)画

殺

おん　サツ・サイ・セツ†
くん　ころす

いみ　㊀いのちをたつ。ころす。「殺人・殺害・殺気・殺菌*・殺虫剤*・銃*殺」㊁けずる。「相殺」

《使い方》
▽敵を切り殺す。▽息を殺して(=おさえて)見つめる。▽牛乳は、よく殺菌*して(=ばいきんを殺して)からびんにつめられる。▽意見があわなくてふたりとも殺気だった。▽殺生(=生き物を殺すこと)はやめなさい。▽貸したお金はこの本の代金で相殺する(=貸し借りなしにする)。

参考　「サイ」や「セツ」は、「相殺」や「殺生」などに使われる、とくべつなよみ。

◇殳(るまた)の部・10(6)画

四年

おん ヨク
くん あびる・あびせる

いみ ㊀水や湯をからだにかける。「浴室・浴場・入浴・海水浴・水浴び」 ㊁うける。こうむる。

《使い方》

▽あまり暑いので、水を浴びた。▽夏休みに海水浴に行った。▽明るい浴室でのんびりとお湯につかる。▽すずめが水浴びをしている。▽この石けんは浴用です。▽大理石でつくった大浴場にはいった。▽しばふにでて日光浴をした。▽わたしの発言はみんなから非難を浴びた。▽ゆう勝の光栄に浴する。

参考 「欲」とまちがえやすい。

◎水(ずみ)の部・10(7)画

真

おん シン
くん ま

いみ いつわりがない。まこと。「真意・真価・真剣*・真実・真情・真理・真南・真冬・真心・真一文字」

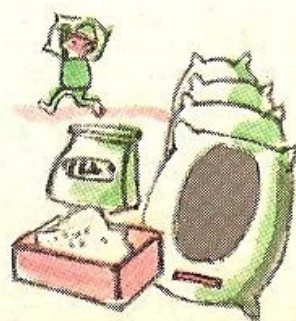
《使い方》

▽事件の真相(=ほんとうのようす)を話す。▽太陽が真南からてらす。▽線路が真一文字に通っている。▽つくえの中から古い写真がでてきた。▽真価(=ほんとうのねうち)をはっきりする。▽真心こめて看病した。

参考 ほかのことばの上につけて「正しい・全くの・まじりけがない」などのいみを表す。

◎目(め)の部・10(5)画

粉

おん フン
くん こ・こな

いみ こまかく、くだいたもの。こな。「粉雪・粉薬・粉末・花粉・製粉・金粉・粉みじん・小麦粉」

《使い方》

▽粉雪がさらさらとふる。▽小麦粉でパンをつくる。▽花粉は、こん虫や風によってあちこちにはこばれる。▽粉薬をのむ。▽コップが粉みじんにくだけた。▽この絵には、金粉が使われている。▽みがき粉で、お茶わんをみがく。

参考 「米」と「分」(=わける・くだく)が合わさってできた。「紛」(=まぎれる)」とまちがえやすい。

◎米(こめ)の部・10(4)画

脈

おん　ミャク
くん　―

（とめる）

いみ　㊀血が流れるときの動き。血管。「動脈・静脈・脈はく」㊁つながり。「山脈・鉱脈・水脈・文脈」㊂のぞみ。

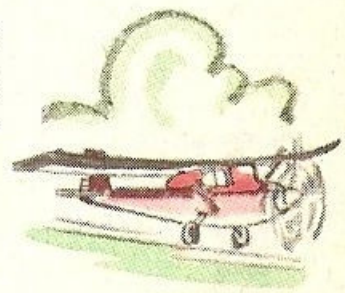
《使い方》
▽運動すると、脈が早くなる。▽血管には、動脈と静脈があります。▽高い山脈がうねうねと続く。▽金の鉱脈を発見した。▽よい水脈（＝地下をながれる水のみち）が通っている。▽この仕事には、まだ脈（＝のぞみ）がある。

参考　「月」がからだを表し、「𠂢」が血の流れるみちすじを表す。

◎肉（にく）の部・10（6）画

航

おん　コウ
くん　―

（たてにかく）

いみ　船や飛行機で、わたる。「航海・出航・欠航・航行・航路・来航・渡*航・帰航・運航・就航・航空便」

《使い方》
▽長い航海を終えた船が、港にはいってくる。▽観測船が南極へ出航する。▽きりのため、飛行機が欠航する。▽父は航空会社につとめている。▽航空機もずいぶん改良された。▽兄は外国航路の船員になった。▽帰航（＝もとの港へかえる航海）の旅につく。

参考　「船」や「般*」などと書きまちがえやすい。

◎舟（ふね）の部・10（4）画

四年

連

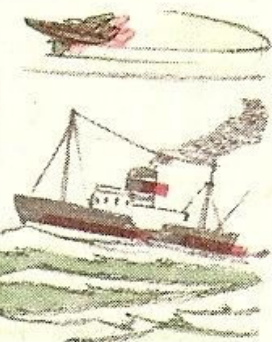
おん　レン
くん　つらなる・つらねる・つれる

いみ　㊀ならびつづく。つながる。「連結・連山・連絡*・連続・連発・連名・連想」㊁つれていく。つれ。なかま。「連中・連盟・連行」

《使い方》
▽わがチームは、連戦連勝した（＝つづけて戦い、つづけて勝った）。▽連日の雨で川の水があふれた。▽高い山が連なっている。▽大きな事故が連続しておこった。▽弟を連れてでかける。▽近所の連中（＝なかま）と旅行に行く。

参考　「辶」は道を表し、「車」がつづけて道を通ることを表す。

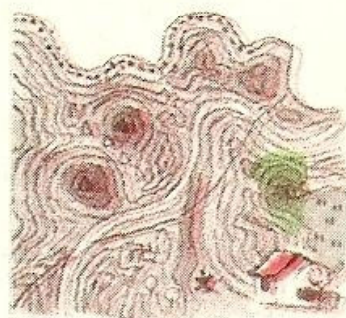
◎辶（しんにょう）の部・10（7）画

速

おん ソク
くん はやい・はやめる・すみやか

いみ すみやかだ。はやい。「速達・急速・速記・速力・速度・快速・風速・時速・秒速・高速・速成・速報・速球・速決」

《使い方》
▽急用なので速達をだした。▽ジェット機はものすごい速さで飛んで行った。▽台風は速度を速めて接近してきた。▽この間の台風は風速(=風のふくはやさ。一秒間にすすむきょりで表す)五〇メートルをこえました。▽速やかに決断を下す。

参考 「速い」は、「動いているものが短い時間に遠くまで行く」といういみがつよい。◎辶(しんにょう)の部・10(7)画

郡

おん グン
くん —

つきだす

いみ 都・道・府・県の中をいくつかにわけた土地のくぎり。「郡部・郡内・郡下・郡司・北多摩*郡」

《使い方》
▽東京都の郡部(=都心からはなれた地方)にすんでいます。▽郡内の米のとれ高をしらべる。▽郡下には小学校が五つ、中学校が二つあります。▽むかし、郡をおさめる役人を郡司といった。

参考 「阝」は「村」を表し、「君」は「集まる」いみで、村の集まりをいう。「群」とまちがえやすい。◎阝(おおざと)の部・10(7)画

○郡 ×郡

停

おん テイ
くん —

いみ とどまる。とまる。「停止・停車・停電・停留所・停戦・調停・停はく・停たい」

《使い方》
▽自転車でふみきりをわたるときは必ず一時停止をしよう。▽この駅で五分間停車します。▽近所にかみなりが落ちたため、停電した。▽バスの停留所まで散歩する。▽外国船が横浜*港に停はくしている(=港にとまっている)。▽負傷者を収容するため停戦(=戦争を一時やめること)のとりきめを結ぶ。

参考 「亭*」とまちがえやすい。◎人(ひと)の部・11(9)画

健

おん　ケン
くん　すこやか

イ亻仁佳律健健

いみ　じょうぶ。すこやか。「健康・健在・健全・強健・健児・健勝・保健・壮＊健・健脚＊・健闘＊」

《使い方》
▽わたしの家は父をはじめみな健在です（＝元気でくらしています）。▽冷水まさつをして、健康なからだをつくる。▽明るい家庭で健やかに育つ。▽身体の強健な人。▽けがをしたので保健室に行った。▽ものの考え方が健全だ（＝正しくしっかりしている）。

参考　「建」とまちがえやすい。

◇人（にんべん）の部・11（9）画

健→建

側

おん　ソク
くん　かわ

イ亻伹但俱側

いみ　㊀物の一面。いっぽう。「左側・両側・かた側・側線・裏側」㊁そば。かたわら。「側近」

《使い方》
▽道を歩くときは、右側を歩きましょう。▽この駅のかいだんは左側通行です。▽さかなは、からだの両側にある側線で水の流れを感じる。▽道の両側に大きなすぎの木がならんでいる。▽月の裏側の写真が発表された。▽側近（＝身近につきしたがう人）に相談する。

参考　「則」や「測」と、書きまちがえやすい。

◇人（にんべん）の部・11（9）画

副

おん　フク
くん　―

一戸戸畐畐畐副

いみ　㊀おもなものにつきそう。「副業・副賞・副食物・副作用・副産物・副題・副読本」㊁かしらのつぎ。「副議長・副知事」

《使い方》
▽副業（＝おもな仕事のほかにする仕事）として花を作る。▽ゆう勝者には賞状のほかに副賞として一万円がおくられる。▽主食よりも副食（＝おかず）を多くとる。▽議長が副議長を指名する。

参考　「福」とまちがえやすい。

◇刀（りっとう）の部・11（9）画

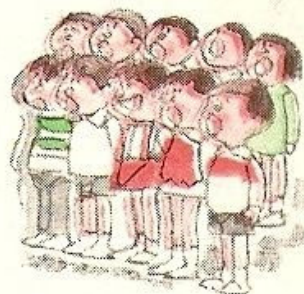
ネ→副→福

四年

唱

おん　ショウ

くん　となえる

唱唱唱唱唱

いみ　声にだしていう。うたう。「合唱・独唱・輪唱・唱歌・唱和・唱道・提唱・復唱」

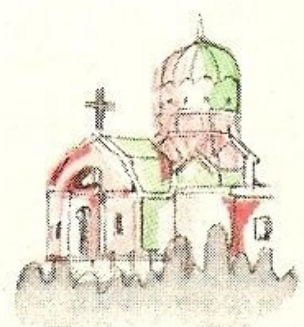
《使い方》
▽毎朝、念仏を唱える。▽学芸会で合唱にでました。▽リンカーンは、人間はすべて平等であると唱道した(=さきにたって唱えた)。▽声高らかに、万歳*を三唱した。▽夏休みにラジオ体操をすることをみんなに提唱した。

参考　「昌」は「あげる」、「口」は「声」を表す。「晶*」や「昌*」とまちがえやすい。

◇口(くち)の部・11(8)画

おん　ドウ

くん　—

堂堂堂堂堂

いみ　㊀神やほとけを祭る建物。大きな建物。「本堂・講堂・殿*堂・礼拝堂・公会堂・食堂・国会議事堂」㊁りっぱ。「堂堂」

《使い方》
▽本堂に大きな仏像がある。▽国会議事堂が近くにある。▽りっぱな殿*堂をたてる。▽卒業式は講堂で行われた。▽自分の考えを、堂堂とのべる。

参考　「土」の上に、「高い」いみの「尚」をのせて、「建物」のいみになった。

× 堂　○ 堂

◇土(つち)の部・11(8)画

四年

〈さんこう〉

◇同じ訓読みのことば◇

「二組みにわかれてゲームをたのしんだあと、わかれをつげた。」前のわかれは「分かれ」、あとのわかれは「別れ」と書きます。四年でならう字の中から、同じ読みのことばをみつけましょう。

- **かわる**　▽当番を代わる。▽係が変わる。
- **たつ**　▽人が立つ。▽家が建つ。
- **なる**　▽たいこが鳴る。▽研究が成る(=できあがる)。
- **はじめて**　▽朝早くから仕事を始めていた。▽初めて校長先生と話をした。
- **はやい**　▽ぼくは朝起きるのが早い。▽船より飛行機の方が速い。
- **つく**　▽洋服にどろが付く。▽電車がホームに着く。
- **あつい**　▽熱いお茶をのむ。▽夏の暑い日。▽厚い本。(厚は五年で習う字)

宿

おん シュク
くん やど・やどる・やどす

いみ ㊀一時そこにとどまる。やどる。やど。「合宿・下宿・雨宿り・宿題・宿直・野宿・宿場・宿屋」㊁まえからの。「宿望・宿願・宿命」

《使い方》

▽夕立ちにあって、木の下で雨宿りした。▽旅にでて宿屋にとまる。▽正直のこうべに神宿る(=正直な人には神の守りがある)。▽朝つゆを宿した草。▽宿望(=まえからもっていたのぞみ)をはたす。

参考 下が古い字の形。宀はやね、佰は人が席につくようすを表す。やねの下に人がとどまることからできた。

◎宀(うかんむり)の部・11(8)画

康

おん コウ
くん —

いみ ㊀やすらか。「小康」㊁すこやか。「健康」

《使い方》

▽病気は小康状態(=少しよくなりかけたようす)をたもっている。▽健康なからだをつくる。▽健康保険(=ふだんから少しずつお金をおさめ、病気になったときに、医者に安くかかれるしくみ)を利用する。

参考 左上が古い字の形。⺜はきねを両手にもっている形で、氺は米ぬかを表す。「米がよくみのって、心がやすらかである」いみからできた。

◎广(まだれ)の部・11(8)画

救

おん キュウ
くん すくう

いみ たすける。「救助・救出・救援*・救急車・救護・救済・救世主・救命」

《使い方》

▽命を救うため、あらゆる手当てをほどこした。▽台風の被*害地に救援*物資を送る。▽生きうめになっていた人人が、三十時間ぶりに救出された。▽ほうたいは救急箱*にはいっています。▽船が難破したので、救命具をつけ、救命ボートにのりうつった。

参考 「求」や「球」とまちがえやすいので注意する。

◎攵(ぼくにょう)の部・11(7)画

四年

敗

おん ハイ
くん やぶれる

いみ ㊀まける。「敗因・勝敗・敗北・敗戦・敗軍・敗者・全敗」㊁うまくいかない。「失敗」

《使い方》

▽決勝戦までいったがついに敗れた。▽敗因（＝勝負などで、負けた原因）がどこにあったかよく考えてみなさい。▽勝敗にこだわらず堂堂とたたかう。▽人工衛星の実験は失敗した。

参考 「敗れる」は勝負に負ける。「破れる」は形がくずれる・さける。

◎攵（ぼくにょう）の部・11（7）画

敗れる　破れる

望

おん ボウ・モウ
くん のぞむ

いみ ㊀とおくをみる。「望見・望遠鏡」㊁ねがう。「希望・本望・志望・野望・大望・絶望・待望・失望・望外・熱望」㊂人からあおがれる。「人気。「人望・衆望」

《使い方》

▽東に富士山を望む。▽しょう来の希望をのべる。▽努力して、本望（＝まえから深くねがっていること）をとげた。▽待望の運動会がやってきた。▽かれは人望のある人です。

参考 下が古い字の形。人が目をみはって月をみている形からできた。

◎月（つき）の部・11（7）画

械

おん カイ
くん ―

たてぼうは二本

いみ しかけ。どうぐ。「機械・器械・機械化」

《使い方》

▽小さいときから機械をいじることがすきでした。▽かんたんな器械で実験する。▽日本の農業もこのごろはずいぶん機械化（＝人や動物の力のかわりに、機械の力を使うようにすること）されてきました。

参考 「機械」と「器械」の使いわけに注意する。「機械」はおもに動力そう置をつけたものに使う。

ただしくかこう

×〇×

◎木（き）の部・11（7）画

四年

清

おん セイ・ショウ

くん きよい・きよまる・きよめる

清 清 清 清 清 清

いみ ㊀にごりがない。けがれがない。「清潔・清純・清新・清音・清酒・清書・清流」㊁しまつする。「清算」

《使い方》

▽手はいつも清潔にしておく。▽清らかな流れで、口をすすぐ。▽幼子のような清純な心。▽清新の気をやしなう。▽六根清浄*と唱えながら山に登り、頂上の社におまいりすると、身も心も清められた気がする。▽作文の下書きを清書する。▽借金の清算(=計算して、しめくくりをつけること)をする。

参考 「清算」と「精算」はまちがえやすい。

◇水(みず)の部・11(8)画

産

おん サン

くん うむ・うまれる・うぶ

亠 立 产 产 产 産

いみ ㊀子をうむ。うまれたときの。「安産・出産・産毛」㊁物をつくりだす。「生産・産地・産出・産業・産物」㊂ざいさん。「財産・家産」

《使い方》

▽海がめは、すなの中にたまごを産みつける。▽さけは、海から川にのぼって産卵する。▽赤ちゃんは産まれるとすぐに産湯を使った。▽電気製品の生産がさかんだ。▽青森県はりんごの産地です。▽事業に失敗して、家産をかたむける(=家の財産をなくす)。▽一代で大きな財産をつくる。

◇生(うまれる)の部・11(6)画

票

おん ヒョウ

くん —

一 覀 覀 票 票 票

いみ ㊀ふだ。とくに、せんきょに使うふだ。「伝票・投票・開票・票決」㊁ふだを数えることば。「一票」

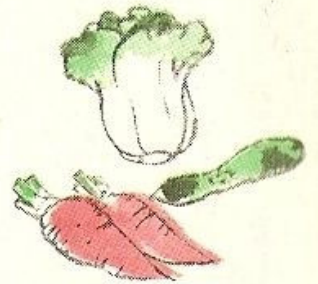
《使い方》

▽きょうは市長選挙の投票日だ。▽納品(=品物をおさめること)の伝票を書いて送る。▽きょうの選挙の開票の結果は夕方になるとわかるそうです。▽意見がなければ票決(=投票によって決めること)にうつります。▽学級委員の選挙で、大川さんに一票を入れた。

参考 「票」と「要」とまちがえやすい。「票」に「木」をつけると「標」の字になる。

◇示(しめす)の部・11(6)画

菜

おん サイ
くん な

いみ ㊀やさい。「野菜・菜食・菜園・白菜・山菜」㊁おかず。「総菜」

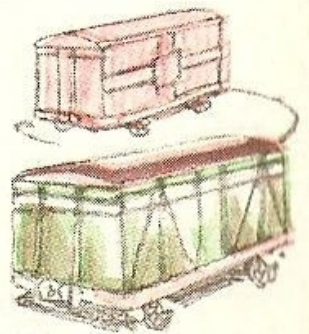
《使い方》

▽うら庭で野菜をつくった。▽菜食（＝おもに野菜をたべること）は、からだによい。▽一面に菜の花がさく。▽このだいこんは、うちの菜園（＝野菜をつくる畑）からとれました。▽父は山菜料理がすきです。▽ひるは、総菜（＝ありふれたおかず）ですました。

参考 「采」は「さいばいする」いみ。「さいばいした草（艹）」から「野菜」のいみになった。

◎艹（くさかんむり）の部・11（8）画

貨

おん カ
くん ―

いみ ㊀お金。「金貨・銀貨・通貨・財貨・外貨・貨へい」㊁品物。「貨物・貨車・雑貨・百貨店」

《使い方》

▽土の中から銀貨がざくざくあらわれた。▽その国で現在使われているお金を通貨といいます。▽むかしにくらべて、貨へいの価値がさがった。▽貨物船で外国へゆく。▽雑貨屋でたわしを買いました。▽おかあさんと百貨店にいきました。

参考 「貝」が「お金」を表し、「化」は「かえる」いみから、「金銭とかえた物」のいみになった。

◎貝（こがい）の部・11（4）画

四年

陸

おん リク
くん ―

いみ 地球の上で、水におおわれていない所。おか。「上陸・陸上・陸路・陸橋・大陸・陸地・着陸・離*陸・陸風」

《使い方》

▽たくさんのさんまが陸あげされる（＝おかにあげられる）。▽台風が、本土に上陸しそうです。▽はじめて人間が月面に着陸した。▽コロンブスはアメリカ大陸を発見した。

参考 「つらなる」いみの「坴」と、「丘*」を表す「阝」からできた。

阝＋坴＝陸（りく）
阝＋坒＝陛（へい）

◎阝（こざとへん）の部・11（8）画

おん ハク・バク

くん —

いみ ひろい。ひろまる。「博学・博愛・博士・博識・博物館・博覧会」

《使い方》

▽校長先生は博学な(=広いちしきをもっている)かただ。▽赤十字は博愛(=ひろく人人を愛すること)の精神から生まれた。▽交通博物館で、ひかり号のもけいを見た。▽ぼくのおじさんは、文学博士だ。▽牛や馬の仲買をする人のことを、博労といいます。

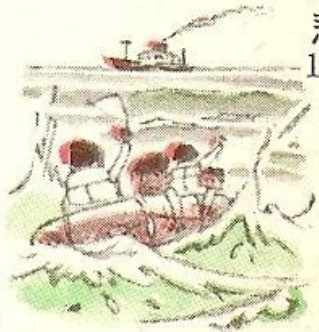
参考 「博士」は「はかせ」とも読むが、「はくし」と読むのが正しい。

× 博　○ 博

◎十(じゅう)の部・12(10)画

喜

おん キ

くん よろこぶ

いみ うれしく思う。よろこび。「喜色・喜劇・きょう喜・歓喜・喜捨・喜怒*哀*楽・ぬか喜び」

↕悲 168

《使い方》

▽母の喜ぶ顔が目にうかぶ。▽命が助かったときいて、みんなの顔に喜色がうかぶ。▽七十七歳*のお祝いを、喜寿*の祝いという。▽きのう、喜劇を見に行きました。▽合格の知らせにきょう喜する(=ひじょうに喜ぶ)。▽喜怒*哀*楽(=喜びといかりと悲しみと楽しみ)の情をはっきり表す。

羊↓喜→善

◎口(くち)の部・12(9)画

散

おん サン

くん ちる・ちらす・ちらかす・ちらかる

いみ ちらばる。ちらす。「散在・散歩・解散・散会・散布・散薬・発散・分散・散財・散水車」

↕集 176

《使い方》

▽さくらの花が風に散る。▽広い野に家が散在する(=散らばってある)。▽大通りを散水車が通る。▽国会が解散になる。▽三十分前に散会した(=会がおわって、人人がかえった)。▽父は毎朝、犬をつれて散歩する。▽ヘリコプターを使って畑に消毒薬を散布する(=まきちらす)。▽散薬(=粉ぐすり)をのむ。

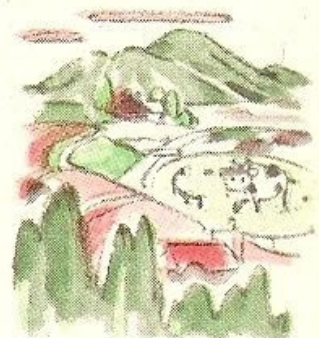
参考 「敢」と書きまちがえやすい。

◎攵(ぼくにょう)の部・12(8)画

四年

景

おん ケイ
くん ―

冂日早昌㬌景

いみ ㊀けしき。「風景・夜景・光景・景観・遠景・近景・背景・景勝・絶景」㊁ありさま。「情景・景気」

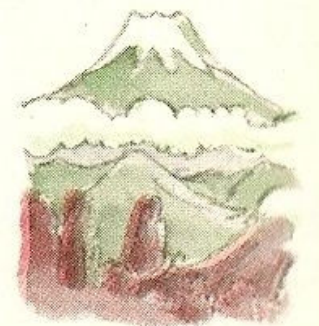
《使い方》

▽ふるさとの風景が目にうかぶ。▽ホンコンの夜景は世界一すばらしいといわれます。▽松＊島は景勝（＝けしきがすぐれていること）の地として有名です。▽戦いの情景をありのままに書き表す。

参考 「京」の音が、「光」を表し、「日の光」のいみから「目に見えるけしき」のいみになった。◇日（ひ）の部・12（8）画

ただしくかこう ×景 ○景 ×景

最

おん サイ
くん もっとも

冂旦旦㝡最最

いみ いちばんの。第一の。「最善・最高・最低・最後・最悪・最愛・最新・最古・最初・最大・最小・最良・最中・最終・最短・最近」

《使い方》

▽クラスで最もよくできる人。▽最善をつくす（＝力いっぱい努力する）。▽試合は最高潮（＝気分がいちばんもりあがったところ）に達しました。▽ことしは台風や火事にあって、最悪の年だった。▽これは最新のニュースです。▽いま食事の最中です。▽最短のコースを走る。

◇曰（ひらび）の部・12（8）画

○最 ×最

極

おん キョク・ゴク
くん きわめる・きわまる・きわみ

木朩朽柯極極

いみ ㊀きわまる。はなはだしい。「極力・極言・極大・極小・極端＊・極点・極度・極上・極寒・南極・北極・極地・極光」㊁はて。「極東・南極・北極・極地・極光」

《使い方》

▽希望にそうよう極力（＝せいいっぱい）努力する。▽極上の（＝一ばんよい）品物をさしあげます。▽ついに頂上を極めた。▽感極まって（＝どうしようもなくなって）泣きだした。▽南極は極寒の地です。▽オーロラのことを極光という。▽極地のたんけんに出発する。

◇木（き）の部・12（8）画

一画でかく

満

おん マン
くん みちる・みたす

満満満満満満

いみ ㊀いっぱいになる。じゅうぶん。「満開・満期・満作・満身・満天・満腹・満満・満面・円満・満るい」㊁たん生日からつぎのたん生日までを一年とした年齢*のかぞえ方。

《使い方》
▽金メダルをうけとる選手たちの顔は、喜びに満ちあふれていた。▽観光シーズンでバスは満員だ。▽ばけつに水を満たす。▽満身(=ぜんしん)の力をこめてつなを引く。▽今夜はすばらしい満月だ。▽きょうのテストは自信満満だ。▽わたしはきょうで、満十一歳*になりました。

◇水(み)の部・12(9)画

焼

おん ショウ
くん やく・やける

焼火焼焼焼焼

いみ もやす。やける。「夕焼け・焼け石・焼失・焼香*・燃焼・全焼・延焼・類焼」

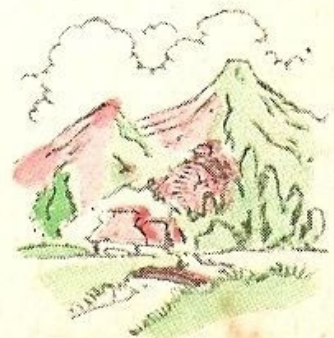
《使い方》
▽たき火でさつまいもを焼いた。▽西の空が夕焼けでまっかです。▽天守閣は、明治十年に焼失した(=焼けてなくなった)。▽夏のすなはまは焼け付くようだ。▽わたしの家は類焼(=よそで起きた火事で焼けること)をまぬかれた。▽焼け石に水(=少しばかりの助けではききめがないことのたとえ)。

参考 「暁*」とまちがえやすい。

◇火(ひ)の部・12(8)画

然

おん ゼン・ネン
くん —

クタタ'犬然然然

いみ ㊀そのとおり。「当然・平然・公然・純然・全然・同然・未然・自然・天然」㊁(他のことばのあとについて)…のようす。「学者然」

《使い方》
▽ここは自然に囲まれた美しい所です。▽天然の美しさをこわさないようにしよう。▽当然のことをしたまでです。▽平然として(=へいきで)うそをつく。▽事故を未然に(=おこるまえに)ふせぐ。▽かれは学者然(=学者らしいようす)としている。

参考 「ネン」の読みは、「天然」以外にはあまり使われない。

◇火(ひ)の部・12(8)画

筆 †

おん　ヒツ
くん　ふで

筆順：筆（つきだす）

いみ　㊀文字や絵をかく道具。「毛筆・鉛*筆」㊁文字。「達筆・悪筆・肉筆・筆順・筆力」㊂文章。「筆談・筆者・絶筆・特筆・筆舌」

《使い方》

▽二十四色の色えん筆を買った。▽弘*法は筆をえらばず（＝字のじょうずな人はどんな筆でもじょうずに書ける）。▽正しい筆順をおぼえよう。▽病気の人と筆談（＝紙に字を書いてする話）をした。▽かれは筆がたつ（＝文章がうまい）。▽この本の筆者はわからない。▽筆舌につくせない（＝文章やことばに表せない）美しさです。

◎竹（けた）の部・12（6）画

結

おん　ケツ
くん　むすぶ・ゆう・ゆわえる

いみ　㊀ゆわえる。つなぐ。むすぶ。「連結・団結・結合」㊁みのる。つくる。「結実・結成・結社・結氷」㊂おわる。「終結・結果・結末・結論」

《使い方》

▽白いきれをぼうに結わえる。▽お正月には日本がみを結う。▽機関車が、貨車と連結した。▽野球のチームを結成する。▽人工的に花粉をつけて、結実させる（＝実を結ばせる）。▽長い戦争が終結した。▽テストの結果が発表された。▽話の結末をつけよう。

上を長くかく　結

◎糸（いと）の部・12（6）画

給 †

おん　キュウ
くん　—

いみ　㊀あたえる。くばる。「給食・補給・支給・配給・給水・給油所・給仕・供給」㊁ちんぎん。「給料・給金・高給・日給・週給・月給」

《使い方》

▽給食の時間になりました。▽燃料を補給するために横浜*港へ入港した。▽会社から事務服が支給された。▽物資の配給をうける。▽水道がとまったので給水車がきた。▽最初の給料で父のネクタイを買いました。▽わたしは日給二千円の仕事をしています。

参考　「拾」とまちがえやすい。

◎糸（いと）の部・12（6）画

四年

覚

おん カク
くん おぼえる・さます・さめる

いみ ㊀おぼえる。「不覚・感覚・知覚・視覚・味覚」㊁わかる。さとる。はっきりする。「自覚・先覚者」

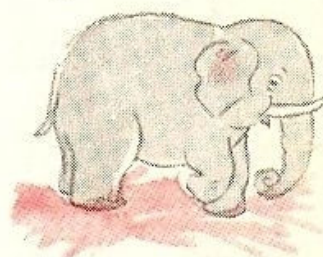
⺍ 丷 ⺌ 𰀁 党 覚 覚 覚 覚 覚

《使い方》
▽小さいころのことは何も覚えていない。▽バスの中で、見覚えのある人に声をかけられた。▽不覚にも(＝思わず)なみだをこぼした。▽寒さで指先の感覚がない。▽学級委員であることを自覚する。▽しかられることを覚悟*してドアをあけた。▽小鳥の声で目を覚ました。

参考 「⺍」を「⺌」としたり、「見」を「貝」としては、まちがい。

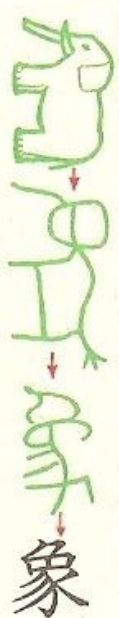
◇見(みる)の部・12(5)画

象

おん ショウ・ゾウ
くん ―

いみ ㊀ものの形。すがた。「気象・対象・現象・印象」㊁かたどる。にせる。「象形」㊂熱帯にすむ、長い鼻をもった動物。ぞう。「巨*象・象げ」

⺈ 各 争 争 争 多 多 象 象

《使い方》
▽青い空が強く印象に残っている。▽少年少女を対象とした本を出す予定だ。▽ものの形にかたどってつくられた漢字を象形文字という。▽象げ(＝象のきば)でつくったはし。

参考 動物の「象」の形からできた。

◇豕(いのこ)の部・12(5)画

費

おん ヒ
くん ついやす・ついえる

いみ ㊀使いへらす。「消費・空費・乱費」㊁あることに使うお金。ひよう。「費用・国費・私費・出費・自費・学費・旅費・経費・会費」

一 ⼆ 弓 弗 弗 費 費

《使い方》
▽新幹線は多くのお金と長い時間を費やしてできあがった。▽時間を空費する(＝むだに使う)。▽父からの便りをまって、むなしく時が費える。▽物価が高く、出費がかさむ。▽会費をそえて申しこんでください。▽私費(＝自分のお金)で留学する。

参考 「貝」はお金を表し、「弗」はなくなることを表す。

◇貝(かい)の部・12(5)画

四年

貯

おん チョ
くん ―

いみ たくわえる。ためる。「貯金・貯水池・貯蓄*・貯蔵」

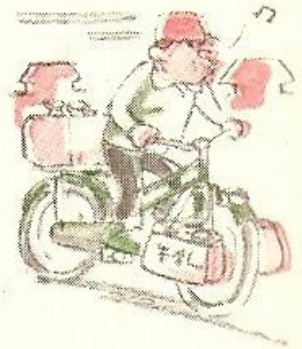
《使い方》
▽毎月百円ずつ貯金する。▽雨がふらないので、貯水池の水が半分になった。▽あまった野菜は地下の貯蔵庫に入れておく。▽将来にそなえてむだづかいをせず、貯蓄*しましょう。

参考 むかしの中国では、貝をお金のかわりとして使ったので、「貝」のつくのある字には、お金と関係のある字が多い。貧・貸・賃・財など。

貯金　賃金
財産
貸す　貧ぼう

◎貝(かい)の部・12(5)画

達

おん タツ
くん ―

いみ ㊀ゆきわたる。とどく。「通達・伝達・速達・達成・配達」㊁すぐれる。「栄達・達人・達見・達筆・達者・上達・発達」

《使い方》
▽郵便物の配達がおくれる。▽やっと目的を達した。▽役所からの通達事項*があります。▽まちがえずに伝達してください。▽大阪*は、よど川の河口に発達した都市です。▽かれは剣*道の達人です。▽上達がはやい。▽兄は長い間アメリカで生活していたので英語が達者(=じょうず)です。

参考「友だち」を、「友達」と書いてもよい。

◎辶(しんにょう)の部・12(9)画

量

おん リョウ
くん はかる

いみ ㊀はかる。「量り売り」㊁かさ・重さ・長さなど。「分量・多量・数量・量産・雨量・音量・力量・量目・計量・重量・測量」㊂おしはかる。「推量」

《使い方》
▽量り売りのおかしを買った。▽いろいろな品物が大量に生産されるようになった。▽大雨で貯水池の水量がかなりふえた。▽ラジオの音量を調整する。▽テストをうけて力量をためした。▽重量あげの競技でゆう勝した。▽かれの気持ちを推量する。▽人の気持ちをおし量る。

◎里(さと)の部・12(5)画

おん タイ
くん ―

阝　阝　阝　阝　隊　隊

いみ　何人かの集まり。まとまり。「楽隊・縦隊・隊列・隊長・隊商・隊員・兵隊・軍隊・部隊」

《使い方》

▽ぼくは合唱隊の一員です。▽日本には軍隊はありません。▽楽隊が行進曲をえんそうしながら通って行く。▽一列横隊にならぶ。▽かってに隊列からはなれてはいけない。▽隊商（＝さばくで、らくだのせなかににもつをのせ、隊をくんで旅をする商人）が行く。▽ゆくえ不明のヨットをさがすため、そうさく隊が出発した。

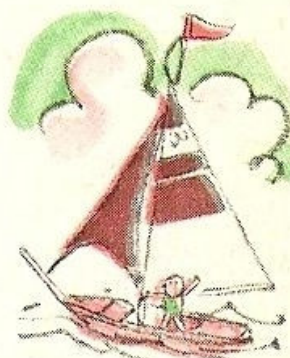
参考　「遂*」とまちがえやすい。

◇阝（こざとへん）の部・12（9）画

順

おん ジュン
くん ―

↕逆 280

川　川一　川丆　川百　川頁　順

いみ　㊀じゅんばん。「順位・順次・筆順・手順・順延・不順・順路」㊁したがう。おとなしい。「従順・順調・順風・順当」

《使い方》

▽順序よく仕事をする。▽打順が一ばんの人にもどる。▽順次（＝じゅんに）おはいりください。▽順路にしたがって見学する。▽順風（＝おいかぜ）をうけてヨットが進む。▽仕事はすべて順調にすすんだ。

参考　「頁」が「頭」を表す。「川」が低い方へ流れるように、頭をさげてしたがうことからできた。

◇頁（おおがい）の部・12（3）画

飯

おん ハン
くん めし

今　今　飠　飣　飯　飯

いみ　ごはん。「赤飯・残飯・夕飯・飯ごう・麦飯・朝飯」

《使い方》

▽母は、のら仕事のあいまをみてご飯のしたくをします。▽弟のたん生日に、赤飯をたいていわった。▽麦飯は、からだのためによい。▽夕飯の時間にまにあうように帰る。▽おなかをすかした、まよいねこに残飯（＝たべのこしのごはん）をあたえた。▽夏休みにキャンプをしたとき、飯ごうでご飯をたいた。

食＋反＝飯（はん）
食＋欠＝飲（いん）

◇食（しょく）の部・12（4）画

働

おん　ドウ
くん　はたらく

亻 仜 佰 俥 偅 働

いみ　仕事をする。はたらく。「労働・重労働・働き手・働きざかり」

《使い方》

▽父は毎日いっしょうけんめい働いています。▽戦争で一家の働き手を失った。▽島の人は、みな働き者です。▽兄は、働きざかりのころ、病気になってしまった。▽労働で汗*をながす。▽実働（＝じっさいに働くこと）七時間です。▽畑仕事は重労働（＝力のいるはげしい仕事）です。

参考　日本で作った字。働くことは人がからだを動かすことなので、「亻（＝人）」と「動」を合わせて作った。

◇人（ひと）の部・13（11）画

勢

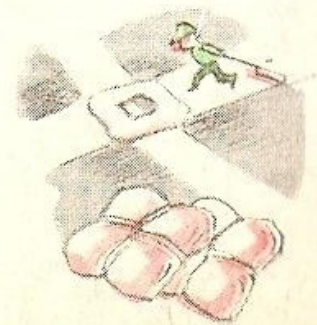
おん　セイ
くん　いきおい

土 夫 坴 坴 埶 勢

いみ　㊀いきおい。ちから。「勢力・多勢・無勢・優勢・気勢・軍勢・同勢・加勢」㊁ようす。「形勢・情勢・時勢・運勢・国勢調査」

《使い方》

▽合図とともに、勢いよく走りだした。▽台風は勢力をまして上陸した。▽多勢に無勢（＝相手がおおぜいなのに対して、こちらの数が少ないことで手の出しようがない。▽みかたの形勢が悪くなる。▽国勢調査が一せいに行われた。

せい　埶＋力 → 勢
ねつ　埶＋灬 → 熱

◇力（ちから）の部・13（11）画

塩

おん　エン
くん　しお

土 圹 坞 塩 塩 塩

いみ　海水などからとる、しお。「塩分・塩田・塩泉・岩塩・食塩・塩蔵・塩水湖」

《使い方》

▽わらびを塩につけてたくわえる。▽あゆの塩やきは大すきです。▽塩けをふくんでいる温泉を、塩泉という。▽海水には、約三・五パーセントの塩分（＝塩け）がふくまれている。▽瀬*戸内海には塩田が多い。▽生野菜に食塩をつけてたべる。▽塩づけにしてたくわえることを塩蔵という。▽岩石の間などからかたまってとれる塩を岩塩といいます。

◇土（つち）の部・13（10）画

愛

おん アイ
くん ―

爫 爫 㤅 㤅 愛 愛

いみ かわいがる。いとしく思う。たいせつにする。「愛育・愛犬・愛児・愛称・愛唱・愛着・愛読・愛馬・愛護・友愛・親愛」

《使い方》

▽みんなから愛される人になる。▽父親は子に深い愛情をいだく。▽父からもらったとけいをいつも愛用している。▽動物を愛護する。▽愛国心(=自分の国を愛する心)にもえる。▽愛児をなくす。▽この万年筆は、長い間使っているので、愛着を感じる。

◎心(こころ)の部・13(9)画

× 愛　○ 愛

想

おん ソウ・ソ
くん ―

十 木 朩 相 想 想

いみ 思う。思いやる。考え。「想像・空想・予想・思想・感想・理想・回想・想起・想定・構想・愛想」

《使い方》

▽かっぱは想像上の動物です。▽月への旅行は、もう空想ではなくなった。▽予想どおり赤組が勝った。▽旅行のご感想はいかがですか。▽かれは大きな理想にもえて、日本をはなれた。▽台風が上陸したときのひがいを想定する。

参考 「相」が「見る」いみで、「心」をつけて「心の中に見る」から「思いうかべる」となった。「愛想」は「あいそ」ともよむ。

◎心(こころ)の部・13(9)画

戦

おん セン
くん いくさ・たたかう

ツ 当 単 戦 戦 戦

いみ たたかう。あらそう。たたかい。「戦争・戦火・敗戦・休戦・戦力・戦乱・戦後・戦災・戦死・戦術・観戦・接戦・苦戦・名人戦」

《使い方》

▽勇ましく戦って死ぬ。▽人人は長い戦いにつかれはてた。▽町は戦火にやきつくされた。▽クリスマスには両軍とも休戦にはいる。▽野球のリーグ戦でゆう勝した。▽この町は戦後急に発展した。▽戦争は人類の敵。▽戦術(=戦いに勝つための方法)をねる。▽接戦の末引き分けになる。▽戦いは味方の勝ち戦となった。

◎戈(ほこづくり)の部・13(9)画

四年

漢

おん　カン
くん　—

氵 氵一 氵艹 氵芦 氵莫 漢

いみ ㊀むかし中国にあった国。また、中国の古いよび名。「漢字・漢語・漢詩・漢和辞典・漢文・漢方薬」 ㊁おとこ。「悪漢・暴漢・門外漢」

《使い方》

▽かたかなは、漢字の一部分をとってつくられた文字です。▽むかしの人の文章は漢語が多くて読みにくい。▽兄は漢文をならっている。▽悪漢(＝わるもの)がつかまった。▽夜道で暴漢(＝らんぼうなことをする男)におそわれる。▽わたしは音楽については、まったくの門外漢(＝専門外の人)です。

◎水(ずみ)の部・13(10)画

天長地久　大器晩成　嘉慕 漢文(一)

照

おん　ショウ
くん　てる・てらす・てれる

日 日 日フ 日フ 昭 照

いみ ㊀てらす。ひかる。「照射・照明・日照り」 ㊁てらしあわす。「照合・照会・参照・対照」

《使い方》

▽秋の月がこうこうと照る。▽夕日に山の木木が照りはえる。▽日照り続きでいねがかれた。▽おどり手に照明をあてる。▽顔と写真を照らし合わす。▽ひかえを原本と照合する。▽電話で友人の住所を照会する(＝ききただす)。▽わからないときは前のページを参照して考える。

昭→昭 ＝昭和の昭
灬↓

◎火(ひ)の部・13(9)画

四年

〈さんこう〉

◇まちがえやすいことば◇

「十月十日(　)はこの駅に電車が止まります。」ある駅に、このようなはり紙がしてありました。(　)の中に左にあることばを入れてみましょう。

1 以後……十月十日から電車が止まる。
2 後……十月十一日から止まる。
3 以降……十月十日から止まる。
4 以前……十月十日まで止まる。
5 前……十月九日まで止まる。

同じようにして、次の文の(　)にも、左にあることばを入れてみましょう。

「デパートで五百円(　)の買い物をしてきた。」

1 以上　◇　五百円か、それより高い買い物。
2 以下　◇　五百円か、それより安い買い物。
3 以内　◇　五百円か、それより安い買い物。

「電車は、六歳*(　)の幼児ひとりは、きっぷなしで乗れる。」

◦未満　五歳*まできっぷはいらない。

節

おん セツ・セチ
くん ふし

𥫗 𥫗 笞 節 節 節 節
はねる

いみ ㊀きせつのかわりめ。「節気・節句・時節・当節」 ㊁もののつぎめ。ふし。「関節・末節・音節」 ㊂ほどよくする。「調節・節水・節食」 ㊃心をかえない。「忠節・節操」 ㊄いわいの日。「天長節」

《使い方》
▽つゆの季節になる。▽節分にまめまきをする。▽正月にはお節料理をたべる。▽竹の節で花生けを作る。▽ひじの関節にひびがいった。▽おこづかいを節約する。▽温度を調節する。▽主君に忠節をつくす。▽天皇たん生日のことを、もとは天長節といった。

◎竹(けた)の部・13(7)画

続

おん ゾク
くん つづく・つづける

𠃋 幺 糸 紶 続 続 続

いみ つづける。つづく。「続出・持続・永続・相続・存続・後続」

《使い方》
▽何日も雨がふり続く。▽校門から生徒が続続と出てくる。▽飛行機の事故が続発した。▽試合を続行する。▽野球の試合は、エラーの続出で負けた。▽水道管が破れつするという事故が続けておこった。▽後続列車は十分おくれます。

参考 もとの字は、「續」で、「賣」が「つなぐ」いみ。糸をつなぐことからできた。

糸＋売＝続
言＋売＝読

◎糸(いと)の部・13(7)画

置

おん チ
くん おく

冖 罒 罒 罕 置 置 置

いみ すえる。おく。「位置・安置・配置・処置・放置・留置・設置」

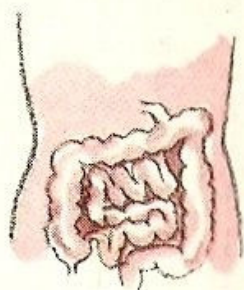
《使い方》
▽庭石をあちこち置きかえる。▽この間に、置物をかざる。▽星の位置で方角を知る。▽仏像を安置する(＝ていねいにすえておく)。▽家具の配置をかえる。▽適当な処置をとる。▽道路のきけんな所を放置しておくと(＝そのままにしておくと)事故のもとになる。

参考 「罒」は「鳥をとるあみ」で、「直」が「立てる」いみ。あみをたてておくことからできた。

◎罒(めよこ)の部・13(8)画

腸

おん チョウ
くん ―

月 肌 胆 腥 腸 腸

いみ 胃のつぎにあって、長くまがりくねっている消化器。小腸と大腸にわけられ、たべものをこなしたり、ようぶんをすいとるはたらきをする。「胃腸・大腸・小腸・腸液・腸づめ・盲＊腸・十二指腸・断腸」

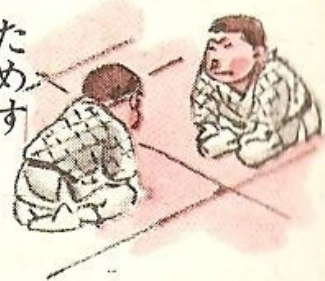
《使い方》
▽おもちを食べ過ぎて胃腸をこわした。▽腸づめを買う。▽断腸の思い（＝はらわたがちぎれるような苦しい思い）をする。▽腸チフスの予防注射をする。

参考 「腸」と書くとまちがい。「場」や「傷」と似ているので注意する。

◎肉（にく）の部・13（9）画

試

おん シ
くん こころみる・ためす

言 言 訁 試 試 試

いみ やってみる。ためす。「試験・試合・試運転・試写会・試作・試食・試練・口頭試問・試案・試金石」

《使い方》
▽何度試みてもうまくできない。▽あすは野球の試合がある。▽新しい車の試運転（＝試しに運転してみること）を行った。▽映画の試写会をみに行く。▽こんどの試験は実力の試金石（＝ねうちや力をはんだんするもとになるもの）だ。▽筆の使いごこちを試す。

○試　×試

参考 「誠」とまちがえやすい。

◎言（げん）の部・13（6）画

辞

おん ジ
くん やめる

千 舌 舌 辞 辞 辞

いみ ㊀ことば。「辞書・辞典・訓辞・祝辞・式辞・答辞」㊁わかれ。いとまごい。「辞世」㊂やめる。ことわる。「辞意・辞職・辞退・辞任」

《使い方》
▽むずかしいことばが出てきたので辞書をひいてしらべた。▽母のもとを辞す（＝母にわかれをつげる）。▽食事を出されたが辞退した。▽会社を辞めて、商売をはじめた。

参考 辞典は文字やことばのいみを説明した本。字典・辞書ともいう。事典は、いろいろなことがらについて説明した本。百科事典・社会科事典など。

◎辛（からい）の部・13（6）画

察

おん　サツ
くん　―

宀 ⺈ 夕 穸 察 察

いみ　㊀しらべる。「観察・視察・警察・診*察」㊁考える。おしはかる。「考察・察知・明察・推察」

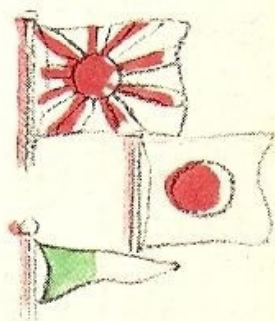
《使い方》

▽花の開き方を観察した。▽各地の学校を視察した。▽医者の診*察をうける。▽道ばたでひろったさいふを警察にとどけた。▽親の苦労を察する。▽事件をすばやく察知した。▽心中どのようにおさびしいことかとご推察いたします。

参考　「祭」の音が「くわしい」いみを表し、「宀」が「おおう」いみ。おおいのしてあるものでも、くわしく知ること。　◎宀(うかんむり)の部・14(11)画

旗

おん　キ
くん　はた

亠 方 方 斺 旗 旗

いみ　めじるしやかざりに使う、はた。「軍旗・反旗・半旗・旗手・国旗・手旗信号・旗色・旗がしら」

《使い方》

▽きいろい旗をもって、横断歩道をわたる。▽みかたの旗色(=かちまけのようす)がわるくなる。▽使者の印の白旗をたてて行く。▽一方の旗がしら(=みんなの上にたつ人)になる。▽校旗をもって入場する。▽大統領の死をいたんで(=かなしみなげいて)半旗をかかげる。▽反旗をひるがえす(=むほんをおこす)。

参考　「期」または「族」とまちがえやすい。　◎方(ほうへん)の部・14(10)画

四年

歴

おん　レキ
くん　―

厂 厂 厈 厤 厤 歴

いみ　㊀とおりすぎる。すごす。「歴史・学歴・来歴・歴代・経歴・職歴・歴任・歴戦・歴訪・履*歴書」㊁はっきりしている。「歴然」

《使い方》

▽西洋の歴史をまなぶ。▽学歴にこだわらず人をやとう。▽刀の来歴(=いわれ)をしるす。▽歴代の天皇の名をしるす。▽諸国を歴訪する(=つぎつぎとおとずれる)。▽歴戦の勇士。▽歴然とした(=はっきりとした)しょうこがある。

日→歴史
↓
暦(こよみ)

◎止(とめる)の部・14(10)画

漁

おん ギョ・リョウ
くん —

いみ さかなをとる。あさる。「漁場・漁業・漁期・漁港・豊漁・漁村・出漁・漁師・不漁・漁夫・禁漁区」

《使い方》

▽日本の漁船は遠くの海まで出漁する。▽にしんの大漁で、はまべは活気に満ちている。▽南氷洋の漁場でくじらをとる。▽ノルウェーは日本と同じように漁業がさかんです。▽さんまの漁期は十月から十一月にかけてである。▽ことしはさけが不漁(=少ししかとれないこと)です。

参考 「氵(=水)」と「魚」で、「水中の魚をとる」いみを表す。

◇水(みず)の部・14(11)画

種

おん シュ
くん たね

いみ ㊀植物のたね。「種子・種油」㊁もとになるもの。「火種」㊂なかま。「種類・種別・種目・人種・品種」

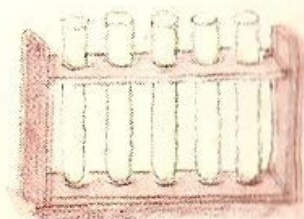
《使い方》

▽あさがおの種をまく。▽火種にする火まできえてしまった。▽いろいろな種類のちょうを集める。▽草花を種別にわける。▽運動会の競技の種目が少ない。▽品種を改良する。▽種種雑多な(=いろいろまじりあっているようすの)草が、はえている。

参考 「稲*」とまちがえやすい。◇禾(のぎへん)の部・14(9)画

禾+重=種(しゅ)
禾+責=積(せき)

管

おん カン
くん くだ

いみ ㊀中にあなのあいている、ほそ長いもの。くだ。「鉄管・血管・水道管・試験管・管楽器」㊁とりしまる。「保管・管理・管内」

《使い方》

▽ゴムの管で水をひく。▽試験管にアルコールを入れる。▽理科で毛管現象をならった。▽木管楽器には、フルート、オーボー、クラリネットなどがある。▽アパートの管理人(=とりしまる人)に会う。▽貴重品は先生に保管していただく。

◇竹(たけ)の部・14(8)画

試験管(しけんかん)
試験官(しけんかん)

四年

練

おん レン
くん ねる

く　幺　糸　絅　紳　練

いみ ㈠わざをねる。きたえる。「洗練・練達・訓練・試練・熟練・練習・老練」㈡こねる。「練炭」

《使い方》

▽洗練(=ねりにねって、すぐれたものにすること)された文章をかく。▽練達した(=なれて、じょうずな)ふなのり。▽学校でひなん訓練をした。▽人生の試練にたえる。▽書取りの練習をする。▽かれの父は、老練なパイロットです。▽こなを練ってだんごをつくる。

参考 もと「錬」と、くべつして使ったが、これからはなるべく「練」を使う。

◎糸(いと)の部・14(8)画

説

おん セツ・ゼイ
くん とく

亠　言　言ソ　訁　訁　説

いみ ㈠のべる。かたる。「遊説・演説・論説・力説」㈡教えきかす。「説明・説教・説得・解説・説法」㈢ものがたり。「小説・伝説」

《使い方》

▽キリストは、人の道を説いた。▽地方を遊説した(=政治上の意見を説明してまわった)。▽演説の内容がよくわからなかった。▽兄は、よくわたしに説教(=悪い点などをいいきかせること)をします。▽天気が悪いので、登山を中止するよう説得した。▽父は、小説家です。

参考 「設」とまちがえやすい。

◎言(うい)の部・14(7)画

関

おん カン
くん せき

丨　冂　門　門　閂　関

いみ ㈠しくみ。しかけ。「関節・機関」㈡かかわる。「関係・関連・関心」㈢出入りをとりしまる所。出入り口。「関所・税関・難関・玄関」

《使い方》

▽じょう気機関車は、だんだん少なくなる。▽仕事の関係で出席できない。▽世界の動きに関心(=きょうみ)をもつ。▽むかしは、関所できびしく身もとを調べられた。▽みごとに大学入試の難関をとっぱする。▽玄関をそうじする。

参考 「感心」は、りっぱだと感じること。「関心」と、くべつして使おう。

◎門(もん)の部・14(6)画

静

↕動161

おん　セイ・ジョウ

くん　しず・しずか・しずまる・しずめる

いみ　㊀動かない。「静物・静止・静的・安静・静養・冷静」㊁しずかにする。「静しゅく・静観」

《使い方》

▽静物（＝くだもの・やさい・道具など、じっとして動かないもの）を写生する。▽冷静にものごとを考える。▽絶対安静なので、面会はおことわりします。▽温泉で静養する。▽船は静かに港を出て行った。▽発電所のサイレンが、辺りの静けさを破った。▽気持ちを静める。▽静脈は、よごれた血を心臓におくりかえす。

参考　「晴」「清」「精」などとまちがえやすい。

◎青（あお）の部・14（6）画

億

おん　オク

くん　―

いみ　㊀万の一万倍のかず。「何億キロ・三億円」㊁ひじょうに多いこと。「億万長者」

《使い方》

▽つばめのせなかにのって何億キロも飛んだゆめをみた。▽四億の国民が、うえに苦しんでいる。▽わたしのおじは、億万長者（＝大金持ち）です。▽億という金をつんでたのまれても、そんな仕事はひきうけられない。

参考　「憶*」とまちがえやすい。億の一万倍を「兆*」という。

○億　×億

○記憶　×記億

◎人（とひ）の部・15（13）画

器

おん　キ

くん　うつわ

いみ　㊀いれもの。どうぐ。「花器・器物・食器・計器・器械・器楽・器官・電熱器」㊁役にたつ。才能。「器用・器量・大器」

《使い方》

▽くだものを器にもって出す。▽花器に水を入れる。▽計器がこしょうする。▽器楽を合奏する。▽器用な手つきで紙をおる。▽大政治家になる器量（＝才能）がある。

参考　「機械」はおもに動力そう置をつけたものをいい、「器械」はものをはかったり、実験したりする道具をいう。

◎口（くち）の部・15（12）画

四年

標

おん ヒョウ
くん ―

木 杧 栖 標 標 標

いみ ㊀しるし。めじるし。「標(ひょう)さつ・標識(ひょうしき)・商標(しょうひょう)・標記(ひょうき)・標題(ひょうだい)」㊁めあて。「目標(もくひょう)・標語(ひょうご)」㊂てほん。「標準(ひょうじゅん)・標本(ひょうほん)」

《使い方》

▽となりの家の標(ひょう)さつはまだ新しい。▽標識(ひょうしき)にしたがって進(すす)む。▽目標(もくひょう)にむかってがんばる。▽交通安全(こうつうあんぜん)の標語(ひょうご)をつくる。▽ぼくの体重(たいじゅう)は標準(ひょうじゅん)をうわまわっている。▽こん虫(ちゅう)の標本(ひょうほん)をつくる。▽標高(ひょうこう)(＝海面(かいめん)からの高さ)三〇〇〇メートルの山に登(のぼ)る。

ひょう 票 → 標 ひょう ↓ 木
投票ばこ
標本

◎木(き)の部・15(11)画

熱

おん ネツ
くん あつい

土 去 坴 埶 埶 熱

いみ ㊀温度(おんど)が高(たか)い。あつい。「熱気(ねっき)・熱帯(ねったい)・熱湯(ねっとう)・熱風(ねっぷう)・加熱(かねつ)」㊁心をうちこむ。はげしい。「熱中(ねっちゅう)・熱血(ねっけつ)・熱演(ねつえん)・熱心(ねっしん)・熱意(ねつい)・熱球(ねっきゅう)」㊂ふつうより高(たか)い体温(たいおん)。「発熱(はつねつ)・平熱(へいねつ)」

《使い方》

▽ごはんの上に熱(あつ)い湯(ゆ)をそそぐ。▽熱帯魚(ねったいぎょ)をかう。▽勉強(べんきょう)に熱中(ねっちゅう)する。▽王子さまの役(やく)を熱演(ねつえん)する(＝熱心(ねっしん)に演(えん)じる)。▽ありの動きを熱心(ねっしん)に見つめる。▽人間の平熱(へいねつ)は三六・七度ぐらいです。▽急に発熱(はつねつ)した。

参考 「暑(あつ)い」「厚(あつ)い」と区別(くべつ)して使う。「熱(じゅく)」とまちがえやすい。

◎火(ひ)の部・15(11)画

談

おん ダン
くん ―

ᅩ 言 言' 訡 談 談

いみ はなす。ものがたる。「相談(そうだん)・談合(だんごう)・談話(だんわ)・会談(かいだん)・対談(たいだん)・美談(びだん)・面談(めんだん)・談判(だんぱん)・雑談(ざつだん)・講談(こうだん)・座談会(ざだんかい)」

《使い方》

▽みんなで相談(そうだん)してやぎをかうことにした。▽食事(しょくじ)をしながら談合(だんごう)する(＝話し合う)。▽総理大臣(そうりだいじん)が世界情勢(せかいじょうせい)についての談話(だんわ)を発表(はっぴょう)した。▽くわしいことは面談(めんだん)(＝じかにその人にあって話をすること)のうえできめましょう。▽おじいさんは講談(こうだん)がすきです。▽座談会(ざだんかい)をひらきます。

参考 「議(ぎ)」とちがって「静(しず)かに話す」いみのときに使う。

◎言(ごん)の部・15(8)画

課

おん カ
くん ―

二 言 訁 誀 諢 課

いみ ㊀わりあてる。わりあて。「課税・課題・課目・日課・学課・課外・正課・放課後」㊁役所や会社などの仕事のくぶん。「課長・会計課」

《使い方》

▽仕事を課する(＝わりあてる)。▽わたしは課外(＝学校で勉強する以外)に、ピアノをならっている。▽ぼくの学校では、英語を正課として勉強しています。▽放課後、校庭でキャッチボールをした。▽これは課長のつくえです。

課 → 果(くだもの)
課 ↓ 言

◎言(げん)の部・15(8)画

賞

おん ショウ
くん ―

いみ ほめる。ほうび。「入賞・賞状・賞品・賞金・参加賞・受賞・観賞・鑑*賞・一等賞・賞賛・賞味」

《使い方》

▽一等に入賞した。▽音楽コンクールに入選して賞状と賞品をいただいた。▽クイズを当てて賞金をもらう。▽運動会の参加賞として全員にえんぴつがくばられた。▽受賞(＝ほうびをもらうこと)のよろこびをかたる。▽きくの花を観賞する(＝みて楽しむ)。

参考 「覚」とまちがえやすい。

○ 賞　× 賞

◎貝(こがい)の部・15(8)画

輪

おん リン
くん わ

いみ ㊀まわる。まわり。「輪唱・輪かく・輪作・輪読・輪転機」㊁車のわ。わの形をしたもの。「車輪・五輪・日輪」㊂花をかぞえることば。「ばら一輪」

《使い方》

▽花びんの輪かくをかく。▽何人かで一さつの本を順に読んでいくことを輪読という。▽飛行機が秋空に五つの輪をえがく。▽弟が三輪車にのって遊んでいる。▽うめの花が一輪さいた。

参考 「論」「輸」などとまちがえやすいので注意する。

◎車(くるま)の部・15(8)画

四年

選

おん セン
くん えらぶ

巳ではない

いみ よりぬく。えらぶ。「選挙・選者・入選・人選・選手・選外・選評・選定・改選・当選・落選・選考・選集・選ばつ」

《使い方》

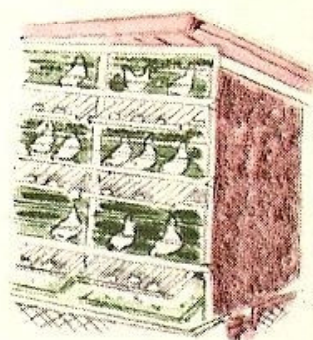
▽学級委員の選挙を行う。▽五人の選者によって入選作がきめられる。▽国体の出場選手に選ばれる。▽ぼくの作品は、選外佳*作(=入選はしなかったが、よくできている作品)になった。▽衆議院議員選挙に当選した。▽委員の改選は、四月です。

× 選　○ 選

◎辶(しんにょう)の部・15(12)画

養

†

おん ヨウ
くん やしなう

いみ やしなう。動物をかう。「栄養・休養・養育・養分・静養・養護・養成・養子・修養・教養・養蚕」

《使い方》

▽としとった母を養う。▽オリーブの実は栄養価が高い。▽みよりのない子を引き取って養育する。▽植物は根から養分をすいあげる。▽姉はいなかで静養している。▽修養をつむ。▽教養のある(=人として必要な知識やれいぎ作法を身につけている)人。▽つかれたので、しばらく休養させてください。

× 養　○ 養

◎食(しょく)の部・15(6)画

機

おん キ
くん はた

いみ ㊀ものごとのきっかけ。ちょうどよいとき。「動機・機会・機運・機先」㊁しくみ。しかけ。「機械・機関」㊂はたらき。「機能・機知・機転」㊃ぬのをおる、はた。「織機・手機」㊄ひこうき。「機首・機上・機長」

《使い方》

▽機会をみて、また会いましょう。▽この機械の機能(=はたらき)はすばらしい。▽機転をきかせる(=よく気をきかせる)。▽織女星は、機織り星ともいう。▽機長の冷静なはんだんで、事故をおこさずにすんだ。

参考 「器」と区別して使おう。

◎木(き)の部・16(12)画

四年

燈

おん トウ
くん ひ

丷 灯 灯 灯 灯 燈 (灯)

いみ ともしび。あかり。「燈火・電燈・燈明・走馬燈・燈油・外燈・消燈・燈台・幻*燈・燈ろう」

《使い方》
▽燈火したしむ秋となった。▽家家の電燈がともされる。▽仏だんに、燈明をともす。▽目をつぶると、思い出が走馬燈(=まわりどうろう)のようにつぎからつぎへと心にうかぶ。▽消燈時間(=あかりをけす時間)は十時です。▽みさきの燈台の燈が見える。▽石燈ろうに火をいれる。

参考 当用漢字補正案では、字体を「灯」にかえることになっている。

◇火(ひ)の部・16(12)画

積

おん セキ
くん つむ・つもる

二 禾 秆 秸 積 積

いみ ㊀あつめてかさねる。つもる。「山積・積雪・積雲・下積み」㊁ものかさ。ひろさ。「体積・容積・面積」㊂かけ算の答え。

《使い方》
▽ほし草を高く積みあげる。▽ちりも積もれば山となる。▽旅行の費用を毎月百円ずつ積み立てている。▽仕事が山積する(=たくさんたまる)。▽積雪(=ふり積もった雪)は五メートルに達した。▽容積の大きな入れ物。▽土地の面積をはかる。▽四と五の積をもとめる。

参考 「績」とまちがえやすい。

◇禾(のぎへん)の部・16(11)画

録

おん ロク
くん —

今 金 鈩 録 録 録

ださない
水のようにはかかない

いみ しるす。しるしたもの。「記録・録音・登録・録画・収録・目録・付録・議事録」

《使い方》
▽夏休みの生活を絵にかいて記録しておく。▽演説を録音する。▽住民登録(=その土地の住民であることを市町村の役所にとどけでて、名ぼにのせること)の手つづきをする。▽式典のようすを録画で見る。

参考 「彔」は「ほりつける」いみで、「金ぞくにほりつける」から「しるす」いみになった。

× 鉩　○ 録

◇金(かね)の部・16(8)画

四年

観

おん　カン
くん　―

𠂉　午　乍　雈　観

いみ　㊀よく見る。ながめる。「観光・観衆・観戦・観点・観賞・観劇・観測」㊁ものの見方。「主観・客観・楽観・悲観・人生観」㊂ありさま。「景観・壮*観」

《使い方》

▽あげはちょうのよう虫を観察する。▽日光は観光地として有名です。▽天体を望遠鏡で観測する。▽病気がなおって、人生観(=人間の生き方についての考え方)が変わった。▽山頂で見る日の出は壮*観です(=りっぱです)。

参考　「勧」「歓」などと書きまちがえやすい。

◎見(みる)の部・18(11)画

類

おん　ルイ
くん　―

丷　米　类　類　類　類

いみ　㊀にているもの。「類似・類句・類型・類推・類語・類人えん」㊁なかま。「種類・親類・人類・鳥類・分類」

《使い方》

▽類は友をよぶ(=気のあった友だちどうしはしぜんに集まる)。▽これは前の作品と類似している。▽あるものから他をおしはかることを類推という。▽きくの花には種類がたくさんある。▽人類の平和と安全を願う。▽夏休みに親類の家へ行く。

ただしくかこう

× 数　○ 類　× 類

◎頁(おおがい)の部・18(9)画

験 †

おん　ケン・ゲン
くん　―

丨　Ⅱ　馬　馬　騐　験

いみ　㊀しらべる。ためす。「体験・試験・実験・経験」㊁ききめ。「霊*験」

《使い方》

▽きちょうな体験(=実さいに、見たり行ったりすること)をしました。▽兄は大学の入学試験にみごと合格した。▽ぼくたちは、理科の実験で石けんをつくった。▽一度といた問題を、もう一度験算(=ためし算)してみなさい。▽戦争ちゅうは、いろいろとつらい経験をした。

参考　「倹*約」の「倹*」「検査」の「検」、「保険」の「険」などとまちがえやすい。

験　険
検　倹

◎馬(うま)の部・18(8)画

鏡

おん キョウ
くん かがみ

金 金 金 鈩 鏡 鏡

いみ ㊀かがみ。レンズ。「三面鏡・望遠鏡・鏡台・けんび鏡・そう眼鏡・手鏡」㊁てほん。もはん。

《使い方》
▽鏡のように静かな水面。▽三面鏡にすがたをうつす。▽望遠鏡で山の頂上をみる。▽けんび鏡であぶらなの花粉をしらべる。▽そう眼鏡で沖*の汽船を見る。▽手鏡に顔をうつす。▽やす子さんの行いは、孝行の鏡(=もはん)です。

参考 むかしはかがみを金属でつくったので、「金」がついている。

◎金(かね)の部・19(11)画

願

おん ガン
くん ねがう

厂 厂 厂 原 原 願 願

いみ のぞみたのむ。ねがう。「願書・念願・志願・悲願・願望・願い事・出願・宿願」

《使い方》
▽本田さんにるすばんをお願いした。▽入学願書の受け付けが始まる。▽念願がかなって外国へ行く。▽母の願いをかなえてやりたい。▽世界の平和は人類の悲願(=必ずしとげようとする願い)である。▽ようやく願望がかなった。▽アポロ11号は人類月面着陸の宿願(=前からもっていた願い)をはたした。

参考 「顔」や「題」と書きまちがえやすい。

◎頁(おおがい)の部・19(11)画

競

おん キョウ・ケイ
くん きそう・せる

立 立 音 竟 竞 競

はねる

いみ くらべる。あらそう。きそう。「競争・競走・競技・競馬・競泳・競売」

《使い方》
▽みんなと競争して(=かちまけをあらそって)わらびをとった。▽競走(=走ってかちまけをあらそうこと)で一等になった。▽オリンピックの競技に出る。▽競馬場にはたくさんの人が集まった。▽各国の選手がわざを競う。▽競泳大会に出場した。▽ゴール前の競り合いで勝った。

参考 下が古い字の形で、ふたりの人があらそう形を表す。

◎立(たつ)の部・20(15)画

議

おん　ギ
くん　―

言 訁 詳 詳 議 議

いみ　そうだんする。いいあう。「会議・議論・決議・議長・議案・議事・議決・異議・議題・議会・議席」

《使い方》
▽意見がまとまらず会議が長びいた。▽友だちと議論をした。▽大事なことは協議してきめる。▽クラス会の決議を実行にうつす。▽かれを議長としてすいせんする。▽衆議院議員の任期は四年です。▽議案(=会議に出す案)を提出する。▽国会議事堂を見学する。▽異議(=ちがった考え)をとなえる。

参考　「護」や「儀*」とまちがえやすい。

◎言の部・20(13)画

〈さんこう〉

◇じゅく語のできかた◇

二つ以上の漢字がむすびついて、一つの意味を表していることばをじゅく語といいます。じゅく語は、そのほとんどが左にならべた七つの方法のどれかによってできたものです。

①意味のにた字を組み合わせる。
光明・永久・明白・絵画・衣服・多大・急速・祝賀・岩石・倉庫・道路・正確

②意味の反対の字、対になる字を組み合わせる。
公私・長短・男女・勝負・自他・新旧・夫妻・高低・売買・遠近・大小・黒白・往復・異同・古今

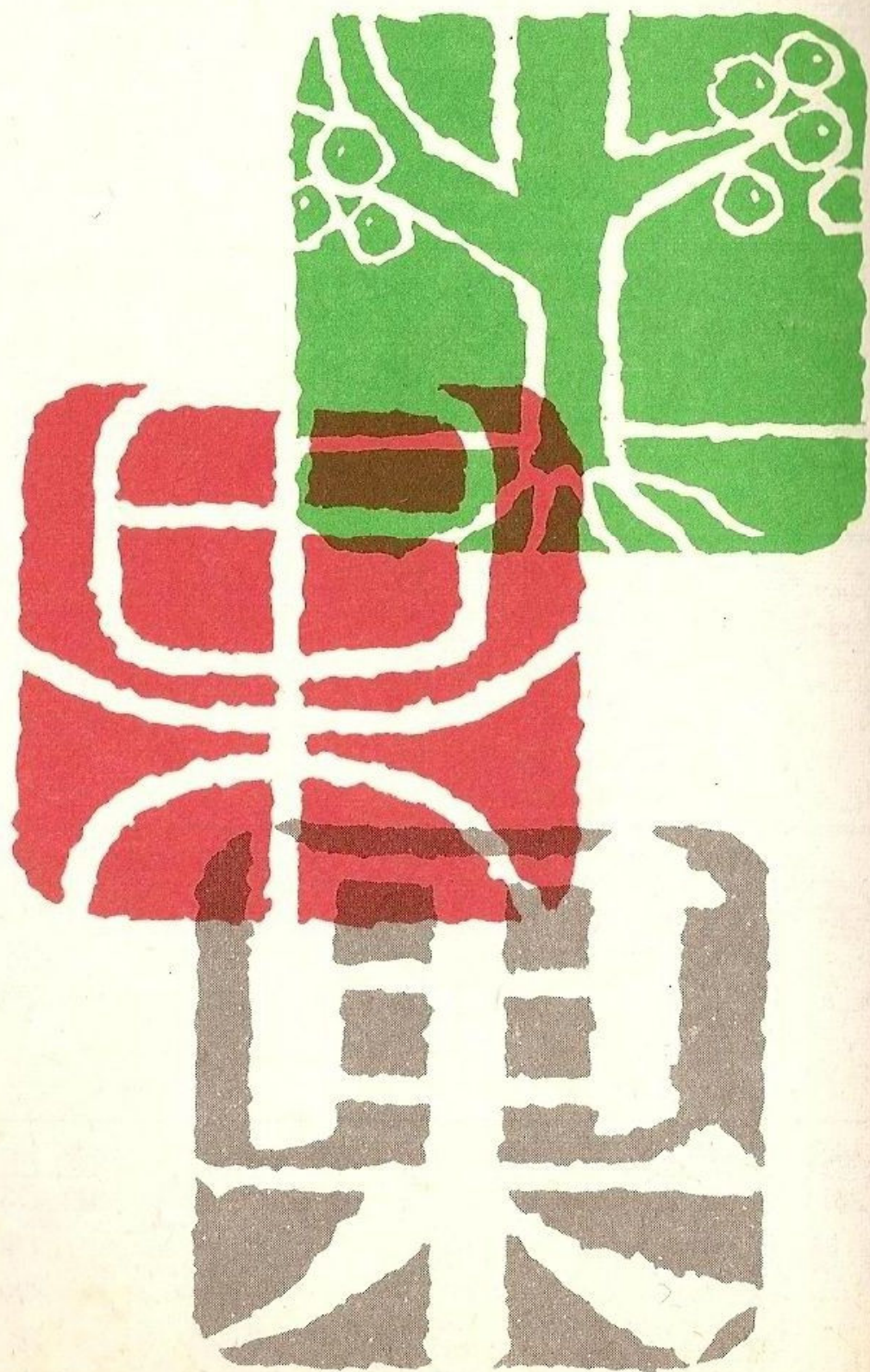
③下の字と上の字が、「…を―する」のような形になるように組み合わせる。
読書→書物を読む。　乗車→車に乗る。
愛国→国を愛する。　開会→会を開く。
習字→字を習う。　登山→山に登る。
修学→学問を修める。
求人→人を求める。

④上の字と下の字が、「…の―」となるように組み合わせる。
国外→国の外。　親友→親しい友。
湖上→湖の上。　大木→大きな木。
人命→人の命。　深海→深い海。
山上→山の上。　急死→急な死。
海中→海の中。　少量→少しの量。

⑤上の字が下の字を打ち消すもの。
(イ)不をつける……不足・不用・不在・不信・不幸・不良
(ロ)未をつける……未定・未開・未決・未知・未満・未刊
(ハ)否をつける……否定・否決・否認
(ニ)非をつける……非常・非道・非行
(ホ)無をつける……無用・無力・無風・無敵・無欲・無害

⑥下に然・的・化・性などをつける。
(イ)然をつける……当然・必然・公然
(ロ)的をつける……美的・私的・近代的
(ハ)化をつける……進化・退化・合理化
(ニ)性をつける……急性・悪性・酸性

⑦同じ漢字をかさねる。
営営・上上・早早・重重・転転・楽楽・堂堂・洋洋・種種・久久

四年

5年で習う字

五年で習う字

この表には、五年で習う漢字が、部首別にならんでいます。

漢字の部首というのは、字典で漢字をさがすとき、その目じるしとなる、「へん」「つくり」「かんむり」「たれ」「にょう」「あし」「かまえ」などのことです。

調べたい漢字が、どの部首にはいっているかを考えてさがしましょう。(部首についてのくわしい説明は、付録の四〇〇ページ「漢字の部首」にでています。)

●印のついた字は、ほかの部首にも入れることのできる字です。

〔丨ぼう〕旧・261

〔丶てん〕永・262

〔ノの〕久258

〔人ひと〕

(𠆢ひとやね)

(亻にんべん) 仏258 仮263 件263

任263 似265 余266 価270 舎272 保277 修281 個281 俵282 備297 像310

〔儿にんにょう〕児266

〔冂どうがまえ〕再264

〔刀かたな〕

(刂りっとう) 刊・259 判266 券271 制271 則277 効271 務288

〔力ちから〕

〔勹つつみがまえ〕句・260

〔匕ひ〕比・259

〔厂がんだれ〕圧・260 厚277

〔厶む〕弁・261

〔又また〕収258

〔口くち くちへん〕句・260 営298 善298

〔囗くにがまえ〕団264 因264

〔土つち つちへん〕圧・260 在265 均267 基288 報298 墓305 増310 境311

〔士さむらい〕志・267

〔女おんな おんなへん〕妻272 婦289

〔宀うかんむり〕容282 寄289 富299

〔寸すん〕導317

〔小しょう〕常・289

〔尸しかばね〕居272 属299

〔巾はば きんべん〕布260 師282 常・289

〔干ひる たてかん〕刊・259 幹305

〔广まだれ〕序267 応・268

〔廾にじゅうあし〕弁・261

〔弓ゆみ ゆみへん〕張・290

〔彳ぎょうにんべん〕往273 得290 復300 徳311

〔辶しんにょう〕述276 迷280 退280 逆280 造287 過305 適314

〔阝(左)こざとへん〕防270 限281 除288 険297 際316

〔心こころ〕志・267 応・268 性273 恩283 情290 態312 慣311

(忄りっしんべん) 快268

〔手て〕

〔扌てへん〕 技269 承273 招274 接291 授291 採291 提299 損306
〔支しにょう〕 支259
〔攵ぼくにょう〕 政278 故278 敵317
〔斤おのづくり〕 断292
〔日ひへん〕 旧・261 易274 暴317
〔月つきへん〕 肥・276 能・286
〔木きへん〕 未261 条268 果274 査278 格283 検300 構312
〔欠あくび けつ〕 歓318 ・

〔止とめる〕 武275
〔比ならびひ〕 比・259
〔水みず〕（氵さんずい） 永・262 河275 液292 混292 測300 減301 準306 演312 潔318
〔火ひへん〕（灬れんが） 災269 無301 燃320
〔片かたへん〕 版275
〔牛うしへん〕 特283
〔犬いぬ〕（犭けものへん） 犯262 状269 独279
〔玄げん〕 率293

〔玉たま〕（王おうへん たまへん） 現293
〔田た〕 留284 略293
〔皿さら〕 益284
〔目め〕 眼294
〔石いしへん いし〕 破285 確318
〔示しめす〕（ネしめすへん） 示262 祝279 祖279 禁306
〔禾のぎへん〕 称285 移294 程301 税302
〔罒よこめ あみがしら〕 罪・307

〔竹たけ たけかんむり〕 築320
〔米こめ こめへん〕 精313
〔糸いと いとへん〕 素285 経294 統302 絶303 絹307 綿313 総313 編319 績321 織322
〔羊ひつじ〕 群307 義308
〔耒すきへん らいすき〕 耕286
〔耳みみ〕 職323
〔肉にく〕（月にくづき） 肥・276 能・286
〔臼うす〕 興320

〔舌した〕 舌265
〔虫むし〕 蚕286
〔血ち〕 衆302
〔行いく ぎょうがまえ〕 術295 衛321
〔衣ころも〕（ネころもへん） 製314 複314・
〔見みる〕 規295
〔角つの〕 解308
〔言いう ごんべん〕 訓287 許295 設296 評303 証303 謝322 講322 識323 護324

〔豆まめ〕 豊308
〔貝こがい〕 財287 貧296 責296 賀304 貸304 貿304 資309 質319 賛319
〔車くるま〕 輸321
〔酉とり ひよみのとり〕 酸315
〔金かね かねへん〕 鉱309 銅315 銭315
〔長ながい〕 張・290
〔隹ふるとり〕 雑316
〔非あらず〕 非276 罪・307
〔頁おおがい〕 預309 領316 額323

五年

久

おん キュウ・ク
くん ひさしい

ノ ク 久

いみ 時間が長くたつ。長い間。「永久・長久・持久戦・耐*久力・久遠」

《使い方》
▽病気がなおったので、久しぶりに外出した。▽世界は永久平和(＝いつまでもつづく平和)をのぞんでいる。▽都会の子どもは、体格はよいが持久力(＝長つづきする体力)にとぼしい。▽ほとけの教えから久遠(＝永遠)のめぐみをうける。▽久久に姉がたずねてきた。

参考 ひらがなの「く」も、かたかなの「ク」も「久」から 久→く→く・ク できた。

◎ノ(の)の部・3(2)画

仏

おん ブツ
くん ほとけ

ノ イ 仏 仏

いみ ㊀仏教で、さとりをひらいた人。ほとけ。「大仏・仏像・仏教・仏法・念仏・神仏」㊁死んだ人。「仏前・仏だん」

《使い方》
▽奈*良の東大寺の大仏は、高さが約一六メートルもある。▽かれは、仏さまのように心のきれいな人です。▽父の仏前に、好物だったたばこをそなえた。

参考 フランスのことを「仏」と書くのは、あて字の「仏蘭*西」をりゃくした形。「仏」には「フツ」の読みがない。

◎人(ひと)の部・4(2)画

収

おん シュウ
くん おさめる・おさまる

丨 丩 収 収

いみ ㊀とり入れる。「収入・収容・収穫*」㊁集める。「収録・収集」㊂ととのえる。「収拾」

《使い方》
▽毎月きまった収入があるので安心だ。▽ことしは、予想以上の収穫*があった。▽この本には、短い童話が五編収められている。▽わたしは切手の収集(＝コレクション)をしている。▽大雪のため収拾のつかないほど交通が混乱した。

参考 「おさめる」と読む字はほかにもある。「国を治める(政治)・身を修める(修養)・税金を納める(納税)」

◎又(また)の部・4(2)画

五年

支

おん シ
くん ささえる

一 十 ㄘ 支

いみ ㊀ささえる。「支持・支柱・支点・支援*」㊁わかれる。「支流・支店・支線・支部・十二支・気管支」㊂はらう。しはらう。「支出・支給」㊃さしつかえる。「支障」

《使い方》

▽どの候補者を支持しますか。▽母が一家を支えている。▽十二支に、ねこははいっていません。▽作業服が支給された。▽支障がおきたので、旅行を中止した。

参考 上が古い字の形。十は、たけの小えだ、又は手。たけのえだを手でささえている形からできた。

◇支(し)の部・4(0)画

比

おん ヒ
くん くらべる

一 ト ヒ' 比

いみ ㊀ある数とある数をくらべたわりあい。「比例・比重・比率」㊁くらべる。ならぶ。「比較・対比・無比・比類」

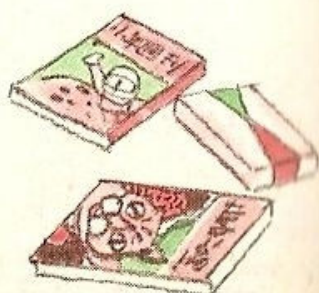
《使い方》

▽二の五に対する比の値は、五分の二、または〇・四である。▽三学期の成績は比較的(=ほかとくらべて、わりあいに)よかった。▽その絵は他に比べるもののないほど美しかった。

参考 ふたりがならんだ形からできた。

◇比(ならびひ)の部・4(0)画

刊

おん カン
くん ―

一 二 干 刊 刊

いみ 本や新聞を世に出す。出版する。「刊行・発刊・週刊誌・朝刊・夕刊・日刊・月刊・増刊」

《使い方》

▽毎月、たくさんの本が刊行されている。▽こんど、子ども向けの雑誌が創刊された。▽きょうは、新聞の休刊日です。▽日曜は夕刊が出ない。▽この雑誌は、新学期の増刊号です。▽年に四回出る雑誌を季刊誌といいます。▽新刊の本(=新しく出版された本)を買ってもらった。

◇刀(かたな)の部・5(3)画

句

おん　ク
くん　—

ノ　勹　勺　句　句

いみ　㊀詩や歌や文章などの一くぎり。「上の句・下の句・句読点」㊁俳句のこと。「一句・句集」

《使い方》

▽一字一句もまちがえないように書く。▽短歌では、初めの五七五を上の句、つぎの七七を下の句という。▽意味のわからない語句（＝ことば）があったので辞書でしらべた。▽父はこんど、句集（＝俳句を集めた本）を出すことになった。

参考　句読点とは、文の終わりにつける句点（。）と、文のとちゅうの切れめにつける読点（、）のことをいう。

◇口（くち）の部・5（2）画

圧

おん　アツ
くん　—

一　厂　厂　厈　圧

いみ　おす。おさえつける。「圧力・水圧・気圧・圧迫*・圧政・圧死・威*圧・弾*圧」

《使い方》

▽発電所では、水の圧力でタービンをまわす。▽低気圧が近づいて、天候があれもようになった。▽この高圧線には、一五〇〇〇ボルトの電流が流れている。▽国王の圧政（＝権力でおさえつける政治）の下で、国民は苦しんだ。▽会場を圧するほどの大声でさけんだ。

参考　どこがちがうでしょう。

圧↓庄（しょう）

◇土（つち）の部・5（2）画

布

おん　フ
くん　ぬの

ノ　ナ　𠂇　右　布

いみ　㊀ぬの。織物。「綿布・毛布・布目・敷*布」㊁広く知らせる。「布告・流布・公布・布教」㊂のべひろげる。しきならべる。「分布」

《使い方》

▽布で作った旗は長持ちがする。▽きれいな敷*布とあたたかい毛布。▽かれはキリスト教の布教（＝宗教を教えひろめること）に、その一生をささげた。▽宣戦を布告する。▽植物の分布状態（＝ちらばっているようす）を調べる。

メ↓布→希（き）

▽巾（はば）の部・5（2）画

五年

弁

おん ベン
くん ―

ㄥ ム 厶 弁 弁

いみ ㊀いう。のべる。「弁舌・弁論・弁護士・能弁」 ㊁わきまえる。区別する。「弁別」 ㊂花びら。「花弁」 ㊃ポンプなどについている、べん。

《使い方》

▽弁がたつ（＝話がうまい）。▽弁論大会で入賞した。▽弁解（＝いいわけ）は無用だ。▽品物の良否を弁別する（＝見わける）。▽あぶらなの花弁は四まいです。▽心臓弁膜*症*で入院した。

参考 「弁」は、もと「辯」「辨」「瓣」の三つにわかれていた。

辨 辯 瓣 → 弁

◇廾（にじゅうあし）の部・5（2）画

旧

おん キュウ
くん ―

丨 ‖ 川 旧 旧

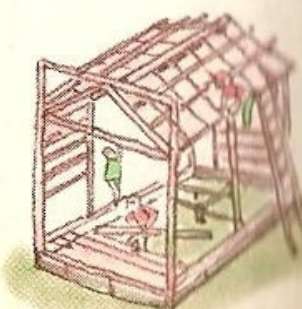
いみ ㊀古くなる。古い。「旧式・旧態・旧聞・旧道」 ㊁むかし。むかしから。「旧師・旧家・旧悪」

《使い方》

▽新道ができたので、谷をわたる旧道は、日に日にさびれた。▽おじいさんのめがねは旧式だ。▽新年おめでとうございます。旧年（＝昨年）はおせわになりました。▽満月から満月までをひと月として作ったこよみを旧暦*（＝太陰*暦*）という。▽かれとは旧知（＝むかしから知り合っていること）の間がらだ。▽あの人は北国の旧家に生まれた。

◇日（ひ）の部・5（1）画

未

おん ミ
くん ―

一 二 キ 未 未（下をながく）

いみ 物事ができあがっていないことをあらわすことば。まだ…しない。「未開・未知・未決・未定・未来・未満・未完成・未成年」

《使い方》

▽シュヴァイツァーは、未開の地アフリカに向かった。▽未知の世界を想像する。▽あの事件は、未解決のままである。▽交通事故を未然（＝おこる前）に防ごう。▽君たちの未来は明るくひらけている。

参考 「末」とまちがえやすいので、注意する。

下を長くかく
未

◇木（き）の部・5（1）画

五年

永

おん エイ
くん ながい

亅 ㇇ 𠃌 永 永（ンとしない）

いみ 時間がながい。いつまでも。「永遠・永久・永続・永住」

《使い方》
▽永い間の苦労が、水のあわになってしまった。▽彼はブラジルに永住する決心をした。▽祖父(=おじいさん)は八十歳*で永眠*した(=死んだ)。▽スイスは永世中立国(=いつまでも中立を守りつづける国)である。

参考 永字八法=字を書くときのきほんとなる八つの書き方が「永」にすべてふくまれていること。

◎水(みず)の部・5(1)画

犯

おん ハン
くん おかす

ノ 犭 犭 犯（はねる） 犯

いみ きまりをやぶる。つみをおかす。「犯罪・主犯・共犯・初犯・再犯・犯人・知能犯」

《使い方》
▽かれはついに犯行を自白した。▽犯罪のない、明るい町。▽防犯のポスターをかいてはった。▽おなじあやまちを二度と犯してはならない。▽町の人の協力で、犯人はまもなくつかまった。

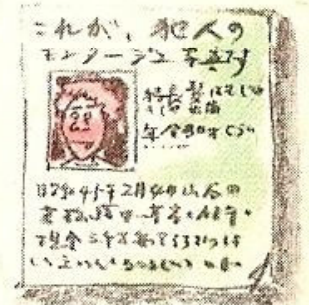
参考 右がわの「㔾」を「巳」と書くとまちがい。「犯す」は法律をやぶる。「侵*す」は、よその土地にはいりこむ。「冒*す」は、むりに行う。

◎犬(いぬ)の部・5(2)画

五年

示

おん ジ・シ
くん しめす

一 二 亍 亓 示

いみ ㊀見せる。「展示・表示」㊁教える。告げる。「暗示・内示・示唆*・訓示」

《使い方》
▽委員が模範*を示すことがたいせつだ。▽掲*示板の前に人が集まっている。▽作品を会場に展示した。▽係の指示にしたがって行動してください。▽新しい方法を示唆*した(=それとなく教えた)。

参考 丅→亓→示 丅がつくえ、亓がその上に神にそなえる動物などをのせ、血がたれているようす。上にのせておくことから「見せる」意味になった。

◎示(しめす)の部・5(0)画

仮

おん カ・ケ
くん かり

ノ　イ　…　仮

いみ ㊀一時のまにあわせ。かり。「仮の宿・仮定・仮設」㊁にせ。いつわり。「仮病・仮装*」

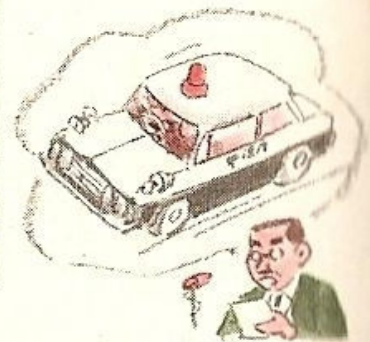
《使い方》

▽鳥の鳴き声に、仮寝*(=うたたね)のゆめをやぶられた。▽お寺の庭に、舞*台を仮設した。▽あと三日後に月へ行くという仮定で話し合おう。▽仮にも、死のうなどと考えてはいけない。▽五分の六のように、分子の方が大きい分数を仮分数という。▽かれは仮病をつかって学校を休んだ。▽運動会の仮装*行列に参加した。▽仮面をかぶる(=本心をかくす)。

◎人(とひ)の部・6(4)画

件

おん ケン
くん ―

ノ　イ　…　件

いみ ㊀ことがら。「事件・条件・案件・件数・人件費」㊁できごとを数えることば。「一件・二件」

《使い方》

▽ご依*頼*の件、たしかに引き受けました。▽電話では、用件をかんたんに話すことがたいせつだ。▽書写では、正しく、美しく、早くという三つの条件をみたすことが必要です。▽人件費(=やとった人にしはらう給料など)がかかりすぎる。▽本日の交通事故は九件。

参考「用件」は「用事の内容」、「要件」は「だいじなことがら」という意味。

◎人(とひ)の部・6(4)画

任

おん ニン
くん まかせる・まかす

ノ　イ　仁　仁　仟　任（みじかく）

いみ ㊀になう。おう。「責任」㊁つとめ。やくめ。「大任・任地・留任・辞任・任期」㊂まかせる。「委任・一任・信任・任意」

《使い方》

▽かぎは、責任をもって保管します。▽大任をはたして帰国した。▽四年間の任期を無事勤めた。▽事故の責任をおって辞任した。▽内閣に対する不信任案が否決された。▽この仕事は、君に一任する(=すっかりまかせる)。▽足に任せて歩く。▽会に出ない方は、委任状を出してください。

参考「仕」とまちがえやすい。

◎人(とひ)の部・6(4)画

五年

再

おん サイ・サ
くん ふたたび

いみ もういちど。かさねて。「再会・再開・再建・再現・再考・再生・再発・再再・再三再四」

《使い方》

▽再三再四(=たびたび)さいそくしたのに、まだ本を返してくれない。▽ふたりは十年ぶりに再会した。▽会議は一時間の休けいのあと再開された。▽新校舎の完成予定は再来年です。▽去年につづき、ことしも再びリレーの選手になった。

参考 下が古い字の形。竹のかごの上に、物をのせて重ねた形からできた。

◇冂(どうがまえ)の部・6(4)画

団

おん ダン・トン
くん ―

いみ ㊀まるい。「団子・大団円」㊁あつまり。「一団・集団・団体・少年団・団長・団員・劇団・楽団」

《使い方》

▽これで、事件も大団円に終わった(=すべてが円満にかたづいた)。▽自転車で遠乗りをしている一団に会った。▽あの畑も森も、今は全部団地になってしまった。▽父は、ある楽団の団員です。▽お客さまに、座布団をすすめる。

参考 「団扇*」「炭団」などと書くのはまるいという意味のあて字なので、かな書きにする。

◇囗(くにがまえ)の部・6(3)画

因

おん イン
くん よる

いみ ㊀ものごとのおこるもと。おこり。「原因・因果・敗因」㊁もとのままにしたがう。「因習」

《使い方》

▽病気の原因がまだわからない。▽こんどの試合の敗因は、チームワークの悪さにある。▽文化の進歩は科学の力に因るところが大きい。▽いなかには、まだまだ古い因習(=むかしからのならわし)が残っている。

参考 「困」とまちがえやすいので、注意する。

こん 木 口 大 いん

◇囗(くにがまえ)の部・6(3)画

五年

在

おん ザイ
くん ある

いみ ㊀いる。ある。「在校生・存在・在宅・不在・現在」㊁いなか。「在所・近在」

《使い方》

▽五月一日現在、在校生の数は千三百人です。▽ふうとうの表に、写真在中と書いた。▽主人の不在を知らずにたずねてきた。▽アルバムを見ながら、在りし日の友を思い出す。▽その評判は、近郷近在（＝都市に近い村里）になりひびいた。

参考 にている字に「左」「存」などがある。

× 在　○ 在

◇土（つち）の部・6（3）画

舌

おん ゼツ
くん した

いみ ㊀した。べろ。「舌つづみ」㊁ことば。おしゃべり。「舌足らず・弁舌・毒舌・舌戦」

《使い方》

▽失敗すると舌を出すくせがある。▽ふたりの間に舌戦（＝口論）がくりひろげられた。▽弁舌さわやかにのべる。▽弟はまだ舌足らずだ。

参考 「舌」を使った慣用句

☆二まい舌を使う＝うそを言う。
☆舌をまく＝ひどく感心する。
☆舌の根のかわかないうち＝前に言ったことが終わるか終わらないうち。
☆舌つづみをうつ＝おいしくて舌をならす。

◇舌（した）の部・6（0）画

似

おん ジ
くん にる

いみ にる。にせる。「似顔・相似・近似・類似」

レではない

《使い方》

▽弟は、まん画で似顔をかくのがとくいです。▽兄とぼくはよく似ているので、たびたびまちがえられます。▽類似の品（＝よく似た品）に注意してください。▽親せきでもないのによく似ている人を、他人のそら似と言う。▽近所で疑似せきり（＝せきりとよく似ていて見わけがつきにくい病気）が発生した。

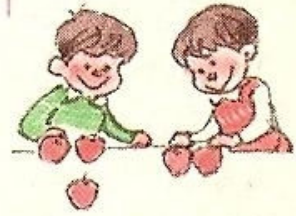
参考 「亻」がないと、「以上・以下」などの「以」となる。

◇人（ひと）の部・7（5）画

五年

余

おん ヨ
くん あまる・あます

𠆢 亼 今 全 余 余

いみ ㊀あまる。あまり。のこり。「余分・余生・余命・余力・余白」㊁そのほか。「余病・余人・余罪」㊂自分。

《使い方》
▽二つずつわけると一つ余った。▽紙の余白（＝字の書いてないところ）にメモした。▽春とはいえ、まだ、余寒がきびしい。▽ことしも余すところあと五日となった。▽弁解の余地がない。▽ひっそりと余生を送る。▽つかまった男の余罪を調べる。▽余暇*を利用して本を読む。▽余の命令にそむくな。

◇人（ひと）の部・7(5)画

児

おん ジ・ニ
くん ―

丨 ‖ 川 旧 旧 児

いみ 子ども。おさない者。「児童・育児・愛児・園児・男児・女児・小児科」

《使い方》
▽育児は、母親のだいじな仕事です。▽児童を交通事故から守ろう。▽戦争のために孤*児（＝親のいない子）になった。▽ようち園の園児がならんで通る。▽そんな研究は、児戯*（＝子どもの遊び）にも等しい。▽小児まひは、おそろしい病気だ。

参考 「ニ」の音は、「小児」のときだけに使う。

○ 児　× 児

◇儿（にんにょう）の部・7(5)画

判

おん ハン・バン
くん ―

丶 丷 䒑 兰 半 判

いみ ㊀みわける。わける。「判明・判断・批判」㊁さばく。よい悪いを決める。「裁判・判決・判事」㊂紙の大きさ。「A5判・B6判」㊃いん。はんこ。「血判」

《使い方》
▽事件の真相が判明した（＝はっきりとわかった）。▽審*判員の判定にしたがう。▽無罪の判決を言いわたす。▽最高裁判所の裁判官は、長官をふくめて十五名です。▽国語の教科書の大きさをA5判という。▽書類に判をおす。

参考 「血判・審*判」などの読み方に注意。

◇刀（かたな）の部・7(5)画

五年

均

おん キン
くん —

一 十 土 圴 均 均 ＝ではない

いみ ㊀ひとしい。おなじ。「均一・均等・均分」 ㊁ととのう。つりあっている。「平均・均整・均衡*」

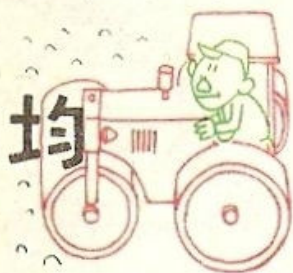
《使い方》
▽お金を均等に(＝だれにもひとしく)分ける。▽体操の選手は均整(＝つりあい)のとれた美しいからだをしている。▽算数のテストの平均点は七十点でした。▽平均台の上でさか立ちをする選手。

参考 「匀」は「平らにする」意味。「土」がついて、土をならす意味の字になった。

◇土(つち)の部・7(4)画

序

おん ジョ
くん —

亠 广 户 庐 序

いみ ㊀じゅんばん。「順序・秩*序」 ㊁はじめ。いとロ。「序の口・序曲」 ㊂まえがき。「序文」

《使い方》
▽矢じるしの順序にしたがって進んでください。▽団体で行動するときは、秩*序(＝きまり)を乱さないようにする。▽民主主義の世でも、長幼の序(＝年上と年下の間の順序)をまもる。▽このくらいの苦しさなど、まだ序の口だ。▽オペラの序曲を聞いた。▽恩師に本の序文を書いていただいた。

参考 「广」の中は三年で習った「予」。

◇广(まだれ)の部・7(4)画

志

おん シ
くん こころざす・こころざし

一 十 士 志 志 志

いみ こうなろうと思う心。のぞみ。きもち。「大志・志願・志望・同志・意志・遺志」

《使い方》
▽父の遺志(＝死んだ人がこうしてほしいとあとに残した考え)をついで医者になる。▽大学進学を志望する。▽兄は小さい時から船のりを志していた。▽少年よ大志(＝大きなのぞみ)をいだけ。▽初志(＝最初の志)をつらぬく。▽お志(＝きもち)だけでけっこうです。

参考 送りがなに注意する。「志す」「学問に志した」「志をつぐ」

◇心(こころ)の部・7(3)画

五年

応

おん オウ

くん —

亠 广 广 応 応 応

いみ こたえる。むくいる。「応答・反応・応用・応募*・応戦」

《使い方》

▽友だちのすすめに応じて、展覧会を見に行った。▽講演会のあと、質疑応答(=質問を受けて答えること)があった。▽母は、客の応対(=もてなし)になれている。▽きょうの応用問題はむずかしい。▽身分に応じた(=ちょうど合った)生活をする。▽けが人に応急手当をほどこした。

参考 「反応・順応」などの「応」は「ノウ」と読む。

反応 han-ō → han-nō

順応 zyun-ō → zyun-nō

◎心(こころ)の部・7(3)画

快

おん カイ

くん こころよい

丶 忄 忄 忄 忄 快(つきだす)

いみ ㊀きもちがよい。こころよい。「快晴・快適・快活・快楽・快勝・愉*快」㊁よろこばしい。「快方・全快・快復」

《使い方》

▽快い風がほおにあたる。▽快晴にめぐまれた運動会。▽新しい家で、快適な生活を送っている。▽きょうは一日とても愉*快にすごした。▽快活な(=はきはきして明るい)おじょうさん。▽病気が全快した。

参考 「快復」「回復」どちらも「悪い状態がよくなる」意味だが、「快復」は、特に「病気がよくなる」意味に使う。

◎心(こころ)の部・7(4)画

条

おん ジョウ

くん —

ノ ク 夂 夂 夅 条

いみ ㊀すじ。すじみち。「条理」㊁一つずつ書きわけたもの。「条約・条文・条例・条件」

《使い方》

▽条理(=すじみち)をつくして説得する。▽おこづかいをもらうのを条件にして、お使いに行った。▽試合に勝つ条件はそろっていたが、負けてしまった。▽だいじなことがらを箇*条書き(=一・二・三とわけて短く書く、書き方)にする。

参考 もとの字は條。「攸(=小さい)」と「木」が合わさって、「木から分かれた小さいえだ」の意味になった。

◎木(き)の部・7(3)画

技

おん ギ
くん わざ

扌 扌 扌 扌 扌 抆 技

いみ ㊀うでまえ。わざ。「技能・技術・演技」㊁(武道で)一定の型。手。

《使い方》

▽この工事には、高度の技術が必要です。▽陸上競技が行われる。▽体操選手の妙*技(=みごとなわざ)に、おしみなく拍*手がおくられた。▽父は、建築技師だ。▽さすが名優と言われるだけあって、みごとな演技だ。▽技量(=うでまえ)をみがく。▽じゅう道の試合で、敵は次から次と技をかえてせめてきた。

◇手(て)の部・7(4)画

木→技→枝(えだ)

災

おん サイ
くん わざわい

く くく くくく 巛 災 災

いみ わざわい。不幸なできごと。「災害・災難・火災・天災・戦災・人災」

《使い方》

▽いつどんな災害にあってもよいように準備しておこう。▽火災予防に努力する。▽ひどい災難にあった。▽なまなましい戦災のあとをテレビで見た。▽この事故は従業員の不注意によるもので、明らかに人災だ。▽天災はわすれたころにやってくる。▽口は災いのもと(=うっかり話したことが災難のもとになるということ)。▽雲が災いして観測は失敗に終わった。

◇火(ひ)の部・7(3)画

状

おん ジョウ
くん ―

丨 丬 丬 壯 壯 状 状

いみ ㊀ありさま。ようす。かたち。「状態・状況*・実状・うろこ状」㊁手紙。「書状・状差し・招待状」

《使い方》

▽別に異状(=変わったようす)はありませんでした。▽花の開く状態を調べてみた。▽戦いの状況*を報告する。▽問いつめられて、とうとう白状した(=かくしていたことを話した)。▽友だちから年賀状がとどいた。▽図工の時間に状差しを作った。

参考 もとの字は「狀」で、「爿(=かたち)」と「犬」からなる。「犬のかたち」から、「ようす」の意味になった。

◇犬(いぬ)の部・7(3)画

五年

防

おん ボウ
くん ふせぐ

阝 阝 阝 阝 防 防 防

いみ がいを受けないように守る。ふせぐ。さえぎる。「予防・消防・防火・防寒・防犯・防風林・防雪林」

《使い方》

▽城をきずいて、敵を防ぐ。▽冬はとくに防火に注意する。▽防音そうちのある教室。▽火災予防週間のポスターをかく。▽港のまわりには、防波堤*がある。▽池のそばに、危険防止のための立てふだを立てる。▽消防団の人が、大急ぎで出てゆく。▽防毒マスクをつける。

◎阝(こざとへん)の部・7(4)画

価

おん カ
くん あたい

亻 亻 亻 価 価 価 価（まっすぐに）

いみ ㊀ねだん。「物価・価格・定価・代価・地価」㊁ねうち「価値・真価・評価・声価」

《使い方》

▽売れ残りの品を定価の三割*引きで売った。▽都会では地価(=土地のねだん)は上がる一方だ。▽宝石店には、高価な商品がならんでいる。▽むかしの一円は、今の千円に価する。▽かれの研究は注目に価する。▽作品を正しく評価する。▽オリーブの実は栄養価が高い。

参考 「値」も「あたい」と読み、数学で、「xの値、yの値」などと使われる。

◎人(ひと)の部・8(6)画

五年

〈さんこう〉

◇アクセント◇

「わあ、あつい(暑い)なあ、このへや。」
「わあ、あつい(厚い)なあ、この本。」

右の文を声を出して読んでみると「あつい」のアクセントがちがうことに気づくでしょう。五年で習う漢字を使ったことばのアクセントをしらべましょう。

・は高く、——は平らに発音します。

1 同じおん(音)のことば。
人からおん(恩)を受ける。

2 せいせきは、クラスのじょう(上)。
じょう(情)の厚い人。

3 父をえき(駅)までむかえに行く。
えき(易)をみてもらう。
えき(液)をうすめる。

4 長い年月をへる(経る)。
体重がへる(減る)。

5 算数の問題をとく(解く)。
五円のとく(得)をした。

6 きょうは雨ふりだ。
きょう(興)に乗る。
おぼうさんがおきょう(経)をよむ。

券

おん ケン
くん ―

丶 丷 䒑 半 关 券 券 券

力ではない

いみ ㊀ふだ。きっぷ。「乗車券・旅券・入場券・回数券・定期券」㊁手形や証書。「証券・株券」

《使い方》

▽乗車券をお持ちでない方はお知らせ願います。▽定期券で電車に乗る。▽旅券がおりた(＝外国旅行をする人の身分証明書が発行された)。▽旅行に行く父を見送るため、入場券を買ってホームにはいった。▽商品券ならば、好きな物が買える。▽郵便切手は郵券ともいう。

参考 「巻」とまちがえやすい。

◎刀(かたな)の部・8(6)画

× 券　○ 券

制

おん セイ
くん ―

丿 𠂉 𠂉 午 台 带 制 制

いみ ㊀さだめる。きそく。「制定・法制・制服・制度・六三制」㊁おさえる。とめる。「制止・制限・制約・自制心」㊂つくる。「制作」

《使い方》

▽中学生になると制服を着て学校へ行きます。▽悪い制度はすぐ改めるようにしよう。▽おまわりさんは、さわぎたてる人人を制止した。▽この道の制限速度は時速五〇キロです。▽今、風景画を制作している。

参考 「制作」は絵やちょうこくを作ること。「製作」は品物を作ること。

◎刀(かたな)の部・8(6)画

効

おん コウ
くん きく

丶 亠 六 交 効 効

いみ ききめ。しるし。「効果・効能・特効薬・効力・効用・有効・時効」

《使い方》

▽努力すれば、その効果は、必ずあらわれる。▽薬は、効能書きをよく読んでから使用すること。▽この定期券は期日が過ぎているから無効だ。▽新しい条約はあすから効力(＝ききめ)を発する。▽このきっぷは、三日間有効です(＝使えます)。▽薬の効きめはすぐに現れた。

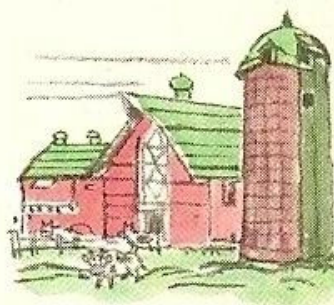
参考 「郊*」とまちがえやすい。「郊*」は、「町はずれ」の意味。

◎力(ちから)の部・8(6)画

× 効　○ 効

舎

おん　シャ
くん　―

ノ　𠆢　亼　今　全　舎（下にださない）

いみ　とまるところ。いえ。たてもの。「校舎・宿舎・官舎・兵舎・牛舎」

《使い方》

▽兄は、寄宿舎（＝学生などが共同で生活するところ）にはいっている。▽おかの上に母校の校舎がみえる。▽この建物は、もと兵舎だった。▽こんど官舎にすむことになった。▽牛舎はいつもきれいにしておく。▽仏教では、おしゃかさまの骨のことを舎利という。

参考　「田舎」と書いて「いなか」とよむ。

× 舎　○ 舎

◇人（ひと）の部・8（6）画

妻

おん　サイ
くん　つま

† ↕夫 189

一　ヨ　ヨ　ヨ（つきだす）　妻　妻

いみ　（男の人からみて）自分とけっこんした女の人。つま。「夫妻・妻子・人妻・先妻・後妻・良妻賢*母」

《使い方》

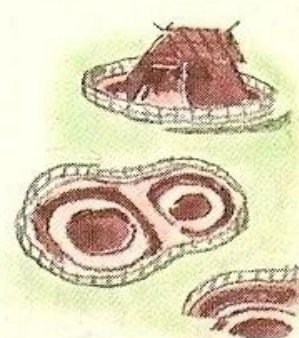
▽子どもを育て、家庭を守るのが、妻の務めです。▽良妻賢*母（＝夫にはよい妻であり、子どもにはかしこい母であること）は、女性の理想です。▽宇宙飛行士たちは、久しぶりに、妻子のまつ家庭にかえった。▽山田夫妻は、元気にアメリカへ旅立っていった。

参考　さしみのそえ物も「つま」というが、これはかな書きにする。

◇女（おんな）の部・8（5）画

居

おん　キョ
くん　いる

コ　コ　尸　尸　居　居

いみ　㊀いる。すわる。「居場所・居間・居留守・居残る」㊁すむ。すまい。「同居・別居・居住・住居・転居」

《使い方》

▽その場に居合わせなかったので、くわしいことはわからない。▽会いたくない人がきたので居留守をつかった（＝家にいるのに、いないふりをした）。▽母は、ゆっくり居間でくつろぐ時間もない。▽古い住居のあとが発見された。▽兄は会社が遠いため、両親と別居している。▽京子さんはおとうさんの勤めがかわったので、東京へ転居した（＝引っこした）。

◇尸（しかばね）の部・8（5）画

五年

往

おん　オウ
くん　―

ノ　彳　彳　彳　往

↑復 300

いみ　㊀行く。「往復・往来・往診*」㊁むかし。「往時・往年」㊂ときどき。たまに。「往往」

《使い方》

▽毎日、家から学校まで五キロの道を往復した。▽往路（＝いきの道）は汽車だが、帰路（＝帰りの道）は飛行機の予定だ。▽祖父は八十五歳*で大往生をとげた（＝やすらかに死んだ）。▽かれは、往年（＝むかし）の名投手だ。▽そういうまちがいは往往にしてあることだ。

彳＋主＝往（おう）
イ＋主＝住（じゅう）
氵＋主＝注（ちゅう）

◇彳（ぎょうにんべん）の部・8（5）画

性

おん　セイ・ショウ
くん　―

丶　忄　忄　忙　忤　性

いみ　㊀うまれつき。きだて。「性質・天性・習性・性分」㊁物のたち。「安全性・公共性・植物性」㊂男と女のくべつ。「男性・女性」

《使い方》

▽妹は、すなおな性質です。▽兄とぼくは、まったく性格がちがう。▽きちんとしなければすまない性分（＝性質）だ。▽少し高くても性能のすぐれた機械を買おう。▽車は安全性を重んじて選ぼう。▽性別のらんは、男・女のどちらかを消しなさい。

参考　「姓*名・百姓*」など、「姓*」も「セイ・ショウ」と読む。

◇心（こころ）の部・8（5）画

五年

承

おん　ショウ
くん　うけたまわる

一　了　子　孑　承　承（ンとしない）

いみ　㊀うける。うけつぐ。「継*承・伝承」㊁ききいれる。きく。「承知・了*承・承諾*」

《使い方》

▽王位を継*承した。▽ご注文をたしかに承りました。▽わたしのたのみを承知してくれた。▽あなたの申し出を承諾*するという返事があった。▽ことわるわけにもいかず、不承不承（＝いやいや）この仕事をひきうけた。

参考　送りがなをまちがえないように注意する。

一画でかく
承
二画でかく

◇手（て）の部・8（4）画

招

おん　ショウ
くん　まねく

扌 扌 扌 扨 扨 招

いみ　(手で)よぶ。まねく。「招待・招集・招来・手招き」

《使い方》
▽友だちのたんじょう祝いの会に招待された。▽お料理の先生を招いて、お話を聞く。▽みんなを招集して(=よび集めて)、会議を開きました。▽こんな危険なところにいては、どんな結果を招来する(=もたらす)かわからない。

和和　昭招　○×
待待　招昭　○×

参考「扌(=手)」と「召(=よぶ)」とが合わさってできた字。「招集」は、もと「召*集」とも書いた。◎手(て)の部・8(5)画

易

おん　エキ・イ
くん　やさしい

↕難391

冂 日 日 㫐 昜 易

いみ　㊀かわる。とりかえる。「貿易・交易」㊁たやすい。てがるだ。「容易・安易・平易・簡易」㊂うらない。「易者・易学」

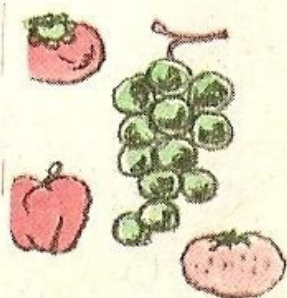
《使い方》
▽日本の貿易は年年のびている。▽かれは、その場を容易に動こうとしなかった。▽平易な文章をかく。▽汽車が不通になったので、簡易宿泊*所で夜を明かした。▽易しい文を書く。▽街角に、易者の看板が出ている。

× 昜　○ 易

参考「場」や「陽」の右がわは「昜」。「易」ではない。◎日(ひ)の部・8(4)画

果

おん　カ
くん　はたす・はてる・はて

丨 口 日 旦 甲 果

いみ　㊀くだもの。「果実・果汁*・果樹園」㊁しとげる。おわる。「結果・因果・効果」

《使い方》
▽秋にはいろいろな果実がとれる。▽新鮮*な果汁*(=くだものの、しる)は、健康のためによい。▽努力した結果、みごと合格した。▽使命を果たして、無事帰国した。▽会はいつ果てるともわからない。▽最果ての町にたどりついた。

参考「菓*」とまちがえやすい。木に実がなっている形からできた字。　→　→ 果
◎木(き)の部・8(4)画

五年

武

おん ブ・ム
くん ―

一 テ 干 正 武 武

いみ ㊀勇ましい。つよい。「武勇」 ㊁いくさ。戦い。「武器・武具・武装*・武力」 ㊂さむらい。「武士・武家・武者人形・武将・武人」

《使い方》

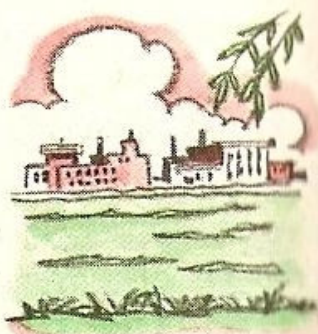
▽武勇のほまれ(＝つよくて勇ましいという評判)が高い、源氏の大将。▽敵は武器をすててにげていった。▽武力で弱い国をおさえつける。▽武士に二言はない(＝さむらいは、一度言ったことは必ずまもる)。▽たんごの節句には武者人形をかざる。

ただしくかこう
× ○ ×
戓 武 武

◇止(とまる)の部・8(4)画

河

おん カ
くん かわ

丶 氵 汀 汀 河 河

いみ 大きな川。川。「河川・氷河・運河・河口・山河・銀河」

《使い方》

▽河口(＝川が海にそそぐところ)に、大きな港があります。▽運河(＝人の力でつくった川)が、町を二つに分けている。▽大きな川、小さな川をまとめて、河川という。▽昔、地球が氷河におおわれていた時代があった。▽晴れた夜空に銀河が美しくかがやく。▽中国北部の黄河のほとりは古代文明の発祥*地として名高い。

参考 ふつう「河」は大きな川、「川」は小さな川をさす。

◇水(みず)の部・8(5)画

版

おん ハン
くん ―

丿 ⺁ 广 片 片 版 版 版

一画でかく

いみ ㊀印刷に使うもの。「木版・銅版・写真版」 ㊁印刷すること。「出版・初版・地方版・絶版・再版」

《使い方》

▽版画(＝木や銅の板に絵や字をほって、印刷したもの)の年賀状を作った。▽歌の本を出版することになった。▽朝刊の地方版に、学校のプール開きの記事が出た。▽この本は第七版(＝七回めの印刷)です。▽その本はもう絶版(＝品切れになったまま印刷しないこと)になりました。▽この字典の初版(＝最初の出版)は、昭和四十二年です。

◇片(かた)の部・8(4)画

五年

肥

おん　ヒ
くん　こえる・こえ・こやす・こやし

冂　月　月　月　月　肥

いみ　㊀ふとる。こえる。「肥満・肥大」　㊁こやし。「肥料・たい肥・追肥」

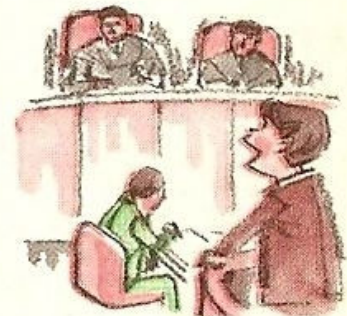
《使い方》

▽運動が不足すると、からだが肥満する（＝ふとりすぎる）。▽へんとうせんが肥大している（＝はれている）。▽ぶたの子はよく肥えている。▽この地方の土はよく肥えている（＝養分が多い）。▽土地を肥やして作物をそだてる。▽畑に肥やしをやる。▽はじめにやる肥料をもと肥、あとからやる肥料を追い肥という。

参考　「肥える」は「え」から送るが「肥」は「え」を送らなくてもよい。

◇肉(月)の部・8(4)画

述

おん　ジュツ
くん　のべる

十　才　木　术　述　述

いみ　のべる。いう。「著述・記述・述語・前述・口述」

《使い方》

▽ありのままの気持ちを述べる。▽かれの著述（＝書きあらわした本）にはりっぱなものが多い。▽この文章は、博士の口述（＝話すこと）を筆記したものです。▽わたくしの希望は前述（＝前に述べたこと）のとおりです。▽次の時間には文字のなりたちについてくわしく述べます。

参考　「迷」とまちがえやすい。

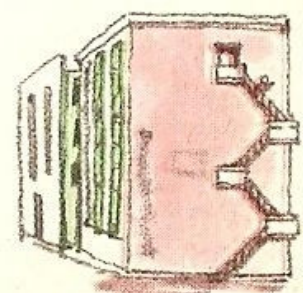
◇辶(辵)の部・8(5)画

ただしくかこう
×　○　×
述　述　述

非

おん　ヒ
くん　―

丿　刂　ヨ　ヨ　非　非

↕是 351

いみ　㊀正しくない。まちがい。「非行・前非」　㊁とがめる。「非難」　㊂うちけすことば。…ではない。…がない。「非番・非運・非情・非常識・非売品・非人情」

《使い方》

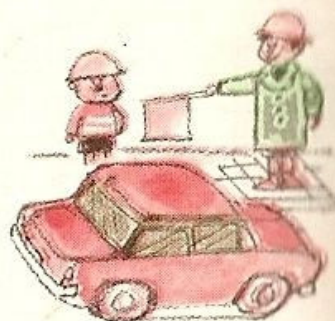
▽友だちに注意されて自分の非をさとった。▽非行少年がふえている。▽人を非難する前に、自分の行いを反省せよ。▽わが身の非運をなげく。▽この本は非売品です。

参考　下が古い字。とんでいる鳥の羽がそむきあっている形。「そむく」からうちけしの意味になった。

◇非の部・8(0)画

保

おん　ホ
くん　たもつ

亻 亻 仃 但 伻 保

いみ　㊀もちこたえる。たもつ。「保安・保健・保守・確保」㊁まもる。せわをする。「保護・保育・保管」

《使い方》
▽健康を保つように心がける。▽食べ物を冷ぞうこに入れて保存する。▽意見がまとまらないので、この問題の決定は保留します。▽必要なときがくるまで、わたしが保管しておこう。▽子どもを危険から保護する。

参考　下が古い字。人が子どもをせおっている形で、「まもる」「せわをする」の意味になった。

◇人(ひと)の部・9(7)画

則

おん　ソク
くん　―

丨 冂 月 目 貝 則

いみ　㊀きまり。さだめ。「規則・法則・原則・校則・会則・鉄則」㊁手本。手本とする。

《使い方》
▽おこづかいは、原則として、一月に三百円とします。▽サッカーでは、手にボールがふれると反則になります。▽法則を無視して行えば、失敗する。▽規則を守らせるために、罰*則をもうけよう。▽校則に則して(=ならって)行動する。

参考　「刂」は、刀を立てた形なので「立刀」という。

◇刀(かたな)の部・9(7)画

厚

おん　コウ
くん　あつい

一 厂 𠂆 后 厚 厚

いみ　㊀あつみがある。「厚手・厚顔」㊁思いやりがふかい。「厚意・温厚・厚情」

《使い方》
▽厚い板をのこぎりで切る。▽厚着は、健康によくない。▽つらの皮が厚い(=ずうずうしい)。▽あなたのご厚意に感謝します。▽祖父は温厚な(=心のおだやかな)人がらで、みんなにしたわれている。

参考　三つの「あつい」。

厚い
暑い
熱い

◇厂(がんだれ)の部・9(7)画

五年

政

おん セイ・ショウ
くん まつりごと

丅 下 正 正 政 政

いみ 世の中をおさめる。「政治・国政・王政・政界・摂*政・政府・政党」

《使い方》

▽むかしは、将軍が政をつかさどった。▽国民のしあわせは、政治のよしあしにかかっている。▽投票日がせまっているので、各政党とも、最後の追いこみに必死になっている。▽首相がテレビで政見を発表した。▽むかし、推古天皇のとき、聖徳太子が摂*政（＝天皇に代わって政治を行う役）となられた。

参考 「ショウ」の読みは、ふつう、「摂*政」のときだけに使う。

◎文（ぼくにょう）の部・9（5）画

故

おん コ
くん ゆえ

十 十 古 古 古 故

いみ ㊀ふるい。「故郷・故事・故国」㊁人の名などの上につけて、死んだことを表すことば。「故人」㊂わざと。「故意」㊃ふつうでないことがら。「事故」㊄わけ。理由。…のため。

《使い方》

▽ぼくの故郷は長野だ。▽故事（＝昔から伝わっていることがら）にならって、祭りを行う。▽故人のみたまをまつる。▽故高見順氏の作品。▽故意に（＝わざと）ガラスをわった。▽交通事故で両親をなくした子は幼い故になみだをさそう。

◎文（ぼくにょう）の部・9（5）画

正→故→政（せい）

五年

査

おん サ
くん ―

十 木 本 杏 杳 査

いみ しらべる。「調査・検査・考査・査定・審*査・巡*査」

《使い方》

▽事故の原因をくわしく調査する。▽あしたは、学校で身体検査がある。▽わたしの作文は、審*査の結果、第二位に入選した。▽税金を査定する（＝調べてきめる）。▽県の小学生を対象にして、学力考査（＝学力テスト）が行われる。▽混雑している交差点で巡*査（＝おまわりさん）が交通整理をしている。

◎木（き）の部・9（5）画

ただしくかこう

× ○ ×
査 査 査

独

おん ドク
くん ひとり

ノ 犭 犭 犭 犯 独 独

いみ ㊀ひとり。ひとつ。「独立・単独・独学・独唱・独身・独占・独奏・孤独」 ㊁ドイツ。「日独・独語」

《使い方》

▽インドは、一九四七年にイギリスから独立した。▽独りで留守番をした。▽学芸会で独唱をすることになった。▽独学(=自分独りで勉強をすること)で博士になった。▽兄はまだ独身(=けっこんしていない人)です。▽西独(=西ドイツ)は経済の発展がめざましい。

参考 ドイツのことを「独」と書くのは、あて字の「独逸*」をりゃくした形。

◎犬(いぬ)の部・9(6)画

祝

おん シュク・シュウ
くん いわう

ヽ ラ ネ ネ 祀 祀 祝

いみ めでたいことを喜ぶ。「祝電・祝日・祝福・祝辞・祝賀会・祝言」

《使い方》

▽姉の入学を祝ってお赤飯をたいた。▽新校舎落成の祝賀会を開く。▽友だちが作文コンクールに入選したので、祝電(=お祝いの電報)をうった。▽卒業式に、村長さんから祝辞をいただいた。▽新しくきまった祝日は建国記念の日(二月十一日)、敬老の日(九月十五日)、体育の日(十月十日)です。▽みなさんの前途*を祝福します。▽結婚*式のことを婚*礼・祝言などともいう。

◎示(しめすへん)の部・9(5)画

祖

おん ソ
くん ―

ヽ ラ ネ ネ 祁 祖 祖

いみ ㊀父母の親。「祖父・祖母」 ㊁古い代の人。「先祖・祖先」 ㊂あるもののことのはじめ。「開祖・始祖・元祖・医学の祖」

《使い方》

▽いなかの祖母が送ってくれた、干しがきです。▽うちには、祖先から伝わる古い書物がある。▽おぼんやおひがんは、先祖のれいをまつる行事である。▽真言宗の開祖(=宗教を始めた人)は空海です。

参考 「粗*」や「租*」とまちがえやすい。「粗*」は「あらい」、「租*」は「税金」の意味。

◎示(しめすへん)の部・9(5)画

迷

おん メイ
くん まよう

丷　半　米　米　迷

いみ どうしてよいかわからない。「混迷・低迷・迷路・迷宮入り・迷信」

《使い方》

▽はじめて来た町で、道に迷い、心細かった。▽学用品を買おうか、おもちゃを買おうかと迷う。▽事件はとうとう迷宮入り（＝解決がつかないこと）となった。▽人に迷惑*をかけるな。▽方角が悪いなどと考えるのは迷信だ。

参考 「名」と音が同じなので、しゃれて「へんな」の意味にも使う。たとえば「迷文」「迷作」など。

◎辶（しんにょう）の部・9（6）画

退

おん タイ
くん しりぞく・しりぞける

↕進 167

ㄱ　ヨ　艮　艮　艮　退

いみ ㊀うしろへさがる。「後退・退出・退却*・退去」㊁やめる。「退職・退官・引退」㊂とりいれない。

《使い方》

▽自分の考えが正しいといいはって、一歩も退かない。▽予定よりも早く退院できた。▽見物人が退散したあとは紙くずの山だ。▽敵はついに退却*を始めた。▽頭が痛くなったので早退した。▽薬をまいて害虫を退治する。▽校長先生が退職された。▽よこづなが、とうとう引退した。▽他人の意見を退ける。

× 退　○ 退

◎辶（しんにょう）の部・9（6）画

逆

おん ギャク
くん さか・さからう

↕順 238

丷　䒑　屰　屰　逆　逆

いみ ㊀さからう。反対する。「反逆」㊁さかさま。あべこべ。「逆行・逆風・逆流・逆転・逆効果・逆立ち」

《使い方》

▽父のことばに逆らってしかられた。▽そんな考えは、時代に逆行するものだ。▽逆風に向かって大ホームランを打った。▽大雨で川の水が逆流してきた。▽前半は負けていたが、後半には調子が出て逆転勝ちをした。▽そんなことをするとかえって逆効果（＝ねらいと反対の結果）になる。▽逆上がりがとくいです。

× 逆　○ 逆

◎辶（しんにょう）の部・9（6）画

五年

限

おん ゲン
くん かぎる

阝 阝 阝 阝 阝 限 限 限 限

いみ かぎる。くぎる。さかい。しきり。「限界・限定・制限・日限・限度・期限・門限・無限・極限」

《使い方》
▽参加者の人数を五人に限った。▽車の速度を、時速四〇キロ以下に制限する。▽力の限りをつくして戦う。▽人間の力には限度がある。▽九時が門限ですから、それまでに帰りなさい。▽期限が過ぎても、本を返さない人がいる。▽科学の限りない進歩が、はたして人間の幸せになるのだろうか。

参考 「退」とまちがえやすい。

◇阝(こざとへん)の部・9(6)画

修

おん シュウ・シュ
くん おさめる・おさまる

ノ 亻 亻 亻 亻 修 修 修 修 修

いみ ㊀(学問や正しい行いなどを)身につける。「修業・修行・修養・修身」㊁かざる。「修飾*」㊂ととのえる。なおす。「修理・修正」

《使い方》
▽学問を修め、身を修める。▽お花の修業(=わざをならうこと)をする。▽武芸の修行(=わざをみがくこと)に行く。▽かれの文章には修飾*語(=かざりことば)が多い。▽台風でこわれたへいを修ぜんする。▽文章の一部を修正して清書した。

参考 「シュ」の音は「修業」「修行」「修験者(=山ぶし)」などに使う。

◇人(ひとへん)の部・10(8)画

個

おん コ・(カ)
くん ―

亻 亻 们 們 個 個 個

いみ ㊀ひとつ。ひとり。「個人・個別・個性・個展」㊁数字の下につけてものを数えることば。「一個・二個」

《使い方》
▽個別(=一つ一つ)に検査する。▽わたし個人としての考えをのべる。▽個性をのばす教育をしている。▽若くしてなくなった天才画家の個展(=その人の作品だけを集めた展覧会)が開かれた。▽にもつの個数をしらべる。

参考 「カ」の音は、当用漢字補正案で新しくくわえる読み。この補正案によれば、「個条書き」「三個所」などと使える。

◇人(ひとへん)の部・10(8)画

五年

俵

おん ヒョウ
くん たわら

いみ ㊀米や炭を入れる、わらであんだもの。「米俵・炭俵・土俵」㊁ものをいれた、たわらの数を数えることば。「米一俵」

《使い方》

▽ねずみが米俵をかじる。▽炭俵をかついだら、シャツがよごれた。▽勢いがあまって土俵の下に落ちた。▽俵にいれたものを俵物という。▽大男たちは一俵の米を一日でぺろりとたべてしまった。

参考 一俵は「いっぴょう」、二俵は「にひょう」、三俵は「さんびょう」と読む。

◎人(ひと)の部・10(8)画

容

おん ヨウ
くん ―

いみ ㊀入れる。「容器・容量」㊁なかみ。「内容・容積」㊂すがた。かたち。「美容・容姿・容体」㊃ゆるす。ゆるやか。「容認・許容」㊄たやすい。「容易」

《使い方》

▽ガラスの容器に水を入れる。▽この器の容積は何リットルですか。▽この本の内容はむずかしい。▽姉は美容院へ行きました。▽容体(＝病気のようす)は少しよくなった。▽この問題は容易に解決しない。

参考 おおい(宀)と人がいる場所(谷)からできた。

◎宀(うかんむり)の部・10(7)画

師

おん シ
くん ―

つきでない

いみ ㊀人を教えみちびく人。先生。「教師・恩師・師弟・師匠*」㊁そのことを職業にしている人。「講釈師・漁師・宣教師」

《使い方》

▽父はむかし、中学校の教師をしていた。▽久しぶりに恩師をたずねた。▽この村には医師がひとりもいない。▽キリスト教は、ザビエルという宣教師によって、日本に広められた。▽漁師が網*をひく。

参考「帥*」とまちがえやすい。「帥*」は、「軍隊をひきいる人」の意味。

◎巾(はば)の部・10(7)画

五年

恩

おん　オン
くん　―

いみ　いつくしむ。めぐみ。なさけ。「恩人・報恩・恩愛・恩情・恩師・大恩・恩給」

《使い方》
▽あの人は、ぼくの命の恩人だ。▽父母の恩は山よりも高く、海よりも深い。▽おじいさんに命をたすけられたたぬきが恩返しに来た。▽卒業式のあとで謝恩会（＝せわになったことを感謝する会）を開いた。▽恩をあだで返す（＝恩をうけた人に、悪いことをする）。

田 → 恩（おん） → 思（し）

◇心（こころ）の部・10（6）画

格

おん　カク・コウ
くん　―

いみ　㊀きまり。きそく。さだめ。「規格・合格」㊁みぶん。くらい。「格式・資格」㊂ていど。「人格・品格・価格」㊃たたく。「格闘*」

《使い方》
▽入学試験に合格した。▽看護婦の資格のある人を募*集している。▽古い家は格式（＝身分や家がらについてのきまり）を重んじる。▽この料理は格別（＝特別）おいしい。▽かれはりっぱな人格の持ちぬしです。▽犯人を格闘*の末つかまえた。▽格子戸（＝ほそい木を一定の間をあけて縦・横に組んだ戸）のある家。

◇木（き）の部・10（6）画

五年

特

おん　トク
くん　―

いみ　ふつうでないこと。とくべつ。「特別・独特・特定・特色・特急」

《使い方》
▽かれの話し方には、独特の味がある。▽読書のさかんなことが、この学校の特色です。▽特に気をつけてもらいたいことを三つ話します。▽美術コンクールで、特選になった。▽とうもろこしは、この地方の特産です。▽特急というのは、「特別急行列車」のりゃくです。▽九州行きの特急券を買う。

寺のつく字
特　持
時　待

◇牛（うし）の部・10（6）画

留

おん リュウ・ル
くん とめる・とまる

いみ 同じ所にとどめる。とまる。「留学・留任・留意・留守・保留・停留所」

《使い方》
▽先生の注意を心に留める。▽兄はアメリカへ留学している。▽母は今留守です。▽停留所でバスを待っている。▽その問題については、発表を保留する。▽つゆどきは、特に健康に留意しよう（=気をつけよう）。

参考 三つの「とめる」
留める=同じ所にとめる（心に留める）。止める=動かなくする（車を止める）。泊*める=宿泊*させる（お客を泊*める）。

◎田（た）の部・10（5）画

益

おん エキ・ヤク
くん ―

↕害 219

いみ ㊀ためになる。よい。「益虫・益鳥・無益・有益」㊁もうけ。とく。「利益・純益」

《使い方》
▽電信・電気・水道・ガスなど、世のためになる事業を公益事業という。▽朝礼で、校長先生から有益なお話を聞いた。▽つばめは害虫をとってたべる益鳥です。▽けがが軽かったのは仏さまの御利益（=おめぐみ）だ。

参考 下が古い字。皿*の上に水があふれている形。「あふれる」から「多い」になり「もうけ」の意味になった。

◎皿（さら）の部・10（5）画

五年

〈さんこう〉

◇同じ音読みのことば◇

えいせい
①衛生　健康をまもり、病気を予防すること。
②衛星　わく星のまわりをまわっている、小さな天体。

かいせい
①改正　あらためること。なおすこと。
②改姓*　みょうじをあらためること。
③快晴　よくはれていること。

かいとう
①解答　問題をといて答えをだすこと。また、その答え。
②回答　質問などに答えること。返事。

ふじん
①夫人　ある人のおくさん。
②婦人　おとなの女の人。

こうえん
①公演　大ぜいの人の前で、歌・劇・おどりなどをすること。
②講演　大ぜいの人の前で、話や講義をすること。

破

おん ハ
くん やぶる・やぶれる

丆 石 石 矿 矿 破

いみ ㊀やぶる。こわす。「破壊*・破裂*・破船・大破・破談・破約」㊁負かす。「打破・撃*破」㊂…しつくす。「読破」

《使い方》

▽しょうとつして、車が大破した。▽洋服の破れた部分につぎを当てる。▽破格(=なみはずれ)の大安売りです。▽決勝で強敵を破り、優勝した。▽破竹のいきおい(=はげしいいきおい)で敵を撃*破した。▽長い物語をとうとう読破した(=読みとおした)。

参考 破る=相手に勝つ。敗れる=相手に負ける。

◇石(いし)の部・10(5)画

称

おん ショウ
くん ―

千 禾 禾 秆 秆 称

いみ ㊀よぶ。よびな。「名称・総称・称号・自称・略称」㊁ほめる。たたえる。「称賛」

《使い方》

▽かれは、日本のアンデルセンと称されていた。▽三郎*くんは、さかなつりの名人だと自称して(=自分でいって)いる。▽博士の称号をあたえられた。▽トンちゃんというのは、川村君の愛称である。▽敬称のつけ方はむずかしい。▽悪びれずにあやまちをみとめた態度が称賛された(=ほめたたえられた)。

参考「称賛」は、「賞賛」とも書く。

◇禾(のぎへん)の部・10(5)画

素

おん ソ・ス
くん ―

十 丰 丰 妻 妻 素

いみ ㊀かざりけのない。「質素・素ぼく」㊁もと。「水素・素材・要素」㊂ふだんの。いつもの。「素行・平素」㊃しぜんのまま。「素足・素顔・素手」㊄ただ。それだけの。「素浪*人・素通り」

《使い方》

▽質素な生活をおくる。▽かれは画家になる素質をもっている。▽平素のごぶさたをおわびします。▽素足にげたをはく。▽親戚*の家の前を素通りする。

参考 ㊃㊄の意味のときは「ス」と読む。

◇糸(いと)の部・10(4)画

五年

耕

おん コウ
くん たがやす

一 三 丰 耒 耒二 耕

いみ 田や畑をほりかえす。「耕作・耕地・農耕」

《使い方》

▽日本は、耕地(=田や畑)が少ない。▽せっせと畑を耕している。▽かれは、中学を卒業してすぐ、農耕生活にはいった。▽耕地整理(=田畑をひろげたり、くぎりをととのえたりすること)が、どんどん進んでいる。▽ついに、砂丘*を耕作地にすることに成功した。

参考「耒(=土をたがやす、すき)」と「井(=おさめる)」が合わさってできた。「すきで土をおさめる」意味。

◎耒(すきへん)の部・10(4)画

能

おん ノウ
くん ―

ム 㠯 㠯 㠯 㠯 能

いみ ㊀よくできる。「能筆・能弁」㊂ききめ。「効能」㊁はたらき。「能力・無能」㊃お面をつけ、音楽に合わせてまう、日本のげき。「能楽・能面」

《使い方》

▽わたしのおじは能弁です(=よく口がまわって、話がじょうずです)。▽あの人は、音楽の才能がある。▽人の能力は、かんたんにはわからない。▽仕事の能率をあげるためのくふうをする。▽薬は効能書きを読んでから使う。▽能面のような無表情な顔をしている。

能→態
↑
心

◎肉(にく)の部・10(6)画

蚕

おん サン
くん かいこ

一 天 天 呑 吞 蚕

いみ かいこがの幼虫。かいこ。「養蚕・蚕糸・蚕室・蚕食・蚕卵紙」

《使い方》

▽蚕には春にかうものと、秋にかうものがある。▽蚕のまゆから蚕糸をとる。▽養蚕(=かいこをかうこと)は、日本と中国がさかんです。▽蚕室(=かいこをかうへや)で、蚕がくわの葉を食べるようすを見る。▽武力で、まわりの国を蚕食する(=かいこがくわの葉を食べるように、だんだん領土をうばっていく)。

蚕

◎虫(むし)の部・10(4)画

五年

訓

おん　クン
くん　—

亠 亖 言 言 訁 訓

いみ　㊀おしえる。おしえ。「教訓・訓育・訓話・訓練・訓示・訓令」㊁くん読み。「音訓」

《使い方》

▽交通事故の写真は、そのおそろしさについての無言の教訓となった。▽朝会で、校長先生の訓話を聞いた。▽ふだんから、防火訓練をしておくことがたいせつだ。▽「山」を「やま」と読むのを訓読みといい、「サン」と読むのを音読みという。

参考　「川(=みちびく)」と「言(=ことば)」が合わさってできたことばで、「導く」意味から「教える」意味になった。

◇言(げん)の部・10(3)画

財

おん　ザイ・サイ
くん　—

冂 月 目 貝 貝一 貝十 財　はねる

いみ　ねうちのある物。たからやお金。「財産・財政・財宝・財源・財界・文化財・財布」

《使い方》

▽あの家の財産は、億をこえるという話だ。▽地方の財政(=お金のやりくり)は、苦しいところが多い。▽牧場は、ぼくの家の財源(=お金をもうけるもとになるもの)だ。▽私財をなげうって、町のためにつくした。▽文化財の保護を強くうったえる。

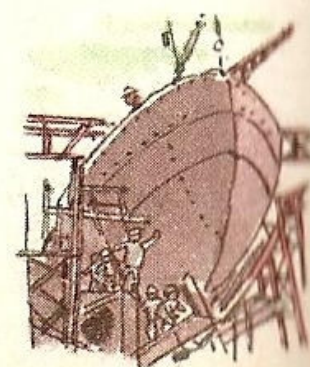
参考　「材」と使い分ける。「材料」「人材」は「材」。

◇貝(かい)の部・10(3)画

ただしくかこう
×　○　×
財

造

おん　ゾウ
くん　つくる

𠂉 牛 告 告 造

いみ　ものをこしらえる。「製造・人造・改造・新造・造花・造船・造本」

《使い方》

▽この工場では新型の機械を造っている。▽造花(=紙や布でつくった花)をへやにかざる。▽水害のあとに、急造(=急ごしらえ)のバラックを建てた。▽日本には木造の建物が多い。▽日本の造船の技術は世界一といってもよい。▽内閣改造によって危機をのりきる。

参考　「造る」は機械などを使ってこしらえる。「作る」はおもに考えてこしらえる。◇辶(しんにょう)の部・10(7)画

造る
作る

五年

除

おん ジョ・ジ
くん のぞく

了 阝 阝𠆢 阾 除 除

いみ ㊀とりのける。なくす。「除去・除外・除雪・除名・解除・掃*除」 ㊁わる。わりざん。「除法・乗除」

《使い方》

▽早くてい防を築いて、川の近くに住む人の不安を除きたい。▽北国の冬は、除雪作業(=雪をとりのぞく作業)がひと仕事だ。▽くさった板をとり除いて修理した。▽乗除は加減に先立つ(=かけ算・わり算は、ひき算・たし算よりも先に計算する)。

参考 「徐*」とまちがえやすい。

×除行 ? ○徐行

◇阝(こざとへん)の部・10(7)画

務

おん ム
くん つとめる

いみ しなくてはならないこと。つとめ。「義務・事務・任務・業務・急務・勤務・軍務」

《使い方》

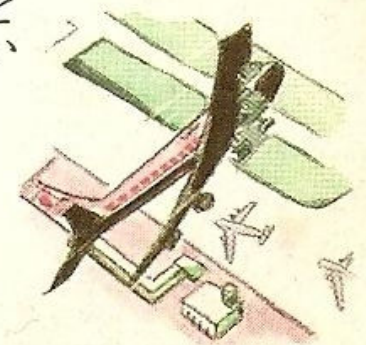
▽税金を納めるのは、国民の務めである。▽重要な任務をおびて出発した。▽この会社の、一日の勤務時間は、八時間です。▽事務の能率をあげるくふうをする。▽用務員のおじさんにおせわになる。▽父は会社の専務を務めています。

参考 務める=やくめをうけもつ。勤める=仕事につく(銀行に勤める)。努める=せいをだす(成績向上に努める)。

◇力(ちから)の部・11(9)画

基

おん キ
くん もと・もとい

一 艹 甘 其 其 基

いみ ㊀もと。おこり。どだい。「基本・基金・基地・基点・基礎*」 ㊁もとづく。「基因」

《使い方》

▽なにごとも基本練習がたいせつだ。▽飛行機がつぎつぎと、基地から飛びたった。▽国語はすべての学習の基礎*(=おおもと)である。▽坂本龍*馬らは、命をなげうって、日本の近代国家の基をきずいた。▽不注意に基因する事故が多い。▽今までの記録に基づいて計画を立てる。

参考 「基ずく」とは書かない。「墓」と形がにているのでまちがえやすい。

◇土(つち)の部・11(8)画

五年

婦

おん フ
くん ―

いみ ㊀おんな。「婦人・婦女子・看*護婦」㊁つま。よめ。「夫婦・主婦」

《使い方》

▽町内の婦人が集まって、婦人会をつくった。▽五十年間看*護婦をつとめて、ナイチンゲール賞をもらった。▽おかあさんが病気になったので、家政婦をたのんだ。▽老夫婦がたすけあって坂道をのぼっていく。▽電気せんたく機のおかげで、主婦の仕事は楽になった。

参考 下が古い字。帚はほうきで、女は女の人。家の中をほうきできれいにする女を表した字。

◇女(おんな)の部・11(8)画

寄

おん キ
くん よる・よせる

いみ ㊀あつめる。よせる。よる。「寄せ算・寄り道・寄港・寄稿*」㊁おくる。「寄付・寄進」㊂やどる。「寄宿舎・寄生虫・寄留」

《使い方》

▽近くへおいでになったときはお寄りください。▽落ち葉をはき寄せてたき火をする。▽この船は、ケープタウンに寄港します。▽学校が終わったら寄り道をしないで帰ろう。▽めずらしい貝を学校に寄付する。▽兄は学校の寄宿舎にはいっている。▽寄生虫をたいじする薬をのむ。

参考 「奇*」とまちがえやすい。

◇宀(うかんむり)の部・11(8)画

常

おん ジョウ
くん つね・とこ

いみ ㊀いつも。ふだん。「平常・正常・常識・異常・常連・常用」㊁いつまでも。「常緑樹・常数」

《使い方》

▽あのふたりは、常日ごろから仲が悪かった。▽きょうは、非常に暑かった。▽父は、胃の薬を常用している。▽健康には常に注意する。▽常夏の国ハワイに住んでみたい。▽円周率のように、いつも変わらない数を常数という。

参考 「⺌」のつく字…「当・堂・光・賞」など。「学・挙・労」などは、「⺍」。

×常 ○常

◇巾(はば)の部・11(8)画

五年

張

おん チョウ
くん はる

フ　コ　弓　引　張　張

いみ ㊀ぴんとはる。ひろげる。「緊*張・伸*張・出張・拡張」㊁みはる。「張りこみ」㊂おしとおす。「主張」

《使い方》

▽むねを張って元気よく歩く。▽だんの上にたったとき、緊*張して足がふるえた。▽父は、大阪*へ出張している。▽大雨で川の水がふえたので、一晩じゅう見張りをした。▽はっきりと自分の意見を主張した。

参考 「帳」や「脹*」などとまちがえやすいので注意する。

張→帳

得

おん トク
くん える・うる

↕失 192

彳　彳　彳　得　得　得

いみ ㊀手に入れる。「取得・得点・得票数」㊁もうけ。りえき。「損得・得失・得策」㊂まんぞく。「得意」

《使い方》

▽七回のうらに三点得点した。▽姉は、看護婦の免*許状を取得した。▽機会を得て、ぜひ外国旅行をしたい。▽損得を考えては、こんな仕事はできません。▽あわてずに気ながにまつのが得策だ。▽かれは得意げに、入賞メダルを見せた。

参考 下が古い字。道(彳)に、貝(貝)を手(寸)でもっている形を加え、道で物をひろう意味を

情

おん ジョウ・セイ
くん なさけ

忄　忄　忄　情　情　情

いみ ㊀思いやり。「同情・人情」㊁こころ。気持ち。「真情・強情・感情」㊂ありさま。ようす。「情景・情勢」

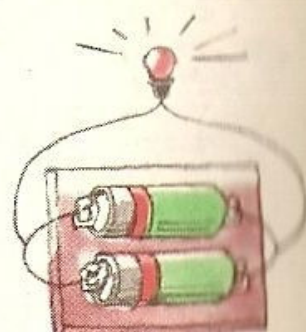
《使い方》

▽情けは人のためならず(=人に情けをかけることは、その人のためだけではなく、自分のためでもある)。▽みなし子に、世間の同情が集まった。▽親が子にそそぐ愛情に心をうたれた。▽がんの研究に情熱をかたむける。▽事情をよく説明してください。▽古いお寺には何ともいえない風情がある。

参考 「清」や「精」などとまちがえや

五年

接

おん セツ
くん つぐ

いみ ㊀ふれる。近づく。「接近・近接・接戦」㊁つながる。つなぐ。「接続・接着・直接・間接」㊂もてなす。「応接・接待」

《使い方》

▽火星が地球に接近してきた。▽決勝戦は大接戦（＝なかなか勝負がつかない試合）であった。▽二つの電池を接続させたら赤いランプがついた。▽人に接するときは、ことばづかいに注意しよう。▽接ぎ木に成功した。▽お客様を応接室にお通しする。

参考 「手（扌）」で「とる（妾）」ことから「手をつなぐ」となり「つながる」となった。

◇手（て）の部・11（8）画

授

おん ジュ
くん さずける・さずかる

いみ さずける。あたえる。さずかる。もらう。「授与*・授乳・伝授・教授・授業」

《使い方》

▽卒業証書を授与*する。▽女王がくん章を授ける。▽赤ちゃんは天からの授かり物（＝いただき物）です。▽ぼくの父は、大学の教授です。▽授業が終わったので急いで帰った。▽この家に代代つたわる薬の作り方を伝授する。

参考 「授賞」と「受賞」はまちがえやすい。「授賞」は「賞（＝ほうび）」をあたえること。「受賞」は「賞」をもらうこと。

◇手（て）の部・11（8）画

採

おん サイ
くん とる

いみ ㊀手にとる。とる。「採集・採取」㊁えらぶ。「採決・採用」㊂とり出す。「採炭」

《使い方》

▽海そうを採る。▽夏休みにはこん虫採集をしたい。▽第一案を採ることに決めます。▽兄は希望した会社に採用された。▽石炭をほりだすことを採炭という。▽採点（＝点数をつけること）の結果が発表された。

参考 「採る」は、選んでとる。「取る」は、手でとる。「執*る」は、筆をとって、仕事をする。「撮*る」は、写真をとる。「さかなをとる」は、かな書き。

◇手（て）の部・11（8）画

五年

断

おん ダン
くん たつ・ことわる

丷 半 米 迷 断 断

いみ ㊀たちきる。たつ。「断絶・切断・断水・断続・断食」㊁きっぱりきめる。「判断・決断・断定」㊂ことわる。

《使い方》
▽はさみで布を断ち切る。▽両国はついに国交を断絶した。▽ものごとを正しく判断する。▽天候が悪くなったので、登山を断念した(=あきらめた)。▽せっかくだが、そのたのみは断る。

参考 「断つ」は、二つに切る。「絶つ」は、やめる、なくす。「裁つ」は、布や紙を切る。

◎斤(おの)の部・11(7)画

液

おん エキ
くん ―

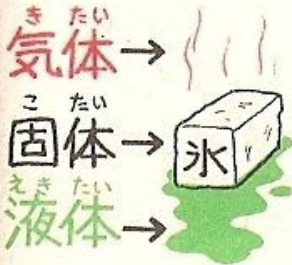
氵 汁 汴 液 液 液

いみ 水のようなもの。しる。「液体・液化・液状・血液・胃液・樹液」

《使い方》
▽わたしの血液型はO型です。▽りんごをしぼった液を病人にのませました。▽固体がとけて液体になる。▽金属にも、水銀のように液状のものがある。▽胃液や腸液は食べた物を消化する消化液です。▽気体が液体になることを液化という。

参考 「液体」は、「気体・固体」と組みになって使われることばである。

気体→
固体→ 氷
液体→

◎水(さんずい)の部・11(8)画

混

おん コン
くん まじる・まざる・まぜる

氵 氵 汩 泹 混 混

いみ まぜる。まじる。「混入・混血・混声・混乱・混雑・混線」

《使い方》
▽えのぐの青色と黄色とを混ぜるとみどり色になる。▽混血(=あいの子)のかわいらしい子がいた。▽ホームは、スキー客で混雑した。▽二つの話を混同してしまっている。▽強い風がふいていたときに火事がおきて、町は混乱した。▽敵味方が入り混じって戦う。

参考 「混ぜる」は、ちがうものをまぜて一つにする。「交ぜる」は、いくつかを組み合わせる。

◎水(さんずい)の部・11(8)画

五年

率

おん ソツ・リツ
くん ひきいる

亠 玄 玆 㴴 率

いみ ㊀ひきいる。「引率・統率・率先」㊁ありのまま。「率直」㊂かるがるしい。「軽率」㊃わりあい。「百分率・比率・利率」

《使い方》

▽信長がうたれたという知らせを受けた秀*吉は、直ちに部下を率いて出発した。▽かれは、いつも率先していやな仕事を引き受ける。▽率直(=かざらずありのまま)な意見を述べる。▽軽率に(=かるがるしく)行動するな。▽百分率のことを、パーセンテージともいう。▽仕事の能率をあげる。

◎玄(げん)の部・11(6)画

現

おん ゲン
くん あらわれる・あらわす

丅 王 玌 玑 玥 現

いみ ㊀すがたをあらわす。あらわれる。「実現・現像・表現・出現」㊁今の。現在の。「現今・現実・現状」

《使い方》

▽努力の結果がはっきり現れる。▽山のけしきのすばらしさは、ことばではとうてい表現できない。▽ひでりつづきでのみ水もない現状(=現在のありさま)だ。▽マンモスは現存しない。▽手もとに現金がない。▽理想と現実はなかなか一致*しない。▽工事現場を見学した。

参考 「姿を現す」「言い表す」「本を著す」のように使い分ける。

◎玉(たま)の部・11(7)画

略

おん リャク
くん ―

口 m 田′ 畋 畋 略

いみ ㊀かんたんにする。はぶく。「省略・前略・略図・略式・略称」㊁かんがえ。はかりごと。「計略・戦略」㊂せめとる。「攻*略・侵*略」

《使い方》

▽この文章は、はじめの部分が省略されている。▽まちがった略字(=むずかしい漢字をかんたんにした字)をかくな。▽略図をかいて道を教えてくれた。▽日本赤十字社の略称は日赤です。▽日本国有鉄道を略して国鉄という。▽計略をつかって、敵を滅*ぼした。▽どんなことがあっても隣*国を侵*略してはならない。

◎田(た)の部・11(6)画

五年

眼

おん ガン・ゲン
くん まなこ

冂 目 目ᒣ 目ヨ 目艮 眼

いみ ㊀目。「眼科・眼帯・近眼・眼下・開眼」㊁ものごとを見分ける。「眼力・眼識・心眼」㊂だいじなところ。「主眼・眼目」

《使い方》
▽祖父は老眼鏡をかけています。▽急に眼界(=目にみえるはんい)が開けた。▽観念の眼をとじる(=あきらめてかくごする)。▽にせ者を見破った眼力にはおそれいった。▽この研究の眼目(=だいじな点)を述べる。

参考 「眠*」とまちがえやすい。

眠　眼

◎目(め)の部・11(6)画

移

おん イ
くん うつる・うつす

千 禾 禾ク 禾夕 禾多 移

いみ ㊀場所をかえる。「移転・移植・移住・移動」㊁ときがたつ。「推移」

《使い方》
▽つぎつぎにボートに乗り移った。▽一家でブラジルに移住した。▽きくの花をうら庭に移植した。▽学校の近くへ移転しました。▽世の中の推移(=うつりかわり)につれて、人の心も変わっていく。▽いな光のあと時を移さず(=すぐに)雷*鳴がなりひびいた。

参考 「写る」や「映る」と区別して使おう。

場所を移る
水に山が映る
写真に写る

◎禾(のぎ)の部・11(6)画

経

おん ケイ・キョウ
くん へる

く 幺 糸 糸ス 糸圣 経

いみ ㊀すぎる。とおる。「経過・経由・経路」㊁たていと。たてのすじ。「経線・経度」㊂いとなむ。「経営・経費」㊃仏の教えを書いたもの。「経文・経典」

《使い方》
▽長い年月を経ても、宝石のかがやきはかわらない。▽ハワイ経由の飛行機で帰る。▽東京は東経百四十度のあたりに位置する。▽おじは工場を経営している。▽門前の小ぞう習わぬ経を読む。

参考 「軽」「径」とにている。「軽」は「かるい」、「径」は「みち」の意味。

◎糸(いと)の部・11(5)画

五年

術

おん ジュツ
くん ―

彳 彳 行 休 休 術 術

いみ わざ。やりかた。方法。「手術・美術・芸術・技術・秘術・算術」

《使い方》

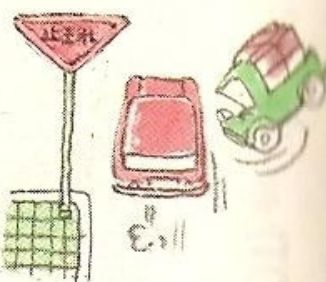
▽平安時代の美術品を見た。▽医術を身につけるため、ドイツへわたった。▽兄は大学の馬術部にはいった。▽この仕事は特別な技術を必要とする。▽芸術を通じて、世界が一つにむすばれる。▽日本学術会議が東京で開かれた。▽猿*飛佐*助は忍*術をつかう。▽相手の術中におちいる(=相手の計略にひっかかる)。

× 術　○ 術

◇行(くい)の部・11(5)画

規

おん キ
くん ―

二 夫 夫 知 規 規

いみ ㊀きまり。おきて。「規則・規約・法規・正規・規律・規格品」㊁規・コンパス。「定規」

《使い方》

▽規則正しい生活をしよう。▽規定の料金をいただきます。▽会の規約をつくろう。▽正規の手続きをふんで申しこむ。▽学級の規律が乱れていないか。▽三角定規で、正方形をかく。

参考 「定規」のときには「ギ」とにごってよむ。

左がわの「夫」は「夫」と書くとまちがい。

× 規　○ 規　× 規

◇見(るみ)の部・11(4)画

許

おん キョ
くん ゆるす

亠 亠 言 言 許 許

いみ いれる。ききとどける。ゆるす。「許容・許可・免許・特許」

《使い方》

▽弟のいたずらを許してやる。▽原爆*で、多くの人が許容量以上の放射能をあびた。▽父の許しを得て、ひとりで親類の家へ行った。▽試験に合格して入学を許可された。▽父は発明をして、特許をとった。▽おじさんは自動車の運転めん許を持っている。

参考 「午(=さんせいする)」と「言(=ことば)」が合わさって、「あいてのことばにさんせいする」意味になった。

◇言(いう)の部・11(4)画

五年

設

おん セツ
くん もうける

亠 言 言 訁 訵 設

いみ ㊀つくる。そなえつける。「設置・設立・建設」 ㊁用意しておく。「設問」
備・施設・設立・建設」 ㊁用意しておく。「設問」

《使い方》
▽新しく図書室が設けられた。▽町に公民館が設置された。▽団地の中に小学校を新設する。▽新しい船の設計図ができあがった。▽五年生の学級を一組増設した。▽設備のよく整った学校で勉強する。▽仮設の事務所で仕事を始めた。▽次の設問に答えよ。

参考 「説」や「投」とにているので注意する。

◎言(言)の部・11(4)画

貧

おん ヒン・ビン
くん まずしい

↕富 299

八 分 分 㝹 貧 貧 あける

いみ まずしい。とぼしい。「貧富・貧困・貧民・貧乏*・貧苦・貧弱・貧血・貧相」

《使い方》
▽少年は貧しい家庭に生まれた。▽貧富の差のはげしい国は、人心が安定しない。▽清貧にあまんじる(=正しい生活のためには、貧しくても気にしない)。▽貧弱な(=やせて、よわよわしい)からだの少年が立っていた。

参考 「貝」はお金の意味で、お金を分けると貧しくなることから できた。

今→貝→貪(どん)

◎貝(貝)の部・11(4)画

責

おん セキ
くん せめる

一 十 龶 青 青 責

いみ ㊀せめる。とがめる。「自責」 ㊁つとめ。ぎむ。「責務・責任・重責」

《使い方》
▽かれはきっと自責の念(=自分で自分のあやまちを責める気持ち)にかられていることだろう。▽つりに行こうと父を責める(=せきたてる)。▽政治家の責任は重い。▽世界の平和を守るのは、われわれの責務(=必ずしなければならないこと)だ。▽言うことはりっぱだが、実行がともなわない無責任な人。

禾+責=積(つむ)
糸+責=績(せいせき)

◎貝(貝)の部・11(4)画

五年

険

おん ケン
くん けわしい

阝 阝 阾 阾 险 険

いみ ㊀けわしい。「険路」㊁あぶない。むずかしい。「危険・険悪・保険」

《使い方》

▽険しい山道をあえぎながらのぼる。▽ねこは危険を感じたのか、さっとにげて行った。▽火事が多いので火災保険にはいった。▽子どもたちは冒*険がすきだ。▽議論がはげしくなり、会場は険悪な(=よくないことがおこりそうな)空気につつまれた。

参考 「阝」は「けわしい山」、「㑒」が「障害があって進みにくい」意味を表す。「検・験」とまちがえやすい。

◎阝(こざとへん)の部・11(8)画

備

おん ビ
くん そなえる・そなわる

亻 俳 併 併 備 備

いみ ととのえる。ようい する。「準備・備品・守備・完備・軍備・予備・警備」

《使い方》

▽あしたのテストに備えて勉強する。▽遠足の準備をすっかりととのえた。▽実験用具の完備した(=完全にととのっている)理科室ができ上がった。▽運動会の計画が不備なため、進行がおくれた。▽つくえや本箱*は学校の備品です。▽相手の守備がかたく、どうしても得点できない。

参考 「備」と書くとまちがい。

◎人(ひと)の部・12(10)画

〈さんこう〉
◇同じ訓読みのことば◇

「ソフトボールの試合で、ぼくたちの組は、二組をやぶったが、三組には、やぶれた。」

右の文の「やぶった」「やぶれた」は、それぞれ「破った」「敗れた」と書きます。五年で習う漢字の中から同じ読みのことばをみつけましょう。

うつす ▽写真を写す。▽事務所を移す。
おこる ▽事件が起こる。▽産業が興る。
おる ▽木のえだを折る。▽織物を織る。
つくる ▽文を作る。▽橋を造る。
とく ▽プレゼントのつつみを解く。▽人の道を説く。
はかる ▽事件の解決を図る。▽校庭一周のタイムを計る。▽水の深さを測る。▽お米を計量カップで量る。

五年

営

おん エイ
くん いとなむ

いみ ㊀しごとをする。いとなむ。「経営・営業・造営・営林」㊁軍隊の建物。「兵営・野営・営門」

《使い方》

▽父の店は、経営が苦しくなった。▽おじは食堂を営んでいる。▽ソ連には、ソホーズという国営農場がある。▽営営と(=せっせと)仕事にはげむ人人。▽営林署の人は、深い山の中で仕事をしている。▽寺や神社の建物を造ることを造営という。▽兵営(=兵隊の住んでいる建物)から大ぜいの兵隊が出てきた。

× 営　○ 営

◎口(くち)の部・12(9)画

善

おん ゼン
くん よい

↕悪 163

下にださない

いみ よいこと。正しいこと。「善悪・善意・善良・最善・独善」

《使い方》

▽この町の人はみんな善良です。▽友だちのかくれた善行をほめたたえた。▽この事件は、すべてわたしが善処します。▽最善をつくしたのだから失敗しても後かいしない。▽善は急げ(=よいことは、すぐ実行せよ)。▽善意(=人のためを思う、よい心)が、かえってめいわくになった。▽ものごとの善悪を、わきまえる。▽善い行いはすすんでしよう。

参考 「喜」とまちがえやすい。

◎口(くち)の部・12(9)画

五年

報

おん ホウ
くん むくいる

いみ ㊀こたえる。むくいる。「報恩・報国・報復」㊁知らせる。「報告・報道・予報・電報・報知機」

《使い方》

▽りっぱな人になって、親の恩に報いたい。▽一日の報しゅう(=仕事をした人にはらうお金)は八百円です。▽委員会の決定を先生に報告する。▽きのうの大火事のことはけさの新聞に大きく報道されている。▽東京へ着く時間を電報で知らせる。

参考 「服」とまちがえやすい。

× 報　○ 報

◎土(つち)の部・12(9)画

富

おん フ・フウ
くん とむ・とみ

↕貧 296

丶 宀 宫 富 富 富

いみ ㊀ざいさんがふえる。ざいさん。「富力・貧富・富裕*」㊁ゆたか。「豊富」

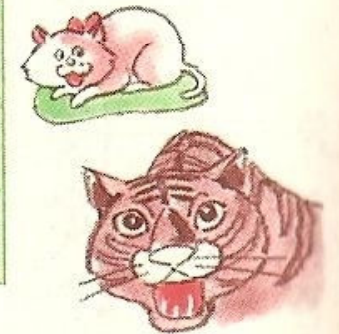
《使い方》

▽地位も富もすてて、家を出てしまった。▽かれは外国で巨*万の富をきずいた。▽子どもは、この上なくすばらしい富である。▽富裕*な県と貧しい県の差をなくす。▽豊富な水と肥えた土地がほしい。▽かれは少年のころから文才(=文章をじょうずにつくるうでまえ)に富んでいた。▽かれは富貴な家(=金持ちで身分の高い家)の生まれです。

◎宀(うかんむり)の部・12(9)画

属

おん ゾク
くん ―

コ 尸 屌 属 属 属

いみ ㊀つく。したがう。「付属・専属・所属・配属・属国・従属」㊁なかま。「金属」

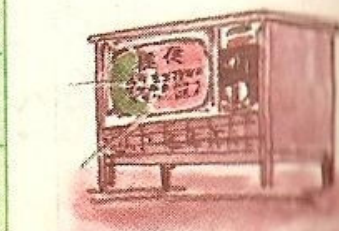
《使い方》

▽大学の付属病院に入院する。▽ぼくが所属している部は、野球部です。▽インドはもとイギリスの属国(=よその国によって支配されている国)であった。▽兄は経理部に配属されている。▽大国に従属する(=したがっている)。▽ライオンは、ねこ科に属する動物である。▽金・銀・銅・鉄・すずなどは、すべて金属(=鉱石のなかま)である。

◎尸(しかばね)の部・12(9)画

提

おん テイ
くん さげる

扌 捍 揑 提 提 提

いみ ㊀さげる。もつ。「提出・提供」㊁さしだす。「提案・前提」

《使い方》

▽弟はランドセル、ぼくは手提げかばんで学校へ通う。▽みつばちと花について研究した記録を提出した。▽このテレビ番組は、自動車会社の提供である。▽ことしから、みんなで日記をつけようと、父が提案した。▽必ず実行することを前提(=前置き)にして、早起き会の計画をたてた。▽ぼくが提唱して(=意見や考えをいいだして)、毎朝十五分間かけ足をすることになった。

◎手(て)の部・12(9)画

復

おん フク
くん —

↕往 273

彳 彳 𢓜 𢓜 復 復 復

いみ ㊀かえす。かえる。もどる。「往復・復職・回復」㊁くりかえす。「反復・復唱・復習」

《使い方》

▽わたしの家から学校まで往復二時間かかる。▽おじは病気がなおって復職した。▽戦後の日本は、めざましい勢いで復興した。▽病気がやっと快復した。▽帰ってから算数の復習をした。▽反復して（＝くりかえして）練習する。

参考 「複」「腹」と、まちがえやすい。

彳＋复＝復
衤＋复＝複
月＋复＝腹

◇彳（ぎょうにんべん）の部・12（9）画

検 †

おん ケン
くん —

木 木 杉 枪 检 検

いみ しらべる。「検査・点検・探検・検挙・検針・検札*・検討」

《使い方》

▽悪い所がないかよく点検しなさい。▽検眼をして、めがねを買った。▽南極探検隊は元気に出発した。▽犯人を検挙する（＝つかまえる）。▽学校で身体検査をうけた。▽石川先生は修学旅行の下検分（＝下しらべ）にでかけられた。▽この問題はあとで検討しよう。

参考 「険」とまちがえやすい。

木＋㑒＝検
阝＋㑒＝険
馬＋㑒＝験

◇木（き）の部・12（8）画

測

おん ソク
くん はかる

氵 氵 汌 泪 浿 測

いみ ㊀深さ・きょりなどをしらべる。はかる。「測定・目測・測量」㊁おしはかる。「予測・推測・おく測」

《使い方》

▽海の深さを測る。▽むこう岸までのきょりを目測する。▽太陽の黒点を観測する。▽駅から家までのきょりを実測する（＝実さいにはかる）。▽村の耕地面積の測量を行う。▽台風の進路を予測する。▽事故の原因を推測する。

参考 「側」「則」とまちがえやすい。

測 測量
側 右側を歩く

◇氵（さんずい）の部・12（9）画

五年

減

↕増 310

おん ゲン
くん へる・へらす

氵 氵 汇 洉 減 減

いみ ㊀少なくなる。へる。「減少・減水・減税・減退・半減・減収」㊁ひきざん。「減法」

《使い方》

▽夏やせで、体重が減った。▽ことしは米の収穫*高が減少した。▽会の予算は、昨年度と比べて増減なしです。▽長い間雨が降らないので、ダムが減水した。▽あまり暑いので、食欲が減退した(=へった)。▽はんそくがあったので減点する。▽引き算のことを減法という。

参考 「滅*」とまちがえやすい。「滅*」は、「ほろびる」意味。

◇水の部・12(9)画

無

↕有 129

おん ム・ブ
くん ない

ノ 𠂉 仁 無 無 無

いみ ㊀ない。「有無・絶無・皆*無・無事・無数・無益」㊁あることばの上につけて、そのいみをうちけすことば。「無気力・無作法」

《使い方》

▽きょうは、ひなん訓練のため、午後の勉強は無かった。▽欠席者は皆*無(=少しもないこと)です。▽空には無数(=数えられないほどたくさん)の星がきらめいている。▽兄は山から無事に帰ってきた。▽大病をしてからすっかり無気力になった。▽日本には、無医村(=医者のいない村)がかなりある。

◇火の部・12(8)画

五年

程

おん テイ
くん ほど

千 禾 和 和 秤 程

いみ ㊀きまり。「規程・日程」㊁ものごとのどあい。「程度」㊂みちのり。「道程・旅程・過程・里程」

《使い方》

▽規程(=きまり)にはずれた行為*をすれば罰*せられる。▽修学旅行の日程(=毎日の予定)が発表されました。▽この問題は五年生には程度が高すぎる。▽このピアノは音程(=二つの音の高さのちがい)がくるっている。▽小学生の中で、きみ程速く走る子どもはいないだろう。▽自動車の発達の過程を調べる。▽目的地までの旅程(=旅行のみちのり)を調べる。

◇禾の部・12(7)画

税

おん ゼイ
くん ―

いみ みつぎもの。ぜいきん。「納税・国税・減税・税関・税務署」

《使い方》▽納税（＝税金を納めること）は国民の義務です。▽来年から減税すると公約した。▽税関（＝輸出入品の税金をとりたてる役所）を通さずに、外国から品物を持ちこむことはできない。▽脱*税（＝納めるべき税金をごまかして納めないこと）をすると処罰*される。

参考 むかし税金は、米や布でしはらった。また、米や布の代わりに国の仕事をすることもあった。

◇禾（のぎ）の部・12（7）画

衆

おん シュウ・シュ
くん ―

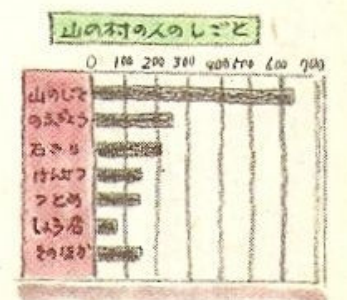
いみ 多い。多くの人。なかま。「民衆・衆議院・大衆・群衆・衆知・衆生・若い衆・衆目・聴*衆」

《使い方》▽民衆の願いを実現するのが政治家の仕事である。▽国会には、衆議院と参議院がある。▽おしゃかさまは衆生（＝すべての生き物）を救おうとされた。▽広場の群衆が、いっせいにさわぎだした。▽公衆（＝世間の人人）の面前ではずかしめられた。

参考「シュ」の音は、「衆生」ということばなどに使われる。「象」とまちがえやすいので注意する。

◇血（ち）の部・12（6）画

統

おん トウ
くん すべる

いみ ㊀一つにまとめる。おさめる。「統治・統一・統制・統計・大統領」㊁すじ。ちすじ。「血統・系統」

《使い方》▽将軍は、政治も軍事も一手に統べる最高の地位にあった。▽ラジオから、大統領の声が流れてきた。▽人口増加の統計をグラフにまとめた。▽大人数の選手団を統率するのはなかなかむずかしい。▽この犬は血統書つきの名犬です。▽もっと系統的に調べた方がよい。

参考「のこらず」の意味の「すべて」は、「統べて」とは書かない。

◇糸（いと）の部・12（6）画

五年

絶

おん　ゼツ
くん　たえる・たやす・たつ

絶 絶 絶 絶 絶 絶

いみ　㈠たちきる。たつ。たえる。「絶望・断絶・気絶・絶食・絶命」㈡ことわる。「拒*絶・謝絶」㈢すぐれる。「絶景・絶唱」㈣ひじょうに。まったく。「絶大・絶無・絶滅*」

《使い方》

▽友だちからのたよりが絶える。▽ささいなことからけんかになって、ふたりは絶交した。▽あらしの中を出港した船が消息を絶った。▽火種を絶やさないように注意してください。▽手術したばかりなので面会謝絶です。▽この風景画は絶品ですね。▽とき(=鳥の名)は絶滅*しそうです。

◇糸(いと)の部・12(6)画

評

おん　ヒョウ
くん　―

言 言 訂 訂 評 評

いみ　物事のよい悪いを判断してのべる。「批評・評判・定評・評価」

《使い方》

▽作文をよんで批評し合う。▽こんどの市長の評判はなかなかよい。▽好評をはくする(=よいという評判をうける)。▽あの店は清けつなことで定評がある。▽最近出版された童話集の書評が新聞にでていた。▽公平に評価して、どの作品もあまりよくなかった。

参考　「言(=ことば)」と「平(=公平)」が合わさって、「公平なことば」の意味を表す。

◇言(いう)の部・12(5)画

証

おん　ショウ
くん　―

言 言 訂 訂 訂 証

いみ　㈠しょうめいする。しょうめいしたるし。「証書・証明・確証・証拠*・証言・証人」㈡うけあう。「保証」

《使い方》

▽無罪を証明することができた。▽確証(=確かな証拠*)が得られた。▽これだけ証拠*がそろっていてはもういいのがれはできない。▽事件を見ていた人が、裁判所で証言した。▽品物を納めたら受領証をもらってきなさい。▽父は身分証明書を常に持っている。▽かれの人がらはぼくが保証します(=うけあいます)。

◇言(いう)の部・12(5)画

賀

おん ガ
くん ―

フ カ 加 加 智 智 賀 賀

いみ よろこぶ。いわう。「参賀・年賀状・謹*賀新年・祝賀会」

《使い方》
▽かれの受賞をいわって、祝賀会を開いた。▽元日の朝、家族そろって年賀状を読み合うのはとても楽しい。▽「謹*賀新年」というのは、つつしんで新しい年をいわうという意味です。▽お正月には、皇居に参賀する人が多い。

参考 年賀状に書くことば。

貸

おん タイ
くん かす

イ 代 代 代 貸 貸 貸

いみ じぶんの物を人に使わせる。かす。「貸し借り・貸間・貸借」

↕借 218

《使い方》
▽このあいだ貸した本を返してください。▽秋の旅行は、貸し切りバスで行くことになった。▽友だちどうしでお金の貸し借りをするのはよくない。▽はなれを貸間にした。▽食堂につとめる人には、制服を貸与*する(=貸し与*える)。

参考 「貸」とまちがえやすい。「借りる」と「貸す」はまぎらわしい。「貸間」「貸家」などには「し」を送らない。

貿

おん ボウ
くん ―

匚 匚 卯 卯 貿 貿 貿

いみ あきなう。うりかい。「貿易・貿易港・貿易船」

《使い方》
▽日本は世界の国国と貿易をしています。▽かんづめは、海外貿易にも大きな役割をはたしている。▽輸出額と輸入額のつりあいがとれない状態の貿易を片貿易といいます。▽横浜*は日本有数の貿易港である。▽貿易風は北半球では北東の風、南半球では南東の風になります。

参考 「卯」が「とりかえる」意味で、貝(=お金)と物とをとりかえることからできた。

五年

過

おん カ　くん すぎる・すごす・あやまつ・あやまち

冂 冋 冎 咼 咼 過

いみ ㊀うつりゆく。すぎる。「通過・過去・経過」㊁程度をこす。「過当競争・過激*・過敏*」㊂あやまち。「過誤・過失・大過」

《使い方》

▽過ぎたことをあれこれ言ってもしかたがない。▽夏休みは海辺の村で過ごした。▽過日(=この間)決めたことを実行しよう。▽手術後の経過は順調です。▽過労がたたってついにたおれた。▽過度の勉強は健康をそこなう。▽運転手の過失から大きな事故になった。▽過って川に落ちた。▽過ちをくりかえしてはならない。

◎辶(しんにょう)の部・12(9)画

墓

おん ボ　くん はか

一 艹 芇 昔 莫 墓

いみ 死んだ人をうめる所。はか。「墓参り・墓参・墓前・墓標」

《使い方》

▽おひがんには、家族そろって墓参りに行く。▽墓前に花や線香*をそなえる。▽おかの上に、新しく墓地がつくられた。▽古墳*はおおむかしの人のお墓です。▽山の中腹の墓地に、新しい墓標(=墓のしるしに立てた木や石)が見える。

参考 「莫(=おおう)」と「土」で、「人を土でおおいうずめた所」の意味を表す。

募(ぼ)　墓(ぼ)

◎土(つち)の部・13(10)画

五年

幹

おん カン　くん みき

十 古 卓 𠦝 𠦝 幹

いみ ㊀木の太いところ。みき。「根幹」㊁だいじなところ。中心。「幹部・幹線・幹事」

《使い方》

▽幹の太いまつの木がおいしげっている。▽初めて東海道新幹線に乗って大阪*まで行った。▽姉は、同窓会の幹事(=せわをする役)にえらばれた。▽会社の幹部(=中心になってはたらく人)が集まって重要な相談をしている。▽この道は東京へ行く幹線道路です。

参考 「乾*」とまちがえやすい。「乾*」は、「ほす・かわく」の意味。

◎干(かん)の部・13(10)画

損 †

おん ソン
くん そこなう・そこねる

扌 扌 扣 捐 捐 損

いみ ㊀すくなくなる。へる。うしなう。「損失・欠損・損益」㊁そこなう。きずつける。「破損・損傷」

《使い方》

▽こんどの水害による**損**失は約五千万円といわれる。▽雨が続いたため海水浴場は大きな**損**害をこうむった。▽台風のため橋が破**損**してわたれなくなった。▽貸し衣装*屋は**損**料(=貸し賃)をとって着物を貸す。▽主人のきげんを**損じ**た(=きげんを悪くさせた)。▽がんばるのはよいが、健康を**損な**わないようにじゅうぶん気をつけなさい。

準

おん ジュン
くん ―

氵 汁 汁 汁 淮 準

いみ ㊀ならう。きまり。手本。「規準・標準・水準」㊁正式のものにつぐ。なぞらえる。「準急・準決勝・準会員」

《使い方》

▽あらたまった場では、標**準**語をつかうようにしよう。▽この学校の学力の水**準**はかなり高い。▽お客さまをむかえる**準**備がととのいました。▽ソフトボール大会で、ぼくたちの組は**準**決勝まで進んだ。▽上野から**準**急に乗って信州へ行った。▽分校の式は、本校の式に**準じ**て行う。

参考 「準」と書いてはまちがい。

禁 †

おん キン
くん ―

十 木 林 林 埜 禁

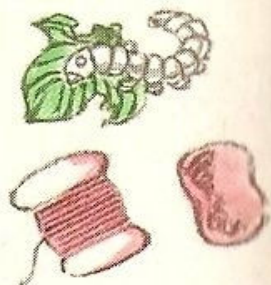
いみ ㊀やめさせる。さしとめる。「禁止・禁煙*・禁句」㊁さしとめてあること。してはいけないこと。「国禁・解禁」㊂天皇のおすまい。皇居。「禁中・禁裏」

《使い方》

▽ここで野球をすることは**禁じ**られている。▽車内は**禁**煙*です。▽むかし、高野山は女人**禁**制(=女性の立ち入りを**禁**止したこと)の山だった。▽江*戸時代に外国へ行くことは国**禁**であった。▽この川のあゆの解**禁**は六月一日です。▽**禁**中(=皇居)に参上する。

五年

絹

おん ケン
くん きぬ

么 幺 糸 糸口 絹 絹

いみ かいこのまゆからとった糸。また、その糸でおった布。「絹織物・絹布・絹糸・人絹・本絹」

《使い方》

▽絹糸でししゅうをする。▽人絹（＝絹ににせてつくったもの）にも、本絹（＝本物の絹）にまさる点がある。▽むかし、絹布は貴重品であった。▽日本の絹織物の生産高は世界一である。▽このふすまは絹張り（＝絹の布がはってあるもの）です。▽むかし、中国の絹をヨーロッパへ運ぶ商人が通った道を絹街道という。

× 絹　○ 絹

◎糸（いと）の部・13（7）画

罪

おん ザイ
くん つみ

冂 罒 罒 罒 罪 罪（はらう）

いみ きまりにそむくこと。悪い行い。「罪人・犯罪・無罪・謝罪・功罪・重罪」

《使い方》

▽罪をにくんで人をにくまず。▽暗いところでは犯罪がおこりやすい。▽むかし、罪人は島流しにされた。▽今までの罪ほろぼし（＝罪のつぐない）をする。▽アリバイが成立して無罪になった。▽謝罪文を書いた。▽罪のない（＝むじゃきな）いたずらをする。

参考 「罰*」とまちがえやすい。

罪 → 罰 ← 訓

◎罒（よこめ）の部・13（8）画

群

おん グン
くん むれる・むれ・むら

フ ヨ 尹 君 群 群

いみ ㊀むらがる。むれ。「群衆・群島・群集・一群」㊁多くの。「群臣・群雄*」

《使い方》

▽がんの群れがぬま地にやってきた。▽ごみばこには、はえが群がっている。▽いなごの大群が畑をおそった。▽広場に集まった群衆に向かって演説を始めた。▽戦国時代は群雄*（＝多くの英雄*）がたがいに争った。

参考 「郡」とまちがえやすい。「群集（＝大ぜい群がり集まること）」と「群衆（＝群がり集まった人人）」の使い方に注意する。

◎羊（ひつじ）の部・13（7）画

義

おん ギ
くん ―

丷 䒑 羊 羊 義 義

いみ ㊀正しいこと。「正義・忠義・義士」㊁わけ。いみ。「意義・疑義」㊂血のつながりのない。「義兄・義母」㊃ほんものの、かわり。「義手・義眼」

《使い方》

▽正義(＝正しい道)のために命をすてて戦う。▽小・中学校は義務教育である。▽夏休みを有意義にすごそう。▽先生の講義を聞く。▽ねえさんのおむこさんは、ぼくの義兄だ。▽戦争で足をなくしたので義足をつけて歩いている。

参考 「儀*」「議」などとまちがえやすい。

解

おん カイ・ゲ
くん とく・とかす・とける

⺈ 角 角 角 解 解（つきだす）

いみ ㊀ばらばらにする。「解体・解散・分解」㊁やめる。なくす。「解禁・解消・解毒」㊂さとる。わかる。わかるようにする。「解答・理解・解説・弁解」㊃答え。㊄ほどく。とく。

《使い方》

▽理科で、かえるの解剖*をした。▽式が終わったので解散した。▽解熱剤*のおかげで熱が少し下がった。▽大雨注意報が解除になる。▽応用問題を解く。▽ニュース解説をきく。▽問題の解を求める。▽帯が解ける。

参考 「角」は「ばらばらにする」意味。刀で牛をばらばらにすることか

豊 †

おん ホウ
くん ゆたか

口 巾 曲 曲 豊 豊

いみ ㊀たくさんある。「豊富・豊作・豊年・豊漁」㊁ふとっている。「豊満」

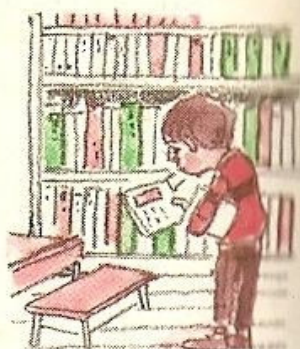
《使い方》

▽ことしは豊年だ。▽いねが豊かにみのる。▽この地方は水が豊富だ。▽新しい産業のおかげで生活が豊かになる。▽豊かな才能にめぐまれた少年。▽ことしはさんまが豊漁だ(＝たくさんとれた)。▽豊満な(＝まるまるとした)ほおをした少女。

参考 豊は食器(豆)に食物を入れた形。丰は「ホウ」という音と「たくさん」の意味を表す。

五年

資

おん シ
くん ―

いみ ㊀もと。もとで。費用。「資本・資金・学資」㊁もとになるもの。「資源・資材・資料」㊂生まれつき。「資質」㊃身分。くらい。「資格」㊄財産。「資産」

《使い方》

▽店を経営する資金が必要なのだ。▽研究に必要な資料を集める。▽あの子は絵に対して、すぐれた資質（＝生まれつきの性質）をもっている。▽決勝戦にでる資格をとった。▽資産家（＝金持ちの家）のむすめに生まれた。

参考 お金に関係のある字には「貝」がつく。

◇貝（こがい）の部・13（6）画

鉱

おん コウ
くん ―

いみ 金属などをふくんでいる石。「鉱物・鉱石・鉱山・鉱業・金鉱・鉱脈・採鉱・炭鉱」

《使い方》

▽父は鉱山（＝鉱石をほりだす山）で働いている。▽炭鉱から石炭をほりだす人を炭鉱夫または採炭夫という。▽ついに金鉱をさがしあてた。▽茨*城県の日立市は鉱業がさかんになったためひらけた町です。

参考 読みが同じで、まちがえやすいことば。鉄鉱（＝鉄をふくんだ鉱石）と鉄鋼（＝はがね）。炭鉱（＝石炭をほりだす鉱山）と炭坑*（＝石炭をほりだすあな）。

◇金（かね）の部・13（5）画

五年

預

おん ヨ
くん あずける・あずかる

いみ 人に保管してもらう。あずける。「預金・荷物一時預かり所」

《使い方》

▽手荷物を駅の一時預かり所に預けた。▽お年玉を銀行に預金した。▽友だちからだいじな品物を預かっている。▽うちでは学生を何人か預かっています。▽この問題の解決は、先生に預けて（＝まかせて）もらいたい。▽事件についての発表はしばらく預かる（＝ひかえる）。

参考 「予」とまちがえて使いやすい。

◇頁（おおがい）の部・13（4）画

像

おん ゾウ
くん ―

像 像 像 像 像 像

いみ ㊀すがた。かたち。「想像・現像・実像」㊁かたどる。にせてつくる。「仏像・銅像・自画像」

《使い方》

▽想像することしかできなかった月の世界に、とうとう人間がおりたった。▽運動会の写真を現像した。▽校門のわきに二宮金次郎*の像がある。▽奈*良へ行って古い仏像をおがむ。▽上野には西郷隆*盛*の銅像がある。▽かがみを見ながら、自画像をかく。

像(ぞう) 象(ぞう)

◇人(亻)の部・14(12)画

増

おん ゾウ
くん ふえる・ふやす・ます
↕減 301

増 増 増 増 増 増

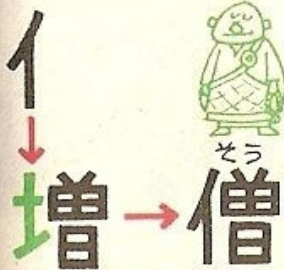
いみ 多くなる。ふえる。「増加・増額・増減・急増・増進・増築・水増し」

《使い方》

▽きのうの雨で、ダムの水量が増した。▽日曜日には、遊園地行きの電車を増発する。▽世界の人口はどんどん増加している。▽税金が昨年よりもおおはばに増えた。▽早起きは健康を増進する。▽はなれを増築した。▽ほめるとすぐ増長する(=調子にのってつけあがる)。

亻↓ 増→僧(そう)

◇土(扌)の部・14(11)画

五年

〈さんこう〉

◇重箱*読みと湯桶*読み◇

じゅく語の読み方は、ふつう、上の漢字を音で読めば下も音、上の漢字を訓で読めば下も訓で読みます。

〈音の例〉
圧力　遠足　現代　水泳　中立

〈訓の例〉
家元　色紙　市場　居間　粉雪

ところが、中には音読み・訓読みがまじっているものがあります。

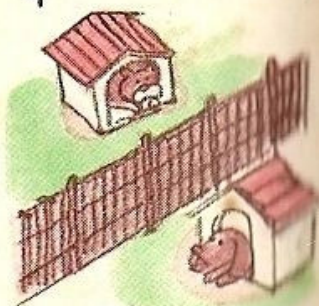
「重箱*」のように、上を音、下を訓で読むものを「重箱*読み」といい、「湯桶*」のように、上を訓、下を音で読むものを「湯桶*読み」といいます。

《重箱*読み》
役場　番組　王様　客間　一時　一割
頭取　台所　中古　毎年　昨夕　後手
素顔　天窓　総身　試合

《湯桶*読み》
雨具　歌会　古本　前金　横丁　赤字
関所　夕景　貸席　布地　手本　消印
野宿　夕食　石段

境

おん キョウ・ケイ

くん さかい

いみ ㊀さかい。くぎり。「国境・境界線・境内・県境」㊁ところ。場所。「環*境・辺境」㊂めぐりあわせ。ありさま。ようす。「心境・逆境・境遇*」

《使い方》

▽フランスとドイツの国境をこえた。▽となりの家との境にへいをつくる。▽神社の境内を歩く。▽子どもはよい環*境の中で育てたい。▽父を失い、財産もなくなった逆境の中でも、けっして明るさを失わない。

参考 「ケイ」の音は「境内」だけに使う。

◇土(つち)の部・14(11)画

徳

おん トク

くん ―

いみ ㊀人としてのりっぱな心や行い。「道徳・人徳・美徳・不徳」㊁めぐみ。「徳政」㊂りえきになる。「徳用品」

《使い方》

▽ちかごろは道徳がみだれている。▽みんなにすかれるのは、かれの人徳のせいだ。▽こんどの事件は、わたくしの不徳(=徳がたりないこと)のいたすところです。▽室町時代に、徳政令(=借金などをぼうびきにするという命令)が出された。▽この品はお徳用です。

損のはんたいは ○得 ×徳

◇彳(ぎょうにんべん)の部・14(11)画

慣

おん カン

くん なれる・ならす

いみ ㊀なれる。ならす。「慣用」㊁ならわし。「習慣・慣例・慣行」

《使い方》

▽北国の寒さにもやっと慣れました。▽山登りに備えて日ごろから足を慣らしておく。▽食事の前には手をあらう習慣を身につけよう。▽式はキリスト教の慣例(=ならわし)にしたがって行われた。▽運動会は、毎年十月一日に行うことが慣行となっている。▽「人をあごで使う」などという言い方を慣用句といいます。

参考 「なれなれしい」はかな書きにする。

◇心(こころ)の部・14(11)画

五年

態

おん タイ
くん —

いみ ㊀ありさま。ようす。「状態・生態」 ㊁すがた。かまえ。「態度・態勢・形態」

《使い方》

▽土地の開発の状態を調べに行く。▽ありの生態（=生きて育つようす）を観察する。▽まだこんな旧態いぜん（=むかしのまま）のやり方でやっている。▽しゅう態を演じる。▽学習ちゅうの態度はなかなかよい。▽新しいものを受け入れる態勢がまだできていない。

のう 能　くま 熊

心（こころ）の部・14（10）画

構

おん コウ
くん かまえる・かまう

いみ ㊀組み立てる。つくる。「構造・構内・構外」 ㊁かまえる。「心構え」 ㊂かかわる。相手にする。

《使い方》

▽機械の構造を調べる。▽放送の番組を構成する。▽文章を書く前によく構想をねる。▽この絵の構図はすばらしい。▽駅の構内に無断ではいってはいけない。▽りっぱな門構えの家だ。▽いざというときの心構えがたいせつだ。▽剣*道の試合で、上段に構える。▽雨の中を、ぬれるのも構わずに歩きつづけた。▽ねこを構っていて、ひっかかれた。

木（きへん）の部・14（10）画

五年

演

おん エン
くん —

いみ ㊀のべる。「演説・講演・演題」 ㊁おこなう。する。「演出・演奏・実演・上演・演芸・演劇」 ㊂じっさいにけいこをする。「演習」

《使い方》

▽電子計算機についての講演をきいた。▽候補者の立ち会い演説会が開かれる。▽ケーキの作り方を実演してもらった。▽体そうのみごとな演技に、はく手がおこった。▽かれは、リア王をみごとに演じた。▽運動会の予行演習は雨のため中止になった。

ただしくかこう

× ○ ×
演 演 演

水（さんずい）の部・14（11）画

精

おん　セイ・ショウ
くん　―

丷　米　米十　米丰　精　精

いみ　㊀白くする。「精米・精白」㊁こまかい。くわしい。「精密・精算・精巧*」㊂まじりけがない。「精製」㊃たましい。こころ。「精神・精進」㊄いきおい。元気。「精力」

《使い方》

▽精米所を見学に行く。▽乗りこした人は、まど口で精算してください。▽さとうを精製する(=まじりけのないものにする)。▽勝敗のわかれめは精神力にある。▽仕事に精を出す(=仕事をいっしょうけんめいする)。▽もう、精もこんもつき果てた。

参考　「清」とまちがえやすい。

◎米(こめ)の部・14(8)画

綿

おん　メン
くん　わた

く　幺　糸　糸'　糸白　綿　綿

いみ　㊀わた。「綿糸・綿布・綿織物」㊁ながく続く。「綿綿・連綿」㊂こまかい。小さい。「綿密」

《使い方》

▽ふとんの綿を入れかえた。▽いなかから綿入れの着物がとどいた。▽日本は綿花を輸入し、綿織物を輸出する。▽空には綿雲(=綿のような雲)がふんわりとうかんでいる。▽真綿は、綿花からではなく、かいこのまゆからとる。▽かれの家は連綿と続いてきたゆいしょのある家がらです。▽この事業をなしとげるのには、まず、綿密な計画が必要だ。

◎糸(いと)の部・14(8)画

総

おん　ソウ
くん　―

く　幺　糸　糸八　糸公　総

いみ　㊀あつめあわせる。「総合・総称・総会」㊁とりしまる。「総務・総理」㊂全体。すべて。「総員・総数」

《使い方》

▽母は父母会の総会にでかけました。▽総務部とは、事務のまとめ役をする部です。▽今の内閣総理大臣は何代めですか。▽日本の総人口は何人だろう。▽びわ湖は、総面積六七五平方キロメートルもある大きな湖です。▽卒業生総代として答辞を読む。▽一家を総動員して大そうじをする。

参考　「すべては終わった」などの「すべて」を「総て」とは書かない。

◎糸(いと)の部・14(8)画

五年

製

おん セイ
くん —

いみ こしらえる。つくる。「製造・製材・手製・作製・製法」

《使い方》

▽これはスイス製のとけいです。▽理科で、石けんの製法を学んだ。▽この会社の製品は質がよい。▽官製はがきを年賀状に使った。▽手製の弓矢で、鳥やけものをとってくらした。▽紙の製造工程を図にかいてみよう。

参考 「制」と区別して使う。

製作＝機械や品物をつくること。

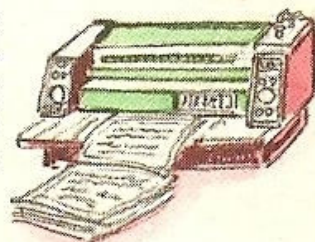
制作＝絵や彫*刻・工芸品などをつくること。

◇衣（ころも）の部・14（8）画

複

おん フク
くん —

†

↕単 212

おとさないように

いみ ㊀かさなる。かさねる。「重複」㊁数が二つ以上であること。「複数・複線・複写・複葉」

《使い方》

▽前の話と重複するところがあります。▽この鉄道もようやく複線になる。▽この書類を複写（＝同じものを同時に二まい以上うつしとること）してください。▽駅からの道順が複雑で（＝こみいっていて）わかりにくい。▽名画を複製する（＝もとのものと同じようにつくる）。

参考 「復（＝かえる、くりかえす）」とまちがえやすい。

◇衣（ころも）の部・14（9）画

適

おん テキ
くん —

いみ あてはまる。ちょうどよい。「適当・好適・適任・適度・快適」

《使い方》

▽「いたずら」という題名は、この作文の内容に適している。▽適度の（＝ほどよい）運動は、健康によい。▽かれは学級委員として適任である。▽この本をつつむのに適当な（＝ちょうどよい）紙はないかしら。▽きょうは快適なハイキングびよりだ。▽子どもの能力に適応した指導を行う。

参考 よくにた字。

①適＝適切 ②敵＝敵味方
③摘*＝摘*発 ④滴*＝水一滴*

◇辶（しんにょう）の部・14（11）画

五年

酸

おん　サン
くん　すい

一 西 酉 酢 酸 酸

いみ　㈠すっぱい。す。「酸味」㈡つらい。かなしい。「辛*酸」㈢青色のリトマス試験紙を赤色にかえるせいしつのあるもの。「塩酸・酸類・酸性」㈣酸素のりゃく。「酸化」

《使い方》

▽うめぼしは酸味が強い。▽このぶどうは酸っぱい。▽世の中の酸いもあまいも心得ている人。▽成功するまでには多くの辛*酸をなめた（＝つらく苦しいめにあった）。▽塩酸や硫*酸などを酸類という。▽酸素は空気の約五分の一をしめている。▽鉄が酸化してさびを生じた。

◎酉（ひよみのとり）の部・14（7）画

銅

おん　ドウ
くん　——

今 金 釒 釦 銅 銅

いみ　鉄より重く、電気や熱をよく伝える金属。あかがね。「銅貨・銅山・銅像・銅板・分銅」

《使い方》

▽世界各国の銅貨を集める。▽教会で見た青銅のキリストの像がとても印象的だった。▽郷土のためにつくした人の銅像が建った。▽海ではたらく漁師のからだは赤銅色にかがやいている。▽めずらしい銅器（＝銅で作ったうつわ）を見せてもらった。

参考　金属の別の名。
銀＝しろがね　銅＝あかがね
鉄＝くろがね　金＝こがね

◎金（かね）の部・14（6）画

銭

おん　セン
くん　ぜに

今 金 釒 銭 銭 銭

いみ　㈠お金の単位。円の百分の一。「銭湯」㈡お金。「金銭・古銭・小銭」

《使い方》

▽小銭（＝こまかいお金）がないと、バスに乗るとき不便だ。▽パンを買ってつり銭を受けとる。▽金銭をだいじにする。▽神社にお参りしておさい銭をあげる。▽安物買いの銭失い（＝安い物は質が悪いのですぐだめになり、けっきょく損になる）。▽近所に新しく銭湯ができた。▽一銭でもむだに使うな。

金＋戋＝銭
氵＋戋＝浅

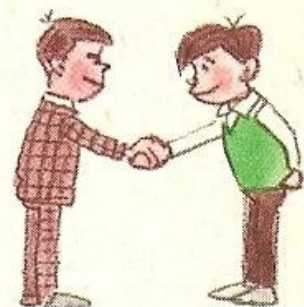
◎金（かね）の部・14（6）画

五年

際

おん サイ
くん きわ

阝 阞 阣 陘 際 際

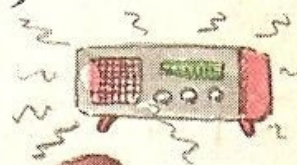
いみ ㊀おり。ばあい。「実際」㊁まじわる。「交際・国際」㊂かぎり。「際限」㊃であう。「際会」きわ。はて。

《使い方》
▽この際思いきって外国へ行ったらどうか。▽この仕事は、実際、むずかしい。▽アメリカ人と手紙で交際をしている。▽国際会議に出席する。▽だまっていると際限(=かぎり)なく遊んでいる。▽勝負は土俵際であっけなくきまった。▽おそろしい事故に際会した(=であった)。

参考 「阝」がつかないと、「まつり」の意味の「祭」になる。

◎阝(こざと)の部・14(11)画

雑

おん ザツ・ゾウ
くん ―

九 杂 䢿 䢿 雑 雑

いみ ㊀いりまじっている。「雑木林・雑貨・雑誌・雑記帳」㊁ていねいでない。そまつ。「粗雑」

《使い方》
▽このあたりには雑木林が多い。▽お正月にはお雑煮*をたべないと気分がでない。▽団地の中に雑貨屋が店開きした。▽雑草のように強く生きなさいと言われた。▽会議ちゅうに雑談(=むだ話)をしてはいけない。▽ラジオに雑音がはいる。▽たいせつな本を雑にあつかってはいけない。

× 雑　○ 雑

◎隹(ふるとり)の部・14(6)画

領

おん リョウ
くん ―

ヘ 令 令 領 領 領

いみ ㊀おさめる。「領土・占*領・大統領・首領」㊁中心になる所。「要領・本領」㊂受けとる。「領収・受領」

《使い方》
▽領土をひろげようとする国があると戦争が始まる。▽領海(=その国の領分である海)をおかすとばっせられる。▽新しい大統領が決まった。▽かれは図工の時間になると本領(=もちまえの才能)を発揮する。▽仕事を要領よくやりなさい。▽品物はたしかに受領しました。▽領収書は必ずうけとってください。

参考 「預」とまちがえやすい。

◎頁(おおがい)の部・14(5)画

五年

導

おん ドウ
くん みちびく

䒑 首 道 道 導

いみ ㊀あんないする。つたえる。「誘*導・導体・導入」㊁おしえる。「指導・補導」

《使い方》

▽犬に導かれてやっと森をぬけ出た。▽あの日のことが、事件の導火線となった。▽火事のとき、従業員がおちついてお客を誘*導した。▽外国から技術を導入する(=導きいれる)。▽水泳の指導を受けた。▽家出した少年を補導する。▽今後もよろしくお導きください。

参考 「伝導」は、熱や電気を伝えること。「伝道」は、教えを伝えること。

◇寸(すん)の部・15(12)画

敵

おん テキ
くん かたき

亠 产 商 啇 敵

いみ たたかいやきょうそうの相手。「敵味方・敵意・敵将・敵国・敵対・強敵・大敵・敵役」

《使い方》

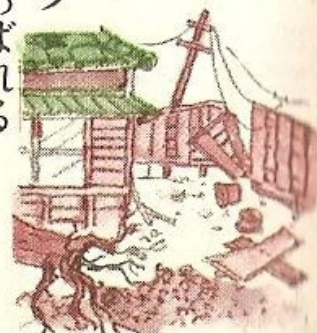
▽ナイチンゲールは、敵味方の別なく、きずついた兵士の手当てをした。▽敵ながらあっぱれな態度である。▽いくら兄弟でも、運動会では敵どうしだ。▽予選で強敵と当たった。▽好敵手(=力やわざが同じくらいのよい相手)を得て、おたがいにますますわざをみがく。

参考 「適」や「摘*」とまちがえやすいので注意する。

◇攵(ぼくにょう)の部・15(11)画

暴

おん ボウ・バク
くん あばく・あばれる

日 旱 昗 晃 暴 暴

いみ ㊀あらあらしく、はげしい。「暴風・暴落・暴力・暴飲暴食・乱暴・暴行・暴利」㊁あばく。「暴露*」

《使い方》

▽暴風で庭の木がおれてしまった。▽どんなことがあっても暴力をふるうな。▽「五人や十人死んだってかまわん」と暴言(=乱暴なことば)をはいた。▽あの店は暴利(=ひどいもうけ)をむさぼっている。▽ぼくは、クラス一の暴れんぼうといわれる。▽人のひみつを暴く。

参考 「バク」と読むときは「あばく」意味。「爆*」や「瀑*」とまちがえやすい。

◇日(ひ)の部・15(11)画

歓

おん カン
くん ―

いみ よろこぶ。よろこび。「歓迎*・歓喜・歓声・交歓・歓待・歓談・歓送・歓呼」

《使い方》

▽心ゆくまで歓談した(=うちとけて話し合った)。▽新しくはいった人の歓迎*会を開く。▽美しいながめに思わず歓声をあげた。▽お客さまをうちじゅうで歓待する(=喜んでもてなす)。▽日米学生の交歓会を開く。

参考 まちがえやすい字。観(=見る)・勧(=すすめる)

歓 勧 観

◎欠(けん)の部・15(11)画

潔

おん ケツ
くん いさぎよい

いみ ㊀けがれがなく、きよらかだ。「清潔・潔白・純潔・不潔」㊁あっさりしている。いさぎよい。「簡潔」

つきでない

《使い方》

▽身のまわりを清潔にする。▽身の潔白(=正しいこと)が証明された。▽男の子が髪*を長くのばしていると不潔な感じがする。▽父は潔癖*な人で、すこしの不正もゆるさなかった。▽はがきの文章は簡潔なのがよい。▽悪いと知ったら潔くあやまれ。▽武士らしく、潔い最期をとげた。

参考「喫*」とにているのでまちがえやすい。

◎水(氵)の部・15(12)画

確

おん カク
くん たしか・たしかめる

いみ しっかりしている。はっきりしている。たしか。「確実・正確・確立・確信・確定・確認」

《使い方》

▽確かなしょうこもないのに人を疑うのはよくない。▽内容をもっと正確に知りたい。▽必ず勝つと確信して(=かたく信じて)いた。▽合格の確定をまっておいわいをしよう。▽戦争ちゅうは食べ物を確保することがたいへんだった。▽相手の気持ちを確かめてからにしよう。▽全員の無事を確認した。

× 確　○ 確

◎石(いし)の部・15(10)画

五年

編

おん ヘン
くん あむ

いみ ㊀組み合わせる。あむ。くむ。「編み物・編成・編入・編隊・編曲」 ㊁本や新聞などをつくる。「編集・編者」

《使い方》

▽赤い毛糸でセーターを編む。▽編み上げぐつは、はくのに時間がかかる。▽飛行機が編隊を組んで飛んでいく。▽新学期から町の学校に編入する。▽ラジオの番組を編成する。▽学級新聞を編集する。▽トルストイの長編小説「戦争と平和」を読む。▽小説の後編を早く読みたい。

参考 「偏*」や「遍*」とまちがえやすい。

◇糸(いと)の部・15(9)画

質

おん シツ・シチ・チ
くん ―

いみ ㊀(もとになる)もの。どだい。「物質」 ㊁といただす。「質問」 ㊂生まれつき。性質。「気質・素質・品質・本質」 ㊃かざらない。「質素・質実」 ㊄約束*をはたすしるしとしてあずけておく物。「質屋・人質・言質」

《使い方》

▽ぼくは物質的にも精神的にもめぐまれている。▽えんりょなく質問しなさい。▽かれはいい素質をもっている。▽財産家なのに質素なくらしをしている。▽着物を質に入れた。▽この仕事は量より質(=内容)がだいじです。

◇貝(かい)の部・15(8)画

賛

おん サン
くん ―

いみ ㊀ほめたたえる。「賛美歌・絶賛・賛辞」 ㊁たすける。同意する。「賛成・賛意・賛助」

《使い方》

▽かれの絵は、みんなから賞賛された。▽よし子さんのピアノ演奏に絶賛(=ひじょうにほめたたえること)の拍*手がおくられた。▽教会から美しい賛美歌が聞こえてきた。▽月へいった三人の宇宙飛行士に、おしみない賛辞(=ほめたたえることば)がおくられた。▽賛成多数で、原案どおり決まった。▽賛否両論あって、なかなか決まらない。

◇貝(かい)の部・15(8)画

燃

おん ネン
くん もえる・もやす・もす

いみ もえる。もやす。「燃料・燃焼・可燃性・内燃機関」

《使い方》

▽船は一年分の燃料をつんで航海に出た。▽不完全に燃焼する（＝もえる）とすすがでる。▽ベンジンは可燃性（＝もえやすい性質）の液体です。▽強風下の火事で、なにもかも燃えてしまった。▽山のつつじが燃えるように赤い。▽古い手紙を燃やす。

参考 火（＝ひ・ひへん）・灬（＝れんが）は、火を表す。火・灬のつく字をあつめよう。災・炭・畑・焼・燈・点・然・照・熱・燃

火（灬）の部・16（12）画

築

おん チク
くん きずく

いみ たてものなどをつくる。きずく。「建築・増築・改築・築城」

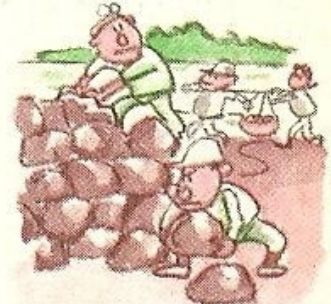
《使い方》

▽川にそって土手を築く。▽校舎を新築することになった。▽家がせまいのでひとへや増築（＝たてまし）した。▽法隆*寺は世界最古の木造建築である。▽太田道灌*という人が江*戸城を築いたといわれる。▽台所がくらいので改築する（＝たてなおす）。▽なにごとも基礎*を築くことがだいじだ。▽河口で築港工事（＝港をつくる工事）が進む。

○築 ×築

竹（⺮）の部・16（10）画

興

おん コウ・キョウ
くん おこる・おこす

いみ ㊀おもしろみ。おもむき。「興味・興ざめ・余興」㊁さかんになる。「復興・興隆*・振*興・興奮」

《使い方》

▽わたしは音楽に興味がある。▽クラス会の余興（＝おもしろさをますためのえんげい）に手品をする。▽おちぶれた家を興す。▽国の興亡をかけて戦う。▽大地しんにおそわれた町もようやく復興した。

参考 「起こす」は、じっとしていたものを起き上がらせる。「興す」は、ものごとをさかんにする。「子どもを起こす」「国を興す」。

臼（臼）の部・16（9）画

五年

衛

おん エイ
くん ―

衛衛衛衛衛衛

いみ まもる。「衛生・護衛・衛星・門衛・衛兵・自衛隊」

《使い方》

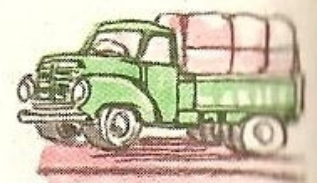
▽つゆどきはとくに衛生に注意しよう。▽国土を防衛する(=ふせぎまもる)。▽首相の護衛(=つきそって守ること)をする。▽夜間は守衛が工場内を見まわる。▽月は、地球の衛星(=わく星のまわりをまわっている星)である。▽暴力団に商売をじゃまされた町の人人が自衛のために立ち上がった。▽きれいな服装*の衛兵(=番兵)。

◎行(ぎょう)の部・16(10)画

○ 衛　× 衛

輸

おん ユ
くん ―

輸輸輸輸輸輸

いみ 品物をおくる。はこぶ。「運輸・輸出入・輸血・輸送」

《使い方》

▽国鉄では輸送力(=車や船で、品物や人をはこぶ能力)を増すための計画を進めている。▽金魚を日本からアメリカへ空輸する。▽日本では小麦粉を外国から輸入しなければならない。▽工業製品の輸出はのびています。▽輸血用の血液が大量に不足している。

参考 「輪」とまちがえやすい。

◎車(くるま)の部・16(9)画

績

おん セキ
くん ―

績績績績績績

いみ ㊀わたやまゆから糸をとる。つむぐ。「ぼう績」㊁わざ。仕事。「成績・実績」

《使い方》

▽この町には、ぼう績工場(=糸をつむぐ工場)が多い。▽今学期はよく努力したので成績が上がった。▽今までの実績がみとめられて、賞をもらった。▽世界的な業績(=事業の成績)を残す。▽スポーツ界にのこした、かれの功績(=てがら)は大きい。

参考 「積」とまちがえやすい。

◎糸(いと)の部・17(11)画

○ 成績　× 成積　○ 面積　× 面績

謝

おん シャ
くん あやまる

言 … 謝

いみ ㊀あやまる。「謝罪・陳*謝」㊁礼をいう。「感謝・謝礼・謝辞・月謝・謝恩」㊂ことわる。「謝絶」

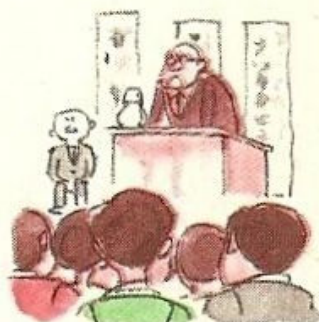
《使い方》

▽心から謝意(=おわびの気持ち)を表す。▽すぐに謝ったので、あまりしかられなかった。▽たくさんの謝礼(=たのんだ仕事に対するお礼)をいただいた。▽感謝の手紙がたくさん寄せられた。▽卒業式のあとでおせわになった先生を招いて謝恩会を開いた。▽病人が重体なので面会謝絶です。

謝→射

講

おん コウ
くん —

言 … 講

いみ ㊀ときあかす。話をする。「講演・講義」㊁なかなおりをする。「講和」㊂集まり。団体。「えびす講・大社講」

《使い方》

▽世界情勢についての講演を聞く。▽学校にりっぱな講堂ができた。▽お料理の講習会が開かれた。▽父は大学で毎週講義をしている。▽一九五一年、サンフランシスコで講和会議(=国と国がなかなおりをする会議)が開かれた。

参考 「構」とまちがえやすいので注意する。「自動車の構造」

織

おん ショク・シキ
くん おる

幺 … 織

いみ ㊀はたをおる。「手織り・織機」㊁組み立てる。組み合わせる。「組織」

《使い方》

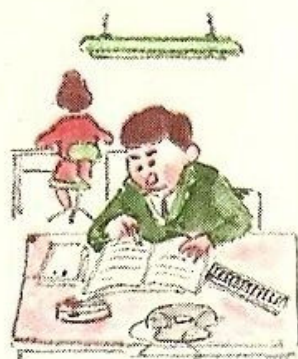
▽機を織る音がきこえる。▽厚い手織りのえりまきをもらった。▽自動織機が発明され、織物業は急速に発達した。▽七月七日のたなばたの夜に、織女星とけん牛星とが会うという伝説がある。▽会社の組織(=しくみ)をあらためて、もっと仕事をしやすくしたい。

参考 似た漢字の使い分けに注意

織＝織物（いとへん）
識＝知識（ごんべん）
職＝職業（みみへん）

五年

職

おん　ショク
くん　―

丅　Ｅ　聍　聕　職　職

いみ　つとめ。しごと。やくめ。「職業・就職・内職・官職・辞職」

《使い方》
▽おとなになったら職業をもってりっぱに生活する。▽東京の会社へ就職が決まった。▽職場の空気を明るくするように努めている。▽自分の職務に忠実でなければならない。▽議員を辞職する（＝やめる）ことになった。▽父は停年で退職した。▽母は内職の造花づくりにはげんでいる。▽職員室は、あちらです。

参考　「シキ」とは読まない。「織」「識」とまちがえやすい。

◇耳（みみ）の部・18（12）画

額

おん　ガク
くん　ひたい

宀　客　客　額　額　額

いみ　㊀ひたい。「前額部」㊁ぶんりょう。金銭のたか。「金額・多額・残額・総額」㊂絵などを入れてかけるもの。「額ぶち」

《使い方》
▽額が熱っぽい。▽ねこの額（＝せまいことのたとえ）ほどの土地に家を建てる。▽自動車の生産額は年年ふえている。▽金額が大きいから一度にははらえない。▽台風で総額五億円にのぼる損害を受けた。▽絵を額ぶちに入れる。

参考　「顔」とまちがえやすいので注意する。

◇頁（おおがい）の部・18（9）画

識

おん　シキ
くん　―

言　訁　諳　諳　識　識

いみ　㊀みわける。知る。「知識・意識・常識・識別」㊁かんがえ。「見識・識者」㊂しるし。「標識」

《使い方》
▽外国を旅行して、たくさんの知識を得た。▽色を識別する（＝見わける）力は、交通安全上にもたいせつだ。▽常識（＝ふつうの人がもっていなければならない知識）のない人はこまる。▽この問題については、識者（＝正しい判断力のある人）の意見を聞いてから決めたい。▽地図と標識をたよりに山をこえた。

参考　「職」や「織」とまちがえやすい。

◇言（うい）の部・19（12）画

五年

護

おん　ゴ
くん　—

いみ　まもる。まもり。「愛護・保護・護身・看護・弁護・加護」

《使い方》

▽弱い者を保護する。▽看護婦の仕事に生きがいを感じる。▽わたしは大きくなったら弁護士になりたい。▽今週は動物愛護週間です。▽大統領にはいつも護衛官がついている。▽護身術(=身を守る術)として、じゅう道をならう。▽とじこめられたあなの中で、神の加護(=守りたすけること)を念じて手を合わせました。

× 䕶　○ 護

ひらがなになった漢字

安	以	宇	衣	於	加	幾	久	計	己	左	之	寸	世	曽	太
あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	し	す	せ	そ	た

知	川	天	止	奈	仁	奴	祢	乃	波	比	不	部	保	末	美
ち	つ	て	と	な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ	へ	ほ	ま	み

武	女	毛	也	由	与	良	利	留	礼	呂	和	遠	无
む	め	も	や	ゆ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ	を	ん

かたかなになった漢字

阿	伊	宇	江	於	加	幾	久	計	己	散	之	須	世	曽	多
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ

千	川	天	止	奈	仁	奴	祢	乃	八	比	不	部	保	末	三
チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ

牟	女	毛	也	由	与	良	利	流	礼	呂	和	乎	无
ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヲ	ン

○じるしがついているものは、つづけ字などが、かたかなになったものです。

五年

6 年で習う字

六年で習う字

この表には、六年で習う漢字が、部首別にならんでいます。

漢字の部首というのは、字典で漢字をさがすとき、その目じるしになるものです。（くわしい説明は、四〇〇ページ「漢字の部首」にあります。）

調べたい漢字が、どの部首にはいっているかを考えてさがしましょう。

●印のついた字は、ほかの部首にも入れることのできる字です。

- 〔丶 てん〕 丸328
- 〔乙 おつ〕 乱338・ 乳342・
- 〔二 に〕 弐336・
- 〔亠 なべぶた〕 亡328
- 〔人 ひと〕
- 〔亻 にんべん〕 仁330 仲333 供342 俗348 値356 俳356 傷376 優389
- 〔儿 にんにょう〕 兆333 党356・
- 〔八 はち〕 兼357
- 〔冂 どうがまえ〕 冊331
- 〔几 つくえ〕
- 〔刀 かたな〕 処331・
- 〔刂 りっとう〕 刻342 創370 割370 劇384
- 〔力 ちから〕 幼332・ 勤371 勧376
- 〔卩 ふしづくり〕 危334 卵338 巻349
- 〔厂 がんだれ〕
- 〔口 くち くちへん〕 灰337・ 可331 后334 吸334 否339 呼343
- 〔囗 くにがまえ〕 困339
- 〔土 つち つちへん〕 垂343 城349 域363
- 〔士 さむらい〕 壱339
- 〔夂 すいにょう〕 処331・
- 〔大 だい〕 奏349 奮387
- 〔女 おんな おんなへん〕 好335 姿350
- 〔子 こ こへん〕 存335 孝340 乳342・
- 〔宀 うかんむり〕 宇335 宅336 宗343 宝344 宙344 宣350 密364 憲387・
- 〔寸 すん〕 寸328 専350 射357・ 将357 尊371
- 〔小 しょう〕 党356・
- 〔尢 だいのまげあし〕 就371
- 〔尸 しかばね〕 尺330 届345 展358 層380
- 〔己 き おのれ〕 己329
- 〔巾 はば きんべん〕 幕376・
- 〔干 ひる たてかん〕 干329
- 〔幺 いとがしら〕 幼332・
- 〔广 まだれ〕 庁332 座358
- 〔廴 えんにょう〕 延345
- 〔弋 しきがまえ〕 弐336・
- 〔弓 ゆみ ゆみへん〕 弓329
- 〔彳 ぎょうにんべん〕 径345 律351 従358
- 〔艹 くさかんむり〕 若348 著367 幕376・ 蒸379 蔵385
- 〔辶 しんにょう〕 遺386
- 〔阝 (右)おおざと〕 郷368 郵369
- 〔阝 (左)こざとへん〕 陛362 降363 障383
- 〔心 こころ〕

忘 340　忠 346　憲・387

〔戈 ほこづくり〕 我 340

〔手 て〕（扌 てへん） 批 341　拡 346　拝 346　担 347　推 364　捨 364　探 365　揮 372　操 387

〔攵 ぼくにょう〕 敬 372　厳 389

〔日 ひ ひへん〕 是 351　映 351　晩 372　暖 377

〔月 つき つきへん〕 朗 359　背・355　肺・355　胸・361　脳・366　腹・379　臓・391

〔木 き きへん〕 机 336　枚 347　染 352　株 359　棒 373　模 381

権 384　樹 388

〔欠 けつ あくび〕 欲 365

〔殳 るまた〕 段 352　穀・382

〔水 みず〕（氵 さんずい） 沿 347　泣 348　派 352　洗 353　泉 353　済 365　源 377　潮 385

〔火 ひ ひへん〕（灬 れんが） 灰・337　熟 385

〔片 かた かたへん〕 片 330

〔玉 たま〕

〔王 おう たまへん〕 班 359

〔田 た〕 異 366

〔疋 ひき〕 疑 381

〔疒 やまいだれ〕 痛 373

〔白 しろ〕 皇 353

〔皿 さら〕 盟 378

〔目 め〕 看 354

〔矢 や やへん〕 矢 332

〔石 いし いしへん〕 砂 354　磁 381

〔示 しめす〕（ネ しめすへん） 視・367

〔禾 のぎへん〕 私 341　秘 360　穀・382

〔穴 けつ あなかんむり〕

穴 333　窓 367

〔罒 よこめ あみがしら〕 署 378

〔竹 たけ たけかんむり〕 笑 360　策 373　筋 374　簡 390

〔米 こめ こめへん〕 糖 388

〔糸 いと いとへん〕 系 341　紅 354　純 361　納 361　縦 388　縮 390

〔羊 ひつじ〕 羊 337

〔羽 はね〕 羽 337　翌 366

〔耳 みみ〕 聖 378

〔肉 にく〕（月 にくづき） 背・355　肺・355　胸・361

脳・366　腹・379　臓・391

〔至 いたる〕 至 338

〔舌 した〕 乱・338

〔行 いく ぎょうがまえ〕 街 374

〔衣 ころも〕（衤 ころもへん） 補 374　裁 375　裏 379

〔見 みる〕 視・367　覧 390

〔言 いう ごんべん〕 討 362　訳 368　訪 368　詞 375　誠 380　誤 382　認 382　誌 383　論 386　諸 386　警 392

〔貝 こがい〕 貴 375　賃 380

〔身 み〕

射・357

〔釆 のごめ〕 釈 369

〔臣 しん〕 臨 391

〔金 かね かねへん〕 針 362　鋼 389

〔門 もん もんがまえ〕 閉 369　閣 383

〔隹 ふるとり〕 難 391

〔雨 あめ あめかんむり〕 需 384

〔革 かくのかわ〕 革 355

〔頁 おおがい〕 頂 370

〔骨 ほね〕 骨 363

六年

己

おん コ・キ
くん おのれ

コ　コ　己（あける）

いみ　じぶん。わたし。おのれ。「自己・利己・知己・克*己心」

《使い方》

▽人間は自己に対してきびしくなければならない。▽かれは自分のことしか考えない利己的な人だ。▽わたしは、かれを知って百万人の知己(=友だち)を得た気持ちだ。▽かれは克*己心(=自分の欲望にうちかつ心)の強い人だ。▽己の力を知れ。

参考　「已*・巳*」とまちがえやすい。「巳*」は十二支(=ね・うし・とら・う・たつ・み・…)の、み(=へび)。「已*」は「すでに」の意味。

◎己(おのれ)の部・3(0)画

干

おん カン
くん ほす・ひる

一　二　干（下をながく）

いみ　㊀かわかす。ほす。「干害・干満・干潮」㊁かかわりあう。関係する。「干渉*」

《使い方》

▽日でりがつづいて干害のおそれがでてきた。▽干満(=しおのみちひ)の差が大きい。▽干拓*地(=あさい海や湖の水をほしてつくった陸地)に大きな工場が建った。▽池の水が干上がった。▽干し草をつくって、冬の家畜*のえさにする。▽他国の内政に干渉*する(=横から口をだす)のはよくない。

ただしくかこう
× 　○　 ×

◎干(たてかん)の部・3(0)画

六年

弓

おん キュウ
くん ゆみ

コ　コ　弓

いみ　ゆみ。「弓術・弓道・強弓・弓状・弓形」

《使い方》

▽鎌*倉時代には、弓術が重んじられた。▽家の近くの弓道場で、毎日弓の練習をする。▽強弓(=つよい弓)をひく武士。▽主君に弓をひく(=そむく)。▽弓に矢をつがえる。▽日本の国土は、島が弓状につらなってできている。

参考　下が古い字の形。弓の形からできた。弓へんの字には、「引・張・強」などがある。「弟・弱」も弓の部にはいる。

◎弓(ゆみ)の部・3(0)画

仁

おん ジン・ニ
くん ―

ノ イ 仁 仁 仁（下をながく）

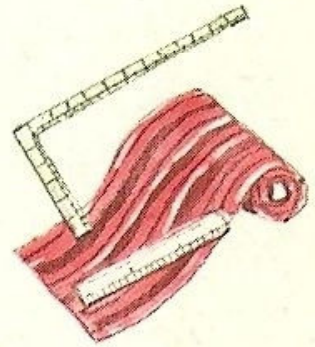
いみ おもいやり。いつくしみ。「仁者・仁愛・仁徳・仁術・仁政・仁義・一視同仁」

《使い方》
▽仁徳の高い行いをする。▽博士の仁愛に満ちた行いに対して、ノーベル平和賞がおくられた。▽仁政をしく（情け深い政治を行う）。▽医は仁術なり（=病気をなおすことは、情け深い行いである）。▽門の両側に仁王の像がある。

参考 「イ（=ひと）」と「二」からできている。「人が、ふたりいてなかよくしている」意味。

◎人（ひと）の部・4（2）画

尺 †

おん シャク
くん ―

フ コ 尸 尺

いみ ㊀むかし使われた長さの単位。一尺は約三〇・三センチ。「一尺・尺貫*法」㊁ものさし。「尺度・まき尺・くじら尺」

《使い方》
▽現在は尺貫*法を使っていない。▽一寸の十倍は、一尺です。▽善悪の尺度（=ものごとをはかるひょうじゅん）は、人によってちがう。▽まき尺で校庭の広さをはかる。▽尺八（=たけでつくった、たてぶえ）は、長さが一尺八寸（=約五五センチ）あることから尺八といわれます。

参考 尺の十倍は「丈*」といった。

◎尸（しかばね）の部・4（1）画

六年

片 †

おん ヘン
くん かた

ノ リ 片 片（一画でかく）

いみ ㊀かたいっぽう。はんぶん。「片親・片道」㊁きれはし。ひときれ。「一片・断片・紙片・破片・片言・片時」

《使い方》
▽大きな荷物を片手でもちあげる。▽片道だけ飛行機で行きます。▽ガラスの破片で手を切った。▽断片的な話なのでよくわからない。▽母のことは片時（=ちょっとの時間）もわすれたことはない。▽妹はまだ片言しか話せません。

参考 下が古い字。木（米）を半分に分けた形からできた。

◎片（かた）の部・4（0）画

冊 †

おん　サツ・サク
くん　―

丿 冂 冂 冊 冊

いみ　㊀かきつけ。書物。「冊子・分冊・別冊・短冊」㊁書物を数えることば。「一冊・数冊」

《使い方》

▽自分の書いたものを小冊子にまとめる。▽雑誌を買ったら別冊のふろくがついていた。▽国語の教科書は上下二冊の分冊になっている。▽短冊に和歌をしるす。▽学級文庫には、約六十冊の本が用意されている。

参考　紙のないころ、竹のうすい板に文字を書いた。その板をならべてあんだ形からできた字。

◇冂(どうがまえ)の部・5(3)画

処

おん　ショ
くん　―

ノ ク 夂 夂 処

いみ　㊀いる。いるところ。「出処・居処」㊁きまりをつける。しまつする。「処置・処刑*・処分・善処・対処」

《使い方》

▽出処進退をあきらかにする。▽病院についたときには、もう処置(=手当て)のしようがなかった。▽そのことについては善処する(=うまく処理する)。▽この仕事をうまく処理してほしい。▽死刑*に処する。▽ごみを処分する(=しまつする)。▽さくの中にはいると処罰*されます(=罰*せられます)。▽処女作(=はじめての作品)を出版する。

◇几(つくえ)の部・5(3)画

可

おん　カ
くん　―

一 丁 丁 可 可

いみ　㊀よいと認める。「可否・認可・許可・可決」㊁できる。「可能・可燃性・可溶*性」

《使い方》

▽自転車通学の、許可をもらった。▽一七八九年、フランスで人権宣言(=人の権利を守ろうという主張)が可決された。▽会社設立の認可をうける。▽月旅行も不可能(=できないこと)ではなくなった。▽ガソリンや、きはつ油は可燃物(=もえやすいもの)なので注意してあつかう。

参考　「可」のついている字は「河・歌・荷」のように、「カ」と読む。

◇口(くち)の部・5(2)画

幼

おん ヨウ

くん おさない

ㄑ 幺 幺 幻 幼

いみ わかい。おさない。「幼児・幼年・幼時・幼少・幼名・幼魚・幼虫・幼弱」

《使い方》

▽あの人は幼年時代から音楽がすきだった。▽動物園では幼児の入園料はおとなの半額です。▽あお虫は、もんしろちょうの幼虫である。▽町で、幼なじみの友と会った。▽頭をかくのは、幼いころからのくせだ。▽考え方が幼い(=子どもっぽい)。

参考 「幻*」とまちがえやすい。

○幼　×幼

◇幺(いとがしら)の部・5(2)画

庁

おん チョウ

くん —

丶 亠 广 庁 庁

いみ 役所。「官庁・庁舎・都庁・府庁・道庁・文化庁・水産庁」

《使い方》

▽兄は県庁につとめている。▽東京には官庁が多い。▽休日の官庁街はひっそりとしずまりかえっている。▽近代的な設計の庁舎(=役所の建物)が完成した。▽毎日、八時には登庁しています。

参考 もとの字は「廳」。「广(=建物)」と「聽(=きく)」から、「民の声をきく所→役所」の意味になった。

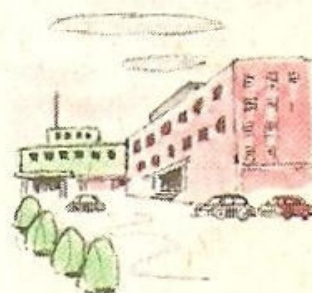
廳 ← 丁

◇广(まだれ)の部・5(2)画

矢

おん シ

くん や

ノ 𠂉 午 午 矢 (つきでない)

いみ ㊀や。「弓矢・毒矢・矢印・矢車・矢面」㊁はやいことのたとえ。

《使い方》

▽矢印で示したとおりに歩く。▽矢車が、からからと五月の空に鳴っている。▽一矢をむくいる(=うけた攻撃*に対して反撃*する)。▽敵の矢面に立って指揮をする。▽矢じりは、矢の先についているもの。▽むかしの人は矢立て(=すみつぼに、筆入れのつつをつけたもの)を持って歩いた。▽事件が矢つぎばやにおこった。

参考 矢じりと羽の形からできた。

↓ 矢

◇矢(や)の部・5(0)画

六年

おん ケツ
くん あな

穴 穴 穴 穴 穴

いみ ㊀土地のくぼみ。ほらあな。あな。「穴居・墓穴・穴蔵」㊁かけたところ。「大穴」

《使い方》
▽古代の人は穴居生活をしていた。▽墓穴をほる（＝自分で自分の身をほろぼす）。▽落とし穴をつくってけものをいけどる。▽穴があったらはいりたい（＝とてもはずかしい）。▽三るいが穴（＝欠点）だ。

参考「宀（＝住居）」と「八（＝ほる）」が合わさって、「ほった住居→穴居」の意味になった。

空→空　究→究

◎穴（あな）の部・5（0）画

仲

おん チュウ
くん なか

ノ イ 仆 仲 仲 仲

いみ ㊀なか。なかつぎ。「仲介*・仲買い」㊁人と人とのあいだがら。「仲間・仲よし・仲裁」

《使い方》
▽おじさんの仲介*（＝なかだち）で、品物を安く売ってもらった。▽牛や馬の仲買いをしてくらす。▽みんなで仲よく遊ぶ。▽友だちのけんかを仲裁した。▽親子の仲では言いたいことがえんりょなく言える。▽仲秋の名月（＝旧暦*八月十五日の月）を見る。

参考「中」と「仲」とはくべつして使う。

中間（ちゅうかん）　仲間（なかま）

◎人（ひと）の部・6（4）画

兆

おん チョウ
くん きざす・きざし

ノ 丬 丬 兆 兆 兆

いみ ㊀（よしあしを表す）前じらせ。きざし。「兆候・前兆・吉*兆」㊁数の単位。億の一万倍。「一兆・五兆円」

《使い方》
▽インフレの兆候があらわれる。▽大地震*の前兆のように小さな地震*がたびたびおこる。▽白いすずめを見ると吉*兆（＝よい前じらせ）だという。▽野山に春の兆しがみえる。▽輸出入の総額は五兆円をこえた。

参考むかし、かめの甲*を焼き、できたひびわれでうらないをした。そのひびわれの形からできた。

◎儿（にんにょう）の部・6（4）画

危

↕安 127

おん キ
くん あぶない・あやうい

巳ではない

いみ あぶない。あやぶむ。「危機・危険・危急・危地・安危・危害」

《使い方》

▽このままの状態では命が危ない。▽みずから危機に直面している。▽まことに危地にとびこんで行く。▽危急存亡の時(=生き残るかほろびるかのせとぎわ)である。▽天候が急変したので、登山隊の安危をきづかう。▽とらは、人間に危害を加える。▽危ういところを助けてもらった。

参考 左上は古い字の形。がけの上の人を表し、が「おそれてひざまずく」意味。

◎卩(ふし)の部・6(4)画

后

おん コウ
くん —

いみ きさき。天皇のおくがた。「皇后・皇太后・王后」

《使い方》

▽皇后陛下(=今の天皇のおくがた)からおことばをたまわった。▽皇太后(=前の天皇のおくがた)のおすがたに接する。▽選ばれて、王后(=王様のおくがた)になった。▽皇后のおいでになるごてんを皇后宮といいます。▽皇后陛下のおうまれになった日をもとは地久節といった。

参考 前後を「前后」、最後を「最后」のように、「后」を「後」と同じように使っていたこともあるが、今は使わない。

◎口(くち)の部・6(3)画

吸

おん キュウ
くん すう

いみ すう。すいこむ。「吸引・吸収・吸入・呼吸」

《使い方》

▽きれいな空気を胸いっぱいに吸う。▽体操のおわりに、おもいきり深呼吸をした。▽研究会に参加して、知識を吸収する。▽あまがえるの足の先には吸ばんがある。▽はきだす息は呼気といい、吸いこむ息は吸気という。▽重病人なので酸素吸入をした。

参考 口と及(=息をすいこむときの音)からできた。

一画でかく

六年

好

おん　コウ
くん　このむ・すく

く　女　女　好　好　好

いみ　㊀このむ。すく。「好学心・好奇*心・同好・好物」㊁このましい。よい。「好感・好機・友好・好調・好転・好敵手」

《使い方》

▽わたしは本を読むことが好きだ。▽何でも好ききらいなくたべることが好ましい。▽このしばいは好評なのでもう一週間続けて上演します。▽きょうの試合の相手は、好敵手(=力が同じくらいで、よい相手)です。

参考　「女」と「子」でできている。女の人は子どもをたいせつにし、このむことからできた。

◎女(おんな)の部・6(3)画

存

おん　ソン・ゾン
くん　―

一　ナ　𠂇　存　存　存

いみ　㊀ある。いる。「存在・存立・現存・保存・生存」㊁おもう。「一存・異存・所存・存外」

《使い方》

▽地球上にはいろいろな生物が生存している。▽この会はいつまでも存続させたい。▽夏は食べ物の保存がむずかしい。▽どうか存分(=思うまま)に使ってください。▽この問題はわたしの一存では決められない。▽別に異存はありません。

参考　「在」とまちがえやすい。

𠂇＋子＝存
𠂇＋土＝在

◎子(こ)の部・6(3)画

宇

おん　ウ
くん　―

丶　宀　宀　宇　宇　宇

いみ　㊀(大きな)いえ。また、それを数えることば。「堂宇・一宇」㊁四方のはて。天。「宇宙」㊂きもち。心。「気宇」

《使い方》

▽ふと見ると林の中に一宇の堂があった。▽寺院などの建物のことを堂宇という。▽宇宙旅行は人類の夢*であった。▽気宇(=心もちのひろさ)が大きい。

参考　「字」とにているので注意する。かたかなの「ウ」は「宇」を略してできた。

完　宅　宇　安　字

◎宀(うかんむり)の部・6(3)画

六年

宅

おん タク
くん ―

いみ すまい。いえ。「住宅・社宅・家宅・宅地・自宅・新宅・別宅・帰宅・邸*宅」

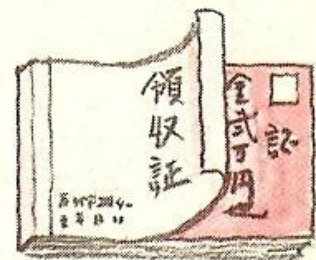
《使い方》

▽兄は社宅に住んでいる。▽農地をつぶして宅地にする。▽退院して自宅で静養する。▽毎日六時には帰宅します。▽先生は、ご在宅ですか(=家にいらっしゃいますか)。▽新宅(=新しくたてた家)に引っこしました。▽お宅のご主人はどこにおつとめですか。

参考「宀(=やね)」と「乇(=身をよせる)」からできた。

◎宀(うかんむり)の部・6(3)画

弐

おん ニ
くん ―

いみ ふたつ。証書などに金額を書くとき、「二」のかわりに使う。

《使い方》

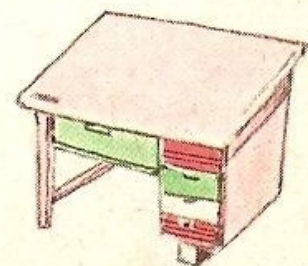
▽金、弐拾五万円也*
右領収いたしました

参考 証書などの金額は、「一・二・三・十」などを使って書くと、書きかえられやすいので、「壱・弐・参・拾」などを使う。むかしは、証書などの金額を書くときのほかに、二と同じ意味で「二心(=むほんの心)」を「弐心」と書いたり、「そう・たすける」などの意味にも使っていたが、今は使わない。

◎弋(しきがまえ)の部・6(3)画

六年

机

おん キ
くん つくえ

いみ つくえ。台。「机上・机下・勉強机」

《使い方》

▽いくらりっぱなことを言っても机上の空論(=実際の役にたたない議論)ではだめだ。▽手紙のあて名の左下に相手を尊敬して、机下ということばをつけることがある。▽机の上に花をかざる。▽六年生になったので勉強机を買ってもらった。▽机にむかって本を読んでいる。

参考「几」は、もと、「こしかけ」を表していたが、転じて「つくえ」のことを表すようになった。

◎木(きへん)の部・6(2)画

灰

おん　カイ
くん　はい

いみ　はい。もえがら。「灰分・石灰・灰色・灰ざら・灰じん」

《使い方》

▽石灰で運動場にラインをひく。▽灰色の空から雪がおちてきた。▽きれいなガラスの灰ざらを買った。▽原爆*が落とされると、死の灰がふる。▽大火事で町は灰じんに帰した(=すっかりやけてしまった)。▽新聞紙をもやしたら、黒っぽい灰が残った。

参考　下が古い字の形。が「くろくなる」意味を表し、「くろくなった火」という意味からできた。

◎火(ひ)の部・6(2)画

羊

おん　ヨウ
くん　ひつじ

いみ　ひつじ。「羊毛・牧羊・羊かい・綿羊・子羊・羊小屋」

《使い方》

▽毛織物の原料は綿羊の毛である。▽羊ややぎの毛を羊毛といいます。▽オーストラリアは牧羊(=羊を飼育*すること)がさかんである。▽羊頭をかかげて、く肉(=犬の肉)を売る(=見かけはりっぱでなかみが悪いことのたとえ)。▽子羊が羊小屋の中でねている。

参考　ひつじの頭の形からできた。

◎羊(ひつじ)の部・6(0)画

羽

おん　ウ
くん　は・はね

いみ　はね。つばさ。「羽毛・羽化・白羽・羽衣」

二ではない

《使い方》

▽小鳥のやわらかい羽毛。▽さなぎが成虫になって、羽がはえることを羽化という。▽だいじな役めは、花子さんに白羽の矢が立った(=とくにえらばれた)。▽お正月には羽根つきをして遊ぶ。▽天人は羽衣をきて空をとぶといわれます。▽はげしい羽音をたてて鳥がとびたつ。▽羽をのばして(=自由きままに)遊ぶ。

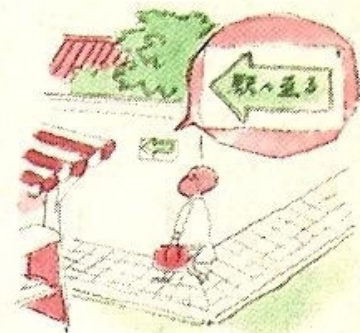
参考　鳥の羽の形からできた。

◎羽(はね)の部・6(0)画

六年

至

おん シ
くん いたる

一 ㇀ 𠫔 𠫔 至 至

いみ ㊀いきつく。「必至・冬至」㊁この上もなく。ひじょうに。「至近・至急・至上・至難・至宝」

《使い方》

▽右は京都に至る道です。▽こんどの事件は、わたしが至らなかった(=ゆきとどかなかった)ためです。▽秋に国会が解散になるのは必至(=必ずそうなること)です。▽祖父は九十才ですが、至って元気です。▽母に至急知らせてください。▽わたしは至極(=ひじょうに)満足している。▽それは至難の(=ひじょうにむずかしい)わざだ。

◇至(いたる)の部・6(0)画

乱

おん ラン
くん みだれる・みだす

ノ 二 千 舌 舌 乱

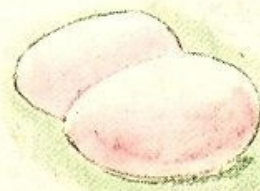
いみ ㊀みだれる。みだす。「混乱・散乱・乱雑・乱筆・乱心・乱読」㊁世の中がおさまらないこと。いくさ。「戦乱・内乱・反乱・動乱」

《使い方》

▽たいへん世の中が乱れている。▽横からはいりこんで列を乱す。▽本を乱読(=手あたりしだいによむこと)してはいけない。▽品物を乱雑にあつかう。▽おとなしい子と乱暴な子。▽光線が乱反射している(=いろいろな方向にてりかえしている)。▽国内に動乱がおこった。▽応仁の乱で京都はやけ野原となった。

◇乙(おつ)の部・7(6)画

卵

おん ラン
くん たまご

ノ ㇆ ㇆ 卯 卯 卵 卵

いみ たまご。「産卵・卵生・卵黄・卵白・生卵」

《使い方》

▽秋になると、さけは産卵のために川をのぼる。▽卵のきみを卵黄といい、しろみを卵白という。▽さかなは卵生(=卵から生まれること)の動物です。▽にわとりの卵を鶏*卵といいます。▽遠足には必ずゆで卵を持っていくことにしている。▽姉は女優の卵です。

参考 かえるの卵の形「)(」からできた。「玉子」とは書かない。

◇卩(ふしづくり)の部・7(5)画

六年

否

おん ヒ
くん いな

⇔可 331

一 フ 不 不 不 否

いみ いけない。そうではない。はんたい。「当否・可否・安否・否決・否定・否認」

《使い方》

▽かれの意見は否定できない。▽子どもの安否(=ぶじか、ぶじでないか)が気がかりだ。▽かれは犯行を否認し続けた。▽賛成か否か投票できめよう。▽入学の可否(=よいか、だめか)を先生がたが相談してきめた。▽ぼくの案は、けっきょく否決されてしまった。

参考 不(=打ちけし)と口からできていて、ことばで打ちけすことを表す。

◎口(くち)の部・7(4)画

困

おん コン
くん こまる

丨 冂 冃 円 困 困

いみ くるしみなやむ。こまる。「困苦・困難・困惑*・困却*・貧困・困窮*者」

《使い方》

▽人を困らせるようなことは、よくない。▽数数の困難をのりこえて行く。▽かれは、あらゆる困苦にうちかってついに大成した(=りっぱな人物になった)。▽戦争が続いて人民は貧困にあえいでいる。

参考 囗はかこい。木が、かこいにかこまれて、のびられないでいることから、「困る」という意味を表す。

◎囗(くにがまえ)の部・7(4)画

壱

おん イチ
くん ―

十 士 声 声 声 壱 壱 壱

下をみじかく

いみ ひとつ。証書などに金額を書くとき、「一」のかわりに使う。「壱万・壱千円」

《使い方》

▽金、五拾壱万円也* 右領収いたしました

参考 証書などの金額は、「一・二・三・十」などを使って書くと、書きかえられやすいので、「壱・弐・参・拾」などを使う。むかしは、このほか「一意(=一つのことだけに心を集めること)」を「壱意」、「専一(=一つのことだけをすること)」を「専壱」のようにも使ったが、今は使わない。

◎士(さむらい)の部・7(4)画

六年

孝

おん コウ
くん ―

一 十 土 耂 考 孝

いみ 親をたいせつにすること。「孝行・孝心・親不孝・忠孝・孝養」

《使い方》

▽人間は孝心（＝親をたいせつにする心）を持つことがだいじである。▽あの少年は親孝行で有名だ。▽親不孝な者はえらくなれない。▽君に忠（＝君主に忠実につかえること）、親に孝ということが、むかしの教えのおおもとであった。

参考 「耂」は「老人」で、「子どもが老人をせおっている」意味。「考（＝かんがえる）」「老（＝年より）」とまちがえやすい。

◎子（こ）の部・7（4）画

忘

おん ボウ
くん わすれる

亠 亡 亡 忘 忘 忘

いみ わすれる。「忘失・忘恩・備忘録・忘我・忘年会・健忘症*」

《使い方》

▽ご恩は一生忘れません。▽忘年会でかくし芸をひろうする。▽健忘症*（＝忘れっぽくなる病気）といわれるのも年のせいだ。▽わたしは、いつもポケットの中に備忘録（＝メモ）を入れている。▽最近、物忘れがひどくなった。▽雨あがりのあとはかさの忘れ物が多い。

参考 「亡（＝うしなう）」と「心」が合わさってできた。「心をうしなう」意味から「忘れる」意味になった。

◎心（こころ）の部・7（3）画

我

おん ガ
くん われ・わ

ノ 二 手 我 我 我

いみ ㊀じぶん。わたし。「自我・我流・我欲・我田引水」㊁かたいじ。「我意」

《使い方》

▽ふと我にかえる（＝気がつく）と、もう暗くなっていた。▽わたしの絵は、まったくの我流（＝自分かってなかき方）です。▽我が国の人口は、とうとう一億人をこしたそうです。▽かれの話は、いつも我田引水だ（＝自分につごうのよいような話ばかりだ）。▽無我夢*中で（＝いっしょうけんめいに）にげる。▽かれは我をはって（＝わがままをいって）ばかりいて困る。

◎戈（ほこ）の部・7（3）画

批

おん ヒ
くん ―

一 扌 扎 扎 批 批 批

いみ ㊀よしあしをきめて、しめす。「批評・批判」 ㊁書類を君主がみとめる。「批准*」

《使い方》

▽わたしたちの文集を批評してください。▽ものごとを批判してみるのはいいことである。▽内閣が条約を批准*する(＝よいとみとめる)。

参考 比(＝くらべる)と扌(＝手)が合わさってできた。くらべあうものを手でならべてよしあしをきめることを表す。

ただしくかこう

× ○ ×

◎手(て)の部・7(4)画

私

おん シ
くん わたくし

↕公 119

一 二 千 禾 禾 私 私

いみ ㊀じぶん。じぶんだけのこと。(公・全体に対して)「公私・公平・私無私・私財・私費・私物・私事・私用」 ㊁ひそかに。「私語」

《使い方》

▽公私(＝全体と個人、政府と民間)の別なく協力した。▽私財をなげだして難民を救う。▽公のものを私するな(＝自分のものとして使うな)。▽父は私立の学校を経営しています。▽私用で会社を三日休んだ。▽兄は私費でフランスへ留学しています。▽私語はつつしみなさい。

参考 「私」を「わたし」とは読まない。

◎禾(のぎへん)の部・7(2)画

系

おん ケイ
くん ―

一 ㇀ 玄 垩 系 系 系

いみ ㊀つなぐ。つながり。「系統・体系・系列」 ㊁血すじ。「母系・家系・系図」 ㊂なかま。「太陽系・理科系・文科系」

《使い方》

▽もっと系統(＝すじみち)だてて話しなさい。▽わが家の家系をたどると、むかしは武家だった。▽これは平家の系図(＝血すじを書いたもの)です。▽太陽系の星は、太陽を中心にして回っている。

参考 手で二本の糸をつなぐ形からでき、→系 「つなぐ」「つながり」の意味になった。

◎糸(いと)の部・7(1)画

六年

乳

おん ニュウ
くん ちち・ち

乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳 乳

いみ ちち。ちちのようなしる。「母乳・牛乳・授乳・離*乳・乳牛・乳児・乳飲み子・乳兄弟・乳色」

《使い方》

▽くじらは、海の中にいるが母親の乳で育つ動物である。▽母乳が少ないので牛乳で育てる。▽バターやチーズなどを乳製品という。▽乳牛(＝乳をしぼるための牛)をかっている。▽小学生のうちに、乳歯は永久歯にかわる。▽かれと、わたしは乳兄弟(＝ほんとうの兄弟ではないが、同じ人の乳を飲んで育った者どうし)です。

◎乙(おつ)の部・8(7)画

供

おん キョウ・ク
くん そなえる・とも

供 供 供 供 供 供 供 供

いみ ㊀さしだす。「供出・提供・供給」㊁そなえる。「供物・供養」㊂おともする。㊃のべる。「自供・供述」

《使い方》

▽お米を供出する。▽必要な品物はいつでも供給できるようにしてある。▽先祖の霊*(＝たましい)を供養する(＝供物をあげて、まつる)。▽仏前にくだものを供える。▽いぬ・さる・きじは、ももたろうのお供をして、鬼*が島へ出かけた。▽かれはついに犯行を自供した。

参考 「備」も「そなえる」とよむ。

◎人(ひと)の部・8(6)画

刻

おん コク
くん きざむ

刻 刻 刻 刻 刻 刻 刻 刻

一画でかく

いみ ㊀きざむ。ほりつける。「彫*刻・刻印」㊁きびしい。つらい。「深刻・刻苦」㊂とき。「時刻・定刻・刻限」

《使い方》

▽ぼくは彫*刻が得意です。▽はんこをほることを刻印という。▽とけいは休む間もなく時を刻んでいる。▽受験に失敗して深刻な顔をしている。▽発車の時刻が近づく。▽わたしの学校では、どんな会でも定刻に始めます。▽ロケット発射の時刻は、刻一刻とせまってくる。

参考 「核*」とまちがえやすい。

◎刀(かたな)の部・8(6)画

六年

呼

おん コ
くん よぶ

丨 口 口' 叮 吖 呼 呼

いみ ㊀よぶ。さけぶ。「呼応・点呼・歓呼・呼び物・呼び水」㊁息をはく。息をつく。「呼気・呼吸」

《使い方》

▽朝礼の時に点呼をとる。▽知らない人に呼び止められた。▽ポンプに呼び水(=ポンプの水をみちびくためにいれる、少しの水)をさしてみる。▽学芸会の呼び物(=人気を集めているもの)は、なんといってもぼくたちの劇だ。▽かれとくんでテニスをすると、呼吸が合う(=調子が合う)。▽友だちを呼びにいく。▽朝早く起きて深呼吸をする。

◎口(くち)の部・8(5)画

垂

おん スイ
くん たれる・たらす

二 三 弁 岳 垂 垂

いみ さがる。たれさがる。「懸*垂・垂線・垂直・胃下垂」

《使い方》

▽ぼくは懸*垂なら何回でもできる自信がある。▽この線に垂直な線(=垂線)をひきなさい。▽飛行機は垂直尾*翼*で進む方向をかえる。▽三角形の頂点から、底辺に垂線を引くと、二つの直角三角形ができる。▽レントゲンをとってみたら、胃下垂だとわかった。

参考 左上は古い字の形。土の上に、草木の花や葉がたれさがっている形からできた。

◎土(つち)の部・8(5)画

宗

おん シュウ・ソウ
くん ―

丶 宀 宀 宀 宇 宗

いみ ㊀おおもと。本家。「宗家」㊁宗教。一つの宗教から分かれたもの。「宗教・宗旨*・宗徒・宗派」

《使い方》

▽きょうの会は、おどりの宗家(=最初に始めた家がら)の集まりです。▽宗教(=神や仏を信じれば、安心・幸福を得られるという教え)の自由が認められている。▽ぼくの家ときみの家とでは宗旨*(=信じている宗教)がちがう。

参考 「ソウ」と読むときは、「おおもと」の意味。「シュウ」と読むときは宗教に関係のあることを表す。

◎宀(うかんむり)の部・8(5)画

六年

宝

おん　ホウ
くん　たから

`、 宀 宀 宁 宝 宝`

いみ　ねうちのある物。たから。「国宝・財宝・宝物・宝石・宝庫」

《使い方》
▽この仏像は、日本の代表的な国宝です。▽神社の宝物殿*を見学した。▽宝島で、ついに宝物を手に入れた。▽イラン地方は石油の宝庫といわれる。▽宝石のついている指輪をした女の人。▽宝のもちぐされ(=役にたつ物やりっぱな才能を持ちながら、うまく使わないことのたとえ)。▽子宝にめぐまれた。▽宝くじを買った。

◎宀(うかんむり)の部・8(5)画

宝←

宙

おん　チュウ
くん　——

`、 宀 宀 宀 宙 宙 宙`

いみ　空。空中。空間。「宇宙・宙返り・宙づり」

《使い方》
▽限りなく広大な宇宙。▽宇宙旅行をする日も、そう遠くはない。▽飛行機が宙返りをする。▽岩場で足をすべらし、あぶなく宙づりになるところだった。▽宙をとんで(=大いそぎで)家に帰る。▽あて先不明で、手紙が宙にまよう。▽満員電車にのったら人と人の間にはさまれて、足が宙にういた。

◎宀(うかんむり)の部・8(5)画

ただしくかこう
× ○ ×
宙 宙 宙

六年

〈さんこう〉
◇アクセント◇
つぎの文を、・のしるしは高く、のしるしは平らに発音して読みましょう。
①けさきてきょう読む。
②けさきてきょう読む。
①は新聞のこと、②はお寺のぼうさんのことです。・や—がついてなくても、ことばの意味を考えて、正しいアクセントで話ができるようにしましょう。

1　王様のやく(役)をする。
　この本は竹山氏のやく(訳)である。
2　むかしよく行った町です。
　かれはよく(欲)がふかい。
　よく(翌)十五日は雨だった。
3　木のかぶ(株)につまずく。
　上部とかぶ(下部)に切りはなす。
4　花がすき(好き)です。
　少しのすきもない。
5　鳥のはね(羽)でつくったふとん。
　洋服に、はねがあがった。
6　あしたは家にいる(居る)つもり。
　矢をいる(射る)。

届

おん —
くん とどける・とどく

いみ ㊀もうしでる。「欠席届・出生届」㊁かなう。とどく。㊂注意が行きわたる。

《使い方》

▽とけいを落としたのでけいさつに届けた。▽あかちゃんが生まれたので、出生届を出した。▽本を友だちに届ける。▽いなかにいるおばさんから手紙が届いた。▽子どもは、母親の目の届かない所で遊んでいて事故にあった。▽行き届いた(＝注意が行きわたった)仕事ぶりに感心した。

参考 「出生届」「欠席届」などには「け」を送らなくてよい。

◎尸(しかばね)の部・8(5)画

延

おん エン
くん のびる・のべる・のばす

いみ ㊀のびる。のばす。「延引・延期・順延・延焼・延長戦」㊁おくれる。とどこおる。「遅*延・延着」㊂あわせて。合計。「延べ日数」

《使い方》

▽市内の道路は、駅を中心に四方八方へ延びている。▽雨で、遠足は延期された。▽予定より工事の完成が延引した。▽大雪のため列車が延着した。▽この駅は、一日に延べ十万人の人がのりおりする。

参考 「延びる」は「期日や時間が長びく」意味、「伸*びる」は「曲がった物がまっすぐになる」意味に使う。

◎廴(えんにょう)の部・8(5)画

径

おん ケイ
くん —

いみ ㊀小道。ほそ道。「小径」㊁まっすぐ。「径行」㊂さしわたし。「直径・半径」

《使い方》

▽川にくだる小径(＝ほそい道)。▽かれは直情径行(＝思うままにふるまう性質)の人物である。▽半径五センチの円をかく。▽直径の約三・一四倍が円周です。

参考 もとの字は「徑」。「彳」は「道」、「巠」は「はた織りのたて糸↓まっすぐ」の意味を表し、「まっすぐな道↓道」の意味になった。「経」とまちがえやすい。

◎彳(ぎょうにんべん)の部・8(5)画

忠

おん チュウ
くん ―

丶 口 口 中 忠 忠

いみ ㊀まごころ。まこと。「忠実・忠告・忠言」㊁まごころをこめて主人につくすこと。「忠義・忠勤・忠節・忠誠・忠臣・不忠」

《使い方》
▽ハチ公は、主人のいいつけを守る忠実な犬でした。▽先生の忠告に耳をかたむける。▽友だちの忠言は、すなおに聞くものである。▽武士は主君に忠誠をつくすことをほこりとした。

参考 「中」と「心」が合わさってできた。「心の中・ほんとうの心」の意味。

忠 虫
中 仲
みんなチュウとよむ

◎心(忄)の部・8(4)画

拡

おん カク
くん ―

扌 扌 扩 扩 拡

いみ ひろげる。おしひろげる。「拡大・拡張・拡声器」

《使い方》
▽二倍に拡大した図をかく。▽小さな物は拡大鏡(=物を大きく見せるレンズ)で見るとよくわかる。▽学校の設備をもっと拡充*する(=ひろげて中身をりっぱにする)よう努力したい。▽工場のしき地を拡張する。▽拡声器は電流のはたらきで、声や音を大きくする器械です。

参考 「ひろい」意味の「広」に、「扌(手)」のついた字。手でひろくすることを表す。

◎手(扌)の部・8(5)画

拝

おん ハイ
くん おがむ

扌 扌 扌 扌 拝 拝

いみ ㊀おがむ。「参拝・拝礼・拝殿*」㊁「…する」をていねいにいうときにつけることば。「拝見・拝賀・拝観・拝顔・拝察・拝借」

《使い方》
▽初日の出を拝む。▽神社に参拝した。▽拝殿*に立って、うやうやしく拝礼した。▽拝観料は五十円です。▽お手紙を拝見しました。

参考 「拝啓*」は手紙のはじめに書くことば。「つつしんで申し上げます」の意味。「拝復」は返事の手紙のはじめに書くことば。「つつしんでご返事申し上げます」の意味。

◎手(扌)の部・8(5)画

六年

担

おん タン
くん かつ-ぐ・にな-う

扌 扌 扌 扣 担 担

いみ ㊀かつぐ。になう。「担架*」㊁ひきうける。うけもつ。「担当・担任・負担・分担」

《使い方》

▽けが人を担架*で運ぶ。▽大きな荷物をかたに担ぐ。▽重い役目を担っている。▽仕事はみんなで分担する。▽三年のとき担任の先生がかわった。▽この仕事は、わたしの担当です。▽きみが山田君に加担した(=味方した)のはよくなかった。

参考 「担」はかたにかつぐ、「負」はせなかにおう。

◇手(て)の部・8(5)画

枚

おん マイ
くん —

十 木 木 杧 枚 枚

いみ ㊀かぞえる。「枚挙」㊁紙などをかぞえることば。「紙一枚」㊂昔、お金などをかぞえたことば。「銀一枚・大枚」

《使い方》

▽そんな小さな事件は枚挙にいとまがない(=たくさんあって数えきれない)。▽試験用紙の枚数を数えてください。▽全部で百枚あります。▽画用紙が数枚いります。▽大枚五万円をふところにいれている。

参考 「校」とまちがえやすい。

木+交=校(こう)
木+攵=枚(まい)

◇木(き)の部・8(4)画

沿

おん エン
くん そ-う

冫 氵 氵 沿 沿 沿

いみ (川・道・時の流れなどに)したがう。そう。たどる。「沿道・沿岸・沿線・川沿い」

《使い方》

▽沿道は、日の丸の小旗でうずまった。▽この電車の沿線は、さくらの名所として名高い。▽谷川に沿って山をくだる。▽わたしは川沿いの小さな村に生まれた。▽夏休みに、学校の沿革(=うつりかわり)を調べてまとめた。

参考 「沼*」とまちがえやすい。

ただしくかこう
○ 沿　× 沿

◇水(氵)の部・8(5)画

六年

泣 †

おん キュウ
くん なく

泣泣泣泣泣泣泣泣

いみ なみだをながしてなげく。なく。「感泣・号泣・泣き言」

《使い方》

▽わが子の死をきいて泣きくずれた。▽十年ぶりの親子対面をテレビで見て、もらい泣きをした。▽犬と少年の美しい愛情の物語に感泣した(=心に深く感じて泣いた)。▽そんな泣き言を言ってもどうにもならない。▽泣きを入れる(=泣きついてわびを言う)。

参考 「泣く」は、人が泣くときに使い、「鳴く」は、鳥や虫が鳴くときに使う。

◇水(氵)の部・8(5)画

若 †

↕老 196

おん ジャク・ニャク
くん わかい・もしくは

一艹艹芏芊若若若

いみ ㊀わかい。おさない。「若年・若君・若輩*・若葉・若竹・若者・若草・老若」㊁いくらか。「若干」㊂あるいは。または。

《使い方》

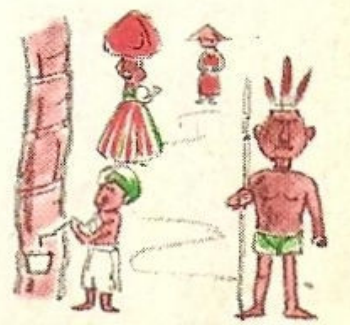
▽若年とはいえ、なかなかしっかりしている。▽若輩*の身でありながらりっぱに大役を果たした。▽若葉の美しい季節になった。▽年をとっても気だけは若い。▽わたしとあなたの考えには、若干のくいちがいがある。▽あすはくもり若しくは雨であろう。

く 苦　じゃく 若

◇艹(くさかんむり)の部・8(5)画

俗

おん ゾク
くん —

亻亻仐仒俗俗俗俗俗

いみ ㊀ならわし。「風俗・習俗・民俗」㊁世の中にふつうにあること。「世俗・俗説・俗世間」㊂いやしい。げひん。「俗物・俗悪・俗人・俗化」

《使い方》

▽この絵から当時の風俗がわかる。▽これは俗にいうおたふくかぜです。▽通俗的な(=ありふれていて程度のひくいようすの)考え方だ。▽俗名(=死んだ人の、生きていたときの名まえ)は山田春男。▽近ごろではこのへんもずいぶん俗化してきた。▽俗悪な(=げひんでよくない)まんがばかり見ている。

六年

巻

おん カン
くん まく・まき

巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 あける

いみ ㊀まきもの。書物。本。「巻頭・巻末・上巻・下巻」㊁まく。「巻き尺・巻き紙」㊂書物・フィルムなどを数えることば。「一巻・万巻」

《使い方》
▽巻頭(=書物の初め)に作者の写真とあいさつがのっている。▽調べたいことばを、巻末のさくいんでさがした。▽この本は巻の一から十まである。▽巻き紙に筆で手紙を書く。▽巻き尺でへやの広さをはかる。▽あさがおのつるがかきねに巻きつく。▽万巻の書(=多くの本)を読む。▽全五十巻の文学全集が出版される。

◎卩(ふしづくり)の部・9(6)画

城

おん ジョウ
くん しろ

城 城 城 城 城 城 城 城 城

いみ しろ。敵をふせぐためのとりで。「城門・城主・築城・城さい・城下町・古城・落城・城外・登城・城壁*・宮城・不夜城」

《使い方》
▽城あとに立って、むかしをしのぶ。▽金沢*は城下町(=城を中心としてできた町)として発達した。▽宮城は天皇のいらっしゃる所。▽城門をかたくとざす。▽中国では、むかし、北からの敵を防ぐために万里の長城を築いた。

土+成=城(じょう)
土+或=域(いき)

◎土(つち)の部・9(6)画

奏

おん ソウ
くん かなでる

奏 奏 奏 奏 奏 奏 奏 奏 奏

いみ ㊀天子に申しあげる。「奏上」㊁音楽をかなでる。「合奏・独奏・吹*奏楽・伴*奏・四重奏」㊂やりとげる。あらわす。「奏功」

《使い方》
▽天皇陛下に国内の事情を奏上する(=申し上げる)。▽学芸会で器楽の演奏をする。▽ピアノの独奏会をひらく。▽静かに琴*を奏でる。▽この方法が功を奏した(=ききめがあった)。

参考 左上が古い字の形。しげった草(艸)を、両手(廾)で持って神前にすすめることから音楽などをきかせる意味になった。

◎大(だい)の部・9(6)画

六年

姿

おん シ
くん すがた

姿姿姿姿姿姿

いみ からだつき。すがた。「姿勢・姿態・容姿・姿見・雄*姿・うしろ姿」

《使い方》

▽正しい姿勢で本を読む。▽まいこさんの美しい姿態に見とれる。▽きく子さんは容姿のととのった美しい人です。▽はでな姿で歩きまわる。▽和服をきた自分の姿を姿見にうつしてみる。▽どんな人でも、うしろ姿はどことなくさびしげに見えます。▽兵士などのいさましい姿を勇姿といいます。

波→女→婆

◇女(おんな)の部・9(6)画

宣

おん セン
くん ―

宣宣宣宣宣宣

いみ ㊀のべる。しめす。「宣言・宣告・宣誓*・宣戦」㊁ひろくしらせる。「宣教師・宣伝」

《使い方》

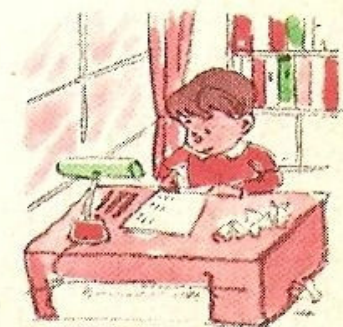
▽ぼくは、毎朝かけ足をすると、みんなに宣言した。▽犯人は死刑*を宣告された(=いいわたされた)。▽選手代表の宣誓*の声(=ちかいをのべる声)がグランドにひびきわたった。▽新しい製品について村のすみずみまで宣伝が行き届いている。▽キリスト教は宣教師によって世界の国国にひろめられた。

参考 「宜*」とまちがえやすい。

◇宀(うかんむり)の部・9(6)画

専

おん セン
くん もっぱら

専専専専専専

いみ ㊀もっぱら。そのことばかり。「専念・専用・専門」㊁ひとりじめにする。「専有・専売」

《使い方》

▽かれは小説を書くことに専念した(=それだけに心を打ちこんだ)。▽夏休みには専ら名作を読もう。▽レコード会社には専属の歌手がいる。▽内科の専門医。▽たばこは政府の専売事業(=政府だけで行って、民間にはさせない事業)の一つである。

参考 「専門」を「専問」とまちがえやすい。

○専 ×専

◇寸(すん)の部・9(6)画

六年

律

おん リツ・リチ
くん ―

ノ　彳　彳　彳　𢓜　律（つきだす）

いみ ㊀きそく。おきて。きまり。「規律・法律・律儀」㊁音楽や音の調子。「調律・音律・旋*律」

《使い方》

▽軍律（＝軍隊のおきて）を守らず、処罰*された。▽かれは非常に律儀な（＝まじめで義理がたい）人だ。▽法律を定めるのは国会の仕事の一つです。▽ここちよい旋*律（＝メロディー）が流れてくる。▽楽器の音を正しくととのえることを調律といいます。▽品物は一律に（＝みんな同じに）値上げする。

彳＋聿＝律
廴＋聿＝建
亻＋廴＋聿＝健

◎彳（ぎょうにんべん）の部・9（6）画

是

おん ゼ
くん ―

↕非 276

丨　口　旦　早　昰　是

いみ 正しい。よい。「是非・是認・国是・是正」

《使い方》

▽是が非でも（＝どうしても）ゆう勝したい。▽かれの行動の是非（＝よいか悪いか）について話し合った。▽このことを、どうか是認して（＝よいと認めて）もらいたい。▽国是（＝国がよいと認めた方針）にしたがう。▽悪い習慣は是正（＝正しくなおすこと）しなければならない。▽ものごとの是非曲直（＝正しいこととまちがっていること）をよく判断して行動する。▽会社できめた方針を社是という。

◎日（ひ）の部・9（5）画

映

おん エイ
くん うつる・うつす・はえる

冂　日　旳　旳　映　映

いみ ㊀うつる。うつす。「映画・映写・上映」㊁てりかがやく。はえる。㊂にあう。

《使い方》

▽「雪」の映画を上映する。▽一六ミリ映画の映写技術を身につける。▽飛行機が通るとテレビの映像がみだれる。▽文学は、それが作られた時代を反映して（＝うつしだして）いるといえる。▽美しく紅葉した山々が夕日に映える。▽この帯は、この着物によく映る。▽オレンジ色の洋服は、日焼けした顔に映りがよい。

参考 「移る」「写る」などと使い分けよう。

◎日（ひ）の部・9（5）画

染†

おん セン
くん そめる・そまる・しみる・しみ

いみ ㊀色がつく。そめる。そまる。「染料・染色・染織」㊁うつる。「感染・汚*染・伝染病」

《使い方》

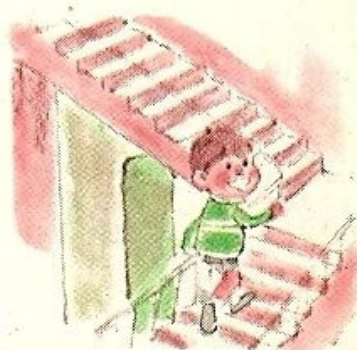
▽かみの毛を染める。▽ぼくの家は染め物屋です。▽家庭科でしぼり染めのふろしきを作った。▽雨水が染みて壁*に染みができた。▽放射能で大気が汚*染される(=よごされる)。▽けっかくに感染した(=うつった)。▽悪に染まる(=えいきょうをうけて悪くなる)。

参考 「九」を「丸」にしないように気をつける。

○ 染　× 染

木(き)の部・9画

段†

おん ダン
くん ―

いみ ㊀かいだん。「階段・上段・下段・段段畑・石段」㊁しきり。くぎり。「段落・段どり」㊂等級。「段階」㊃方法。てだて。「手段」

《使い方》

▽高い石段を上る。▽階段は静かにおりなさい。▽山の頂上まで続いている段段畑。▽この文章は五つの段落から成る。▽仕事の段どりをつける(=仕事の順序を決める)。▽やっと一段落ついた。▽兄はけん道二段です。▽勝つためには手段(=方法)をえらばない。

ただしくかこう

× ○ ×
段 段 段

殳の部・9画

派

おん ハ
くん ―

いみ ㊀えだわかれしたもの。「流派・分派・学派・宗派・党派・右派・左派」㊁人を行かせる。つかわす。「派遣*・派出・特派員」

とめる

《使い方》

▽いけ花には、いろいろな流派がある。▽意見が対立して、二つの派に分かれた。▽左右両派の意見が一致*した。▽党派をこえて協力する。▽フランスへ大使を派遣*する(=役めをいいつけて、行かせる)。▽アメリカにいる特派員から月ロケット打ち上げの情況*を報告してくる。

参考 「はでな着物」などの「はで」は……かな書き。

水(みず)の部・9画

六年

洗

おん セン
くん あらう

いみ ㊀あらう。きよめる。「洗顔・洗眼・洗たく・洗剤*」㊁かくれていることをしらべる。

《使い方》
▽顔を洗うことを洗顔という。▽川の水で手を洗う。▽自分のものは自分で洗たくをする。▽洗練された(＝よく練られた)文章を書く。▽洗礼(＝キリスト教で、信者となるための儀*式)をうける。▽素姓*を洗う(＝しらべる)。▽洗いざらい(＝なにもかも)話す。

参考 「先(＝足)」と「氵(＝水)」が合わさって、「水で足を洗う」意味を表す。

◇水(みず)の部・9(6)画

泉

おん セン
くん いずみ

いみ 水がわいている所。いずみ。みなもと。「温泉・冷泉・泉水・源泉・鉱泉」

《使い方》
▽泉のほとりの木かげで休む。▽温泉にはいって養生する。▽鉱物質をふくんだ泉を鉱泉という。▽泉水(＝庭にほった池)のある日本庭園。▽給料は源泉課税(＝お金をしはらうとき、はじめから所得税の分をひいておさめさせる制度)です。

参考 岩の間から水がわき出てくる形からできた。→泉

◇水(みず)の部・9(5)画

皇

おん コウ・オウ
くん —

いみ てんのう。みかど。「天皇・皇子・皇女・皇室・皇居・皇位・皇族・皇后・皇太子」

《使い方》
▽ぼくたちの村に天皇陛下がおみえになった。▽新聞に皇室ご一家の写真がのっていた。▽皇居(＝天皇のおすまい)前の広場は、観光客でにぎわっている。▽皇后陛下からおことばをたまわった。▽皇位を皇太子におゆずりになる。▽伊*勢の皇大神宮には天照大神をまつってある。

参考 「天皇」のときは、発音が変わって、「テンノウ」と読む。

◇白(しろ)の部・9(4)画

看

おん　カン
くん　―

三手看看看看

いみ　㊀みる。「看取・看破・看過」㊁みまもる。せわをする。「看護・看病・看守」

《使い方》
▽悪事の計画を看破する(＝みやぶる)。▽相手の心中を看取する。▽人のあやまちを看過する(＝みのがす)。▽食堂の大きな看板を目あてに家をさがす。▽看護婦さんは、親切に病人を看病します。▽刑*務所の看守の目をぬすんで、犯人がにげだした。

参考　「手」(＝手)と「目」で、目の上に手をかざして遠くを見ることからできた。

◇目(5)の部・9(4)画

砂

おん　サ・シャ
くん　すな

丆不石石砂砂（はねる）

いみ　すな。「砂上・砂金・砂鉄・土砂・砂浜*・砂山」

《使い方》
▽美しい砂浜*を散歩する。▽はてしなく続く砂丘*。▽公園の砂場で子どもが遊んでいる。▽磁石で砂鉄をとる。▽大雨でがけがくずれ、土砂が道をふさいだ。▽計画だけで実現できないことを砂上の楼*閣という。▽砂山の砂にはらばい、波の音をきく。▽砂をかむ思い(＝あじけない思い)をする。

参考　「石」と「少」(＝こまかい)」からできた。

◇石(5)の部・9(4)画

紅

おん　コウ・ク
くん　べに・くれない

〈幺幺糸紅紅

いみ　㊀あざやかな赤い色。「紅色・紅顔・紅白・真紅・紅茶・紅葉」㊁くちびるやほおにつける、べに。「口紅・ほお紅」

《使い方》
▽紅白にわかれてつな引きをする。▽真紅のセーターを着た少女。▽高い山では上の方からしだいに紅葉してきます。▽やなぎは緑、花は紅。▽昼は、パンと紅茶ですませました。▽ふざけて、母の口紅をつけてしかられた。

参考　「ク」の音は、「真紅」のときだけに使う。

◇糸(6)の部・9(3)画

六年

背

おん ハイ
くん せ・せい・そむく・そむける

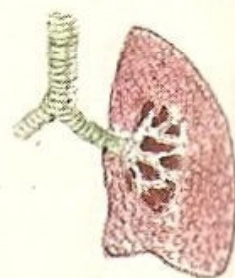
いみ ㊀せなか。うしろ。「背面・背景・背後・背泳・背骨・背筋力」㊁そむく。「背信・背任・背反・背徳」㊂せたけ。「背くらべ」

《使い方》
▽山を背にして立つ。▽荷物を背負う。▽父のいいつけに背いてしかられた。▽これは味方に対する背信(=うらぎり)の行為*だ。▽友だちと背くらべをする。▽背水のじん(=決死のかくごですること)。

参考 「北(=そむく)」と「月(=からだ)」からできた。「からだの正面にそむいているところ→せなか」となった。

◇肉(にく)の部・9(5)画

肺

おん ハイ
くん ―

いみ はいぞう。「肺臓・肺病・肺結核・肺活量」

《使い方》
▽肺で呼吸する。▽肺臓は呼吸器官です。▽肺を病む(=肺の病気になる)。▽新しい薬ができたので、肺結核で死ぬ人がへった。▽肺活量(=肺にすいこむことのできる空気の量)をはかる。▽わたしは子どものころ、かぜから肺えんをおこして苦しんだ。▽肺ふをえぐる悲しみ(=非常に悲しいこと)。

月+市=肺
女+市=姉
木+市=柿

◇肉(にく)の部・9(5)画

革

おん カク
くん かわ

いみ ㊀かわ。なめしがわ。「皮革」㊁あらたまる。かえる。「改革・変革・沿革・革新」

《使い方》
▽革で作ったベルトやくつを皮革製品という。▽今までの制度を改革する(=悪いところを改める)。▽政党には保守(=むかしからのやりかたを守る立場)と革新(=古いやりかたを新しく改める立場)とがある。▽一七八九年にフランスで革命がおこった。

参考 「皮」は動物・植物のかわ、物のおおいのこと。「革」は動物のかわの毛を取り、なめしたもののこと。

◇革(かくのかわ)の部・9(0)画

六年

値 †

おん　チ

くん　ね・あたい

いみ　㊀ねだん。あたい。「値段・高値・安値・売り値・買い値」㊁ねうち。「価値」㊂計算の答え。「数値・近似値」

《使い方》

▽値段の安いほうのいすを買うことにした。▽あまり高いので値切って買った。▽かれのしたことは表彰*に値する。▽これは読む価値のある本だ。▽計算によって数値を求める。▽円周率の近似値は三・一四一六である。

参考　「価」も「あたい」と読む。「価値」を「値価」と書かないように注意する。

◎人(亻)の部・10(8)画

俳 †

おん　ハイ

くん　―

いみ　㊀芸をする人。「俳優」㊁俳句の略。「俳句・俳号・俳人・俳壇*」

《使い方》

▽映画俳優にあこがれて上京する。▽俳句は、五・七・五の十七音からなる短い詩です。▽俳人松*尾芭*蕉*は「奥*の細道」を書いた。▽俳句を作る人のなかまを俳壇*といいます。▽一茶というのは俳号(=俳人としての名)で、本名は小林信之といいました。

参考　「亻(=人)」と「非(=そむく)」で、「かわったことをしておもしろがらせる人」の意味。「排*」とまちがえやすい。

◎人(亻)の部・10(8)画

党

おん　トウ

くん　―

いみ　考え方が同じ人人のあつまり。なかま。「政党・徒党・党人・党派・党員・党首」

《使い方》

▽徒党(=悪いことをたくらむ人のあつまり)を組んで町をあらす。▽新しい政党をつくる。▽与*党と野党の党首が話し合う。▽平家の残党(=生き残り)が住んでいたという部落がある。

参考　「悪党(=悪人)」は、大ぜいの人のことではなく、ひとりのときにいう。

×党　○党

◎儿(ひとあし)の部・10(8)画

六年

兼

おん ケン
くん かねる

いみ あわせもつ。かねる。「兼務・兼任・兼業・兼用・兼備」

つきだす

《使い方》

▽わたしの家には食堂を兼ねた居間がある。▽校長先生は、ようち園の園長を兼任している。▽わたしのうちは、本屋とたばこ屋を兼業している(=兼ねて営業している)。▽かれはちえと勇気を兼備している(=兼ね備えている)。▽晴雨兼用のコートを買った。

参考 左上は古い字の形。手(ヨ)で二本のいね(禾禾)を合わせて持つことから、「かねる」意味になった。

◎八(ちは)の部・10(8)画

射

おん シャ
くん いる

いみ ㊀(矢を)いる。㊁うつ。「射撃*・射殺・発射」㊂勢いよくだす。はなつ。「注射・反射・放射能」

ださない

《使い方》

▽矢で的を射る。▽ロケットを発射する。▽射撃*の練習をする。▽夕日が湖面に反射してきらきらとかがやく。▽インフルエンザの予防注射をうける。▽原爆*の放射能をあびた。▽直射日光があたる。

参考 下が古い字の形。弓(弓)に矢(←)をつがえて、手(又)で持っている形。のちにあやまって「身＋寸」に伝えられた。

◎寸(すん)の部・10(7)画

将

おん ショウ
くん —

いみ ㊀(軍隊やチームを)ひきいる人。「将軍・主将」㊁軍人の階級をあらわすことば。「将官・大将」㊂まさに。「将来」

《使い方》

▽ぼくは、野球部の主将になった。▽ナポレオンは勇ましい将軍であった。▽勇将のもとに弱卒なし(=大将が強く勇ましければそれに従う兵士もしぜんと強い)。▽大将・中将・少将を合わせて将官という。▽ぼくは将来医者になりたいと考えている。

参考 「丬」の筆順に注意する。

◎寸(すん)の部・10(7)画

展

おん テン
くん ——

ㄱ コ 尸 屏 屏 展 展
はねる

いみ ㊀ならべる。「展示・展覧会」「発展・展開・進展・親展・展望」㊁のべひろげる。ひろがる。

《使い方》
▽絵の展覧会をひらいた。▽いろいろな商品を展示する(＝いっぱんの人人に見せるためにならべる)。▽個展をひらいた。▽展望台からのながめはじつにすばらしい。▽マッチばこの展開図をかいてみる。▽問題はいっこうに進展をみない(＝進まない)。▽戦後の日本が発展したかげには多くの人の努力があった。

○ 展 × 展

◎尸(しかばね)の部・10(7)画

座

†

おん ザ
くん すわる

丶 广 广 広 应 座 座

いみ ㊀すわる。すわる場所。「座席・満座」㊁星の位置。「星座」㊂劇場の名まえにつけることば。

《使い方》
▽座席に座る。▽座しきで、かるた会をする。▽北斗*七星は大ぐま座にある。▽かぶき座へおしばいをみに行く。▽木村君がおこりだしたので急に座がしらけた(＝その場のふんいきがつまらなくなった)。

参考 左上は古い字の形。ふたりの人が「土」の上にすわっている形を表す。これに家を表す广をつけて、「すわる所」の意味になった。

◎广(まだれ)の部・10(7)画

従

↕主120

おん ジュウ・ジュ・ショウ
くん したがう・したがえる

彳 彳 彸 彸 従 従 従

いみ ㊀したがう。あとについていく。「専従・盲*従」㊁おちつく。「従容」㊂とも。けらい。「主従」

《使い方》
▽兄のことばに従うことにした。▽父はダムの工事に従事している。▽心から服従する。▽あの人は従順だ(＝すなおで人にさからわない)。▽主従ふたりで旅に出た。▽会は従来(＝今まで)どおり続けることにした。▽政界につくした功績によって、従三位の位をおくられた。

従

◎彳(ぎょうにんべん)の部・10(7)画

六年

朗

おん ロウ
くん ほがらか

う ョ 自 良 朗 朗

いみ ㊀あきらか。はっきり。「朗詠*・朗読・朗朗・清朗」 ㊁ほがらか。「明朗・朗報」

《使い方》

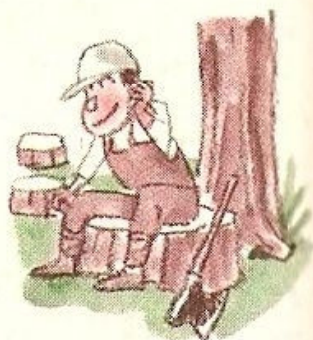
▽物語を朗読する。▽詩を朗朗と吟*じる(＝ふしをつけてはっきりとよむ)。▽天気清朗なり(＝晴れて気持ちがいい)。▽母の病気がなおってみんな朗らかになりました。▽正男君はとても明朗です。▽合格の朗報(＝うれしい知らせ)がとどいたので、とびあがってよろこんだ。

朗らかな
太郎君

◇月(つき)の部・10(6)画

株

おん ―
くん かぶ

十 木 木' 杧 杵 株

いみ ㊀木を切りたおしたあとに残る根もと。「切り株」 ㊁会社にお金を出して得た権利。「株券・株主・株式会社」 ㊂草や木の根。また、草や木を数えることば。「株分け・二株」

《使い方》

▽木の株にこしをかけて休む。▽切り株の年輪を数える。▽父は株券(＝会社にお金を出したしるしの書きつけ)をたくさん持っている。▽株式会社を設立する。▽きくの株を分ける。▽つつじを二株植える。

参考 「物まねはぼくのお株(＝得意な芸)だ。」のような使い方もある。

◇木(き)の部・10(6)画

班

おん ハン
くん ―

T 王 𤣩 玔 玨 班 (はらう)

いみ 分けられたそれぞれの集まり。また、それを数えることば。「三班・班長・通信班・班田」

《使い方》

▽一クラスを三班に分ける。▽班長は班員の選挙によって選ぶことにする。▽通信班の活やくはめざましい。▽校外活動は班ごとに行う。▽むかし、朝廷*が人民にあたえた田のことを班田といった。

参考 「王(＝玉)」と「リ(＝分ける)」で、「玉を分ける→分けたもの」の意味になった。

王 リ 王

◇玉(たま)の部・10(7)画

六年

秘

おん　ヒ
くん　ひめる

心→必でもよい

いみ　㊀かくして人に知らせない。「秘法・秘密・極秘・秘策・秘蔵・秘宝・秘本・秘伝」㊁人の力ではわからない。「神秘」

《使い方》
▽秘密の文書を発見した。▽この寄付金については、秘められた美しい話がある。▽極秘の書類(＝けっして人に見せられない書類)をあずかる。▽祖先から伝えられている秘法を守る。▽これは父が秘蔵している(＝たいせつにしてしまっている)つぼです。▽ましゅう湖は神秘な美しさに満ちた湖です。

◇禾(のぎ)の部・10(5)画

笑

おん　ショウ
くん　わらう・えむ

いみ　わらう。ほほえむ。「笑声・笑話・大笑・苦笑・微*笑・談笑・一笑・冷笑」

《使い方》
▽明るい顔で笑う。▽笑う門には福がくる(＝いつもほがらかな人には幸福がくる)。▽いつもやさしい笑みをうかべている。▽十年ぶりにあった友だちと談笑した(＝うちとけて話した)。▽ひとの失敗を冷笑する(＝あざわらう)ような者はきらいだ。

参考　「笑顔」と書いて、「えがお」と読む。

×　笑
○　笑

◇竹(たけ)の部・10(4)画

六年

〈さんこう〉

◇同じ訓読みのことば◇

「からだをじょうぶにすることにつとめたので、つとめを休まずに続けられた。」

右の文の中で、はじめのつとめには、「努め」を、あとのつとめには、「勤め」を使います。六年で習う漢字の中から、同じ読みのことばをさがしましょう。

あらわす
▽悲しい気持ちをことばに表す。
▽とつぜんすがたを現す。
▽本を著す(＝本にして世にだす)。

おさめる
▽国を治める。
▽税金を納める。
▽学問を修める。
▽物をくらに収める。

すすめる
▽馬を進める。
▽入会を勧める。

そなえる
▽消火器を備える。
▽仏前に花を供える。

のぞむ
▽医者になることを望む。
▽海に臨むおかに家を建てた。

純

おん ジュン
くん —

く 幺 糸 糹 紅 純（つきだす）

いみ ㊀まじりけがない。けがれがない。「純粋*・純金・純白・純毛・純綿・純潔」㊁かざらない。ありのまま。「純一・純真・単純・純情」

《使い方》

▽これは純粋*な日本犬です。▽純益（=売りあげ金から、いろいろな費用をさしひいたもうけ）は、約十万円あった。▽純毛の洋服をつくった。▽純白の運動服がよくにあう。▽純真な（=すなおな）子どもをだますことはできない。▽ものごとを単純（=かんたん）に考える。

○純 ×純

◎糸（いと）の部・10（4）画

納

おん ノウ・ナッ・ナ・ナン・トウ
くん おさめる・おさまる

く 幺 糸 糽 納 納

いみ おさめる。いれる。「納税・納入・納期・出納・納屋・納戸」

《使い方》

▽お金を金庫に納める。▽税金を納めることを納税という。▽品物はあすまでに納入してもらいたい。▽姉は会社で出納（=お金を出し入れすること）の仕事をしている。▽うらの納屋（=物置）には、ねずみがいる。▽納得がいく（=よくわかる）。

参考 納める=中に入れる。収める=取り入れる。治める=世の中をしずめる。修める=勉強する。悪いところをなおす。

◎糸（いと）の部・10（4）画

胸

おん キョウ
くん むね・むな

月 肑 肑 胸 胸 胸（はねる）

いみ ㊀むね。「胸部・胸囲・胸像・胸元」㊁心。心の中の思い。「胸中・胸裏・胸さわぎ・度胸」

《使い方》

▽胸を大きくはって、深呼吸をする。▽校庭に初代の校長の胸像がある。▽胸元に十字架*のペンダントが光る。▽胸囲を計る。▽子どもをなくした母の胸中をおもいやる。▽たいへん度胸のいい人だ。▽全員無事だという知らせに胸をなでおろす（=安心してほっとする）。▽朝から胸さわぎ（=何か悪いことがおこりそうな不安な気持ち）がしてならない。

◎肉（にく）の部・10（6）画

討

おん トウ
くん うつ

亠 言 言 言 訁 討

いみ ㊀敵をうつ。せめる。「征*討・討伐*・夜討ち」 ㊁たずねる。しらべる。「検討・討議・討論」

《使い方》
▽わが子のかたきを討つ。▽敵を討伐*する。▽討っ手(=せめてきた兵)をたちまちけちらした。▽あっぱれな討ち死に。▽もう一度よく検討して(=調べて確かめて)から発表する。▽はげしく討論する(=意見をいいあう)。

参考 「討つ」は、武力でやっつける。「打つ」は、たたく。「撃*つ」は、てっぽうなどをうつ。

◆言(7)の部・10(3)画

針

おん シン
くん はり

ノ 𠆢 亼 全 余 金 針

いみ はり。はりの形をしたもの。「長針・短針・秒針・運針・針金」

《使い方》
▽針の穴に糸を通す。▽母は針仕事にいそがしい。▽運針の練習をしながらぞうきんを作った。▽時計の短針は時間を、長針は分をしめします。▽針小棒大(=針のような小さいことを棒のように大きくいうこと)の話。▽まつやすぎなどのように、葉が針のような形をしているものを針葉樹といいます。▽最初の方針どおりに計画をすすめます。▽船の針路を南にとる。

◆金(8)の部・10(2)画

六年

陛

おん ヘイ
くん ―

了 阝 阝比 阝比 陛 陛

いみ 天皇や皇后などをうやまってよぶときにつけることば。「陛下」

《使い方》
▽天皇・皇后両陛下は、おそろいで葉山へ行かれた。▽デンマーク国王陛下。

参考 「陛」は、もとは土のだんのこと。それから宮殿*の階段の意味になり、天皇に関係することばとなった。天皇にお話するときは、直接ではおそれおおいので、階段の下のけらいから伝えてもらったことから「陛下」のことばができた。「階」とまちがえやすい。

◆阝(3)の部・10(7)画

降

おん コウ
くん おりる・おろす・ふる

↕乗 145

了 阝 阝夂 阝夂 阝夅 降

いみ ㈠ふる。「降雨・降雪」㈡おりる。くだる。「降下・下降・乗降」㈢まけて、したがう。「降参・降伏*」㈣のち。「以降」

《使い方》

▽雨が降りしきる。▽裏日本の降雪量にはおどろく。▽車の乗り降りは順序よくしましょう。▽パラシュートで降下する。▽力つきて降参した。▽四月五日以降は受けつけません。

参考「降」には「くだる」の意味もあるが、「くだる」は「下る」と書く。「降りる」「降ろす」「降る」の送りがなに注意する。

◇阝(こざとへん)の部・10(7)画

骨

おん コツ
くん ほね

冂 冂 冎 冎 骨 骨

いみ ㈠ほね。ほねぐみ。「遺骨・骨肉・白骨・人骨・骨格」㈡気だて。気性。「気骨」

《使い方》

▽鉄棒から落ちて骨折した。▽文章の骨子(=中心になるだいじなところ)をつかむ。▽なかなか気骨(=正しいと思ったことをつらぬく強い心)のある人だ。▽骨身をおしまず(=苦労をいやがらないで)働く。▽骨折り損のくたびれもうけ。

参考 下が古い字の形。冎が頭がい骨とせぼねの一部を表し、月が「肉体」を表す。

◇骨(ほね)の部・10(0)画

域

おん イキ
くん ―

おとさないように

土 圹 坷 域 域 域

いみ くぎる。かぎられた、はんい。「域内・領域・音域・声域・地域・区域・流域・聖域・西域」

《使い方》

▽外国の領域をおかす。▽音域(=出せる音や声のはんい)がせまい。▽芸が名人の域に達した。▽この地域には工場が多い。▽川の流域(=川の流れにそった地域)に、平野がひろがっている。▽きめられた区域ごとに集まって登校する。▽このおかは民族の神をまつる聖域(=神聖な場所)である。

参考「城」とまちがえやすい。

◇土(つちへん)の部・11(8)画

六年

密

おん ミツ
くん ―

宀 宀 宓 宓 宻 密

心→必でもよい

いみ ㊀すきまがない。「密集・密生・密閉・密度・密林」㊁こまかい。こまやか。「綿密・親密・密接」㊂ひそかにする。「秘密・内密・密約・密書・密告」

《使い方》

▽このへんは家が密集している。▽人口密度は世界一です。▽連絡*を密にする。▽綿密な計画をたてて山へ登る。▽密輸をとりしまる。▽秘密の行動をとる。

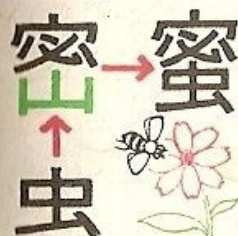
参考 「山」を「虫」にすると、花からでるあまい「蜜*」になる。

密→蜜
虫

◎宀(うかんむり)の部・11(8)画

推

おん スイ
くん おす

扌 扌 扩 扩 推 推

いみ ㊀おしすすめる。「推進」㊁うつりかわる。「推移」㊂おしはかる。「推定・推察・推理・推量」㊃人にすすめる。「推挙・推賞・推奨*」

《使い方》

▽工事を推進する。▽時代の推移(=うつりかわり)をみる。▽集まった人は約十万人と推定される。▽ぼくは推理小説が大すきだ。▽かれの心中を推しはかる。▽ぼくはこっちの本を推す(=よいとしてすすめる)。▽かれを委員長に推せんする。

参考 「推す」は、よいとしてすすめる。「押*す」は、手でおす。

◎手(てへん)の部・11(8)画

捨

おん シャ
くん すてる

↕拾 148

扌 扌 扌 拎 拎 捨

つきでない

いみ ㊀すてる。「取捨・四捨五入」㊁ほどこす。「喜捨」

《使い方》

▽ごみを捨てる場所。▽捨て身(=いのちがけで事を行うこと)になってものごとにぶつかる。▽取捨選択*する(=よいものをとりあげ、わるいものを捨てる)。▽貧しい人に喜捨する(=喜んでほどこしをする)。

参考 「扌(=手)」と「舎(=とりのぞく)」が合わさってできた。手でとりのぞくことから、「捨てる」意味になった。

しゃ 捨　しゅう 拾

◎手(てへん)の部・11(8)画

六年

探

おん タン
くん さぐる・さがす

いみ さがしもとめる。ようすをさぐる。「探求・探究・探検・探知・探訪・探偵*」

《使い方》
▽ひとの秘密を探る。▽くらやみの中を手探りで歩く。▽南極探検にでかける。▽金山を探求する(=さがしもとめる)。▽真理を探究する(=さぐりきわめる)。▽ぼくは探偵*小説が大好きです。▽かくした宝を探す。

参考「扌(=手)」と「罙(=ふかい穴)」が合わさってできた。おくふかい所を手でさぐることを表す。「深」とにているので、まちがえやすい。

◎手(て)の部・11(8)画

欲

おん ヨク
くん ほっする・ほしい

いみ ほしがる。のぞむ。ほしいと思う心。「欲望・欲求・利欲・食欲・知識欲・欲情・私欲・欲張り・欲深」

《使い方》
▽自分の欲するままに行動する。▽人間の欲望にはきりがない。▽親の欲目(=実際よりよく思うこと)で、自分の子どもはよくみえる。▽勉強しようとする意欲がわく。▽知識欲にもえている。▽秋になると、食欲がます。▽欲しい物は何でもあげる。

参考「浴」とまちがえやすい。

◎欠(けつ)の部・11(7)画

済

おん サイ
くん すむ・すます

いみ ㊀すむ。すます。おわる。「決済・返済」㊁すくう。たすける。「済度・共済組合・救済」

《使い方》
▽食事を済ませてからまいります。▽試験が済んでほっとした。▽これは、お金で済む問題ではない。▽借りた金を返済する。▽借金を完済した(=ぜんぶかえした)。▽貧しい人人を救済する。▽済度しがたい(=すくいがたい)おろか者。▽共済組合に加入した。▽ぼくの家は経済的にめぐまれている。

参考 にた字に「斎*」「斉*」があるので注意する。

◎水(みず)の部・11(8)画

異

おん イ
くん こと

口 罒 田 田 畀 異

↕同 75

いみ ㊀ことなる。ちがう。「異状・異同」 ㊁ほか。ほかの。「異国・異人」 ㊂へんな。「異様・奇*異」 ㊃すぐれている。「異才」

《使い方》

▽風習は、地方によってずいぶん異なる。▽異議(=ちがった意見)をとなえる。▽異国の船が来た。▽異郷の地でくらす。▽山で異様な(=へんな)動物を見た。▽異彩*をはなつ(=すぐれてりっぱに見える)。

参考 「異なる」は、「ほかのものとちがう」意味で、「正しくない」の意味はない。

◇田(た)の部・11(6)画

脳†

おん ノウ
くん —

月 月 月 胪 脳 脳 脳

いみ ㊀のうみそ。「大脳・脳病」 ㊁あたま。あたまのはたらき。「脳天・脳裏・頭脳」 ㊂たいせつなもの。「首脳」

《使い方》

▽人間の大脳はすばらしい働きをする。▽子どもが脳貧血でたおれた。▽脳天をうたれたようなショックを感じた。▽すばらしい頭脳のもちぬし。▽母の姿が脳裏をかすめた。▽政府の首脳(=中心となる人)が、対策を協議した。

参考 「悩*」とまちがえやすい。「悩*」は「なやむ」意味。

◇肉(月)の部・11(7)画

翌†

おん ヨク
くん —

ㇷ ㇿ 羽 羽 翌 翌

=ではない

いみ つぎにくる。つぎの。「翌朝・翌日・翌年・翌月・翌週・翌春・翌秋・翌翌年」

《使い方》

▽翌朝(=つぎの日の朝)は早く目がさめた。▽プールへはいった翌日から、かぜをひいた。▽東京オリンピックの翌年に中学を卒業した。▽代金は品物をとどけた翌月からいただきます。▽翌翌年はうるう年です。

参考 「習」とまちがえないように注意する。

習 ← 立

◇羽(羽)の部・11(5)画

六年

窓

おん ソウ
くん まど

宀 穴 空 窓 窓 窓

いみ まど。「車窓・学窓・窓外・同窓会・窓口・天窓」

《使い方》

▽窓をあけて外の空気を入れる。
▽となりの人と窓ごしに話す。▽小学校の同窓会が開かれた。▽学窓をすだって（＝学校を卒業して）社会人となる。▽車窓から外のけしきをながめる。▽窓外のけしきを写生する。
▽天窓（＝屋根にあけた窓）からあかりをとる。

参考 「窓」は宀（うかんむり）の字ではなく穴（あなかんむり）の字。穴（あなかんむり）の字にはこのほか「究・空」などがある。

◇穴（あな）の部・11（6）画

著

おん チョ
くん あらわす・いちじるしい

一 艹 芏 芛 著 著

いみ ㊀本を書く。あらわす。「著書・著者・共著・著述家」㊁いちじるしい。あきらか。「著名」

《使い方》

▽研究の結果をまとめて本に著す。
▽父の著書はもう十五冊にもなる。
▽この本の著者はわたしの先生だ。
▽戦いは味方にとって著しく不利だ。
▽これは、ある著名な作家の日記である。

参考 「あらわす」には三つの字がある。
著す＝本をあらわす。
現す＝すがたをあらわす。
表す＝気持ちをあらわす。

◇艹（くさかんむり）の部・11（8）画

六年

視

おん シ
くん ―

ラ ネ ネ 初 祖 視

いみ みる。気をつけてみる。「視力・視界・視野・正視・重視・視線・視察旅行・視ちょう覚」

《使い方》

▽きりがはれると、急に視界がひらけた。▽きみの考え方は視野がせまい。▽電車の中で、友だちと視線があった。▽やたらに人を敵視するのは（＝敵と思ってみるのは）よくない。
▽視力が急におとろえた。▽きみの考えを重視する。

参考 「ネ（しめすへん）」と「ネ（ころもへん）」に注意すること。

◇見（み）の部・11（4）画

視・祝・礼
ネ・ネまちがえやすい
初・補・複

訳

おん　ヤク
くん　わけ

亠 亖 言 訁 訂 訳（あけない）

いみ　㊀ある国のことばをほかの国のことばになおすこと。また、むずかしいことばをやさしいことばになおすこと。「和訳・英訳・訳文・通訳・現代語訳」　㊁わけ。理由。

《使い方》

▽兄に英語を**訳して**もらった。▽この小説は五か国語に**訳されて**いる。▽兄は**通訳**の仕事をしています。▽ちこくした**訳**（＝理由）をいいなさい。▽何か**訳**があるようだ。

参考　「言」はことば。「尺」は、つぎつぎにつたえる意味。そこから「訳」の意味になった。

◎言(げん)の部・11(4)画

訪

おん　ホウ
くん　おとずれる・たずねる

亠 亖 言 訁 訪 訪

いみ　おとずれる。たずねる。「訪問・来訪・訪日・歴訪・探訪」

《使い方》

▽ひさびさにふるさとを**訪れる**。▽友人の家を**訪ねた**。▽ヨーロッパの諸国を**歴訪して**（＝つぎつぎに訪れて）、帰国した。▽毎年、**訪日する**（＝日本を**訪れる**）外国人がふえている。▽港の朝を**探訪する**（＝たずねて行ってようすをさぐる）。

参考　「方」は、人のところに行くこと。「言」は、話をすること。人のところに行って話すことから「おとずれる」意味になった。

◎言(げん)の部・11(4)画

郷

おん　キョウ・ゴウ
くん　—

乡 乡 乡 组 郷 郷

いみ　㊀いなか。むらざと。「郷土・水郷・理想郷」　㊁自分の生まれた土地。ふるさと。「郷里・故郷・帰郷」

《使い方》

▽各地の**郷土芸術**をたずねる。▽あの山のむこうには**理想郷**（＝住むのにすばらしいところ）があるそうです。▽**郷**にいっては**郷**にしたがえ（＝その土地に住んだら、その土地の習慣にしたがいなさい）。▽錦*をかざって（＝出世して）**故郷**に帰る。▽正月には**帰郷**します。

参考　「ゴウ」というのは特別な読みかた。

◎阝(おおざと)の部・11(8)画

六年

郵

おん ユウ
くん ―

一 ニ 彑 乒 垂 垂 郵 郵（はらう）

いみ ゆうびん。「郵便・郵送・郵税・郵政省」

《使い方》
▽電報をうちに、郵便局まで行ってきた。▽郵便番号はかならず書きましょう。▽クイズの答えは郵送してください。▽郵政省は、郵便や貯金や電信などの仕事をする役所です。▽郵便物を送る料金を郵税といいます。

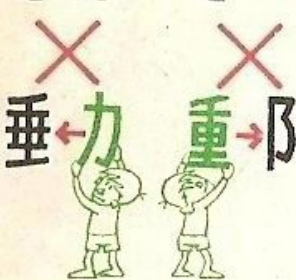
参考 「郵」の「垂」を「重」と書いたり、「阝」を「力」と書いたりしないように注意する。

垂←力 ×　重→阝 ×

◇阝（おおざと）の部・11（8）画

釈

おん シャク
くん ―

一 丷 立 平 釆 釈 釈 釈（あけない）

いみ ㊀文章などの意味をわかりやすくする。「解釈・注釈・講釈」㊁いいわけをする。「釈明」㊂ゆるして自由にする。「釈放」㊃おしゃかさまのこと。「釈尊」

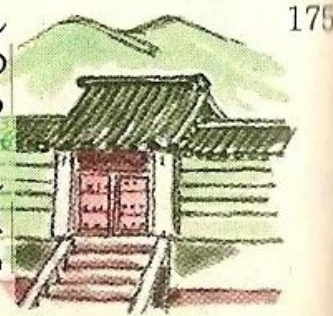
《使い方》
▽文中のむずかしいことばには注釈がついています。▽あなたの行動について釈明（＝事情をよく説明すること）しなさい。▽疑いがはれて釈放された。▽おしゃかさまのことを釈尊ともいいます。▽友だちとけんかをしてから、どうも気持ちが釈然と（＝さっぱり）しない。

◇釆（のごめ）の部・11（4）画

閉

おん ヘイ
くん とじる・とざす・しめる・しまる

↕開 175

丨 冂 門 門 門 閂 閉

いみ ㊀とじる。しめる。「密閉・閉門・開閉」㊁やめる。おわる。「閉店・閉幕・閉会」

《使い方》
▽夕方四時に門を閉じます。▽びんの中に密閉しておくと、たいていのものはくさらない。▽図書館は五時に閉まる。▽ドアは必ず閉めること。▽お客が来なくなって閉店した。▽校長先生が閉会の辞（＝あいさつ）を述べる。▽ことしのかぜは、なかなかなおらないで、閉口した（＝こまった）。

参考 「才」は門をしめるかぎの形からできた。

◇門（もん）の部・11（3）画

六年

頂

おん チョウ
くん いただく・いただき

一 丁 丁 丁 頂 頂

いみ ㊀物のいちばん上。「絶頂・頂点」㊁上にのせる。いただく。

《使い方》

▽富士山の頂上にのぼる。▽春だというのに山頂には雪があった。▽やっと山の頂についた。▽人人のいかりはその時頂点に達した。▽運動会で一等をとったので、有頂天になった(=むちゅうになった)。▽この本はありがたく頂いておきます。

参考 「項*」とまちがえやすい。「本をちょうだい」などは、「頂」の字をあてずに、かな書きにする。

× 頂だい
○ ちょうだい

◇頁(おおがい)の部・11(2)画

創

おん ソウ
くん ―

𠆢 今 今 户 倉 創

いみ ㊀はじめる。はじめてつくる。「創業・創立・創刊・創作・創造・創意・創始者・独創」㊁きずつける。「創傷」

《使い方》

▽かれは新しい作品の創作にむちゅうだ。▽きょうはぼくたちの学校の創立記念日(=はじめてできた記念の日)です。▽かれは飛行機会社の創始者(=はじめてつくった人)である。▽今月から新しい雑誌が創刊された。▽テレビの放送局が創設(=施設などをはじめてつくること)された。▽創傷(=はものなどでうけた、きず)を負った。

◇刀(りっとう)の部・12(10)画

割

おん カツ
くん わる・わり・われる・さく

宀 宀 宀 宝 害 割

いみ ㊀さく。わる。わける。「割り算・割り当て・日割り・時間割り・分割」㊁わりあい。「割安」㊂十分の一。「二割引」

《使い方》

▽目かくしをしてすいかを割る。▽くじらの腹を割く。▽時間を割く。▽生徒会の意見は大きく二つに割れた。▽代金は分割ばらいにしてください。▽この品物はたくさん買うと、割安になります。▽先生と生徒の割合は一対四〇です。▽映画の割引券をもらった。▽時間がないので一部割愛する(=おしいと思いながらはぶく)。

◇刀(りっとう)の部・12(10)画

六年

勤

おん キン・ゴン
くん つとめる・つとまる

艹 苎 苩 菫 勤 勤

いみ つとめる。はたらく。「勤務・勤勉・勤労・欠勤・通勤・勤行」

《使い方》

▽父は役所に**勤**めています。▽学校に**勤務**する。▽日本人は**勤勉**(=まじめにはたらくこと)で知られています。▽**勤労**のよろこびを味わう。▽国電は朝夕、**通勤客**でこみ合います。▽かぜのため、二日間**欠勤**した(=**勤**めを休んだ)。

参考 「勤める」は、役所や会社ではたらく。「努める」は、力いっぱいがんばる。

ただしくかこう ○ 勤 × 勤 3本{

◇力(ちから)の部・12(10)画

尊

おん ソン くん たっとい・たっとぶ・とうとい・とうとぶ

丷 䒑 酋 酋 尊 尊

いみ ㊀とうとい。とうとぶ。「尊敬・尊重・尊厳」㊁あることばにつけて尊敬の気持ちを表すことば。「尊父・尊顔・釈尊」

《使い方》

▽戦争は、**尊**い人命をうばう。▽父を**尊**び、母をしたう。▽古い文化を**尊重**する(=とうとび、だいじにする)。▽**尊**い神を祭る。▽かれはいつも**尊大**な(=いばった)態度をしている。

参考 下が古い字。酒のつぼと両手( )を表し、神のくだる所に酒をそなえていることから「とうとい」意味になった。

◇寸(すん)の部・12(9)画

就

おん シュウ・ジュ
くん つく・つける

亠 古 京 京 就 就

いみ ㊀仕事や役めなどにつく。「就学・就業・就職・就任・就寝*」㊁しとげる。「成就」

《使い方》

▽新しい先生の**就任**(=役めにつくこと)のあいさつがある。▽兄は東京の会社に**就職**した(=職業についた)。▽**就業時刻**(=仕事を始める時刻)は午前八時です。▽重要な任務に**就**く。▽長い間の望みがやっと**成就**した(=かなった)。

参考 「尢」の筆順に注意する。「ジュ」の読みは「成就」だけに使われる。

成就 ○ じょうじゅ × じょうしゅう

◇尢(だいのまげあし)の部・12(9)画

六年

揮

おん キ
くん ―

いみ ㊀ふるう。ふりまわす。「指揮・発揮」㊁とびちる。「揮発」

《使い方》

▽学芸会でコーラスの指揮をした。▽自分の力を思うぞんぶん発揮して（＝表に出して）優勝した。▽ガソリンなどの液体がふつうの温度で気体になることを揮発といいます。▽ベンジンは揮発性の強い液体です。▽ベンジンのことを揮発油ともいいます。

参考 「軍」（＝ふりまわす）と「扌（＝手）」が合わさって、「うでをふりまわす」意味を表す。

扌＋軍＝揮

◇手（扌）の部・12(9)画

敬

おん ケイ
くん うやまう

いみ うやまう。「敬意・尊敬・敬服・敬愛・敬老」

《使い方》

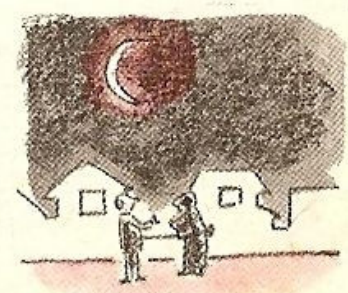
▽目上の人と話すときは、敬語を使う。▽子は親を敬わなければいけない。▽大ぜいの人から尊敬される人になろう。▽神に敬けんな（＝心からうやまってつつしんだ）いのりをささげる。▽かれの努力には敬服した（＝心から感心し尊敬した）。

参考 「敬」の下は「言」がついても「ケイ」と読むが、「馬」がつくと「キョウ」と読む。

警　驚

◇攵（攴）の部・12(8)画

晩

おん バン
くん ―

いみ ㊀日ぐれ。夕がた。夜。「今晩・昨晩」㊁おそい。すえ。「晩春・晩秋・晩年・晩学・早晩」

《使い方》

▽天気予報では、今晩から雨になるらしい。▽おじいさんは晩年（＝年をとってからの人生）を郷里でしあわせにおくった。▽父は晩学（＝年をとってから学問を始めること）でした。▽晩秋の野山を歩く。▽早晩（＝おそかれはやかれ）犯人はみつかるでしょう。

参考 「勉」とまちがえやすい。

×晩　○晩

◇日の部・12(8)画

六年

棒

おん ボウ
くん —

いみ 木・竹・金属などでできた細長いもの。また、その形をしたもの。ぼう。「棒磁石・棒高飛び・棒グラフ・鉄棒・棒立ち」

《使い方》

▽棒高飛びで世界新記録がでました。▽各国の人口を棒グラフにかいてみよう。▽大きな物音におどろいて、馬が棒立ちになった。▽先生は鉄棒の名手です。▽やじろべえの相棒はきたはちです。▽教科書を棒暗記(＝意味を考えずにそのままおぼえること)しても、実力はつきません。

参考 「棒*・俸*」などとまちがえやすい。

◇木(き)の部・12(8)画

痛

おん ツウ
くん いたい・いたむ・いためる

いみ ㊀いたむ。「苦痛・心痛・頭痛・腹痛」㊁ひどく。ひじょうに。「痛切・痛感・痛快」

《使い方》

▽授業ちゅうにおなかが痛くなった。▽鉄ぼうから落ちて腰*を痛めた。▽母の手のあかぎれを見て心痛する。▽病気になって、健康のありがたみを痛切に感じる。▽おじいさんの話は実に痛快である(＝ひじょうにゆかいである)。

参考 「病」とまちがえやすい。また、「疒」の「丬」は「冫」と書かない。

痛 病

◇疒(やまいだれ)の部・12(7)画

策

おん サク
くん —

いみ はかりごと。くふう。方法。「策略・策動・万策・得策・失策」

《使い方》

▽各党の政策(＝政治上の方針)を発表する。▽敵の策略(＝はかりごと)にのせられる。▽かげで策動する(＝いろいろはかりごとをめぐらす)。▽あすの試合にそなえて対策(＝物事に応じたはかりごと)を練る。▽万策つきる(＝いろいろやってみたが、もうやりようがない)。▽一策(＝一つの方法)を思いつく。

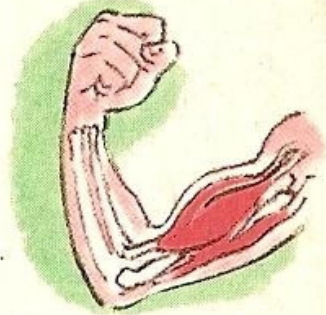
参考 「⺮」の下は「束」ではない。

× 策　○ 策

◇竹(たけ)の部・12(6)画

六年

筋

おん キン
くん すじ

筋 筋 筋 筋 筋 筋

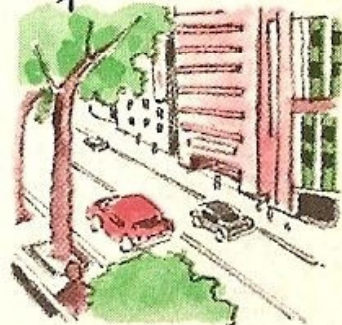
いみ ㊀からだの中のすじ。「筋肉・筋骨」㊁物事のしくみ。すじ。「筋道・血筋・筋書き」

《使い方》

▽筋骨（＝からだつき）たくましい男性。▽はげしい運動のあとでは筋肉がいたむ。▽こんどの家は鉄筋コンクリート建てです。▽血筋（＝血のつながっている関係）はあらそえない。▽物語の筋をかんたんに話す。▽筋道（＝ものごとの順序）をたてて話してください。▽計画は筋書きどおりに運んだ。▽筋向かい（＝ななめ向かい）の家に友だちが引っこしてきた。

◎竹の部・12(6)画

街

おん ガイ・カイ
くん まち

彳 彳+ 彳+ 彳+ 街 街

いみ まち。まちの大通り。「市街・街頭・街燈・街路樹・住宅街」

《使い方》

▽昔、江戸から京都・日光などに通じていた五つの道を五街道という。▽商店街は、中元大売出しの最中だ。▽夕ぐれになると、あちこちの街燈がいっせいにともる。▽日曜日の官庁街は、ひっそりとしずまりかえっている。▽山頂からながめると街の燈のきらめきが星のようだ。

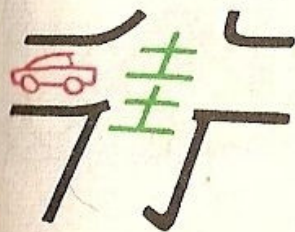
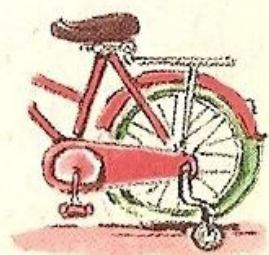
参考 「街」の「行」は、十字路を表す。

◎行の部・12(6)画

補

おん ホ
くん おぎなう

衤 衤 衤 衤 補 補

おとさないように

いみ 足りないところを足す。たすける。おぎなう。「補欠・補足・補注・補給・補強・補正・補助・補習」

《使い方》

▽説明を補う。▽雨期にそなえて、てい防を補強する。▽水泳の補欠選手になった。▽栄養を補給する（＝たりなくなった分をおぎなう）。▽台風でこわれたやねを補修する（＝なおす）。▽きょうは補習授業（＝きまった時間以外の授業）があっておそくなった。▽かれは委員長候補（＝委員長になる資格のある人）のひとりである。

◎衣の部・12(7)画

六年

裁 †

おん サイ
くん たつ・さばく

いみ ㊀布を切る。「裁断・裁縫*・和裁・洋裁」 ㊁ことのよしあしを決める。さばく。「裁判・裁決・独裁・制裁」 ㊂「裁判所」の略。「家裁・地裁・高裁・最高裁」

《使い方》

▽布を裁つ。▽姉は洋裁学校に通っています。▽法を破った者は常にきびしく裁かれねばならない。▽きょう、裁判の判決がくだる。▽父は家裁(=家庭裁判所)の判事です。

参考 「裁決」は物事のよしあしを裁判で決めること。「採決」はあることがらを会議で、みんなにきいて決めること。

◇衣(ころも)の部・12(6)画

詞

おん シ
くん ―

いみ ことば。「品詞・作詞・歌詞・名詞・動詞・助詞・助動詞・感動詞・副詞・接続詞・代名詞・連体詞」

《使い方》

▽歌詞(=歌曲のもんく)をおぼえる。▽最近、作詞(=歌曲のもんくを作ること)に興味をもちはじめた。▽名詞(=人や物の名まえを表すことば。「家」「動物」「草」「鉛*筆」「さくら」「花子」など)。▽動詞(=物の動きや、はたらきなどを表すことば。「行く」「働く」「話す」など)。▽形容詞(=ものの性質やようすを表すことば。「美しい」「白い」「広い」など)。

◇言(げん)の部・12(5)画

貴

おん キ
くん たっとい・とうとい・たっとぶ・とうとぶ

いみ ㊀とうとい。「貴族・貴人・貴婦人・貴重・高貴」 ㊁あいてに関係のあることばにつけて、尊敬の意味を表すことば。あなたの。「貴兄・貴下・貴国・貴社」

《使い方》

▽貴族(=身分の高い階級)の家に生まれる。▽岩倉家は、何代も続いてきた貴い身分の家がらです。▽貴重な(=たいせつな)時間をさいて人に会う。▽貴社(=あなたの会社)の製品は、実にすばらしい。

参考 「貴下」「貴兄」などは男どうしで使う。「あなた」を「貴方」「貴女」などと書かない。

◇貝(かい)の部・12(5)画

傷

おん ショウ
くん きず・いたむ・いためる

いみ きずつける。きず。「負傷・軽傷・死傷・傷害・損傷・重傷」

《使い方》
▽小刀で指に傷をつけてしまった。▽本を傷めないように気をつけなさい。▽交通事故で重傷を負った。▽秋になると、人の心は感傷的になる(=物事に感じやすく、なみだもろくなる)。▽人を中傷(=ありもしない悪口をいって、人の名誉*をきずつけること)してはいけない。

参考 「陽」「場」「復」などとまちがえやすいので注意する。

◎人(ひと)の部・13(11)画

勧

おん カン
くん すすめる

いみ ある物事をするように人をさそう。すすめる。「勧告・勧学・勧業・勧誘*」

《使い方》
▽友だちに、「坊*っちゃん」という本を読むように勧めた。▽父の勧めで、英会話を習うことにした。▽野球部にはいるようにと勧誘*された。▽医者から少し運動をするように勧告された。

参考 「勧める」はあることを人にさせようとさそう。「進める」は前へ行かせる。「薦*める」はある人またはある物を用いるように、人にいう。

◎力(ちから)の部・13(11)画

幕

おん マク・バク
くん ―

いみ ㈠(くぎりにつかう)広く長い布。「暗幕・字幕」㈡将軍が政治をとる所。「幕府・討幕」㈢場面。㈣終わり。

《使い方》
▽教室に暗幕をはって、映画をみた。▽会場には紅白の幕がはりめぐらしてある。▽徳川幕府は二六五年間続いた。▽ここは、きみの出る幕(=場面)ではない。▽幕あいに急いで食事をする。▽複雑な事件のわりには、あっけない幕切れ(=物事のおわり)だった。

参考 「墓」「暮*」などとまちがえやすい。

◎巾([illegible])の部・13(10)画

六年

暖

↕冷 198

おん ダン　くん あたたか・あたたかい・あたたまる・あたためる

冂 日 暖

いみ あたたかい。「暖流・温暖・寒暖計・暖色・暖冬」

《使い方》

▽日本海流は暖流である。▽なお子さんは心の暖かい人だ。▽ことしは暖冬のため防寒衣料の売れ行きが悪い。▽教室の前と後ろに寒暖計をおいた。▽わたしは、暖色（＝赤や黄のように暖かい感じの色）の洋服が好きです。▽きょうはふところが暖かい（＝お金をたくさんもっている）。▽子どもが老人をいたわる姿は、見ていて心が暖まる。▽暖かな日ざし。

参考「援*」とまちがえやすい。

◎日（ひ）の部・13（9）画

源

おん ゲン　くん みなもと

氵 氵厂 源

いみ ものごとのはじめ。みなもと。「源泉・水源・根源・財源・起源・電源・源流」

《使い方》

▽川をさかのぼり、水源に達した。▽ぼくは人類の起源に興味をもっている。▽世の中の悪（＝悪いこと）は根源（＝おおもと）から追放しなくてはならない。▽牧場が、家の大きな財源（＝お金をうみ出すもと）となっている。

参考「原因」「原案」などの「原」とまちがえやすい。

◎水（みず）の部・13（10）画

水（氵）＋野原＝源

〈さんこう〉

◇注意したいことば◇

小春びより＝十一月ごろの、春のようにあたたかい天気。
牛耳る＝ある団体や会議などを自分が中心になって動かす。
口車＝人をだます、うまい話。
工面＝お金のやりくりをすること。
失神＝気をうしなうこと。
千秋楽＝いく日か続いて行われる、しばいやすもうの、最後の日。
土用＝立春・立夏・立秋・立冬のまえの、十八日間。ふつうは立秋のまえの土用（夏の土用）をいう。
不毛＝土地がやせていて、さくもつができないこと。
万引き＝ものを買うようなふりをして、ぬすむこと。また、ぬすむ人。
生一本＝まじりもののないこと。まっしょうじき。
青雲の志＝出世しようとのぞむ心。
皮肉＝いじが悪いこと。いやがらせ。
麦秋＝麦をとりいれる季節。六月ごろ。

六年

盟

おん　メイ
くん　―

冂　日　明　明　盟　盟

いみ　かたいやくそく。ちかい。「盟主・同盟・加盟・連盟・盟約」

《使い方》

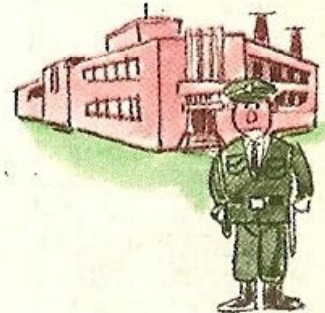
▽なかのよい国どうしで同盟を結び敵国とたたかう。▽盟主(=ちかいを結んだ仲間の中心になる人)は、多数決で決めよう。▽国際連合に加盟する。▽同じ考えのなかまで盟約(=かたい約そく)を結ぼう。▽同じ考えのもとにかたい約そくを結んだ友を盟友といいます。

参考　「明(=うける)」と「皿(=血)」からできている。いけにえの血をうけてすすり、ちかいをむすぶことからできた。

◎皿(さら)の部・13(8)画

署 †

おん　ショ
くん　―

冖　罒　罒　罗　署　署

いみ　㊀やくわりのきまった役所。「署員・署長・本署・税務署・消防署・警察署」　㊁書きしるす。「署名・連署」

《使い方》

▽署長の命令を守る。▽税務署に税金をおさめる。▽消防署では夜も見はりをしています。▽出勤したら、それぞれの部署(=わりあてられた役め)についてください。▽この書類に署名してください。

参考　「著」や「暑」とまちがえやすい。

暑(しょ)　著(ちょ)

◎罒の部・13(8)画

聖

おん　セイ
くん　―

一　丅　耳　耳　聖　聖

いみ　㊀ちえや徳のすぐれた人。「聖人・聖者」　㊁その道で最もすぐれた人。「楽聖・詩聖」　㊂きよらか。「聖火・聖書・聖典・聖夜・聖地」

《使い方》

▽かれは聖人のように心の暖かい人です。▽ベートーベンは楽聖(=音楽界の偉人)とよばれる。▽クリスマスの夜、聖歌を歌いながら町を歩く。▽聖書を読む。▽神聖な神社の境内を散歩する。▽聖火台に火がともる。▽聖母(=キリストの母)マリア。▽キリスト教の聖書、仏教の経典、イスラム教のコーランなどを聖典という。

◎耳(みみ)の部・13(7)画

六年

腹

おん フク
くん はら

腹 腹 腹 腹 腹 腹

いみ ㊀おなか。「腹部・腹痛・空腹・満腹」㊁心の中。「腹案」㊂まんなか。「山腹・中腹」

《使い方》

▽きょうは腹痛のため欠席します。▽山では、空腹からそう難する場合がある。▽腹八分(=腹いっぱい食べずに、ほどよいところでやめること)にしておこう。▽腹案(=心の中にもっている考えや計画)をおきかせください。▽かれは腹黒い(=ずるい)やつだ。▽山の中腹には赤や黄のバンガローが見える。

参考 「復」「複」などとまちがえやすい。

◇肉(にく)の部・13(9)画

蒸

おん ジョウ
くん むす・むれる・むらす

艹 艹 芽 茏 茏 蒸

いみ ㊀水などがあたためられて気体になる。「蒸気・蒸発・蒸留」㊁ゆげをあてる。むす。むらす。「蒸し焼き・蒸しぶろ・蒸し器・茶わん蒸し」

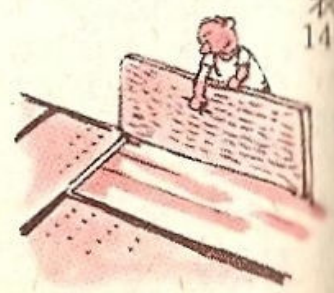
《使い方》

▽ひなたの水がいつのまにか蒸発した。▽むかし、汽車のことを「おか蒸気」といった。▽ふつうの水を熱して、その蒸気をひやして作った水を蒸留水といいます。▽毎日蒸し暑い日が続く。▽おいもを蒸してたべた。▽ご飯はよく蒸らしてから食べるとおいしい。

◇艹(くさかんむり)の部・13(10)画

裏

おん リ
くん うら

亠 亩 亩 亰 裏 裏

いみ ㊀うら。うしろ。「裏面・表裏・裏日本・裏町・裏打ち・裏布」㊁もののうちがわ。うち。「脳裏・手裏けん」㊂…のあいだに。「暗暗裏・盛*況*裏」

↕表 145

《使い方》

▽学校の裏門の近くに小さな池がある。▽裏面でいろいろと工作する(=ある目的をとげるために働きかける)。▽不安が脳裏(=頭の中)をかすめた。▽暗暗裏に(=人に知られずに)調査する。▽友情を裏切るようなことはするな。

✕ 裏　○ 裏

◇衣(ころも)の部・13(7)画

誠

おん セイ
くん まこと

言 訁 訂 訪 誠 誠

いみ ㊀まごころ。「誠意・熱誠・至誠・忠誠」㊁うそいつわりのないこと。ほんとう。「誠実」

《使い方》

▽誠意をこめて話す。▽母は誠心誠意（＝まごころをこめて）父の看病をした。▽至誠天に通ず（＝まごころを神が知って、よいむくいがある）。▽兵士たちは国王に忠誠をちかった。▽主君に誠をつくす。▽これは誠の話です。▽かれは誠実な（＝正直でまじめな）人です。▽誠にすみませんが、たばこの火を貸してください。

参考 「試」とまちがえやすい。

◎言（い）の部・13（6）画

賃

おん チン
くん ―

亻 仁 仟 任 賃 賃

下をみじかく

いみ ㊀やとい人にしはらうお金。「賃上げ・労賃」㊁りょうきん。「運賃・家賃・賃借り・賃貸し・車賃」

《使い方》

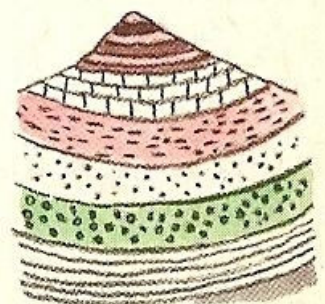
▽賃上げ（＝給料のねあげ）を要求して組合はストライキに突*入した。▽一日千円の賃金をはらう。▽今月から、国鉄の運賃が上がった。▽きょうは家賃をはらう日だ。▽お使いをしておだ賃をもらった。▽車賃だけでも受け取ってください。

参考 経済用語としては「賃銀」と書くが、ふつうは「賃金」と書く。

◎貝（かい）の部・13（6）画

層 †

おん ソウ
くん ―

コ 尸 层 届 層 層

いみ ㊀いくだんにもなってかさなる。「高層・地層・断層・層雲」㊁人の階級。「上層・農民層」

《使い方》

▽大むかしの人がすてた貝がらが層をなして化石になっている。▽赤土や砂の地層があらわれた。▽断層のようすをスケッチする。▽低所得者層（＝収入の少ない人たち）の税金は、もっとかるくしてもよい。

参考 「層」の尸がとれて、亻がつくと僧（＝おぼうさん）、貝がつくと贈*（＝おくる）の字になる。

僧 贈

◎尸（しかばね）の部・14（11）画

六年

模

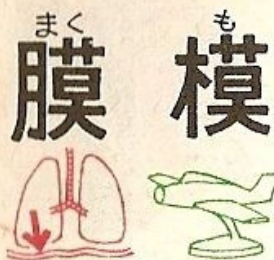
おん　モ・ボ
くん　―

いみ　㊀てほん。「模範*」㊁まねる。うつす。「模写・模型・模造」㊂かたち。かざり。「模様」

《使い方》

▽あなたはこの学校の模範*生です。▽先生の絵を模写する(=まねてかく)。▽弟は模型飛行機を作るのに夢*中です。▽模造しんじゅ(=にせて作ったしんじゅ)の首かざりを買った。▽美しい模様の着物。▽規模(=しくみ)の大きな会社。

参考　「膜*」は「うすいかわ」の意味。

模(も)　膜(まく)

◎木(き)の部・14(10)画

疑

おん　ギ
くん　うたがう

↕信212

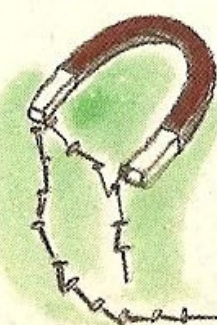
いみ　㊀うたがう。あやしむ。「疑心・疑念・疑問・けん疑・疑惑*・半信半疑・容疑・疑点・質疑」㊁にている。なぞらえる。「疑似」

《使い方》

▽犯人ではないかと疑う。▽かれのいうことに疑問をもった。▽どろぼうのけん疑(=疑い)をかけられる。▽疑心暗鬼*を生ず(=疑っていると、ありもしないことがほんとうにあるように思われてくる)。▽これから質疑(=質問)を受けます。▽疑点(=疑わしい点)をただす。▽疑似せきりにかかった。

◎疋(ひき)の部・14(9)画

磁

おん　ジ
くん　―

いみ　㊀じしゃく。「磁針・磁気・磁極・磁場・磁力」㊁せともの。「磁器・陶*磁器・青磁」

《使い方》

▽磁石は鉄をひきつける。▽磁針はいつも北をさします。▽高い温度でやいたものを磁器という。▽床*の間に青磁(=青い色のうわぐすりをかけてやいたせともの)のつぼがかざってある。

参考　「慈*・滋*」などとまちがえやすい。「慈」は、いつくしむ。「滋」は、えいようになる。

×磁　とる

◎石(いし)の部・14(9)画

六年

穀

おん コク
くん —

士 声 幸 東 穀 穀

いみ ㊀こくもつ。米・麦など。「穀倉・穀類・五穀・雑穀・米穀」 ㊁もみ。もみがら。「脱*穀」

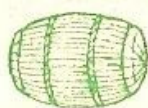
《使い方》
▽この地方は日本の穀倉地帯(＝米などがたくさんとれる所)とよばれている。▽五穀とは、米・麦・まめ・あわ・きびのことである。▽秋になるとあちこちで、脱*穀機を動かす音が聞こえる。

参考 「殻*」は、動物や植物の外がわをおおっているかわのこと。

誤

おん ゴ
くん あやまる

↕正 47

亠 言 訂 誤 誤 誤
つづけてかく

いみ まちがう。まちがい。「誤字・誤解・誤認・誤報・誤算・誤訳・誤差」

《使い方》
▽誤って友だちにけがをさせた。▽この作文には誤字が多い。▽親切をぎゃくに誤解された。▽きのうの事故の記事は誤報でした。▽五人しか集まらないとは、思わぬ誤算(＝みこみちがい)だった。▽本の終わりに正誤表(＝まちがいを正した表)をつける。

参考 わるかった、とわびる意味の「あやまる」は「謝る」と書く。

認

おん ニン
くん みとめる

亠 言 訂 訒 認 認

いみ ㊀ゆるす。「認可・黙*認・承認」 ㊁はっきり知る。みとめる。「認識・確認・自認・認知・認定・否認・公認」 ㊂はんこ。みとめ。

《使い方》
▽店を出すことを認可された。▽会員以外ははいれないのだが黙*認して(＝だまってゆるして)もらった。▽前方に人かげを認める。▽事実を確認する。▽かれは絵の才能があると自認している(＝自分で自分のことをみとめている)。▽問題の重大性を認識する。▽ここに認め(＝はんこ)をおしてください。

木(12)の部・14(9)画
言(7)の部・14(7)画
言(7)の部・14(7)画

六年

誌

おん シ
くん ―

亠 言 計 詁 誌 誌（下をみじかく）

いみ ㊀事実をかきしるす。また、かきしるしたもの。「日誌・地誌」㊁ざっし。「週刊誌・誌上・機関誌」

《使い方》
▽一年生のときからずっと日誌をつけています。▽図書館で郷土の地誌（＝その土地の地理などをしるした書物）を読む。▽クイズの答えは誌上で発表します。▽毎週、週刊誌を買います。

参考 「新聞紙」の「紙」と「雑誌」の「誌」をまちがえないように注意しよう。

新聞紙　雑誌

◇言(ごんべん)の部・14(7)画

閣

おん カク
くん ―

丨 𨳇 門 閁 閔 閣

いみ ㊀たかくつくったりっぱな家。「天守閣・高閣・神社仏閣」㊁「内閣」の略。「閣議・組閣・入閣」

《使い方》
▽お城の天守閣にのぼって、四方をながめる。▽砂上の楼*閣（＝砂の上にきずいた、りっぱな建物）とは、実現できないものごとのたとえにいいます。▽神社仏閣（＝神社やお寺）をめぐり歩く。▽大臣を集めて閣議を開く。▽総理大臣が内閣を作ることを組閣という。

参考 門がまえの中の「各」が「カク」という音を表す。

◇門(もんがまえ)の部・14(6)画

障

おん ショウ
くん さわる

了 阝 阝立 陪 障 障

いみ さえぎる。じゃまをする。「障害・故障・支障・障子」

《使い方》
▽多くの障害をのりこえて、優勝の栄冠*をかちとった。▽その人の名を公表するのは差し障りがある。▽仕事のことで支障がおきたので、旅行はとりやめになった。▽毎年、年のくれが近づくと、障子のはりかえをします。

参考 「障害」はじゃまになること。「傷害」は人にきずをつけること。

しょうがい 障害
しょうがい 傷害

◇阝(こざとへん)の部・14(11)画

六年

需

おん ジュ

くん ―

一 二 雫 雫 需

いみ もとめる。いりよう。ひつようなもの。「需要・特需・軍需品・必需品」

《使い方》

▽このごろは米より小麦の需要がふえてきた。▽商品を売るには、需要供給(=入り用なことと、作って売ること)のバランスがとれないと失敗する。▽軍需品(=軍隊で使う品物)をのせたトラックがとおる。▽市場にでかけて必需品を買って帰る。

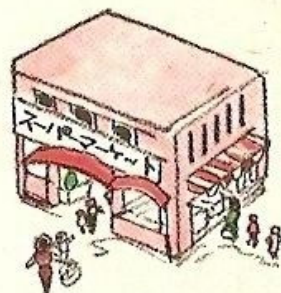
参考 「需要」は「需用」とは書かない。ただし、「電気・ガスの需用量」などのときは「需用」と書く。

◎雨の部・14(6)画

劇

おん ゲキ

くん ―

广 庐 虍 豦 劇

いみ ㊀はげしい。「劇薬」㊁しばい。「劇化・劇的・演劇・喜劇・劇場・新劇・劇作家」

《使い方》

▽劇薬はかならず医者のゆるしをえて使う。▽父は劇的な一生をおくった。▽演劇クラブにはいって活やくする。▽劇場のろうかで友人にあった。▽しばいは大きく二つに分けると、悲劇と喜劇に分かれます。▽将来は劇作家になりたいと思います。

参考 「はげしい」の意味では、ふつう「激*」を使う。「劇」を使うのは「劇薬」だけ。

◎刀(刂)の部・15(13)画

権

おん ケン・ゴン

くん ―

木 杧 栫 梈 権

いみ ㊀人を支配する、いきおい。ちから。「権限・権威・権力・権勢・実権・権利・人権・利権・選挙権・特権」㊁かりのもの。「権化」

《使い方》

▽会社では社長がすべての権限をもつ。▽かれは植物学の権威*(=その道でとくにすぐれた人)である。▽赤んぼうにも人権はある。▽政治の実権をにぎる。▽神の権化(=仮にすがたをかえてあらわれたもの)のような人。

参考 「ゴン」の音は「権化」「権現」などのことばだけに使う。

◎木の部・15(11)画

六年

潮

おん チョウ
くん しお

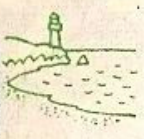
氵 汁 洁 淖 潮 潮

いみ ㊀しおのみちひ。「潮干がり・潮流・潮風・満潮・干潮・潮時」㊁ものごとのうつりかわり。「風潮」

《使い方》

▽あしたは潮干がりに行く。▽船は潮流にのって進む。▽干潮のときには、むこうの岩まで歩いてわたれる。▽潮がみちてくるときにきこえる波の音を潮さいといいます。▽世の中の風潮にながされない。

参考 「潮」は海の水のみちひき。「塩」は海水からとれる食品。

潮 ちょう　塩 えん

◇水(みず)の部・15(12)画

熟

おん ジュク
くん うれる

古 亨 享 孰 孰 熟

いみ ㊀にえる。「半熟」㊁よくみのる。うれる。「成熟・未熟・早熟」㊂十分にできる。よくなれる。「熟考・熟練・熟達・熟読・円熟」

《使い方》

▽卵を半熟にしてください。▽よく熟れたメロン。▽このくだものはまだ未熟です。▽熟考してから決心する。▽文章を熟読してその意味を考える。▽年は若いが、円熟した(=よくなれてじょうずな)演技だ。

参考 「熱」や「塾*」とまちがえやすい。

熱 ねつ　塾 じゅく

◇火(ひ)の部・15(11)画

蔵

おん ゾウ
くん くら

艹 芦 芦 芦 芦 蔵

いみ ㊀しまう。しまっておく。「蔵書・所蔵・内蔵・貯蔵・無じん蔵・冷蔵庫」㊁品物をしまっておく建物。くら。「土蔵・蔵ばらい」

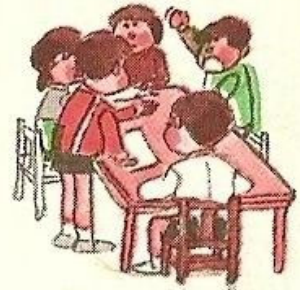
《使い方》

▽父の書さいは蔵書(=もっている本)でいっぱいです。▽セルフタイマーを内蔵した(=その中にもっている)カメラ。▽土蔵が三つもある。▽売れ残りの品物をやすく売ることを蔵ばらいという。

参考 「蔵」はいろいろな品物をしまっておく所。「倉」は米などをしまっておく所。

◇艹(くさかんむり)の部・15(12)画

論

おん ロン
くん ―

いみ ㊀考えをいいあう。「議論・論争・論点・論戦・口論・論証」㊁もっている考え。意見。「結論・異論・世論・論説・論評」

《使い方》
▽平和ということについて、熱心に議論しあった。▽ふたりの作家の論争は一年以上もつづいた。▽論よりしょうこ（＝議論するより実際のしょうこを見ることがだいじだ）。▽世論がたかまって、不正があばかれた。

参考 つくりの部分が「俞」になると「諭」で、「さとす」意味になる。

教諭（きょうゆ）

◇言（ごんべん）の部・15（8）画

諸

おん ショ
くん ―

いみ あることばの上について「いろいろ」という意味を表すことば。「諸国・諸島・諸説・諸道具」

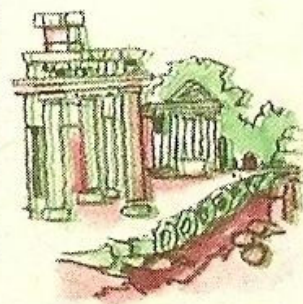
《使い方》
▽のんびりと諸国をめぐりあるく。▽諸君（＝大ぜいの人によびかけることば。みなさん）に一言お話ししたい。▽諸道具（＝いろいろな道具）をわすれないように、帰るしたくをしよう。▽源　義経の死については諸説（＝いろいろな説）があって、ほんとうのことはわからない。

参考 へんの「言」が「糸」になると、「緒*」で、「糸のはし」の意味になる。

◇言（ごんべん）の部・15（8）画

六年

遺

おん イ・ユイ
くん ―

いみ ㊀（死んだあとに）のこす。のこったもの。「遺志・遺せき・遺体・遺書・遺伝・遺児」㊁なくす。「遺失物」

《使い方》
▽父の遺志（＝死んだ人の残した望み）をついで医者になる。▽遺体にとりすがって泣く。▽オリンピアの遺せき（＝昔のたてものなどのあと）をたずねる。▽遺失物（＝落とし物）はけいさつに届ける。

参考 「ユイ」の音は「遺言」だけに使う。「遣*（＝人をつかわす）」とまちがえやすい。

◇辶（しんにょう）の部・15（12）画

奮

おん　フン
くん　ふるう

いみ　ふるいたつ。はげむ。さかんにする。「興奮・奮戦・発奮・奮起・奮闘*」

《使い方》

▽奮って参加してください。▽コーヒーをのむと興奮してねむれない。▽奮戦（＝はげしくたたかうこと）のかいなく負けた。▽本代に千円奮発する（＝思いきって出す）。▽孤*軍奮闘*する（＝ひとりで戦う）。

参考　「奮う」は、心をふるいおこす。「振*う」は物をはげしく動かす。

奮（ふん）　奪（だつ）

◇大（だい）の部・16(13)画

憲

おん　ケン
くん　—

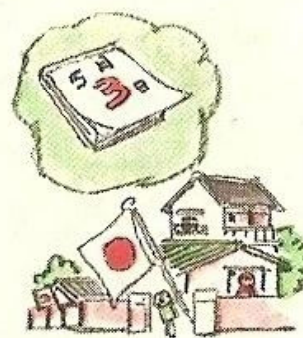
つきでない

いみ　㊀おおもとのきまり。「家憲」㊁「憲法」のりやく。「違憲・立憲政治」㊂やくにん。「官憲・憲兵」

《使い方》

▽ひとをあてにしないということが、わが家の家憲（＝家のおきて）になっている。▽児童憲章は児童のしあわせをまもるためにつくられたきまりです。▽その行為*は違憲（＝憲法に反すること）である。▽日本の政治は、憲法をもとにして行われる、立憲政治です。▽五月三日は憲法記念日です。▽犯人は官憲（＝けいさつ官）によってたいほされた。

◇心（こころ）の部・16(12)画

操

おん　ソウ
くん　みさお・あやつる

いみ　㊀あやつる。「操縦・操作・操車・操業」㊁たいどや心をかえない。みさお。「操行・節操」

《使い方》

▽父は飛行機の操縦をします。▽電子計算機を操作してむずかしい計算を行う。▽人形を操ってしばいをします。▽この工場は、夜おそくまで操業して（＝しごとをして）います。▽政治家としての操を守る。▽かれはどんな時にも節操（＝自分の考えや立場をかたく守ること）をまげない。

参考　「繰*」とまちがえやすい。「繰*」は糸などをくること。

◇手（て）の部・16(13)画

六年

樹 †

おん ジュ
くん ―

いみ ㊀立ち木。「樹木・大樹・樹海・樹氷・樹液・果樹園」㊁うちたてる。たてる。「樹立」

《使い方》

▽公園の樹木をたいせつにしよう。▽よらば大樹のかげ(=たよるならしっかりしたものにたよるべきだ)。▽朝日をうけて樹氷がきらきら光る。▽目の下に樹海(=広いはんいに木がしげっている所)が広がる。▽果樹園の中には、りんご・なしなどいろいろな木がある。▽ゴムの木の樹液からゴムをとる。▽一〇〇メートルの自由型で新記録を樹立した。

◇木(き)の部・16(12)画

糖 †

おん トウ
くん ―

いみ さとう。あめ。「糖分・砂糖・製糖・ぶどう糖・糖蜜*」

《使い方》

▽このおかしは糖分が少ないので、あっさりした味だ。▽砂糖はさとうきびからつくる。▽あしたは、製糖工場を見学に行く。▽砂糖を精製したあとに残る糖蜜*は、アルコールの原料になります。▽くだものの中には、果糖とぶどう糖が多くふくまれている。

参考 あめは米から作る。「唐」が、音の「トウ」を表す。

○糖　×糖

◇米(こ)の部・16(10)画

縦 †

おん ジュウ
くん たて

↕横 182

いみ ㊀たて。「縦横・縦断・縦走・縦貫*・縦隊」㊁自由にする。「放縦・操縦・縦覧」

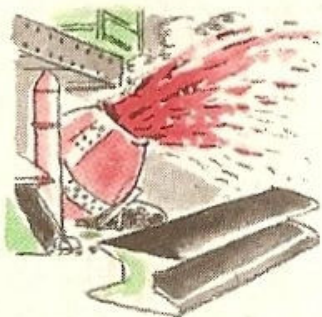
《使い方》

▽このびんせんは縦書き用です。▽先生の号令で二列の縦隊(=縦に長くならんだ形)になった。▽東北本線は、岩手県を縦貫*しています。▽放縦な(=かってきままな)生活を送る。▽飛行機を操縦して、外国旅行がしたい。▽縦横無尽*(=思う存分、自由自在)に活躍*する。▽室内縦覧(=自由に見ること)禁止。

参考 「従」とまちがえやすい。

◇糸(い)の部・16(10)画

鋼

おん　コウ
くん　はがね

いみ　きたえて質を強くした鉄。はがね。「鋼鉄・鋼材・製鋼・鋼筆」

《使い方》
▽鋼鉄というのは、少量の炭素をふくんだかたい鉄で鋼ともいう。▽工場から鋼材(=物をつくる材料となる鋼鉄)が運びだされる。▽鉄材を買い入れて製鋼する(=鋼鉄をつくる)。▽かれは鋼鉄のように強い意志をもつ人だ。▽ルビーやサファイアなどを鋼玉といいます。

参考　「綱*・網*・鉱」などとまちがえやすい。

綱　網　鉱

◇金(かね)の部・16(8)画

優

おん　ユウ
くん　やさしい・すぐれる

いみ　㊀やさしい。しとやか。「優美」㊁すぐれている。「優先・優勝・優位・優勢・優劣」㊂役者。「俳優・男優・女優・名優・声優」

《使い方》
▽心の優しい人。▽子どもを優先的に(=ほかのものより先にして)入場させた。▽町内のマラソン大会で優勝した。▽成績を優・良・可で表す。▽優れた成績をあげる。▽試合は敵が優勢のうちに後半に進んだ。▽わたしは将来俳優になりたい。▽広場は、優に(=らくに)二千人をこえる人でうずまった。

◇人(ひと)の部・17(15)画

厳

おん　ゲン・ゴン
くん　おごそか

いみ　㊀きびしい。「厳格・厳禁・厳守・厳重・厳正・厳選」㊁おごそか。「厳然・そう厳・厳しゅく」

《使い方》
▽父は、しつけについてひじょうに厳しい。▽火気厳禁。▽この規則だけは厳守して(=きびしくまもって)もらいたい。▽戸じまりを厳重に(=しっかりと)する。▽厳冬(=ひどく寒い冬)の北海道でくらす。▽アルプスが厳然とそびえ立つ。▽そう厳な音楽。▽厳かに式を行う。

参考　「ゴン」の音は「そう厳」ということばだけに使われる。

◇攵(ぼくづくり)の部・17(13)画

六年

縮

おん シュク　くん ちぢむ・ちぢまる・ちぢめる・ちぢれる・ちぢらす

縮 幺 糸 紵 縮 縮 縮

いみ 小さくする。ちぢめる。「縮刷・縮写・縮尺・縮小・縮図・圧縮」

《使い方》

▽図を二分の一の大きさに縮めてかく。▽新聞の縮刷版はとても便利だ。▽この表を三分の一に縮写してください。▽軍備を縮小する。▽おみやげまでいただいて恐*縮(=おそれいること)です。▽このドアは圧縮空気(=圧縮ポンプを使っておしちぢめた空気)で開閉します。▽反物を水につけたら収縮した(=縮んだ)。

参考 かなづかいは、「ちじむ」としてはまちがい。

◎糸(いと)の部・17(11)画

覧

おん ラン　くん —

覧 丨 厂 臣 臣 臨 覧 覧

いみ みる。みわたす。「回覧・観覧・展覧会・遊覧」

《使い方》

▽絵の展覧会を見に行く。▽となりの家へ回覧板をとどける。▽図書館で、本を読むへやを閲*覧室という。▽湖を、遊覧船でひとまわりした。▽一九七〇年に、日本で万国博覧会が開かれた。▽六年生で学習する漢字の一覧表を作る。

参考 「みる」という意味をもった字に、「見・視・観・覧」などがある。

見のなかま

見 視 観 覧

◎見(みる)の部・17(10)画

簡

おん カン　くん —

簡 𠂉 竹 笞 简 简 簡

いみ ㊀手紙。「書簡」㊁たやすい。てがる。「簡単・簡略・簡素・簡潔」

《使い方》

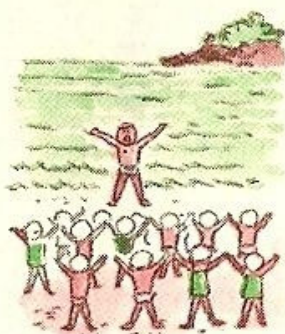
▽父からあずかった書簡を祖父にとどける。▽きょうの宿題はとても簡単だった。▽山の中で簡素な(=簡単でかざりけのない)生活を送る。▽文章は簡潔に(=かんたんにまとめて)書くことがのぞましい。▽時間がないので、お話は簡略にお願いします。

参考 昔、中国では竹をけずったものに字を書いていたので、竹かんむりがついている。

◎竹(たけ)の部・18(12)画

六年

臨

おん　リン
くん　のぞむ

いみ　その場にでる。のぞむ。「臨時・臨席・臨終・臨海・君臨」

《使い方》
▽校長先生は病気にもかかわらず式に臨まれた（＝出席なさった）。▽夏休みには臨海学校（＝海岸で開く学校）でからだをきたえる。▽臨時に（＝その時だけ特別に）試験をする。▽臨機応変の（＝その場その場にふさわしい）処置をとる。

臨む　望む

参考　「臨む」はその場に出る、「望む」は「見る・願う」の意味。

◎臣（しん）の部・18（11）画

難

おん　ナン
くん　かたい・むずかしい

↕易 274

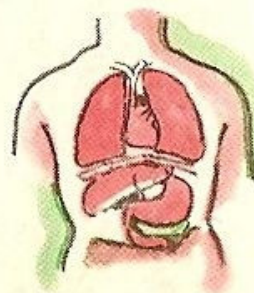
いみ　㊀むずかしい。「難解・難問・難題・就職難」㊁わざわい。苦しみ。「災難・盗*難・苦難」㊂（欠点を）せめたてる。「非難」

《使い方》
▽この問題は、小学生には難しい。▽かれの卑*劣*な行為*は、許し難い。▽この川をこすのは困難だ（＝むずかしい）。▽試験はどれも難問ばかりだった。▽思いがけない災難にあう。▽戸じまりに注意して、盗*難をふせごう。▽クラスの本をなくして、非難を受けた。▽台風のため、船が難破した（＝こわれた）。

◎隹（ふるとり）の部・18（10）画

臓†

おん　ゾウ
くん　―

おとさないように

いみ　はらわた。「臓物・臓器・肺臓・心臓・内臓・かん臓・じん臓」

《使い方》
▽心臓の手術に成功した。▽理科の時間に、かえるの内臓をしらべた。▽胸と腹の中にある器官を臓器という。▽肺臓は、すいこんだ空気から酸素をとり、血液にあたえるはたらきをする。

参考　「臓」の「月」はからだを表す。「内臓」と「内蔵」は、どちらも「ナイゾウ」と読むが、内臓は「はらわた」の意味、内蔵は「内部にもっている」という意味。

◎肉（にく）の部・19（15）画

警

おん ケイ
くん —

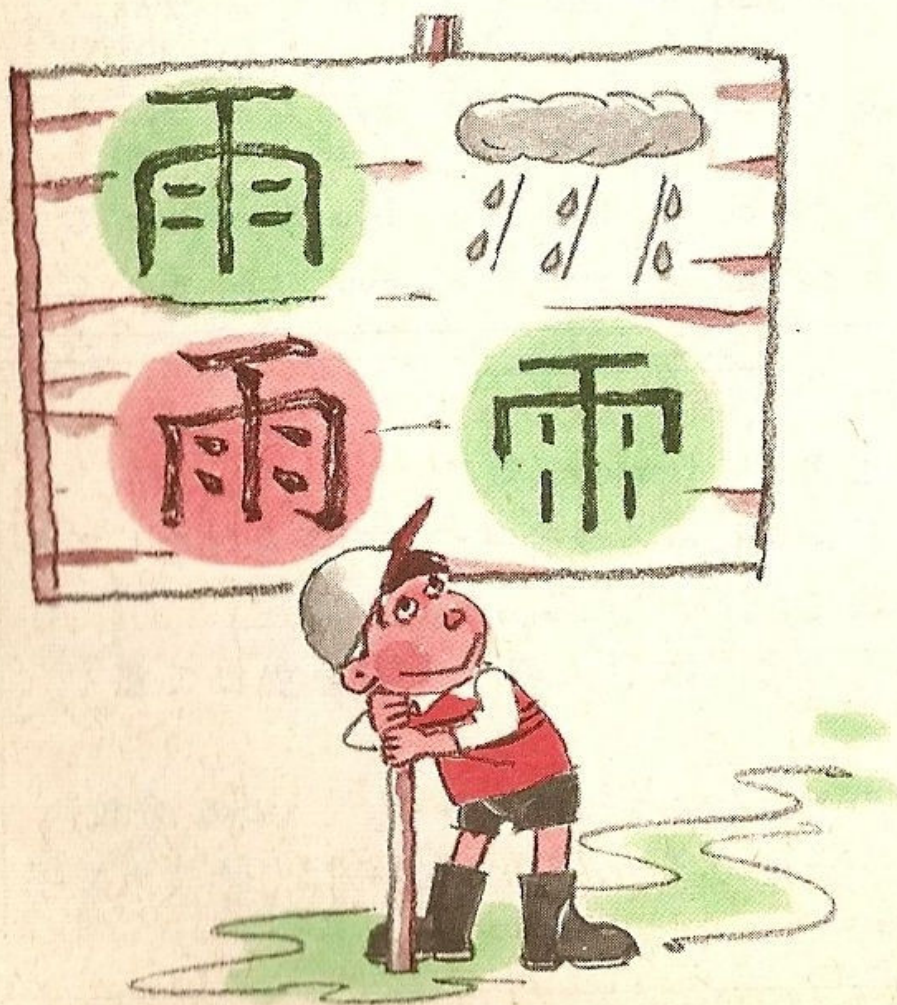
いみ　いましめる。注意する。守る。「警告・警官・警報・警察・警備・夜警・警視庁」

《使い方》
▽危険な橋をわたらないように、警告する（＝まえもって注意する）。▽ガードマンにビルを警備してもらう。▽雨の降らない日が続いて、火災警報が出された。▽将来は警察官になって、人人の安全を守る。▽冬の間の夜警（＝夜まわり）はつらい。▽婦人警官のことを婦警ともいう。

参考　「驚」とまちがえやすいので注意する。

〈さんこう〉
◇四字の熟語◇

一言半句　ほんの少しのことば。
一挙両得　一つのことをして、二つのよいことがあること。
三拝九拝　なんどもおじぎをすること。ぺこぺこおじぎをすること。
再三再四　三度も四度も。たびたび。
右往左往　多くの人がごたごたと、右に左にうごくこと。
一長一短　よいところもあるが、わるいところもあること。
一朝一夕　一日か、ふつか。わずかのあいだ。
完全無欠　かけたところや、たりないところがないこと。
全知全能　なんでも知っていて、なんでもできること。
千変万化　いろいろさまざまにかわること。
日進月歩　たえまなく進歩すること。
牛飲馬食　牛や馬のようにたくさん飲んだり食べたりすること。
南船北馬　あちらこちらとせわしく旅行すること。
古今東西　今もむかしも、東も西も。いつでもどこでも。
有害無益　害があって益のないこと。
一望千里　ずっと遠くまで、ひとめでながめられること。
永久不変　いつまでたっても、すこしもかわらないこと。
十人十色　人はめいめい、好みや考えがちがうということ。
一部始終　始めから終わりまで、ぜんぶ。すべて。
半死半生　もう少しで死にそうなこと。
千差万別　ひじょうに種類が多いこと。いろいろ。さまざま。
空前絶後　あとにも先にも例がないような、ひじょうにめずらしいこと。
種種雑多　いろいろなものがまじっていること。
単刀直入　前おきがなく、いきなり話の中心にはいること。
枝*葉末節　あまりだいじではないこと。
半信半疑　半分信じ、半分疑うこと。ほんとうに信じきれないこと。

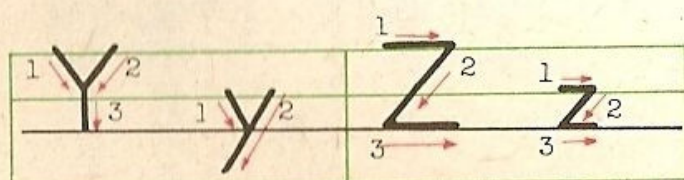
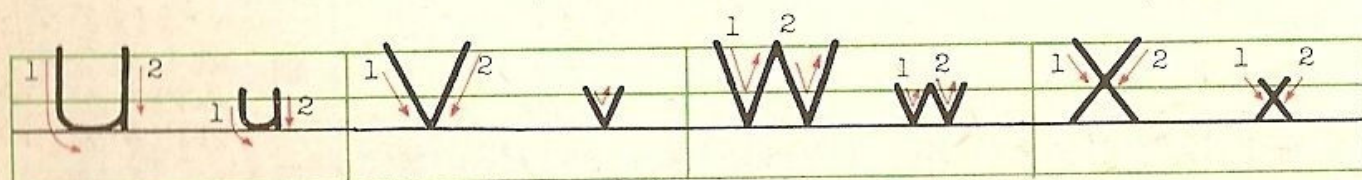
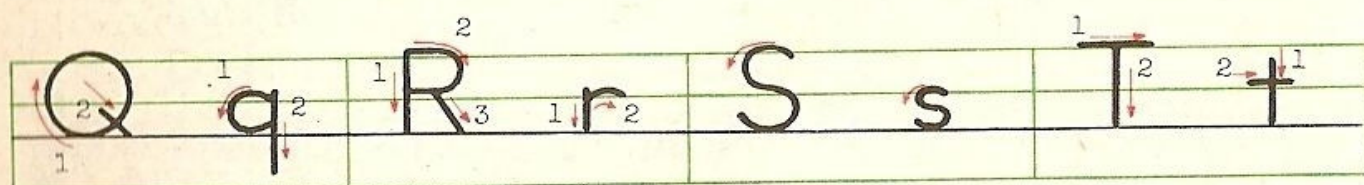
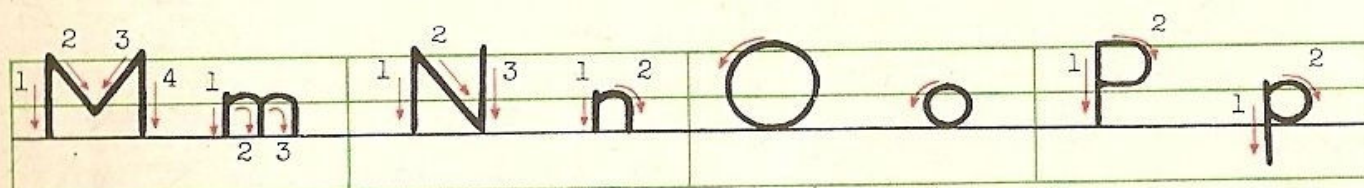
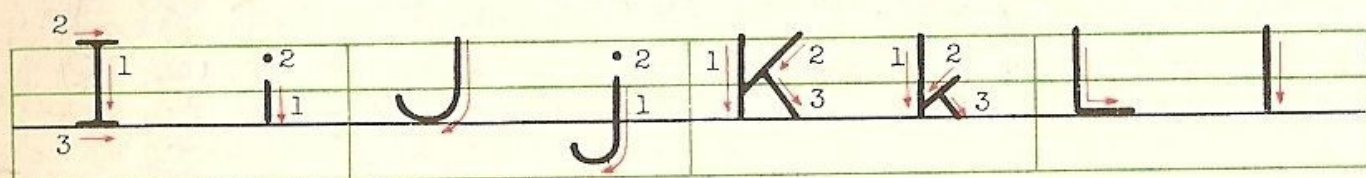
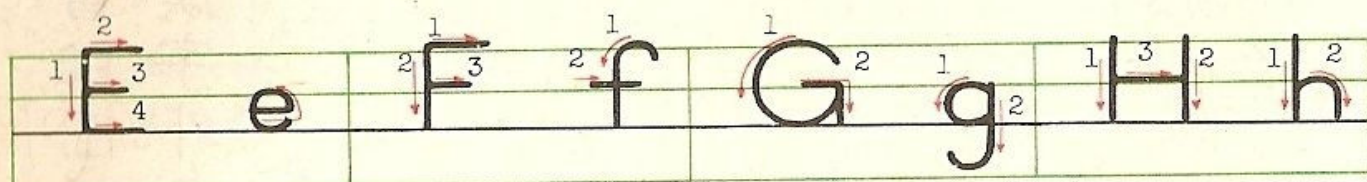
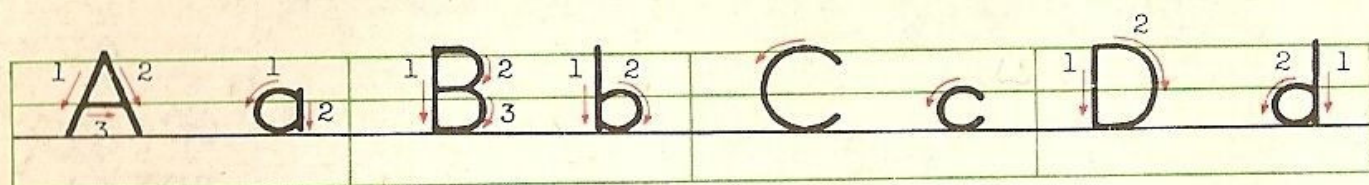
ふ
ろ
く

ローマ字表

(　　)内は習慣で使っているものや外来語を書くときに使ってもよいもの。

a	あ	i	い	u	う	e	え	o	お	n	ん				
ka	か	ki	き	ku	く	ke	け	ko	こ	kya	きゃ	kyu	きゅ	kyo	きょ
sa	さ	si (shi)	し	su	す	se	せ	so	そ	sya (sha)	しゃ	syu (shu)	しゅ	syo (sho)	しょ
ta	た	ti (chi)	ち	tu (tsu)	つ	te	て	to	と	tya (cha)	ちゃ	tyu (chu)	ちゅ	tyo (cho)	ちょ
na	な	ni	に	nu	ぬ	ne	ね	no	の	nya	にゃ	nyu	にゅ	nyo	にょ
ha	は	hi	ひ	hu (fu)	ふ	he	へ	ho	ほ	hya	ひゃ	hyu	ひゅ	hyo	ひょ
ma	ま	mi	み	mu	む	me	め	mo	も	mya	みゃ	myu	みゅ	myo	みょ
ya	や	i	い	yu	ゆ	e	え	yo	よ						
ra	ら	ri	り	ru	る	re	れ	ro	ろ	rya	りゃ	ryu	りゅ	ryo	りょ
wa	わ	i	い	u	う	e	え	o (wo)	お	(kwa)	くゎ			(gwa)	ぐゎ
ga	が	gi	ぎ	gu	ぐ	ge	げ	go	ご	gya	ぎゃ	gyu	ぎゅ	gyo	ぎょ
za	ざ	zi (ji)	じ	zu	ず	ze	ぜ	zo	ぞ	zya (ja)	じゃ	zyu (ju)	じゅ	zyo (jo)	じょ
da	だ	zi (di)	ぢ	zu (du)	づ	de	で	do	ど	zya (dya)	ぢゃ	zyu (dyu)	ぢゅ	zyo (dyo)	ぢょ
ba	ば	bi	び	bu	ぶ	be	べ	bo	ぼ	bya	びゃ	byu	びゅ	byo	びょ
pa	ぱ	pi	ぴ	pu	ぷ	pe	ぺ	po	ぽ	pya	ぴゃ	pyu	ぴゅ	pyo	ぴょ

《ローマ字のつづり方で注意することがら》

1. はねる音(ン)はnと書く。《tenki 天気》
2. はねる音のnと，その次にくる母音字(ぼいんじ)やyの字をはなして発音するときにはnの次に(')をいれる。《sin'yô 信用》
3. つまって発音するものは，はじめの子音字(しいんじ)を重ねて書く。《gakkô 学校》
4. 長音(ちょうおん)はその母音字の上に(^)をつけて表す。《tôkô 登校》
5. 文のはじめや，人・土地の名まえなどは語のはじめを大文字(おおもじ)で書く。《Kyôto 京都》

アルファベットの筆順

アルファベットの筆順にはいく種類かあり，これはその一例です。

国語および、理科や社会の教科書に出てくる学習漢字外のおもな漢字

▽配列は、総画数の順です。

▽音訓のらんは、かたかなが音読み、ひらがなが訓読みで、緑色の字は送りがなです。

▽漢字の下に☆印のあるものは、当用漢字音訓表にみとめられていない読み方をした字です。

漢字	音訓	語例
互	ゴ たがい	相互(そうご)・交互(こうご)
巨	キョ	巨大(きょだい)・巨人(きょじん)
江	コウ え	江戸(えど)・入り江(いりえ)
佐	サ	少佐(しょうさ)・大佐(たいさ)
吹	スイ ふく	吹奏(すいそう)
坑	コウ	炭坑(たんこう)・坑内(こうない)
妙	ミョウ	微妙(びみょう)・奇妙(きみょう)
尾	ビ お	船尾(せんび)・尾根(おね)
廷	テイ	朝廷(ちょうてい)・法廷(ほうてい)
沖	チュウ おき	沖積層(ちゅうせきそう)・沖合い(おきあい)
刺	シ さす・ささる	風刺(ふうし)・名刺(めいし)
奇	キ	奇跡(きせき)・奇妙(きみょう)

漢字	音訓	語例
奉	ホウ・ブ たてまつる	奉仕(ほうし)・奉行(ぶぎょう)
姓	セイ・ショウ	百姓(ひゃくしょう)・姓名(せいめい)
征	セイ	征服(せいふく)・遠征(えんせい)
欧	オウ	欧米(おうべい)・欧州(おうしゅう)
炉	ロ	原子炉(げんしろ)
帝	テイ	帝国(ていこく)・皇帝(こうてい)
浄	ジョウ	浄土宗(じょうどしゅう)
狩	シュ かる・かり	刀狩り(かたながり)
盆	ボン	盆地(ぼんち)
荘	ソウ	荘☆園(しょうえん)
貞	テイ	貞☆永式目(じょうえいしきもく)
娯	ゴ	娯楽(ごらく)

漢字	音訓	語例
振	シン ふる・ふるう	振動(しんどう)・振興会(しんこうかい)
桃	トウ もも	桃山時代(ももやまじだい)
浮	フ うく・うかれる・うかぶ・うかべる	浮世絵(うきよえ)
畜	チク	家畜(かちく)
租	ソ	地租改正(ちそかいせい)
華	カ・ケ はな	日華事変(にっかじへん)
貢	コウ・ク みつぐ	年貢(ねんぐ)
尉	イ	大尉(たいい)・中尉(ちゅうい)
彫	チョウ ほる	彫像(ちょうぞう)・彫刻(ちょうこく)
描	ビョウ えがく	描写(びょうしゃ)
渉	ショウ	干渉(かんしょう)・交渉(こうしょう)
符	フ	符号(ふごう)・切符(きっぷ)

漢字	音訓	語例
菌	キン	細菌(さいきん)・菌糸(きんし)
偉	イ えらい	偉大(いだい)・偉人(いじん)
弾	ダン ひく・はずむ・たま	弾丸(だんがん)・爆弾(ばくだん)
廃	ハイ すたれる・すたる	廃藩置県(はいはんちけん)
棄	キ	放棄(ほうき)・棄権(きけん)
殖	ショク ふえる・ふやす	養殖(ようしょく)
湿	シツ しめる・しめす	湿度(しつど)・湿地(しっち)
疎	ソ うとい・うとむ	疎水(そすい)・疎通(そつう)
硫	リュウ	硫酸(りゅうさん)
装	ソウ・ショウ よそおう	装備(そうび)・服装(ふくそう)
診	シン みる	診察(しんさつ)・往診(おうしん)
寝	シン ねる・ねかす	寝室(しんしつ)・寝殿(しんでん)
献	ケン・コン	献血(けんけつ)・献立(こんだて)
禅	ゼン	禅宗(ぜんしゅう)・座禅(ざぜん)

漢字	音訓	語例
誉	ヨ ほまれ	名誉(めいよ)・栄誉(えいよ)
跡	セキ あと	奇跡(きせき)・遺跡(いせき)
遣	ケン つかう・つかわす	遣唐使(けんとうし)・派遣(はけん)
徴	チョウ	徴兵令(ちょうへいれい)・特徴(とくちょう)
獄	ゴク	安政の大獄(あんせいのたいごく)
碑	ヒ	石碑(せきひ)・記念碑(きねんひ)
網	モウ あみ	網漁(あみりょう)
誓	セイ ちかう	五カ条の御誓文(ごかじょうのごせいもん)
豪	ゴウ	豪族(ごうぞく)
幣	ヘイ	貨幣(かへい)
墳	フン	古墳(こふん)
敷	フ しく	屋敷(やしき)・敷設(ふせつ)
潜	セン ひそむ・もぐる	潜水(せんすい)・潜在(せんざい)
範	ハン	模範(もはん)・範囲(はんい)

漢字	音訓	語例
踏	トウ ふむ・ふまえる	踏み絵(ふみえ)
震	シン ふるう・ふるえる	地震(じしん)・震動(しんどう)
儒	ジュ	儒学(じゅがく)・儒教(じゅきょう)
緯	イ	緯度(いど)・北緯(ほくい)
聴	チョウ きく	公聴会(こうちょうかい)・聴覚(ちょうかく)
瞬	シュン またたく	瞬間(しゅんかん)・瞬時(しゅんじ)
藩	ハン	藩士(はんし)・親藩(しんぱん)
鎖	サ くさり	鎖国(さこく)
爆	バク	爆弾(ばくだん)・爆発(ばくはつ)
譜	フ	譜代大名(ふだいだいみょう)
籍	セキ	版籍奉還(はんせきほうかん)
露	ロ つゆ	日露戦争(にちろせんそう)
艦	カン	軍艦(ぐんかん)・艦隊(かんたい)
鑑	カン	図鑑(ずかん)・年鑑(ねんかん)

漢字のおこり

私たちが使っている漢字は、中国でできた文字で、今から一七〇〇年あまりまえ、三世紀ごろ日本に伝わったものです。

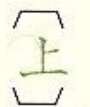
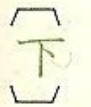
いま、世界で使われているほとんどの文字は、ずっとさかのぼると絵からはじまったものですが、漢字も大むかしの中国の人たちが、ことばを絵であらわすことからつくりだしたものです。しかし、何万もあることばをいちいち絵であらわすことはとてもできません。

そこで、かんたんに、どんなことでもあらわせるように、むかしの中国の人たちは、文字のつくり方や使い方をいろいろくふうしました。

漢字のつくり方や使い方には、つぎにあげたように六とおりあって、これを漢字の六書といいます。

1、象形——絵からできた字です。

日　雨　鳥

2、指事——絵であらわしにくいものを記号であらわしたものです。

〔上〕一の上に・をつけて「ここのところですよ」とさししめして、「うえ」をあらわします。

〔下〕「上」のはんたいで「した」をあらわします。

〔本〕木のねもとにしるしをつけて、「もと」をあらわします。

〔末〕木のこずえにしるしをつけて、「すえ」をあらわします。

〔二〕二本ぼうで、数の「二」をあらわします。

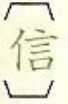
3、会意——二つ以上の字の意味をくみあわせて、一つのことばをあらわすようにしてできた字です。

人＋木

〔休〕「やすむ」ということばをあらわすのに人と木をあわせました。人は木の下でやすむからです。

木＋木

〔林〕「はやし」は木がたくさんあるので、木を二つならべました。

人＋言

〔信〕人と言(ことば)をあわせ、ことばと人の心が一致することをあらわ

し、「信じる」になりました。

〔鳴〕口と鳥をあわせて、「なく」ということばをあらわします。

口＋鳥

〔名〕夕と口で「な」ということばをあらわします。夕方くらいところで、だれだかわからないとき、口で名まえをいうからです。

夕＋口

4、形声――意味をあらわす字と、音をあらわす字をくみあわせて、つくった字です。

〔悲〕非が音「ヒ」をあらわし、心にかんけいのある意味だというもの。

非＋心

〔効〕交が音「コウ」をあらわし、力にかんけいのある意味だというもの。

交＋力

〔持〕寺が音「ジ」をあらわし、扌が手の動作にかんけいのある意味だというもの。

扌＋寺

このほかに、

▽字の右がわが音をあらわすもの
清・精・坂・飯・板・返・河・織・識

▽字の左がわが音をあらわすもの
視・攻・放・政・判・故・敵・領

▽字の上半分が音をあらわすもの
貸・資・賀・努・案・志・想

▽字の下半分が音をあらわすもの
景・界・客・管

▽そのほか
固(古)・週(周)・近(斤)・問(門)

などたくさんあり、漢字の九わりちかくは、形声文字です。

5、転注――むかしから、いろいろな説があり、はっきりしませんが、ふつうは、一つの字をもとにして、その形をすこしかえたり、ほかの字とくみあわせて、もとの字と同じ意味の字をつくることだといわれます。

〔考〕もともと「としより」の意味です。この字は、老(としより)の字の匕を丂(この形は「コウ」の音をあらわします)にかえてつくったものです。

6、仮借――「かしゃ」とも読みます。その字のもともとの意味にかんけいなく、同じ音のことばをあらわすために使うものです。

〔考〕「5転注」で説明したようにしてできたこの字は、のちに、それと同じ音(コウ)で「かんがえる」という意味のことばをあらわすようになりました。

〔求〕「キュウ」は、もともと毛皮のきもののことでしたが、同じ「キュウ」という音の「もとめる」という意味のことばをあらわすようになりました。

《日本でできた漢字》

漢字の大部分は中国からつたわったものですが、次のものは日本でつ

くられました。これらは、ほとんどのものが訓しかありません。

〔峠〕「とうげ」とよみます。とうげは、山ののぼりおりのさかいめであることからできました。

〔榊〕「さかき」とよみます。神さまにささげる木であることをあらわします。

〔働〕音は「ドウ」、訓は「はたらく」。「動」だけでも「はたらく」という意味がありますが、人（亻）をつけてつよめました。

〔辻〕「つじ」とよみます。つじは道（⻌）が十文字にまじわっていることからできました。

〔裃〕「かみしも」とよみます。こしから上にきる着物と下につける着物の意味からできました。

〔凪〕「なぎ」とよみます。八はかぜをあらわし、かぜがとまって静かになることからできました。

漢字の部首

ほとんどの漢字は、二つ以上の部分に分けることができます。その分けられたものを部首といいます。

部首は大きく分けると、七つに分けられます。部首は漢字の読みや意味にふかいつながりがあって、漢字の学習にはかかせないものです。ぜひおぼえておきましょう。

へん

左と右とに分けられるとき、左がわを「へん」といいます。

亻（にんべん）＝人をあらわす。
冫（にすい）＝氷をあらわす。
子（こへん）＝子どもをあらわす。
彳（ぎょうにんべん）＝行く・道をあらわす。
阝（こざとへん）＝おか・土をあらわす。
忄（りっしんべん）＝心をあらわす。
扌（てへん）＝手のどうさをあらわす。
氵（さんずい）＝水をあらわす。
月（つきへん）＝月・月光・時期をあらわす。
月（にくづき）＝肉のかわったかたちで、肉やからだをあらわす。
口（くちへん）＝口をあらわす。
土（つちへん）＝土をあらわす。
木（きへん）＝木をあらわす。
米（こめへん）＝米・米つぶをあらわす。
糸（いとへん）＝よってある糸をあらわす。
言（ごんべん）＝ことばをあらわす。
日（ひへん）＝太陽・時をあらわす。
火（ひへん）＝火・もえることをあらわす。
女（おんなへん）＝女・血のつながりのあることなどをあらわす。
耳（みみへん）＝みみをあらわす。
⻊（あしへん）＝足や足の動きをあらわす。
犭（けものへん）＝いぬ・けものをあらわす。
礻（しめすへん）＝神さまやまつりをあらわす。
衤（ころもへん）＝きものをあらわす。
弓（ゆみへん）＝ゆみをあらわす。
禾（のぎへん）＝いねをあらわす。
車（くるまへん）＝くるまをあらわす。

舟（ふね）＝ふねをあらわす。
石（いしへん）＝石をあらわす。
金（かねへん）＝鉱物（こうぶつ）・金ぞくをあらわす。
耒（すきへん）＝田をたがやす「すき」をあらわす。

つくり

左と右とに分けられるとき、右がわを「つくり」といいます。

力（ちから）＝努力（どりょく）することをあらわす。
攵（ぼくにょう）＝人のどうさをあらわす。
彡（さんづくり）＝美しくかざることをあらわす。
阝（おおざと）＝村・田をあらわす。
隹（ふるとり）＝尾（お）の短（みじか）いとりをあらわす。
頁（おおがい）＝頭（あたま）や顔（かお）をあらわす。
斤（おのづくり）＝おの・切ることをあらわす。
戈（ほこづくり）＝たたかい・武器をあらわす。

かんむり

上と下とに分けられるとき、上がわを「かんむり」といいます。

冖（わかんむり）＝おおうことをあらわす。
宀（うかんむり）＝すまい・やねをあらわす。
艹（くさかんむり）＝草をあらわす。
癶（はつがしら）＝せわしく足ぶみすることをあらわす。
耂（おいかんむり）＝としとったことをあらわす。
竹（たけかんむり）＝たけをあらわす。
雨（あめかんむり）＝くもやあめなどをあらわす。
罒（よこめ）＝あみをあらわす。

あし

上と下とに分けられるとき、下がわを「あし」といいます。

灬（れんが）＝火をあらわす。
皿（さら）＝食器（しょっき）をあらわす。

たれ

上から左下にたれさがっているかたちを「たれ」といいます。

厂（がんだれ）＝がけをあらわす。
广（まだれ）＝やねや家をあらわす。
疒（やまいだれ）＝びょうきをあらわす。

にょう

左から下に、へんとあしをあわせたようなかたちを「にょう」といいます。

廴（えんにょう）＝ひきのばすことをあらわす。
辶（しんにょう）＝移動（いどう）することをあらわす。
走（そうにょう）＝はしることをあらわす。
儿（にんにょう）＝人をあらわす。
夊（すいにょう）＝あしをあらわす。

かまえ

まわりをかこんでいるかたちを「かまえ」といいます。

勹（つつみがまえ）＝物をつつんでいることをあらわす。
气（きがまえ）＝じょうきをあらわす。
囗（くにがまえ）＝かこむことをあらわす。
門（もんがまえ）＝出入り口をあらわす。
匚（かくしがまえ）＝かくれること・かくすことをあらわす。
行（ぎょうがまえ）＝みちをあらわす。

漢字の筆順

漢字にはむずかしい形のものがたくさんあるので、自分かってに書いていると、とんでもないまちがいをすることがあります。そこで、「漢字の筆順」にしたがって、正しく書くようにしましょう。▽は、①②……に関係のある説明。（　）は、同じ筆順の漢字。

①上から下へと書く。

三→一　二　三

工→一　丅　工

▽上の部分と下の部分からできている文字は、上から書く。

喜→士　吉　壴　喜

客→宀　⿱宀夂　客

（今・分・至・実・家・軍）

②左から右へと書く。

川→丿　丿丨　川

学→丶　丷　⺍　学

▽左と右、または左・中・右の三つの部分からできている文字は左の部分から書く。

竹→ケ　竹

例→亻　⿰亻歹　例

（州・休・林・語・側・働）

③横の線とたての線が交わるときは、横からたてへと書く。

十→一　十

土→一　十　土

▽たての線がまがっていても、横から先に書く。

七→一　七

大→一　ナ　大

（太・切）

▽たての線が二つ以上のときも、横から先に書く。

共→一　十　廾　共

帯→一　十　卄　卅　卌　帯

（散・編・花・算・形・無）

▽横の線が二つ以上のときは、横・横・たての順に書く。

用→冂　月　月　用

通→甬　甬　甬　通

▽横・たての線がいずれも二つのときは、横・横・たて・たての順に書く。

耕→耒　耒　耕　耕

囲→冂　冂　冃　囲　囲　囲

④横の線とたての線が交わるときでも、つぎの場合にかぎり、たてから横へと書く。

㋑田および田のかわった形。

田→冂　冂　田　田

由→冂　巾　由　由

（男・町・細・曲・豊・角・解・再）

㋺王および王のかわった形。

王→一　丅　干　王

生→丿　𠂉　牛　牛　生

進→亻　亻　什　隹　進

寒→宀　宀　寉　実　寒

（美・差・主・王・馬・集・表・構）

⑤中と左右があって、左右が一・二画のときは中から書く。

小↓亅 小 小

当↓丨 ⺌ ⺌ 当

(水・示・緑・業・赤・楽)

▽つぎのものは左・右・中と書く。

性↓丶 丷 忄 性

火↓丶 丷 火

⑥外がわのかこみから書く。

国↓冂 国 国

同↓冂 冂 同

日↓冂 日 日

(円・内・司・月・目・田)

▽区・医はつぎのように書く。

区↓一 又 区

医↓一 矢 医

⑦左へはらう線と右へはらう線がまじわるときは、左へはらう線から書く。

文↓亠 ナ 文

人↓ノ 人

金↓ノ 人 金

(入・欠・支・父・収)

▽祭の上の部分もこれによる。

祭↓タ 夕 癶 祭

⑧文字(もじ)の全体、または上か下につきぬけるたての線は最後(さいご)に書く。

中↓口 中

書↓聿 聿 書

平↓亚 平

(申・事・車)

▽上にも下にもつきぬけないたての線は、上・たて・下の順(じゅん)に書く。

里↓日 甲 里

重↓亠 盲 重 重

⑨左右につきぬける横線は最後(さいご)に書く。

女↓く 女 女

子↓了 子

船↓丿 舟 舟 船

(母・毎)

▽世だけはつぎのように書く。

世↓一 廿 廿 世

⑩横線が長く、左へはらう線の短(みじか)い文字(もじ)は左へはらう線から書く。

右↓ノ ナ 右

有↓ノ ナ 有

(布・希)

▽横線が短(みじか)く、左へはらう線の長い文字(もじ)は横線から書く。

左↓一 ナ 左

友↓一 ナ 友

(在・存・抜)

⑪にょうのつく文字(もじ)は、にょうをあとで書く。

進↓隹 進

建↓聿 建

直↓直 直

(延・置)

▽つぎのにょうのつく文字(もじ)は、にょうから先に書く。

起↓走 起

勉↓免 勉

(題・処)

⑫たれのつく文字(もじ)はたれから書く。

店↓广 店

病↓广 疒 病

(圧・厚・広・度・庭)

送りがなのつけかた

この表の1〜13は、そのことばの送りがなが、下段の「送りがなのきまり」のうち、どのきまりにあてはまるかを示したものです。

あ

1 合う　12 合図　12 合間　12 組合　12 試合　12 場合　12 歩合　12 待合室　5 明かす　11 夜明かし　3 明らむ　4 上がる　11 雨上がり

4 挙がる　3 明るい　8 明るみ　5 明るむ　2 明らか(だ)　1 明く　10 明くる　1 明ける　1 上げる　1 挙げる　3 味わう　4 預かる　11 預かり金　1 預ける　2 温か(だ)

2 暖か(だ)　5 温かい　5 暖かい　4 温まる　4 暖まる　1 温める　1 暖める　8 当たり　11 日当たり　7 辺り　1 当たる　8 暑さ　4 集まる　1 集める　1 当てる

12 手当　1 暴く　1 暴れる　5 浴びせる　1 浴びる　3 危ない　3 危うい　1 操る　8 過ち　1 過つ　1 謝る　1 歩む　11 歩み寄り　3 新た(だ)　4 改まる

1 改める　1 表す　1 現す　1 著す　1 表れる　1 現れる　1 在る　1 有る　11 有り難み　5 合わす　5 合わせる　11 合わせ鏡　11 打ち合わせる

い

5 生かす　7 勢い　1 生きる　11 生き物　1 行く　11 行き帰り

10 生ける　1 潔い　5 勇ましい　1 勇む　9 頂　1 頂く　1 傷む　1 傷める　2 著しい　1 要る　1 入れる　12 借入金

う

1 植える　12 植木　11 田植え　4 受かる　1 承る　1 受ける　12 受付　12 受取

新しい送りがなのきまり

◆変化することば◆

1 「書く（書かない―書きます―書くとき―書けば―書け―書こう）」のように、変化することばは2〜5を除いて、変化する部分から送ります。

例　承る　実る　生きる　考える　助ける　潔い　主だ

2 「美しい」のように、「しい」のつくことば（一部の形容詞）、「静かだ」「健やかだ」「明らかだ」のように、「か」「やか」「らか」のつくことば（一部の形容動詞）は、その部分から送ります。

例　悲しい　暖かだ　細かだ　和やかだ　平らかだ　明らかだ

3 次のことばは、読みまちがいのないように、次のように送ります。

明らむ　味わう　教わる　食らう

動かす　動き　動く　後ろ　後ろ姿　後ろめたい　写す　大写し　移る　移り変わり　生まれる　産まれる　生む　産む　売る　売り上げ　売上高　売値　小売商　売れる

熟れる　植わる

お

終える　大いに　大きい　大きさ　起きる　早起き　置く　置物　物置　後れる　起こす　興す　厳か(だ)　行い　行う　起こる　興る　収まる

治まる　修まる　納まる　収める　治める　修める　納める　教える　教え子　教わる　落ちる　落ち葉　男らしい　落とす　同じ(だ)　帯　主(だ)　重い　重たい　重み　重んずる　折

下りる　降りる　折る　織る　織物　羽織　終わる

か

交う　買う　買値　仲買　返す　帰す　代える　変える　返る　帰る　係　書く　落書き

重なる　重ねる　貸す　貸家　固い　固まる　固める　語らう　語る　物語　悲しい　悲しむ　奏でる　必ず　必ずしも　構う　構える　軽い　軽々しい　気軽(だ)　軽やか(だ)　交わす

代わり　代わる　変わる　考える

き

聞く　聞き苦しい　聞こえる　兆し　兆す　着せる　来す　来る　厳しい　決まる　決める　清い　清まる　清める　清らか(だ)

異なる　逆らう　群がる　和らぐ
明るい　危ない　危うい　大きい
少ない　小さい　冷たい　平たい
新ただ　同じだ　平らだ　幸いだ
幸せだ

4　「起」には「おきる」「おこる」の読みがあります。二つとも変化する部分は「る」だけですが、「起る」では「おきる」「おこる」のどちらにも読めます。このように似かよった読みが二つ以上ある場合は、変化する部分の前から送ります。

例　当たる（当てる）　終わる（終える）　混ざる・混じる（混ぜる）

5　「動かす」は「す」、「計らう」は「う」が変化する部分ですが、「動かす」は「動く」、「計らう」は「計る」をふくんでいます。こういうことばはふくまれていることばの送りがなに従って送ります。「重んずる」や「男らしい」も、「重い」「男」をふくんでいると考えられるので、

切る　裏切る　切手　切れる　極まる　極み　究める　極める

く

食う　下さる　下す　下る　組　組む　乗組員　番組　暗い　食らう　比べる　苦しい

苦しまぎれ　苦しむ　苦しめる

け

消す　消印

こ

肥　肥える　氷　志　志す　試みる　快い　答え　答える　異なる　断る　細か(だ)

細かい　転がす　転がる　転げる　転ぶ

さ

幸い(だ)　逆らう　下がる　先　先んずる　下げる　提げる　支える　指す　授かる　授ける　定か(だ)　定まる　定める　冷ます

覚ます　冷める　覚める　去る(連体詞)

し

幸せ(だ)　強いる　無理強い　静か(だ)　静まる　静める　従う　従える　従って　親しい　親しむ　閉まる　閉める　調べ　退く

退ける　知る　物知り　印

す

過ぎる　少ない　少なくとも　少し　過ごす　健やか(だ)　進む　進める　住まう　済ます　速やか(だ)　住む　済む

そ

損なう　損ねる　育つ　育てる　備える　備わる　染まる　背く　背ける　初める　染める　反らす　反る

た

平ら(だ)　平らか(だ)　絶えず　絶える　高い　高まる　高める

同じように送りがなをつけます。

例　照らす(照る)　向かう(向く)　勇ましい(勇む)

◆変化しないことば◆

6　物の名を表すことば(名詞)は、7・8を除いて送りがなをつけません。

例　月　鳥　花　山　男　女

7　しかし、次のことばは、例外として最後の一つを送ります。

辺り　勢い　後ろ　幸い　幸せ
便り　半ば　情け　独り　自ら
災い　一つ　二つ……八つ　九つ

8　変化しないことばでも、変化することばからできたものは、もとのことばの送りがなに従います。

例　動き　調べ　当たり　答え
群れ　極み　問い　近く　遠く
大きさ　確かさ　明るみ

9　しかし、次のことばは、例外として、送りがなをつけません。

氷　印　頂　帯　志　次　富
話　光　折　係　組　肥　巻　割

耕す　高らか(だ)　確か(だ)　確かさ　確かめる　足す　助かる　助ける　訪ねる　正しい　正しさ　直ちに　立つ　木立　立場　旅立つ　夕立　立てる　仕立屋　積立金　建てる　建物

例えば　例える　楽しい　楽しむ　便り　花便り　垂らす　足りる　足る　垂れる

ち

小さい　近い　近く　縮まる　縮む　縮める　縮らす　縮れる

つ

次　次ぐ　取次店　作る　作り笑い　付ける　貸付金　気付　作付面積　番付　日付　伝う　伝える　伝わる　包む　小包　勤まる　努めて　努める　勤める　冷たい　積もる

見積書　強い　強まる　強める　連なる　連ねる　連れる

て

照らす　照る　照れる

と

問い　問う　遠い　待ち　遠しい　遠く　解かす　解く　解ける　閉ざす　閉じる　届く　届け　届ける　調う　整う　調える　整える　飛ばす　飛ぶ　飛び火　止まる　留まる　富　富む　止める　留める　書留　取る　関取　頭取

な

長い　長生き　長引く　半ば　和む　和やか(だ)　情け　鳴らす　慣らす　鳴る　慣れる

ね

願い　願う

の

乗せる　延ばす

10 次のようなことば（副詞・連体詞・接続詞）は、最後の一つを送ります。ただし〔　〕の中は例外です。

例　必ず　少し　再び　全く　最も
　来る　去る　〔明くる　大いに　直ちに　若しくは　など〕

◆漢字二字以上のことば◆

11 二つ以上のことばが結びついてできていることばは、それぞれのことばの送りがなに従って送ります。

例　打ち合わせる　長引く　若返る　裏切る　旅立つ　聞き苦しい　気軽だ　後ろ姿　独り言　日当たり　夜明かし

12 11にあたるものでも送りがなをつけないことが習慣になっているものは、送りがなをつけません。

例　関取　書留　消印　売値　割引　木立　試合　日付　物語　役割　夕立　合図　貸家

13 付表に示したことばは、その表に従って送ります。（↓431ページ）

延びる　延べる　上す　上せる　上る　飲む　乳飲み子　乗る　乗り降り

は

化かす　計らう　計る　化ける　始まり　始まる　始める　外す　外れる　果たす　果て　果てる　話　話す　早まる　早める　速める　晴らす　春めく　晴れ　晴れやか（だ）　晴れる

ひ

光　光る　引く　字引　取引所　引受人　引受時刻　水引　低い　低まる　低める　引ける　一つ　独り　独り言　秘める　冷やかす　冷やす　開く　開ける　平たい　広い　広がる　広げる　広まる　広める

ふ

増える　深い　草深い　深まる　深める　再び　二つ　増やす　古い　古す　古めかしい

へ

減らす　減る

ほ

欲しい　細い　心細い　細る

ま

参る　墓参り　負かす　任す　任せる　曲がる　巻　巻く　絵巻物　葉巻　巻紙　負ける　曲げる　交ざる　混ざる　交える　交じる　混じる　交わる　交ぜる　混ぜる　全く　祭り　祭る

み

見える　自ら　見せる　満たす　乱す　乱れる　満ちる　三つ　三つ　実る　見る

む

向かい　向かう　向かい合わせる　向く　向ける　向こう　蒸す　難しい　六つ　六つ　群がる　蒸らす　群れ　蒸れる　群れる

も

燃える　若しくは　燃す　最も　専ら　燃やす

や

易しい　休まる　休む　休み休み　休める　八つ　八つ　和らぐ　和らげる

ゆ

結う　行く　行く行く　結わえる

よ

四つ　四つ　呼ぶ　呼び出し電話　喜ばしい　喜ぶ　弱い　弱まる　弱める　弱る

わ

若い　若返る　若々しい　分かつ　若やぐ　分かる　分かれる　分ける　災い　割　割る　役割　割合　割引　割れる

まちがえやすい かなづかい

むかしは、「こわい人」を「こはい人」、「ちょうちょう」を「てふてふ」などと書きましたが、今では発音どおりに「こわい人」「ちょうちょう」と書きます。

しかし、つぎのようなまちがえやすいかなづかいがありますから注意しましょう。

①「お」「わ」「え」と読んで、「を」「は」「へ」と書くもの。

例 本を、買いました。
ぼくは、悲しかった。
山へ、のぼりましょう。

▽かならずほかのことばの下につけて使われ、それだけでは使われません。

②「じ」「ず」と書かないで、「ぢ」「づ」と書くもの。

例 はなぢ（鼻血）・ちかぢか（近近）・かたづける（片付ける）・こづかい（小使）

▽「ち（血・近い）」「つ（付く・使い）」と読むことばが、ほかのことばの下にきて、にごって読んだものです。

例 ちぢむ（縮む）・ちぢれる（縮れる）・つづく（続く）・つづみ（鼓）・つづる

▽「ちち」「つつ」とつづけて読んでにごったもの。

ただし、いちじるしい・いちじく・けんちじなどは「ぢ」とは書きません。

③「おー・こー・そー・とー・のー・ほー・もー・よー・ろー」などの長くのばすことばはふつう「おう・こう・そう……」と書きます。

例 おうじさま（王子さま）・こうえん（公園）・そうだん（相談）・そうとう（相当）・のうりつ（能率）・ほうりつ（法律）・もうける（設ける）・ようい（容易）・ろうじん（老人）

▽ただし、つぎのことばは「おう・こう…」と書かず「おお・こお…」と書きます。

例 おおい・おおきい・おおどおり・おおかみ・こおり・こおろぎ・ほおずき・とおい・とおる・いきどおる・ほおじろ・ほお

④「えー・けー・せー・てー・へー・めー」などの長くのばすことばは、「えい・けい・せい・てい……」と書きます。

例 永・英・係・兄・世・正・丁・定・兵・平・名・明

⑤外国からきたことば（外来語）や外国の地名・人名はふつうかたかなで書きます。

例 ラジオ・エジソン・ワシントン

▽ただし、国語になりきっていることばは、ひらがなで書きます。

例 たばこ・きせる・らしゃ

まちがえやすい画数

総画さくいんを使うときには、とくに注意しましょう

①フ・フ・乛・フ・L・て・レ・く は、一画に書きます。

例口・田・刀・句・字・客・又・久・直・区・九・風・氏・公・災・女

▽口のㄴは、はなして二画に書きます。

例目・白・国

▽臣のㄴは、はなして二画に書きます。

②弓の㇉は、一画に書きます。

例張・弱・弟

▽馬・鳥などの㇉は、はなして二画に書きます。

③誤の呉は、ㄣをつづけて一画に書きます。

④子は、乛・了・子と、三画に書きます。

例学・承・孝

⑤建の廴は、ㇷ・ㇵ・廴と、三画に書きます。

例延・健

▽級の及は、ㇷを一画に書きます。

⑥進の辶は、丶・⻌・辶と、三画に書きます。

例迷・逆・遺・適

⑦限の阝は、ㇷ・⻖・阝と、三画に書きます。

例防・除・際・院

⑧比は、一・ヒ・比・比と、四画に書きます。

⑨片は、丿・丬・片・片と、四画に書きます。

⑩糸の幺は、ㄥ・ㄠ・幺と三画に書きます。

例後・織・績

⑪水は、亅・ㄗ・氺・水と、四画に書きます。

例氷・永

⑫求の氺は、丶・⺀・⺀・⺌・氺と四画に書きます。

例録・様・暴・緑

⑬似の以は、丨・レ・レ丶・以・以と、五画に書きます。

⑭つぎの表は、まちがえやすい画数の漢字を総画数でまとめてしめしたものです。

画数	漢字
二画	七・九・力・刀
三画	子・女・夕・万・己・久
四画	水・切・止・不・区・氏・収・比
五画	北・母・号・世・以・写・他・包
六画	考・糸・成・再・印・伝・衣・至
七画	局・良・似・序・防・孝・私・否
八画	長・承・芽・延・述・門・波・版
九画	乗・係・政・限・飛・逆・退・派
十画	馬・紙・旅・脈・能・留・陛
十一画	鳥・球・強・第・祭・習・液・率
十二画	遊・葉・隊・過・貿・満・属・絶
十三画	遠・新・愛・業・節・農・置・漢
十四画	鳴・様・緑・際・疑・誤・態・複
十五画	横・選・質・養・潔・蔵・暴・歓
十六画	奮・機・衛・館・興

まちがえやすい筆順

筆順は、まちがっておぼえるとなかなかなおりません。漢字だけでなく、ひらがなやかたかなの筆順も、まちがっておぼえていることが多いものです。つぎのようなまちがいをしないようにきをつけましょう。

☆ひらがな

字	○	×
あ	○	×
か	○	×
す	○	×
せ	○	×
ふ	○	×
め	○	×
も	○	×
や	○	×

☆かたかな

字	○	×
シ	○	×
チ	○	×
ツ	○	× ×
モ	○	×
ヨ	○	×
ワ	○	×
ヲ	○	×

☆かんじ

字	○	×
五	○	×
九	○	×
右	○	×
耳	○	×
手	○	×
女	○	×
田	○	×
石	○	×
北	○	×
世	○	×

総画さくいん

赤色の数字は、その漢字を学習する学年です。

九画

十画

十一画

部首さくいん

このさくいんは、学習漢字を、部首別に配列したものです。・のついた漢字は、ほかの部首にも入れることができる漢字です。

〔一 いち〕 一 28 丁 118 七 31 三 29 上 38 下 38 万 118 才・64 不 188 世 120 両 125 来・84 画・90

〔｜ ぼう〕 中 39 旧・261 申・124 半・71

〔丶 てん〕 丸 328 主 120 永・262

〔ノ の〕 久 258 乗 145

〔乙 おつ〕 九 32 乱 338 乳・342

〔亅 はねぼう〕 予 118 争 194 事 135

〔二 に〕 二 28 五 30 弐・336

〔亠 なべぶた〕 亡 328 交 74 京 87 夜・87 卒・205 変・213 商・162

〔人 ひと〕〔𠆢 ひとやね〕〔亻 にんべん〕 人 42 今 65 以 190 令 190 会 74 合・75 全 126 余 266 舎 272 命・138 倉 218 化・119 仁 330 仏 258 仕 121 他 121 付 190 代・121 休 59 件 263 仮 263 伝 195 任 263 仲 333 何 81 作 81 体 81 住 130 位 197 低 197 似 265 使 136 例 204 価 270 供 342 信 212 便 211 係 145 保 277 俗 348 借 218 修 281 個 281 倍 218 俵 282 候 219 値 356 俳 356 停 225 健 226 側 226 備 297 傷 376 働 239 像 310 億 247 優 389

〔儿 にんにょう〕 元 65 兄 122 先 44 光 75 兆 333 児 266 党・356

〔入 いる〕 入 58 内・119

〔八 はち〕 八 31 公 119 六 30 共 195 兵 198 具 136 典 204 兼 357

〔冂 どうがまえ〕 円 60 内・119 再 264 冊 331 同・75 周・206

〔冖 わかんむり〕 写 122 軍・217

〔冫 にすい〕 冬 70 次 129 冷 198

〔几 つくえ〕 処・331

〔凵 うけばこ〕 出 58 画 90

〔刀 かたな〕〔刂 りっとう〕 刀 64 分 65 切 66 初・199 券 271 刊・259 列・126 別 198 利・199 判 266 刷 205 制 271 前 91 則 277 刻 342 副 226 創 370 割 370 劇 384

〔力 ちから〕 力 57 加・191 功 191 幼・332 助 131 努・199 労 200 効 271 勇 212 勉 155 動 161 務 288 勝・168 勤 371 勢 239 勧 376

〔勹 つつみがまえ〕 句・260 包 191

〔匕 ひ〕 化・119 北 71 比・259 死・129

〔匚 かくしがまえ〕 区 188 医 131

〔十 じゅう〕 十 32 千 33 午 66 半・71 卒・205 協 205 南 91 単 212 博 232

〔卩 ふしづくり〕 印 195 危 334 卵 338 巻 349

〔厂 がんだれ〕 圧・260 灰・337 厚 277 原 97 歴・244

〔ム む〕 去・122 台・72 弁・261 参 206

〔又 また〕 友 66 反 120 収 258 取・136 受・137

〔口 くち くちへん〕 口 41 古 71 台・72 句・260 可 331 加 191 号 123 史 192 右 37 司 192 各・196 合・75 同・75 名・57 后 334 向 126 君 131 否 339 告 200 周・206 命・138 和・137 知・90 品 146 員・156 商・162 問・162 善 298 喜 232 営 298 器 247 吸 334 味 137 呼 343 唱 227 鳴・113

〔囗 くにがまえ〕 四 29 回 76 因 264 団 264 囲 201 図 82 困 339 固 206 国 87 園 177

〔土 つち つちへん〕 土 36 圧・260 去・122 寺・77 在 265 幸・140 垂 343 型 213 堂・227 基 288 報 298 墓 305 地 76 坂 132 均 267 城 349 域 363 場 105 塩 239 境 311 増 310

〔士 さむらい〕 士 188 声 82 売 83 志・267 壱 339 喜・232

〔夂 すいにょう〕 処・331 各・196 麦・86

音訓さくいん

このさくいんは、学習漢字の「読み」を、アイウエオ順に配列したものです。

- かたかなは音読み、ひらがなは訓読みです。
- 赤い字は送り仮名です。
- （　）は、補正案で追加される読みや、変わる字体です。

〔さ〕

〔し〕

実 一三八
ジッ 十 三三
しな 品 一四六
しぬ 死 一二九
しま 島 一五六
しまる 閉 三六九
しみ 染 三五二
しみる 染 三五二
しめす 示 三六二
しめる 閉 三六九
しも 下 三八
シャ 写 一三三 社 八四 車 五五 者 一四四 舎 二七二 砂 三五四 射 三五七 捨 三六四 謝 三三二
シャク 尺 三三〇 石 五五 赤 四六 借 二一八 釈 三六九
ジャク 若 三四八 弱 九九 着 一七三
シュ 手 四三 主 一三〇 守 一三七

取 一三六 首 九七 修 一八一 酒 一六〇 衆 三〇三 種 二四五
ジュ 受 一二七 従 三五八 授 二九一 就 三七一 需 三八四 樹 三八八
シュウ 収 二五八 州 一二七 周 二〇六 宗 三四三 拾 一四八 祝 二七九 秋 九四 修 一八一 終 一六五 習 一六六 週 一六六 就 三七一 衆 三〇三 集 一七六
ジュウ 十 三三 住 一三〇 拾 一四八 重 一五五 従 三五八

縦 三六八
シュク 祝 二七九 宿 一二八 縮 三九〇
ジュク 熟 三八五
シュツ 出 五八
ジュツ 述 二七六 術 二九五
シュン 春 九三
ジュン 純 三六一 順 二三八 準 三〇六
ショ 処 三三一 初 一九一 所 一四〇 書 九九 暑 一六九 署 三七八 諸 三八六
ジョ 女 四三 助 三一 序 二六七 除 二八八
ショウ 上 三八 小 二九 少 六七 正 四七 生 四四 声 八二 承 二七三 性 二七三

招 二七四 青 四六 政 二七八 昭 二四九 相 二一五 星 九三 省 二一五 将 三五七 消 一九九 従 三五八 称 二八五 笑 三六〇 唱 三一七 商 一六二 清 三三〇 章 一六四 勝 一六八 焼 三三四 証 三〇三 象 三三六 傷 三七六 照 二四一 障 三八三 精 三三三 賞 二四九
ジョウ 上 三八 成 一九六 条 二六八 状 二六九 定 三三九 城 三四九

乗 一四五 常 二八九 情 二九〇 場 一〇五 蒸 三七九 静 二四七
ショク 色 八〇 食 九七 植 一六九 織 三三三 職 三三三
しら 白 四六
しらべる 調 一八二
しりぞく 退 二八〇
しりぞける 退 二八〇
しる 知 九〇
しるし 印 一九五
しるす 記 一〇〇
しろ 代 三一 白 四六 城 二四九
しろい 白 四六
シン 心 六八 申 二二四 臣 二〇三 身 二三五 信 二二二 神 二五三 真 三三三 針 三六二

深 一六三 進 一六七 森 四九 新 一〇九 親 一一三
ジン 人 四三 仁 三三〇 臣 二〇三 神 二五三

〔す〕

ス 子 四三 主 一三〇 守 一三七 素 二八五 数 一〇九
す 州 一二七
ズ 図 八〇 事 一三五 頭 一三三
スイ 水 三五 出 五八 垂 三四三 推 三六四
すい 酸 三二五
スウ 数 一〇九
すう 吸 三三四
すえ 末 一九三
すがた 姿 三五〇
すぎる 過 三〇五
すく 好 三三五

すくう 救 三二八
すくない 少 六七
すぐれる 優 三八九
すけ 助 三一
すこし 少 六七
すごす 過 三〇五
すこやか 健 三三六
すじ 筋 三七四
すすむ 進 一六七
すすめる 進 一六七 勧 三七六
すてる 捨 三六四
すな 砂 三五四
すべる 統 三〇二
すまう 住 一三〇
すます 済 三六五
すみ 炭 一五〇
すみやか 速 三二五
すむ 住 一三〇 済 三六五
する 刷 二〇五
すわる 座 三五八
スン 寸 三三八

〔せ〕

セ 世 一三〇
せ 背 三五五
ゼ 是 三五一
セイ 世 一三〇 正 四七 生 四四

付表

この表は、当用漢字音訓表の付表です。一字一字にその読みはなくても、単語となったときは、このように読んでもよいというものです。（〜は学習漢字外の漢字）

読み	語
あす	明日
あずき	小豆
あま	海女
いおう	硫黄
いくじ	意気地
いちげんこじ	一言居士
いなか	田舎
いぶき	息吹
うなばら	海原
うば	乳母
うわき	浮気
うわつく	浮つく
えがお	笑顔
おかあさん	お母さん
おとうさん	お父さん
おとな	大人
おとめ	乙女
おまわりさん	お巡りさん
おみき	お神酒
おもや	母屋・母家
かぐら	神楽
かし	河岸
かぜ	風邪
かな	仮名
かや	蚊帳
かわせ	為替
かわら	河原・川原
きのう	昨日
きょう	今日
くだもの	果物
くろうと	玄人
けさ	今朝
けしき	景色
ここち	心地
ことし	今年
さおとめ	早乙女
ざこ	雑魚
さしつかえる	差し支える
さつきばれ	五月晴れ
さなえ	早苗
さみだれ	五月雨
しぐれ	時雨
しない	竹刀
しばふ	芝生
しみず	清水
しゃみせん	三味線
じゃり	砂利
じゅず	数珠
じょうず	上手
しらが	白髪
しろうと	素人
しわす（「しはす」ともいう）	師走
すきや	数寄屋・数奇屋
すもう	相撲
ぞうり	草履
だし	山車
たち	太刀
たちのく	立ち退く
たなばた	七夕
たび	足袋
ちご	稚児
ついたち	一日
つきやま	築山
つゆ	梅雨
てつだう	手伝う
てんません	伝馬船
とあみ	投網
とえはたえ	十重二十重
どきょう	読経
とけい	時計
ともだち	友達
なこうど	仲人
なごり	名残
なだれ	雪崩
にいさん	兄さん
ねえさん	姉さん
のら	野良
のりと	祝詞
はかせ	博士
はたち	二十・二十歳
はつか	二十日
はとば	波止場
ひとり	一人
ひより	日和
ふたり	二人
ふつか	二日
ふぶき	吹雪
へた	下手
へや	部屋
まいご	迷子
まっか	真っ赤
まっさお	真っ青
みやげ	土産
むすこ	息子
めがね	眼鏡
もさ	猛者
もみじ	紅葉
もめん	木綿
もより	最寄り
やおちょう	八百長
やおや	八百屋
やまと＝（「大和絵」「大和魂」）	大和＝
ゆかた	浴衣
ゆくえ	行方
よせ	寄席
わこうど	若人

先生・父兄の方々へ

「学習漢字」について

昭和四十六年度から、小学校学習指導要領がかわりました。それによると、各学年とも当用漢字別表（俗に教育漢字学年別配当表といわれるもの）に示された漢字のほかに、一年上の学年の配当表の中からいくつかの漢字を学ぶように指示されています。六年生には別表外の漢字一一五字が示されています。本書で「上学年からおろされた漢字」として†をつけてある字がそれです。それを考慮したうえで、各学年で学ぶようになった漢字（上の表はその数を示したもの）を、本書では便宜上「学習漢字」といっています。

学習漢字表

学年	従来	新	上からおりた数
一	四六	七六	三〇
二	一〇五	一四五	七〇
三	一八七	一九五	七八
四	二〇五	一九五	六八
五	一九四	一九五	六九
六	一四四	一九〇	一一五
計	八八一	九九六	

なお、従来の教育漢字学年別配当表がかわったのではないことを念のため付記しておきます。

画数について

漢字の画数をかぞえる場合、かぞえにくい漢字があります。本書の四一〇ページの「まちがえやすい画数」は、それを示したものです。この中の「級」は画数のかぞえ方に異論のあるところで、教科書によっては、つくりの方の「及」を四画、従って、「級」を十画にあつかっているものもあります。しかし、もともと、画数をいくつにかぞえるかというきまりを示したものはなく、どちらがまちがっているということはいえません。教科書をしらべましたら、「及」を三画とかぞえているもののほうがやや多いようでしたので、本書ではその立場を採用して、「級」は九画にあつかっています。

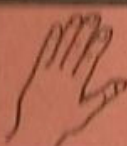
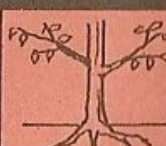
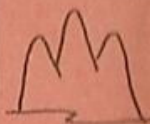
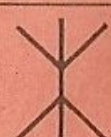
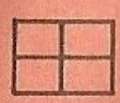
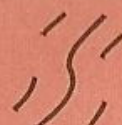
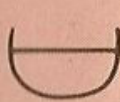
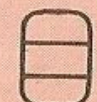
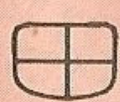
筆順について

本書にとりあげた筆順は、文部省から発表された「筆順指導の手びき」によったものです。当用漢字別表以外の漢字については、それをもとにして類推したものです。

「筆順指導の手びき」には、使用上の留意点としていくつかの事項があげられていますが、その第一の事項に、「本書に取りあげた筆順は、学習指導上の観点から、一つの文字については一つの形に統一されているが、このことは本書に掲げられた以外の筆順で、従来行われてきたものを誤りとするものではない。」とあります。本書の「必」のところで、「心」を書いてから「ノ」を書いてもまちがいではない、としているのも、その事項にもとづいたものです。

なお、本書につきまして御意見がございましたらおきかせください。皆様の御意見をもとにして、よりよい字典にそだてていきたいと念じております。

学研　辞典編集部

絵(え)からできた字(じ)

ここにあげたものは，絵(え)からできた漢字(かんじ)のおもなものです。漢字(かんじ)のできかたにはこのほかにもあります。398ページでしらべましょう。

ん	の	か	ん	じ			
夕	車	犬	火	土	女	子	人

2	年	の	か	ん	字		
刀	止	貝	魚	行	心	門	毛

1 ねんのか
手 口 耳 目 木 田 川 山
2 年のかん字
1 ね
母 牛 馬 鳥 竹 見 立 力
6年の漢字
5年の漢字
4 年のかん字
3年のかん字
革 果 象 衣 夫 老 身 角

新送りがな・新音訓によっています。

- この字典は996の学習漢字を各学年にわけてあります。
- 一字一字の意味が絵でしめされていて、たのしく学習できます。
- 意味のほかに、読み方・書き方・熟語・つかい方・注意することがらなどがわかります。
- 学習漢字のほかに、ひらがな・かたかな・ローマ字などがあります。
- 音読みでも訓読みでも部首でも総画でも、漢字をさがしだせます。

〈学習研究社〉

6581—331 105—1002